

豊川市
男女共同参画に関する市民意識調査
調査結果報告書

令和7年3月

豊 川 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
1	あなた自身のことについて	2
問1	ご回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについておたずねします。	2
(1)	あなたの性別は次のうちどれですか。	2
(2)	あなたの年齢はおいくつですか。	2
(3)	あなたは現在結婚していますか。	3
(4)	あなたの世帯は、どれですか。	5
(5)	あなたの職業に該当する番号を選んでください。	7
(6)	あなたには、お子さんがいますか。	9
(7)	結婚している（事実婚や別居中、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む） 方におたずねします。あなたの配偶者の職業に該当する番号を選んでください。	9
2	男女平等の現状について	12
問2	あなたは、次の各分野で男女どちらが優遇されていると思いますか。	12
①	家庭生活	14
②	職場	15
③	学校教育	16
④	地域活動	17
⑤	法律、制度	18
⑥	社会通念、慣習、しきたり	19
⑦	社会全体	20
問3	あなたは、性別に関することで、生きづらさを感じていますか。	21

3	性別役割分担について	24
問4	「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。	24
問5	そう思うのはどのような理由からですか。	34
問6	次にあげる家庭でのことから、夫婦でどのように分担するのが理想だと思いますか。 ...	36
	①生活費の確保.....	39
	②掃除・洗濯.....	41
	③食事のしたく.....	43
	④食事の後片付け・食器洗い.....	45
	⑤日常の家計管理.....	47
	⑥子育て.....	49
	⑦子どものしつけ・教育.....	51
	⑧介護.....	53
	⑨自治会・町内会活動.....	55
	⑩近所や親戚とのつきあい.....	57
	⑪家庭における重要な決定.....	59
問7	男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などを行うためには、どのようなことが必要だと思いますか。	61
4	子育てについて	62
問8	あなたは、どのように育てられましたか。	62
問9	あなたは、どのように子育てをしていましたか。	64
問10	男性の育児への参画を促していくためには、どのようなことが重要になると思いますか。	66
5	介護について	67
問11	あなたのご家族（同居していない場合も含む）には、介護を要する方がいますか。 ..	67
問12	介護は、主にどなたがされていますか。	67
問13	今後、社会で介護を担っていくためには、どのようなことが重要になると思いますか。 ..	68
6	仕事や社会参加について	69
問14	女性が仕事を持つことについて、あなたは次のどの考え方に近いですか。	69
問15	現在、ワーク・ライフ・バランスが重要視されていますが、あなたは、生活の中で 仕事、家庭生活、地域・個人の生活のうち何を優先しますか。	71
	(1) 希望として.....	71
	(2) 現実として.....	74
問16	今後、性別に関わらず働きやすい社会環境をつくるためには、どのようなことが重要 だと思いますか。	77

7	人権（DV、セクハラ、LGBTQ）について	78
問 17	あなたは、これまでに、あなたの恋人や配偶者（事実婚、別居中、パートナー、離婚後を含む）から、どのようなDVを受けたことがありますか、または受けていますか。	78
問 18	あなたは、DVを受けたときに、相談しましたか。	85
問 19	DVを受けたときに、あなたが安心して相談できたのは次のどれですか。	86
問 20	相談しなかった理由は、何ですか。	89
問 21	あなたは、これまでに、セクハラを受けたことがありますか。	93
問 22	セクハラが行われた場所はどこですか。	94
問 23	あなた自身あるいはあなたの身近（家族、親戚、友人、知人、職場関係）に、LGBTQの方は、いますか。	97
問 24	LGBTQに関して、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。	98
問 25	困難な問題を抱える女性への支援が求められていますが、女性が困難な状況から回復するためには、どんなことが必要だと思いますか。	101
問 26	あなたは、困難な問題を抱える女性が公的機関等に相談する場合、どのような方法が相談しやすいと思いますか。	105
8	男女共同参画について	108
問 27	あなたは、①～⑨の法律・条例等を知っていますか。	108
	①女性差別撤廃条約.....	110
	②男女共同参画社会基本法.....	112
	③男女雇用機会均等法.....	114
	④育児・介護休業法.....	116
	⑤配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV 防止法）	118
	⑥豊川市男女共同参画推進条例.....	120
	⑦女性活躍推進法.....	122
	⑧困難な問題を抱える女性への支援に関する法律.....	124
	⑨性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律（LGBT 理解増進法）	125
問 28	あなたは、この調査を受け取る前から次の言葉を知っていましたか。	126
	1. 男女共同参画社会	
	2. ジェンダー	
	3. ポジティブ・アクション	
	4. リプロダクティブ・ヘルス／ライツ	
	5. ワーク・ライフ・バランス	
	6. デートDV	
	7. LGBTQ	
	8. SOGI	
	9. アンコンシャス・バイアス	
問 29	今後、男女共同参画社会の形成をより積極的に推進していくために、行政はどのようなことに力を入れていくことが必要だと思いますか。	128
問 30	「男女共同参画社会」を形成・実現するために、あなた自身としてどのようなことを実践していきたいと考えますか。	131

Ⅲ 資料	134
1 「その他」欄意見	134
2 自由意見のまとめ	142
3 男女共同参画に関する市民意識調査票	143

I 調査の概要

1 調査の目的

豊川市では、令和3年度から令和12年度までを豊川市男女共同参画基本計画の期間とし、令和7年度に中間見直しを予定しています。

本調査は、男女共同参画に対する市民の意識や行政に対する要望などをお聞かせいただき、計画の見直しに役立てることを目的としています。

2 調査対象

豊川市内の18歳以上の男女各1,000人の方を無作為抽出

3 調査期間

令和6年9月～令和6年10月

4 調査方法

郵送による配布・回収及びWEBによる回答

5 回収状況

配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
2,000通	906通	904通 (うちWEB 251通)	45.2%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。

Ⅱ 調査結果

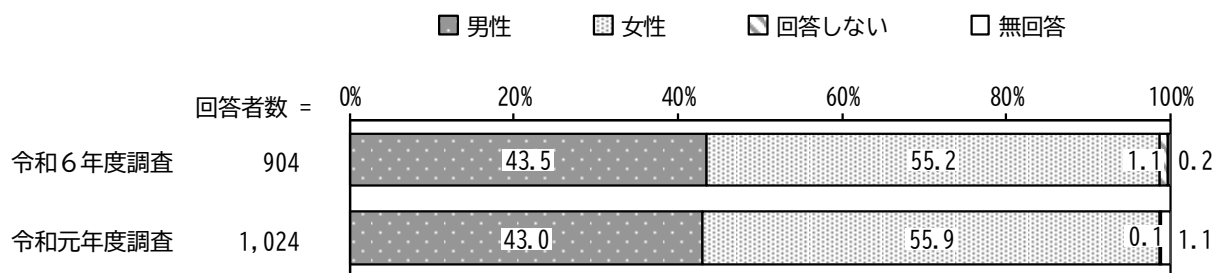
1 あなた自身のことについて

問1 ご回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについておたずねします。

(1) あなたの性別は次のうちどれですか(1つに○)。

「女性」の割合が55.2%と最も高く、次いで「男性」の割合が43.5%、「回答しない」の割合が1.1%となっています。

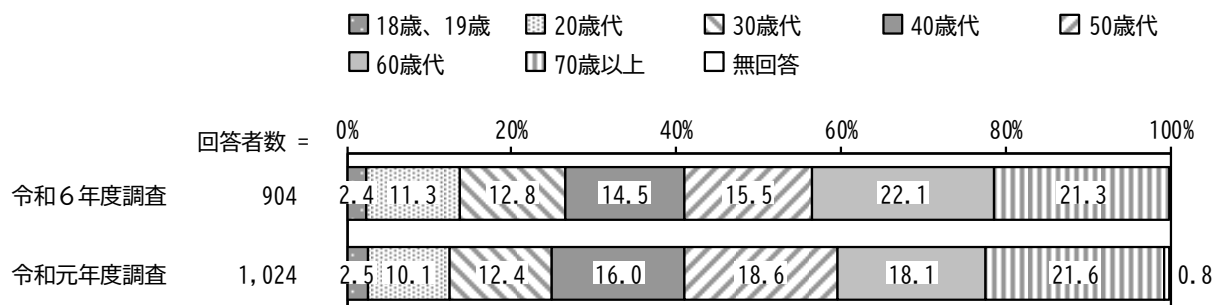
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(2) あなたの年齢はおいくつですか(1つに○)。

「60歳代」の割合が22.1%と最も高く、次いで「70歳以上」の割合が21.3%、「50歳代」の割合が15.5%となっています。

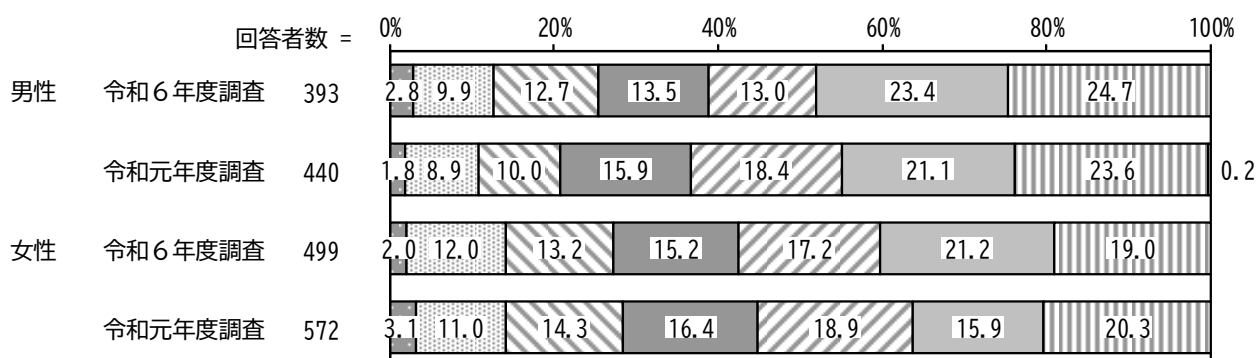
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別でみると、男性で「70歳以上」の割合が高くなっています。

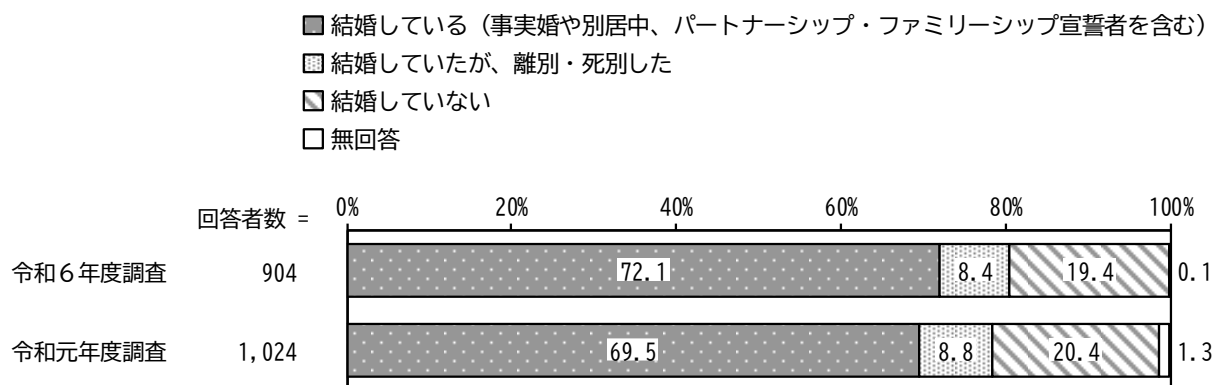
令和元年度調査と比較すると、女性で「60歳代」の割合が増加しています。一方、男性で「50歳代」の割合が減少しています。



(3) あなたは現在結婚していますか（1つに○）。

「結婚している（事実婚や別居中、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）」の割合が72.1%と最も高く、次いで「結婚していない」の割合が19.4%、「結婚していたが、離別・死別した」の割合が8.4%となっています。

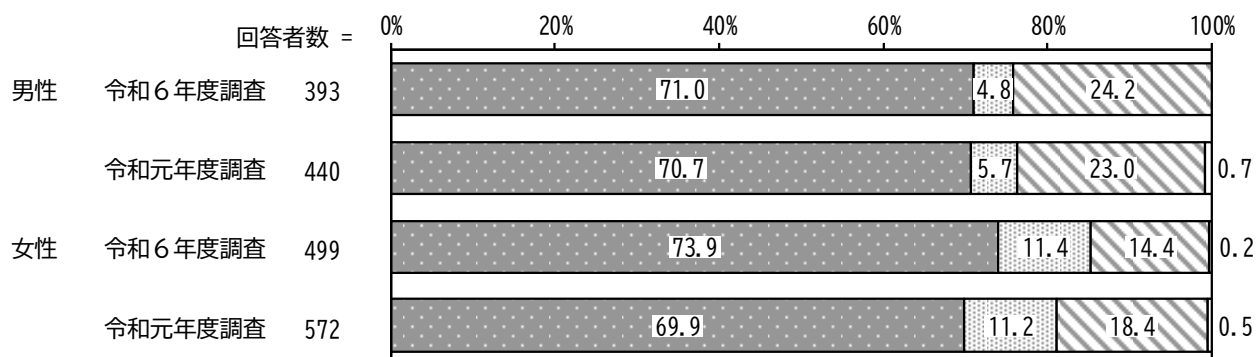
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別でみると、男性で「結婚していない」の割合が高くなっています。

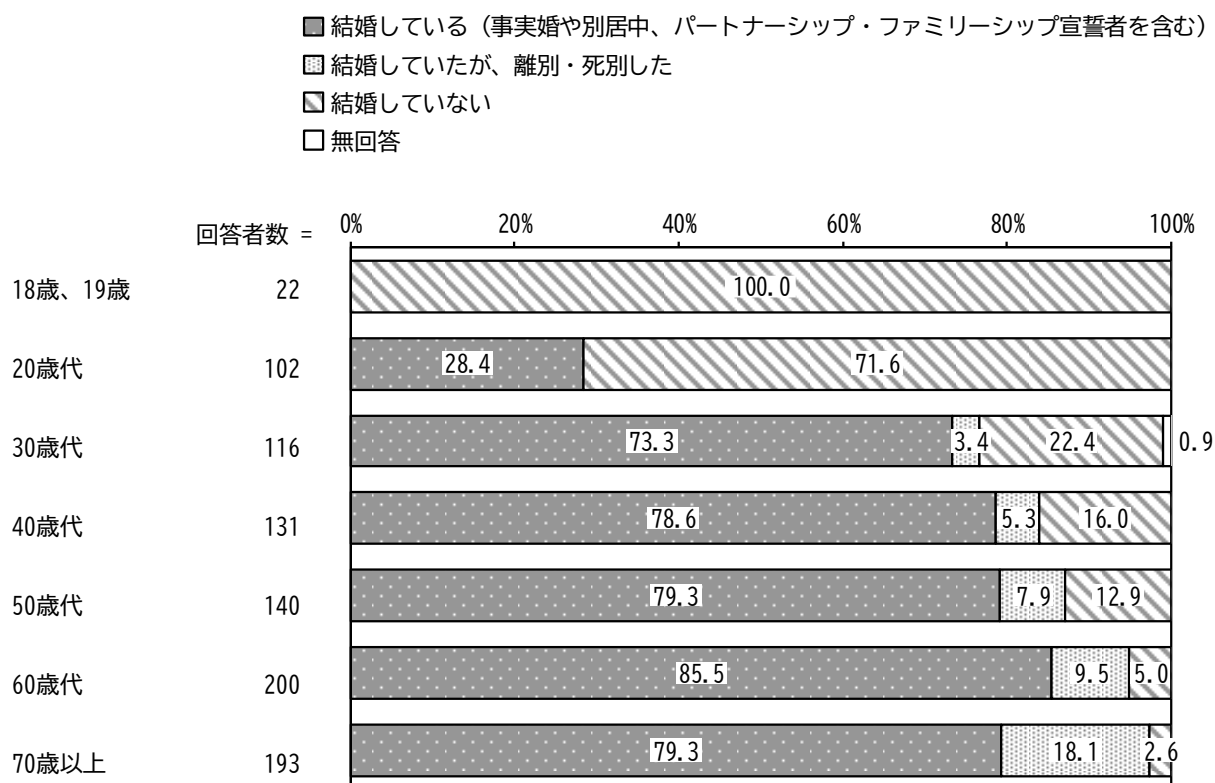
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



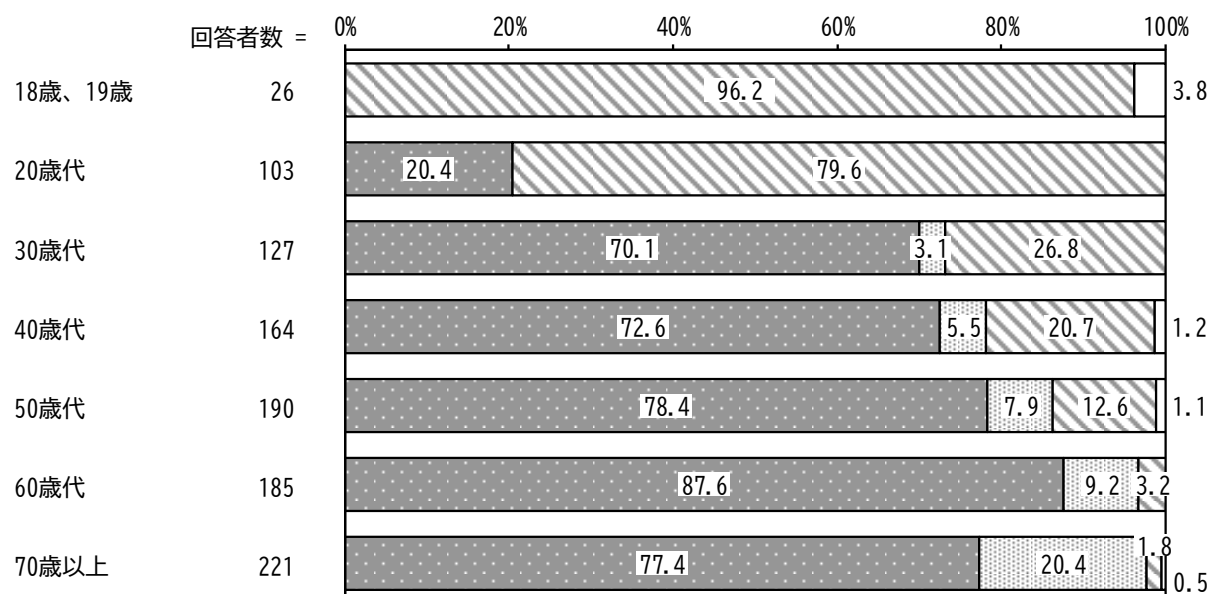
【年代別】

年代別でみると、年齢が高くなるにつれ「結婚している（事実婚や別居中、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）」の割合が高い傾向にあります。

令和元年度調査と比較すると、20歳代と40歳代で「結婚している（事実婚や別居中、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）」の割合が増加しています。



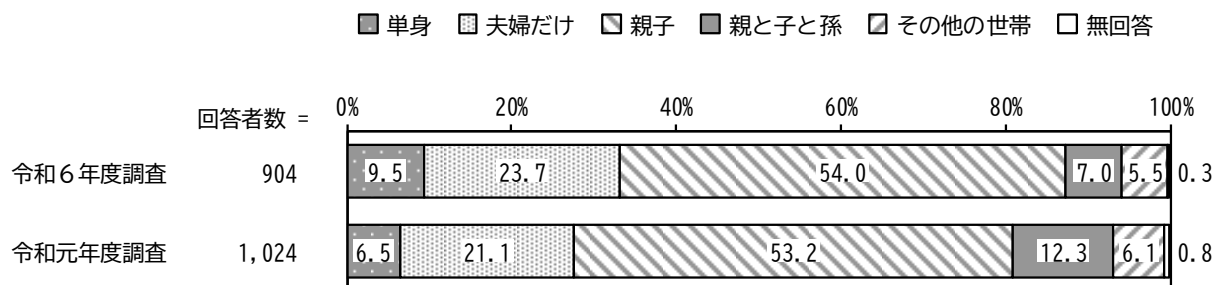
【令和元年度調査】



(4) あなたの世帯は、どれですか（1つに○）。

「親子」の割合が54.0%と最も高く、次いで「夫婦だけ」の割合が23.7%、「単身」の割合が9.5%となっています。

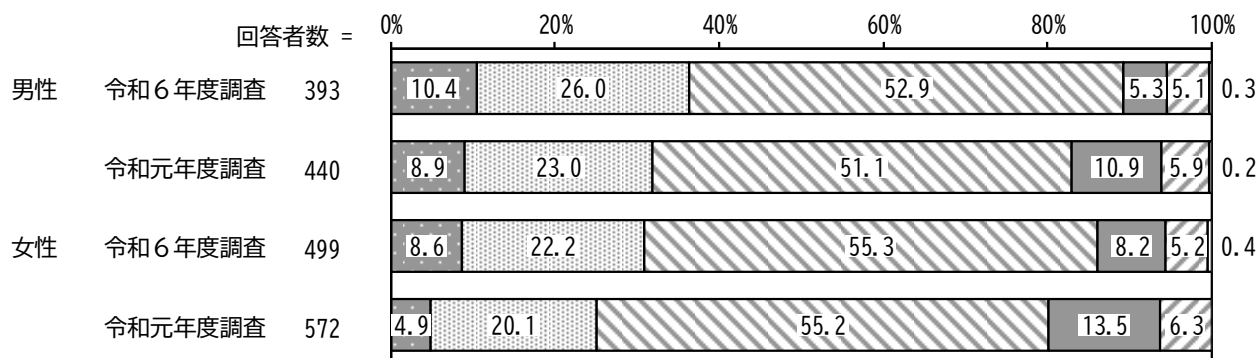
令和元年度調査と比較すると、「親と子と孫」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、大きな差はみられません。

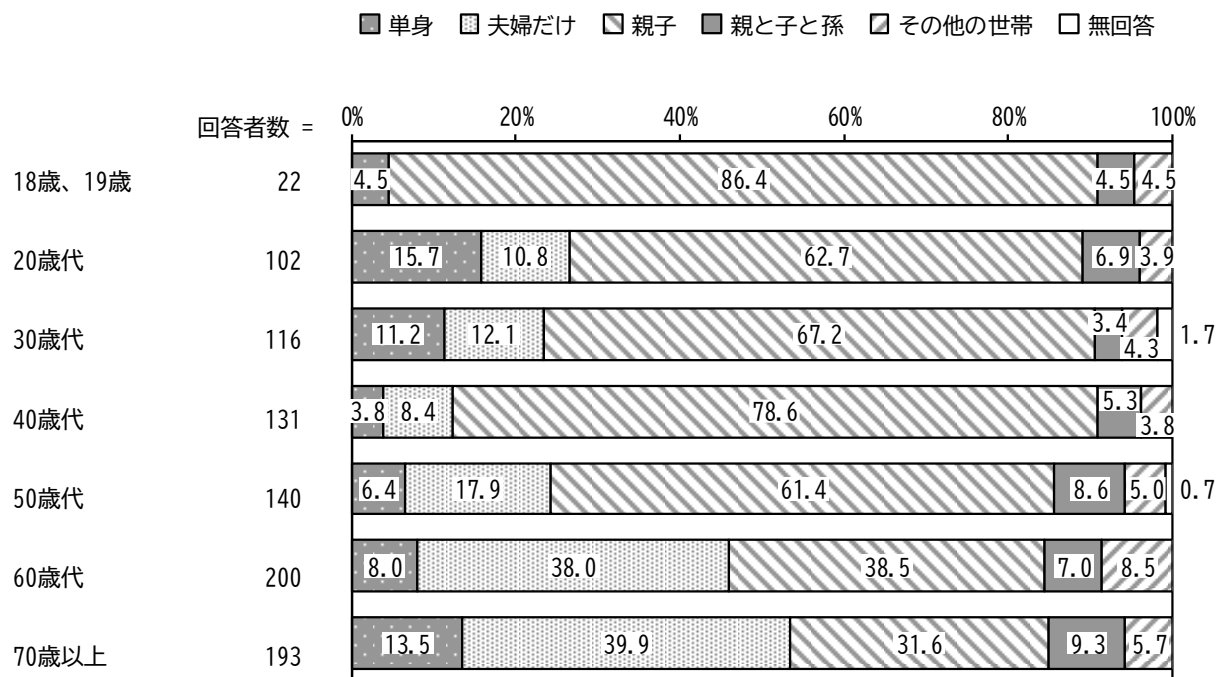
令和元年度調査と比較すると、男女ともに「親と子と孫」の割合が減少しています。



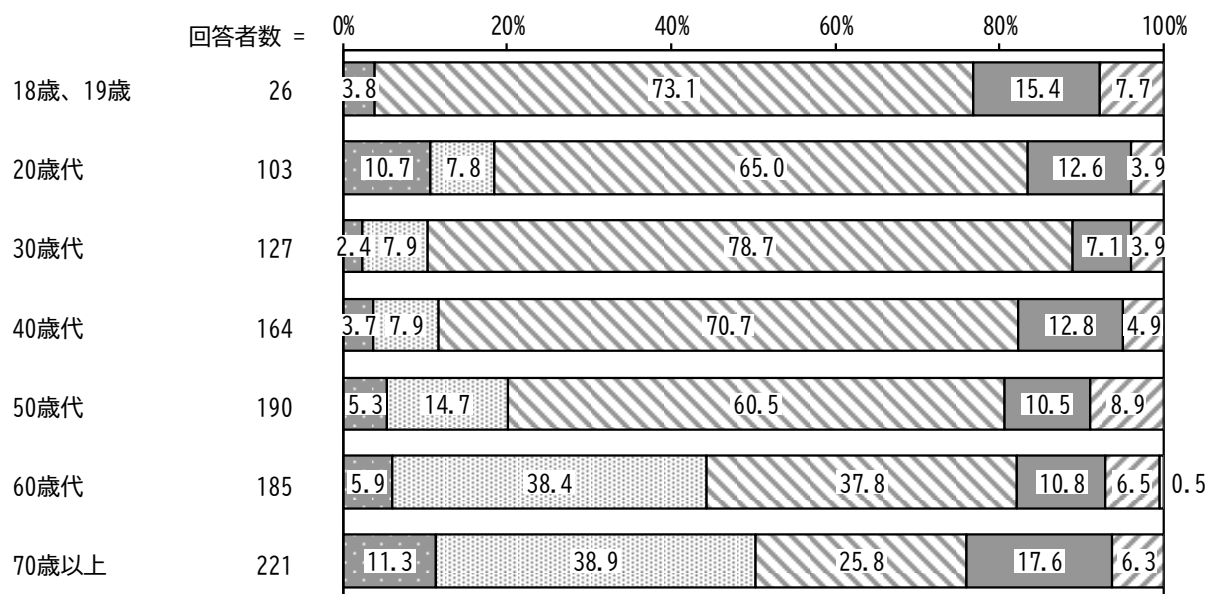
【年代別】

年代別でみると、18歳、19歳で「親子」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、18歳、19歳と40歳代と70歳以上で「親子」の割合が、20歳代と30歳代で「単身」の割合が増加しています。一方、18歳、19歳と40歳代と70歳以上で「親と子と孫」の割合が、30歳代で「親子」の割合が減少しています。



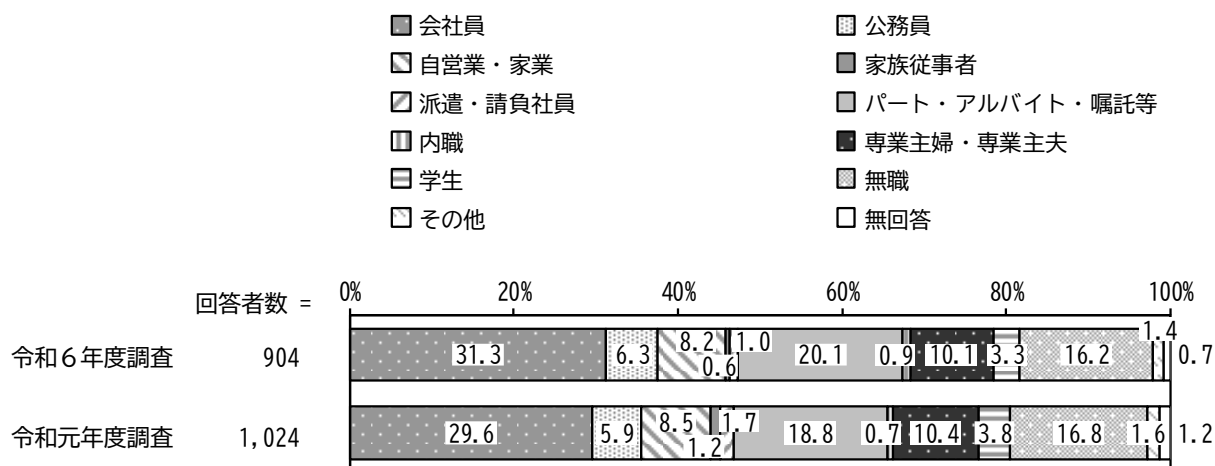
[令和元年度調査]



(5) あなたの職業に該当する番号を選んでください(1つに○)。

「会社員」の割合が 31.3%と最も高く、次いで「パート・アルバイト・嘱託等」の割合が 20.1%、「無職」の割合が 16.2%となっています。

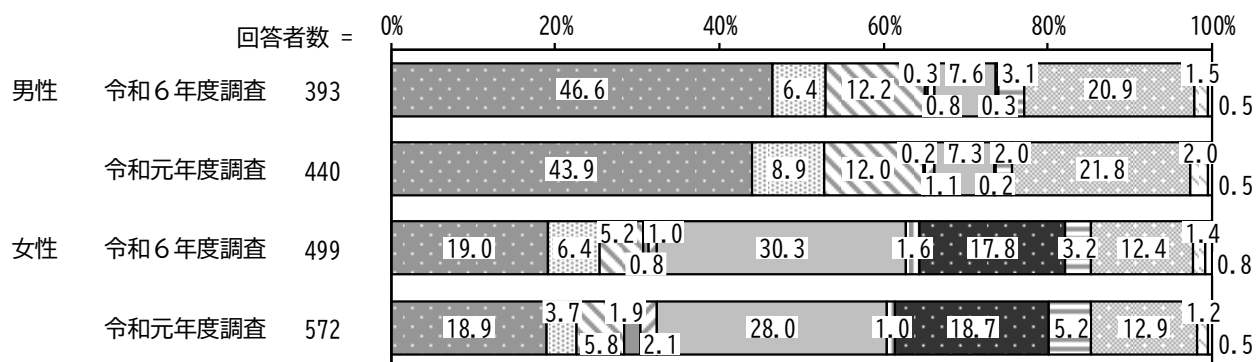
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別でみると、男性で「会社員」の割合が、女性で「パート・アルバイト・嘱託等」の割合が高くなっています。

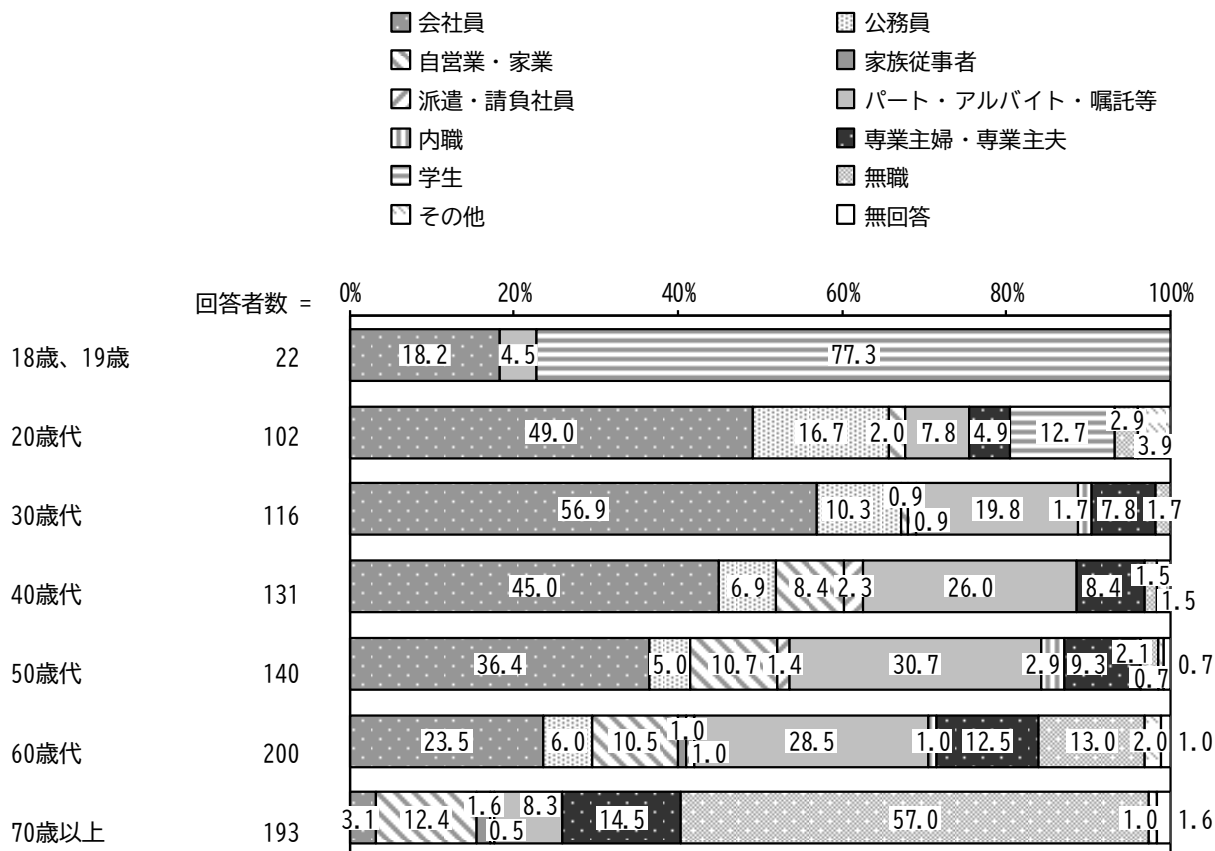
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



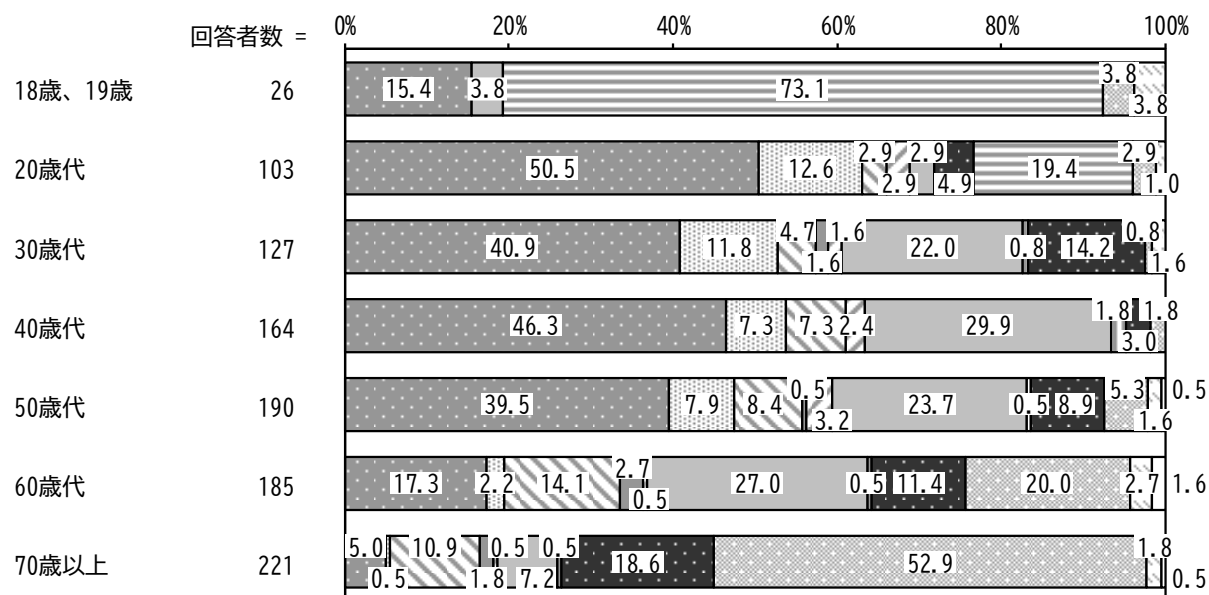
【年代別】

年代別でみると、30歳代で「会社員」の割合が、20歳代で「公務員」の割合が、70歳以上で「無職」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、30歳代と60歳代で「会社員」の割合が、40歳代で「専業主婦・専業主夫」の割合が、50歳代で「パート・アルバイト嘱託等」の割合が増加しています。一方、20歳代で「学生」の割合が、30歳代で「専業主婦・専業主夫」の割合が、60歳代で「無職」の割合が減少しています。



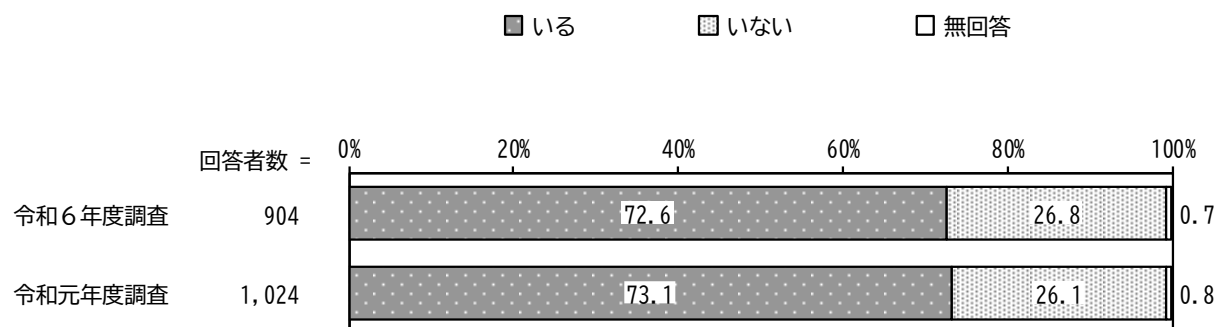
〔令和元年度調査〕



(6) あなたには、お子さんがいますか（1つに○）。

「いる」の割合が72.6%、「いない」の割合が26.8%となっています。

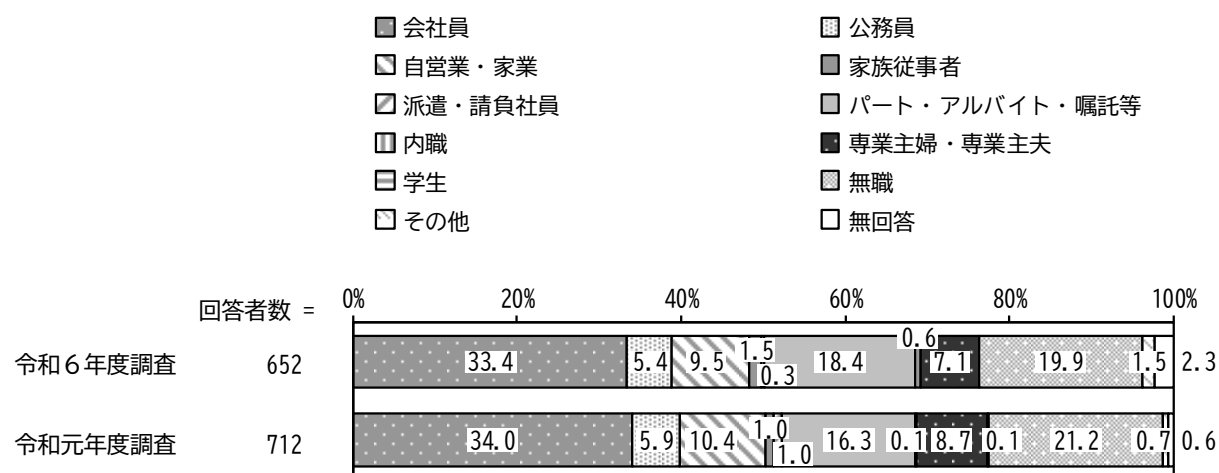
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(7) 結婚している（事実婚や別居中、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）方におたずねします。あなたの配偶者の職業に該当する番号を選んでください（1つに○）。

「会社員」の割合が33.4%と最も高く、次いで「無職」の割合が19.9%、「パート・アルバイト・嘱託等」の割合が18.4%となっています。

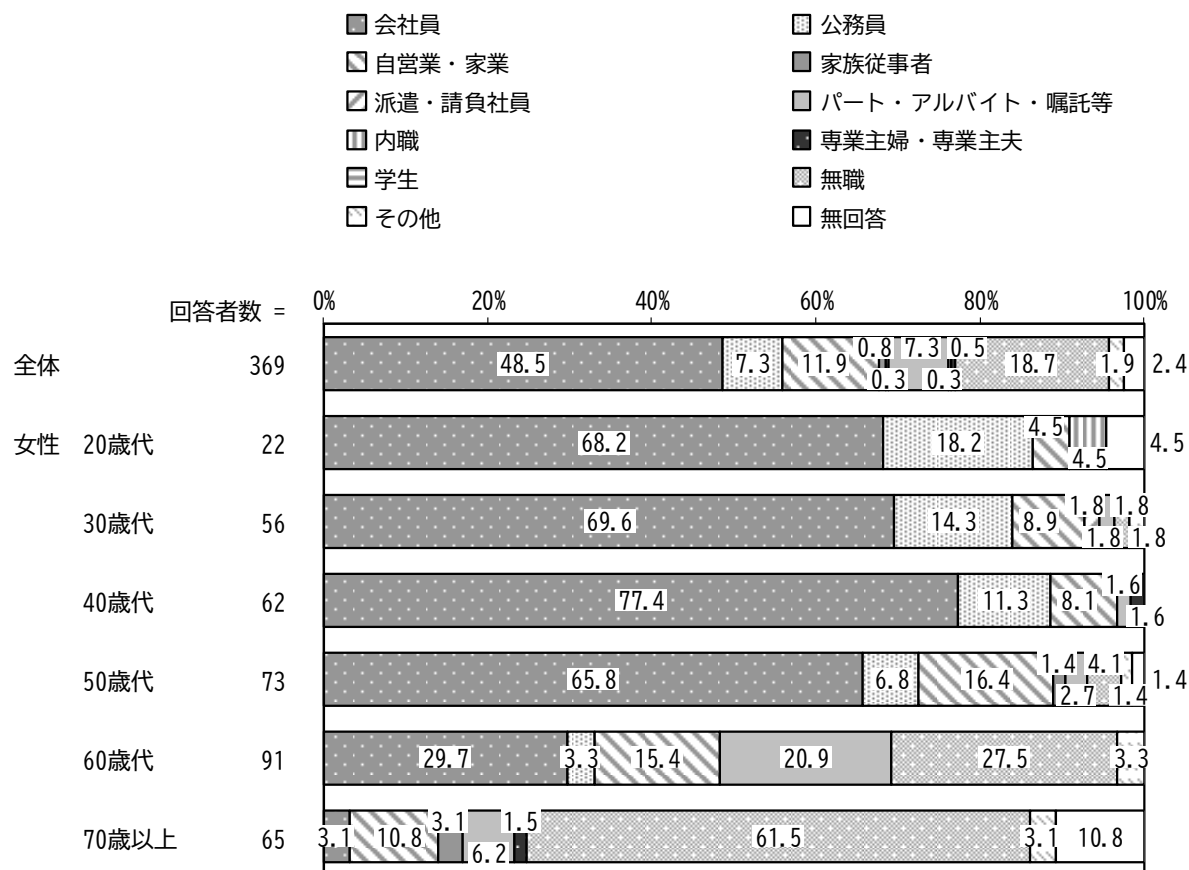
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



①配偶者の職業（夫）

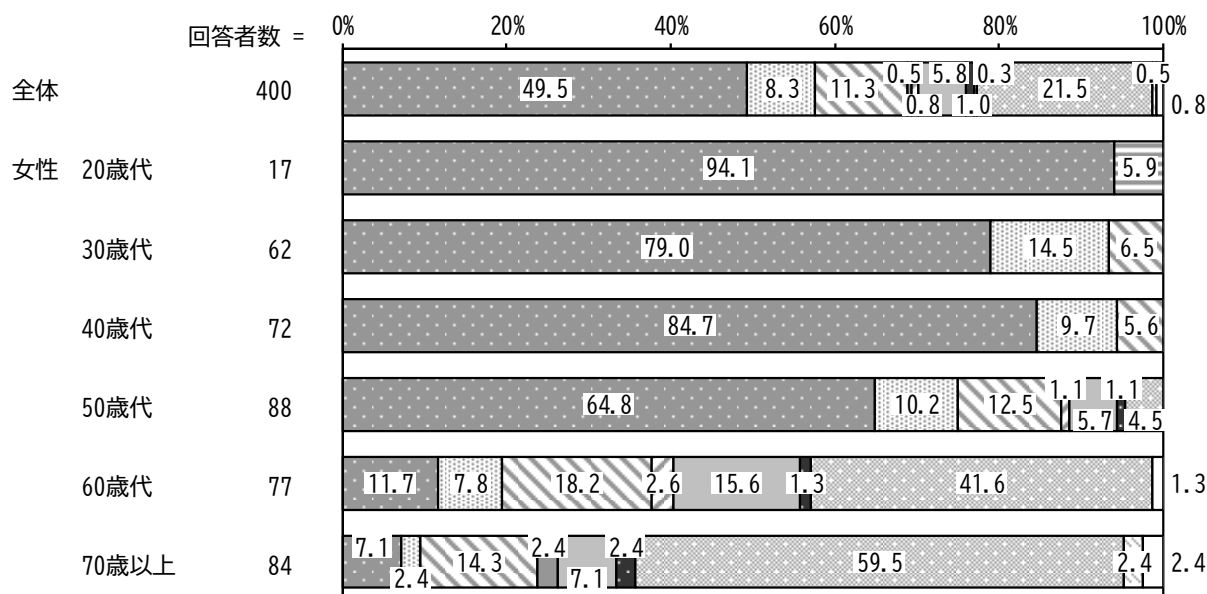
配偶者の職業（夫）で、「会社員」の割合が48.5%と最も高く、次いで「無職」の割合が18.7%となっています。

令和元年度調査と比較すると、20歳代で「公務員」の割合が、60歳代で「会社員」「パート・アルバイト・嘱託等」の割合が増加しています。一方、20歳代で「会社員」「学生」の割合が、30歳代で「会社員」の割合が、60歳代で「無職」の割合が減少しています。



※「18歳、19歳」は回答者数=0のため省略しています。

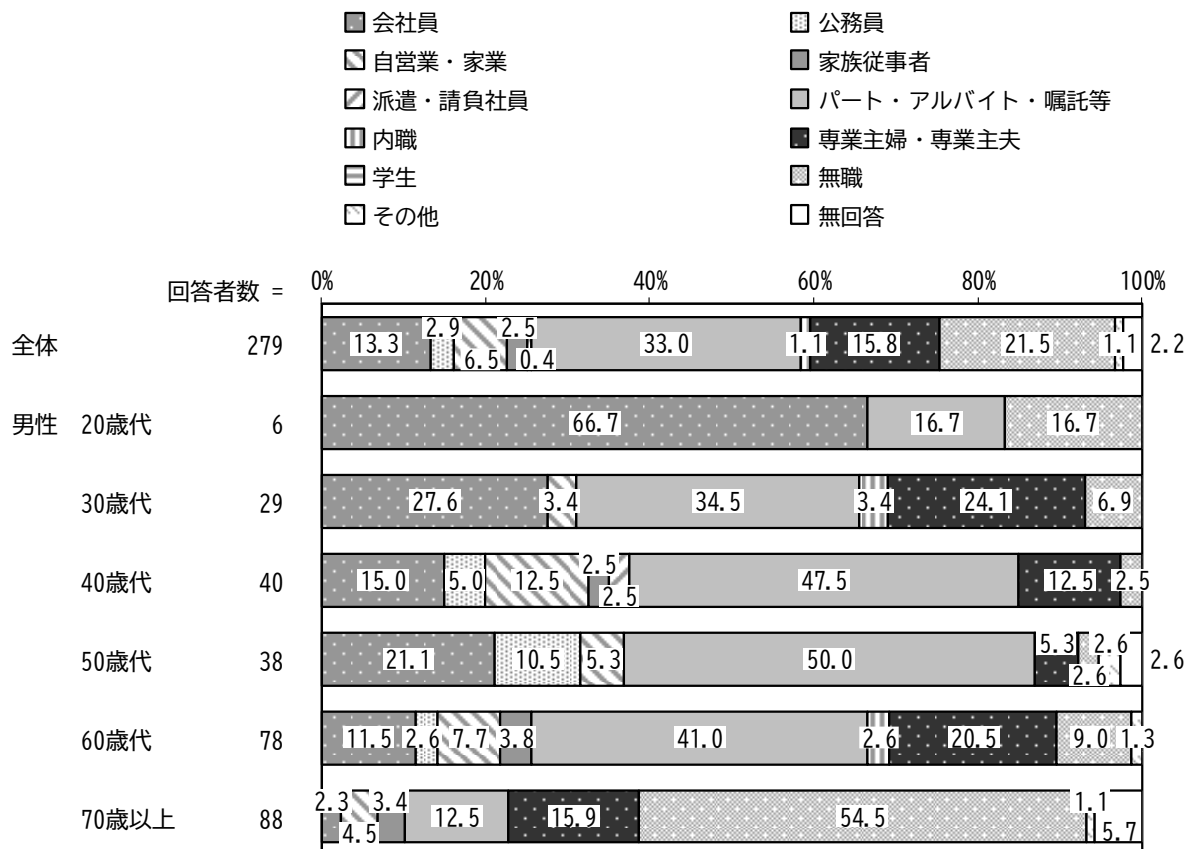
[令和元年度調査]



②配偶者の職業（妻）

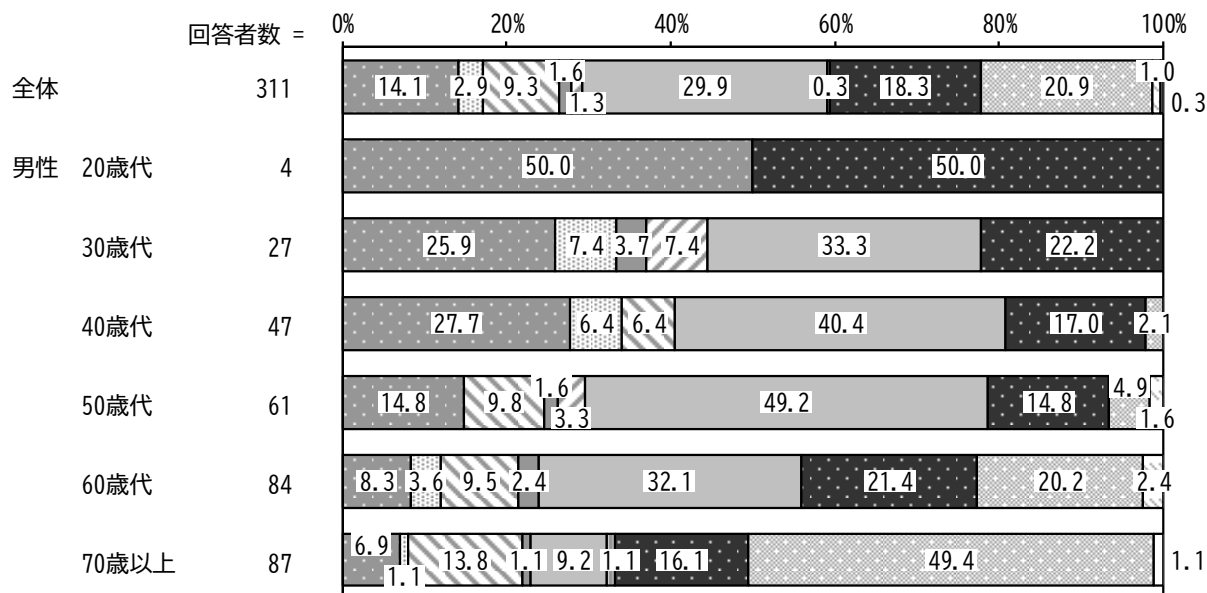
配偶者の職業（妻）で「パート・アルバイト・嘱託等」の割合が33.0%と最も高く、次いで「無職」の割合が21.5%となっています。

令和元年度調査と比較すると、30歳代で「公務員」「無職」の割合が、40歳代で「自営業・家業」「パート・アルバイト・嘱託等」の割合が、50歳代で「会社員」「公務員」の割合が、60歳代で「パート・アルバイト・嘱託等」の割合が、70歳以上で「無職」の割合が増加しています。一方、40歳代で「会社員」の割合が、50歳代で「専業主婦・専業主夫」の割合が、60歳代で「無職」の割合が、70歳以上で「自営業・家業」の割合が減少しています。



※「18歳、19歳」は回答者数=0のため省略しています。

[令和元年度調査]

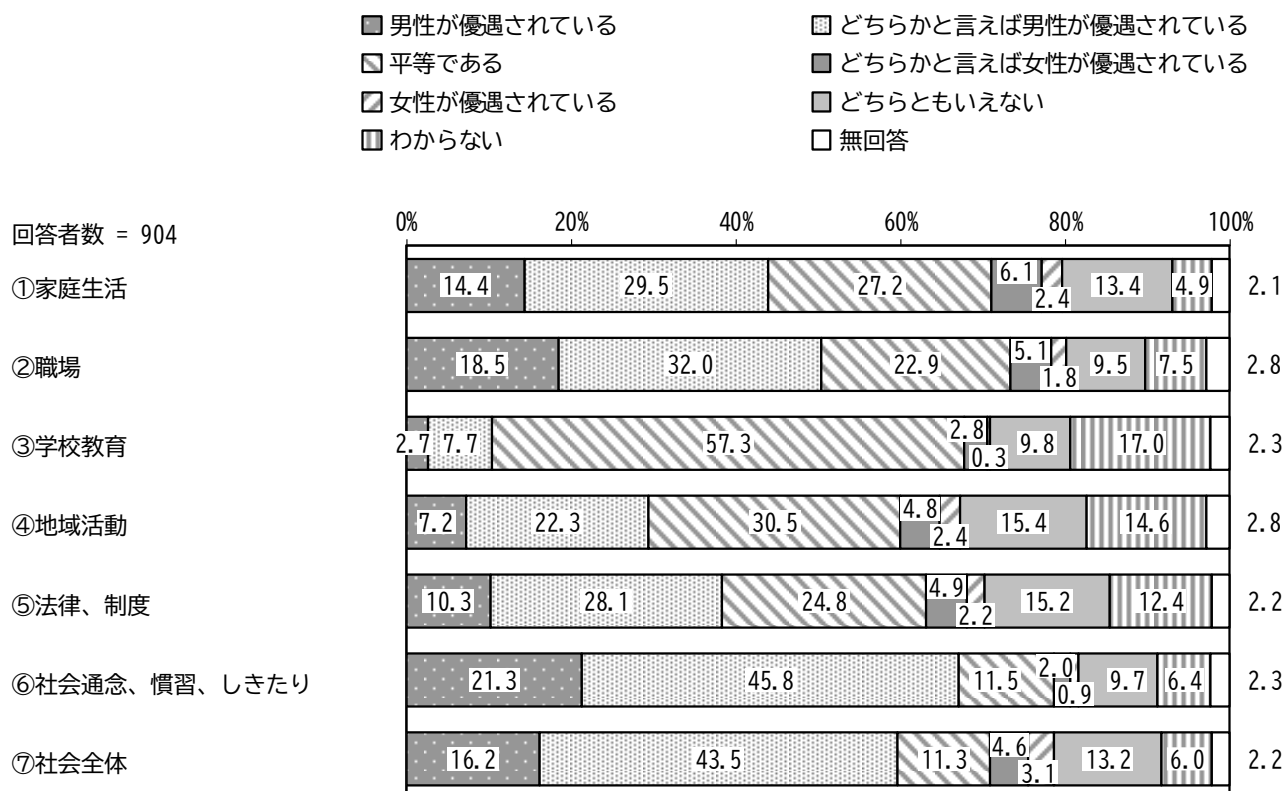


2 男女平等の現状について

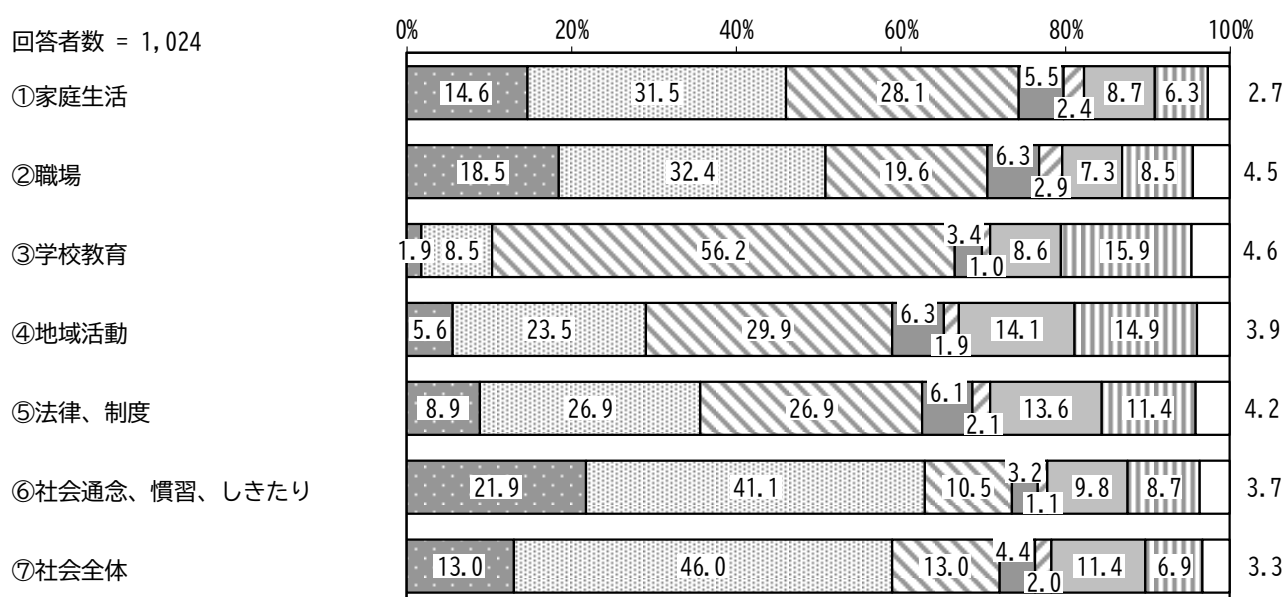
問2 あなたは、次の各分野で男女どちらが優遇されていると思いますか（それぞれ1つに○）。

『⑥社会通念、慣習、しきたり』『⑦社会全体』で「男性が優遇されている」と「どちらかと言えば男性が優遇されている」を合わせた「男性が優遇されている」の割合が、『③学校教育』で「平等である」の割合が高くなっています。

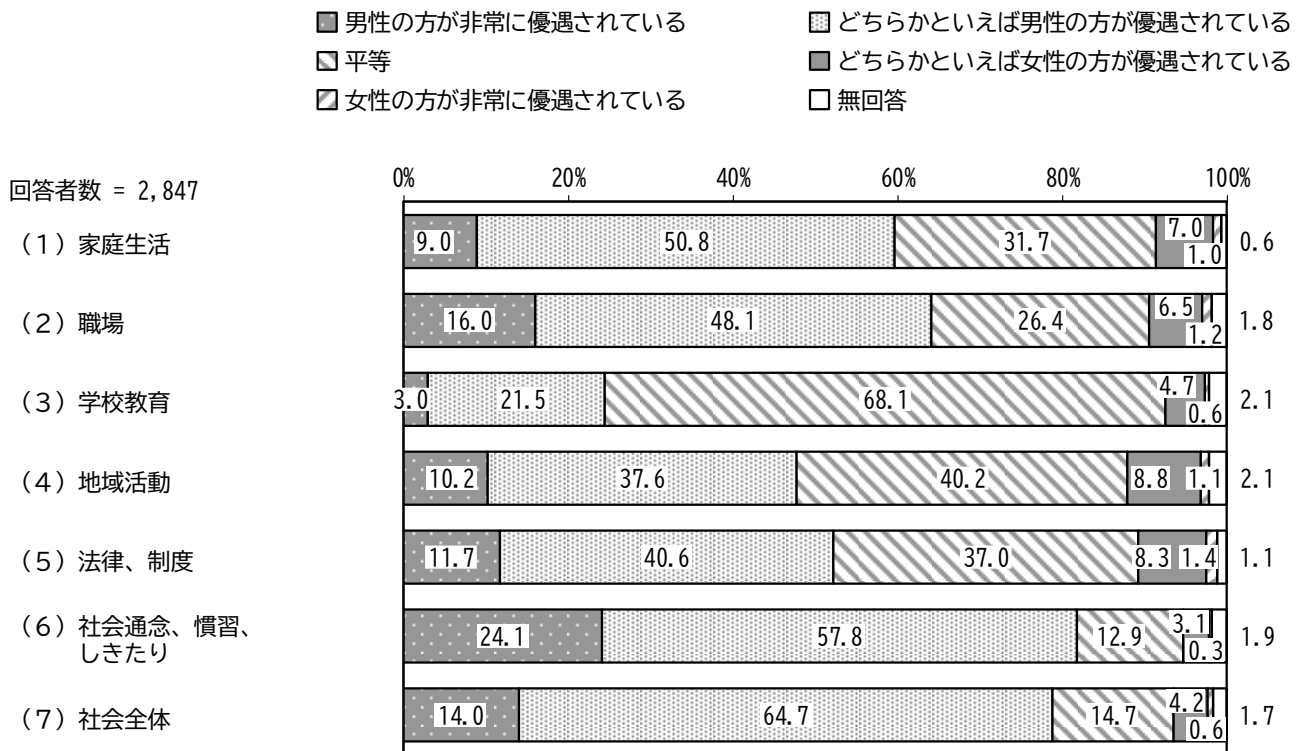
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



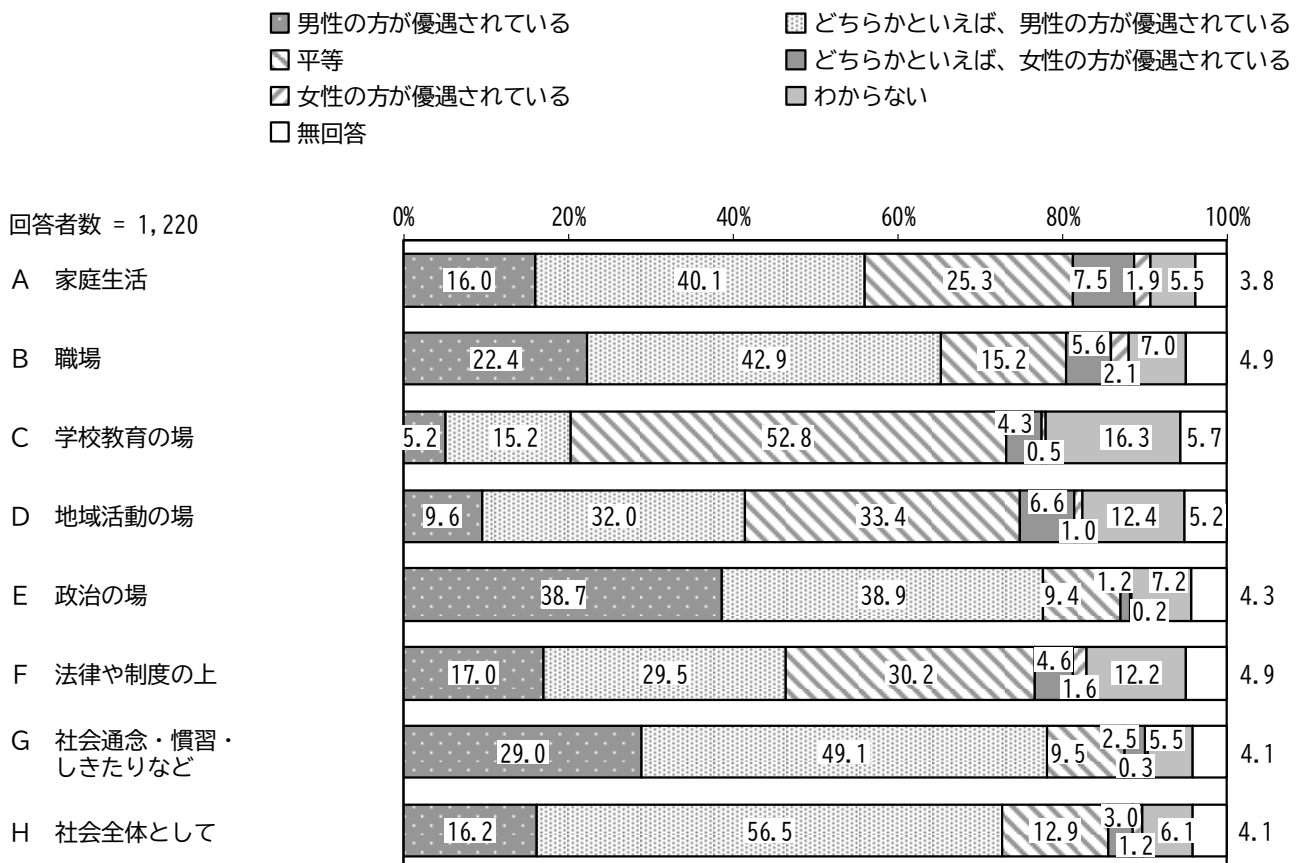
[令和元年度調査]



(参考) 全国調査 (令和4年内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」)

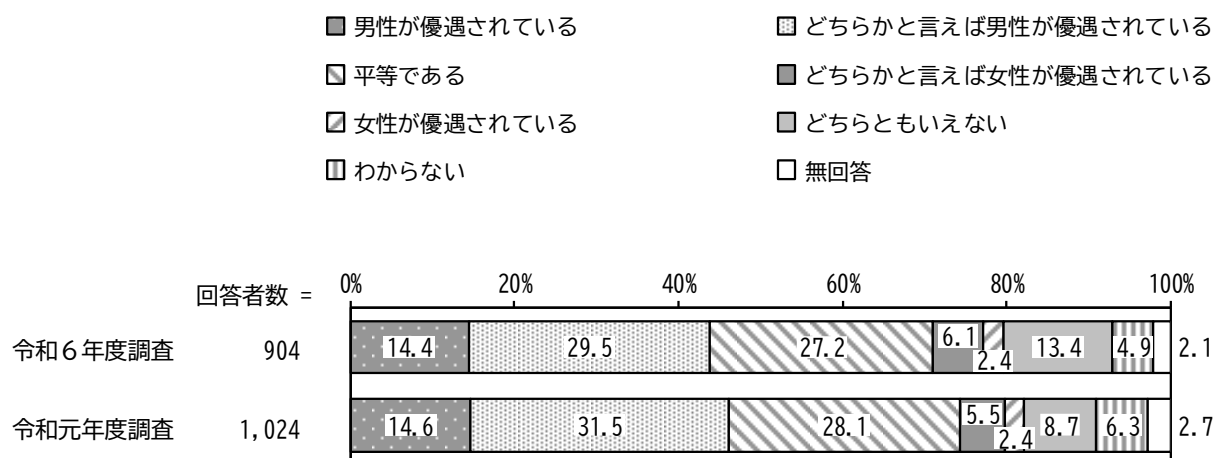


(参考) 愛知県調査 (令和元年「男女共同参画意識に関する調査」)



①家庭生活

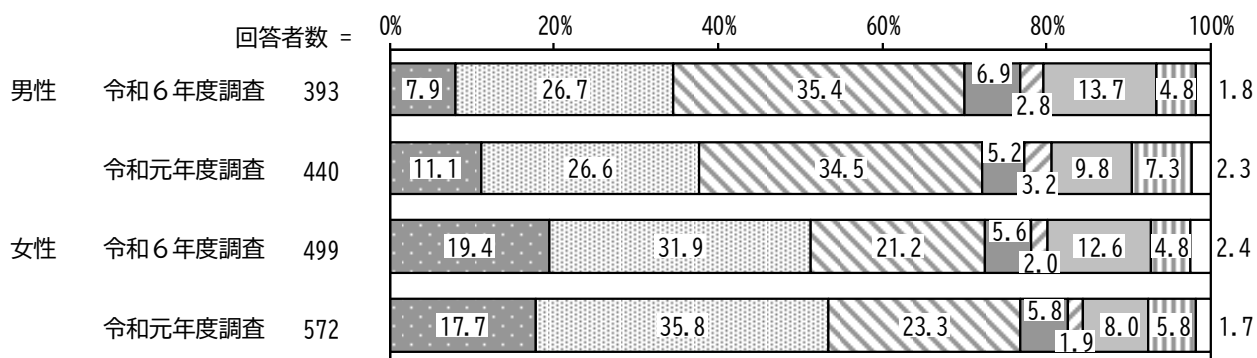
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

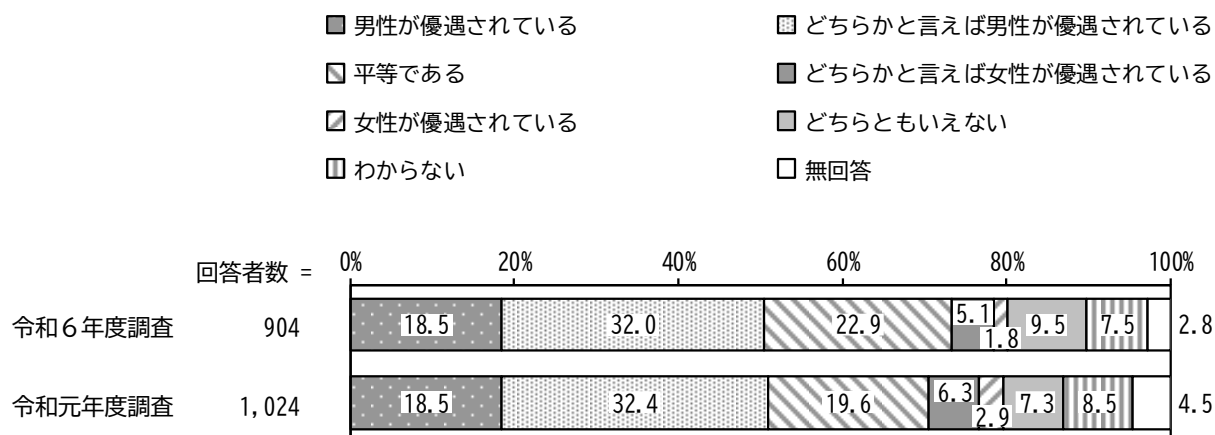
性別でみると、男性で「平等である」の割合が、女性で“男性が優遇されている”の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、男性で「どちらともいえない」の割合が増加しています。



②職場

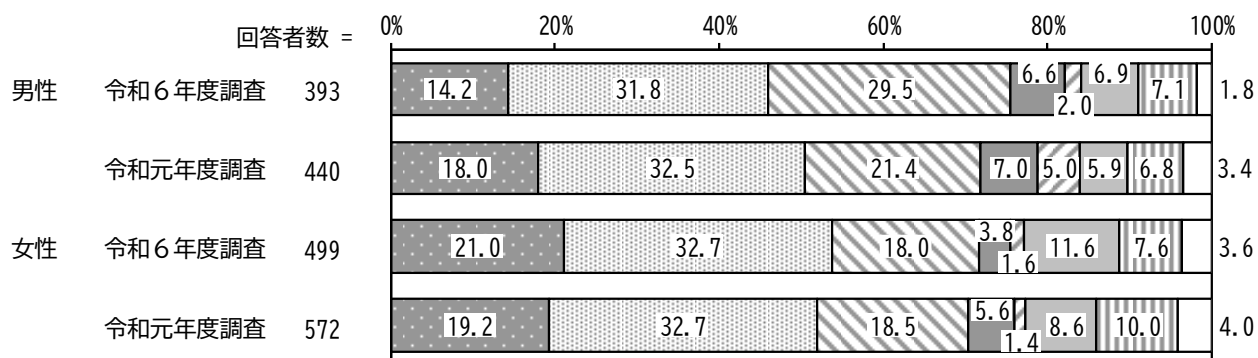
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

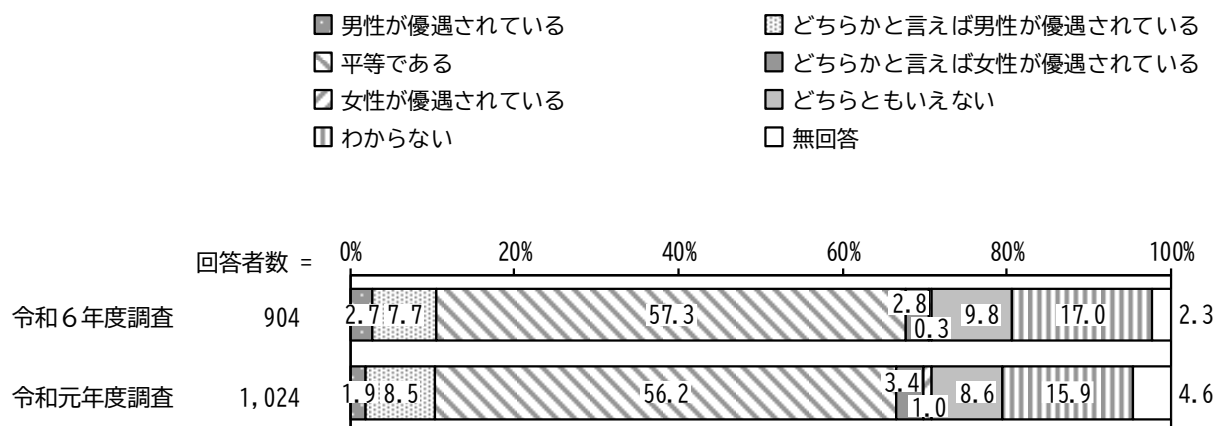
性別でみると、男性で「平等である」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、男性で「平等である」の割合が増加しています。



③学校教育

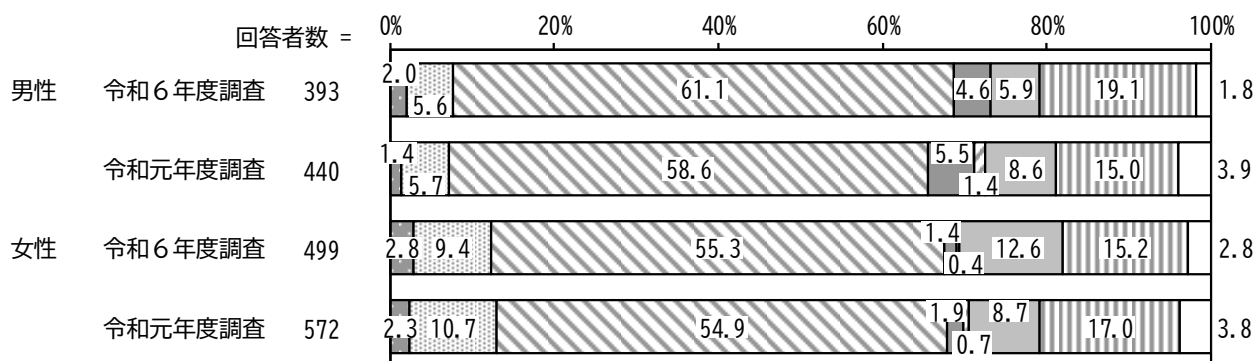
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

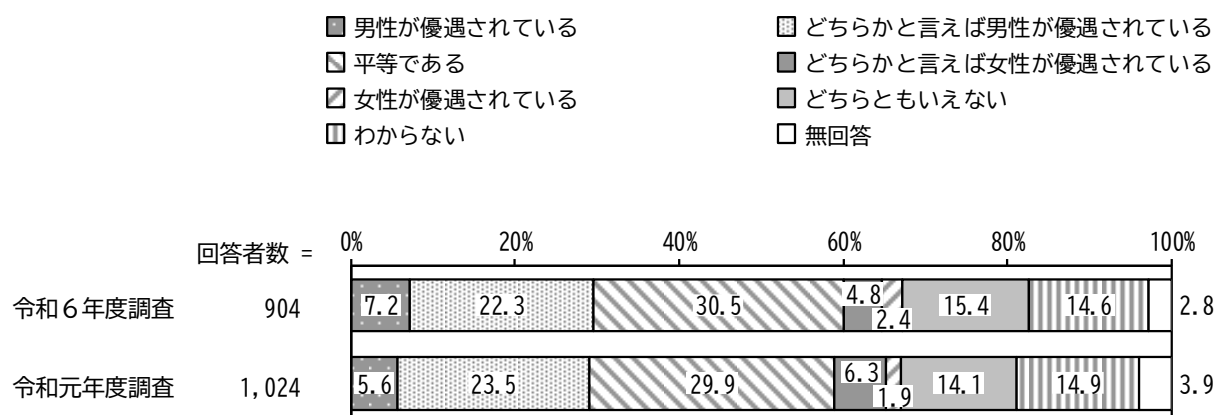
性別でみると、大きな差はみられません。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



④地域活動

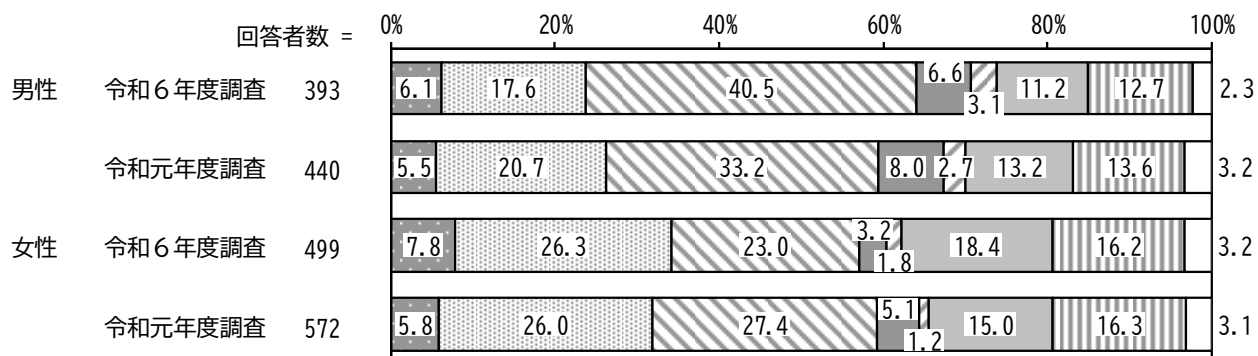
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

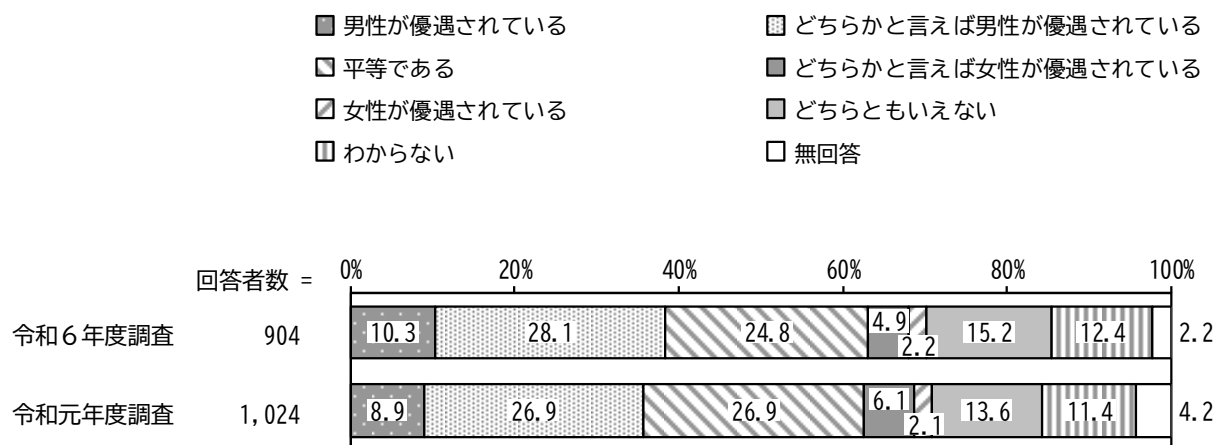
性別でみると、男性で「平等である」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、男性で「平等である」の割合が増加しています。



⑤法律、制度

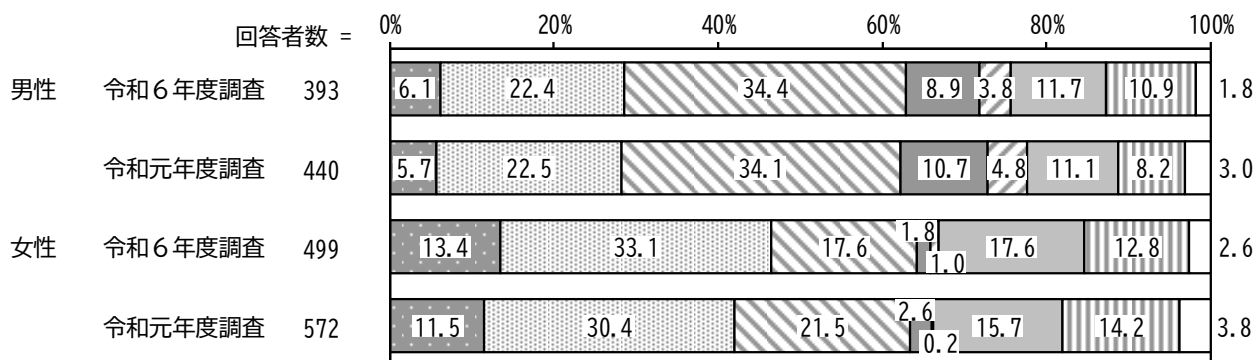
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

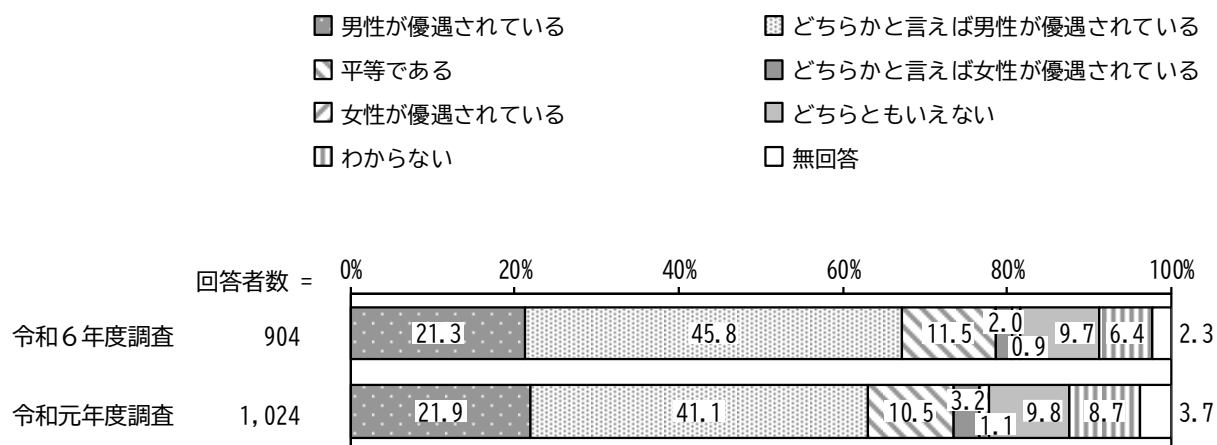
性別でみると、男性で「平等である」、「女性が優遇されている」の割合が、女性で“男性が優遇されている”の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑥社会通念、慣習、しきたり

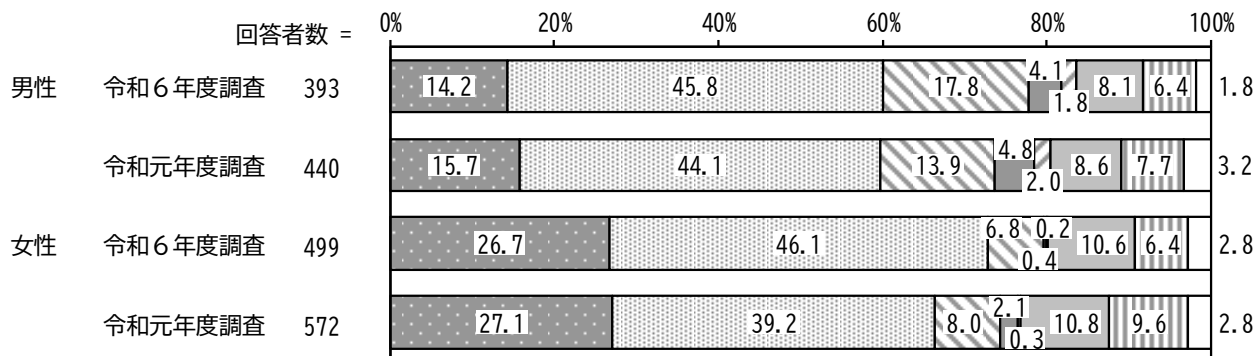
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

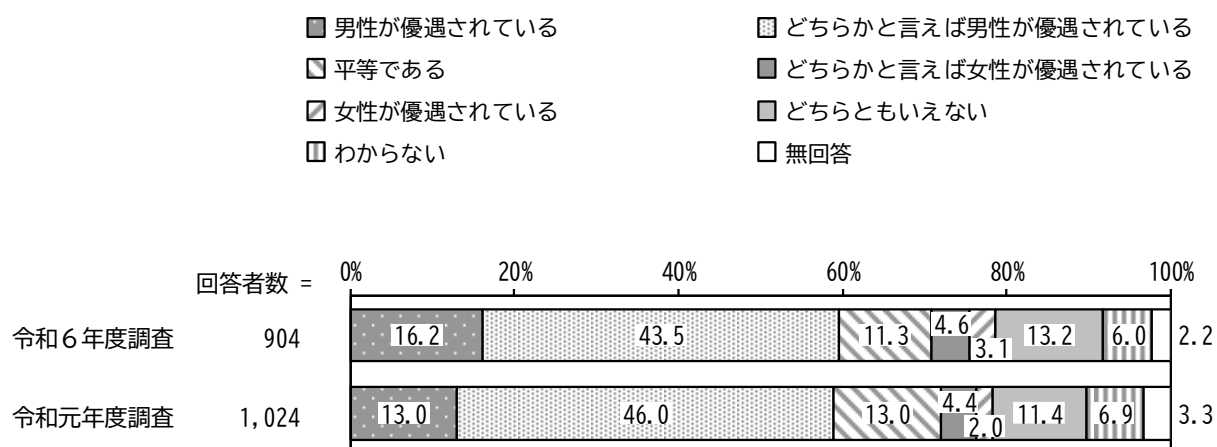
性別でみると、男性で「平等である」の割合が、女性で“男性が優遇されている”の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、女性で“男性が優遇されている”の割合が増加しています。



⑦社会全体

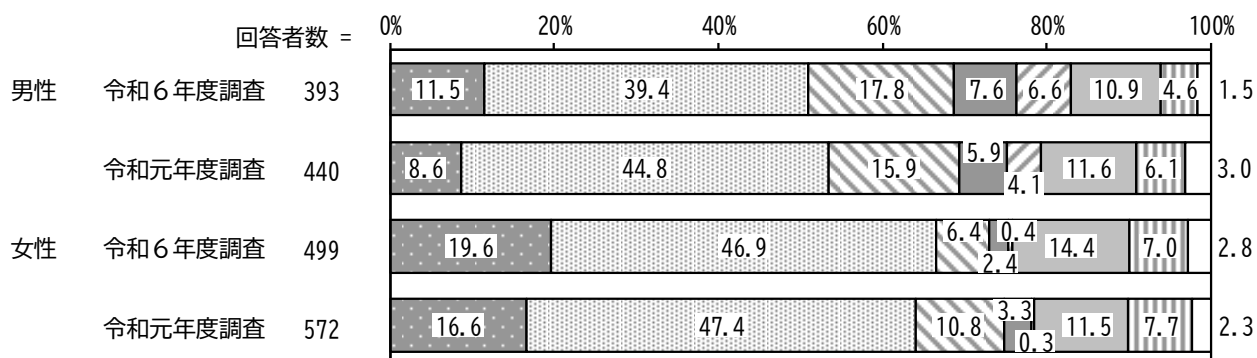
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

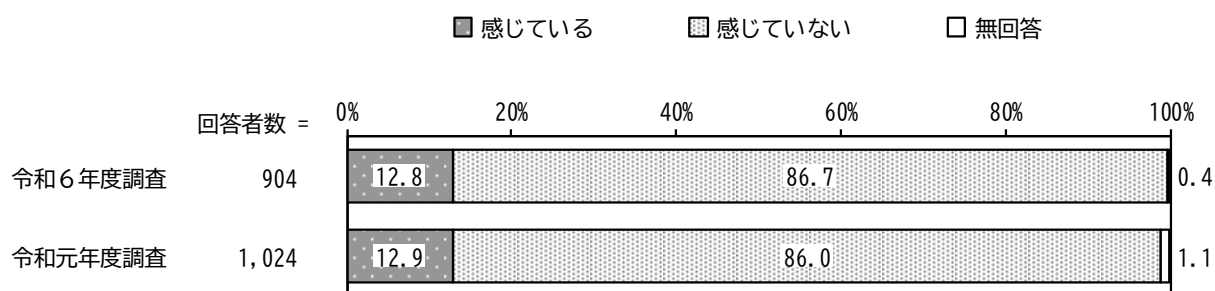
性別でみると、男性で「平等である」、「女性が優遇されている」の割合が、女性で“男性が優遇されている”の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



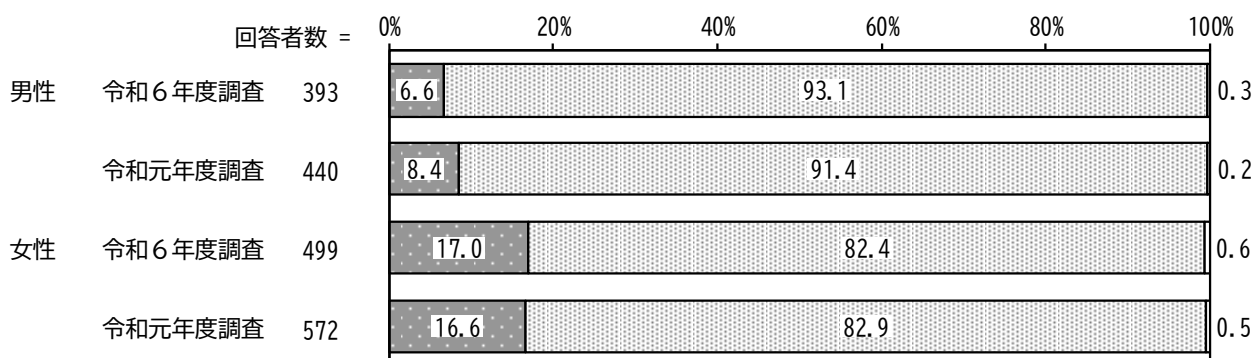
問3 あなたは、性別に関することで、生きづらさを感じていますか（1つに○）。

「感じている」の割合が12.8%、「感じていない」の割合が86.7%となっています。
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別でみると、男性で「感じていない」の割合が、女性で「感じている」の割合が高くなっています。
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年代別・世帯別・職業別】

年代別でみると、大きな差はみられません。

令和元年度調査と比較すると、18 歳、19 歳で「感じている」の割合が、20 歳代と 30 歳代で「感じていない」の割合が増加しています。

世帯別でみると、単身で「感じている」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

職業別でみると、学生で「感じている」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、自営業・家業と学生で「感じている」の割合が、パート・アルバイト・嘱託等で「感じていない」の割合が増加しています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	感じている	感じていない	無回答
全体	904	12.8	86.7	0.4
18 歳、19 歳	22	13.6	86.4	0.0
20 歳代	102	15.7	83.3	1.0
30 歳代	116	12.9	87.1	0.0
40 歳代	131	13.7	86.3	0.0
50 歳代	140	15.7	84.3	0.0
60 歳代	200	10.5	89.5	0.0
70 歳以上	193	10.9	87.6	1.6
単身	86	18.6	81.4	0.0
夫婦だけ	214	11.2	88.3	0.5
親子	488	12.9	86.7	0.4
親と子と孫	63	9.5	88.9	1.6
その他の世帯	50	14.0	86.0	0.0
会社員	283	11.3	88.7	0.0
公務員	57	14.0	86.0	0.0
自営業・家業	74	13.5	86.5	0.0
家族従事者	5	0.0	100.0	0.0
派遣・請負社員	9	55.6	44.4	0.0
パート・アルバイト・嘱託等	182	11.0	89.0	0.0
内職	8	37.5	62.5	0.0
専業主婦・専業主夫	91	13.2	85.7	1.1
学生	30	20.0	80.0	0.0
無職	146	11.6	87.0	1.4
その他	13	15.4	84.6	0.0

※全体には、年代、世帯、職業が不明の回答を含んでいるためクロス集計の合計と合致しないことがあります

[令和元年度調査]

単位：％

区分	回答者数 (件)	感じて いる	感じて いない	無回答
全体	1,024	12.9	86.0	1.1
18歳、19歳	26	7.7	92.3	—
20歳代	103	24.3	75.7	—
30歳代	127	19.7	80.3	—
40歳代	164	12.2	87.8	—
50歳代	190	15.3	84.2	0.5
60歳代	185	7.6	91.4	1.1
70歳以上	221	7.7	91.9	0.5
単身	67	19.4	80.6	—
夫婦だけ	216	9.7	89.8	0.5
親子	545	13.9	85.5	0.6
親と子と孫	126	9.5	90.5	—
その他の世帯	62	16.1	83.9	—
会社員	303	14.2	85.8	—
公務員	60	13.3	86.7	—
自営業・家業	87	8.0	92.0	—
家族従事者	12	8.3	91.7	—
派遣・請負社員	17	23.5	76.5	—
パート・アルバイト・嘱託等	192	15.6	83.9	0.5
内職	7	14.3	85.7	—
専業主婦・専業主夫	107	11.2	88.8	—
学生	39	12.8	87.2	—
無職	172	11.0	87.8	1.2
その他	16	12.5	87.5	—

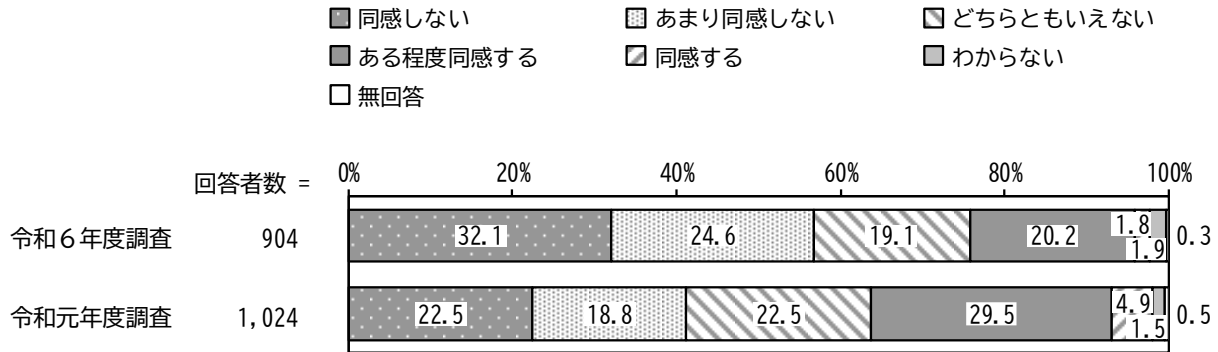
※全体には、年代、世帯、職業が不明の回答を含んでいるためクロス集計の合計と合致しないことがあります

3 性別役割分担について

問4 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか（1つに○）。

「同感しない」と「あまり同感しない」をあわせた“同感しない”の割合が56.7%と、「同感する」と「ある程度同感する」をあわせた“同感する”の割合が22.0%となっています。

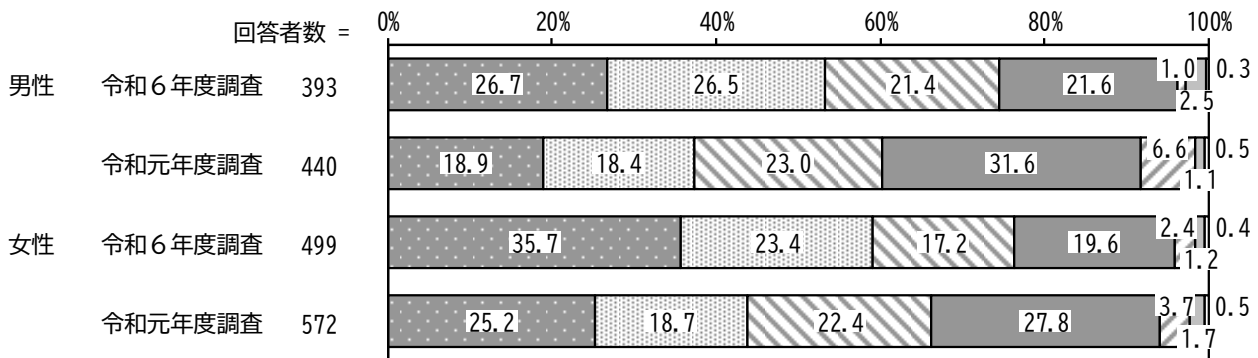
令和元年度調査と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。一方、“同感する”の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、女性で“同感しない”の割合が高くなっています。

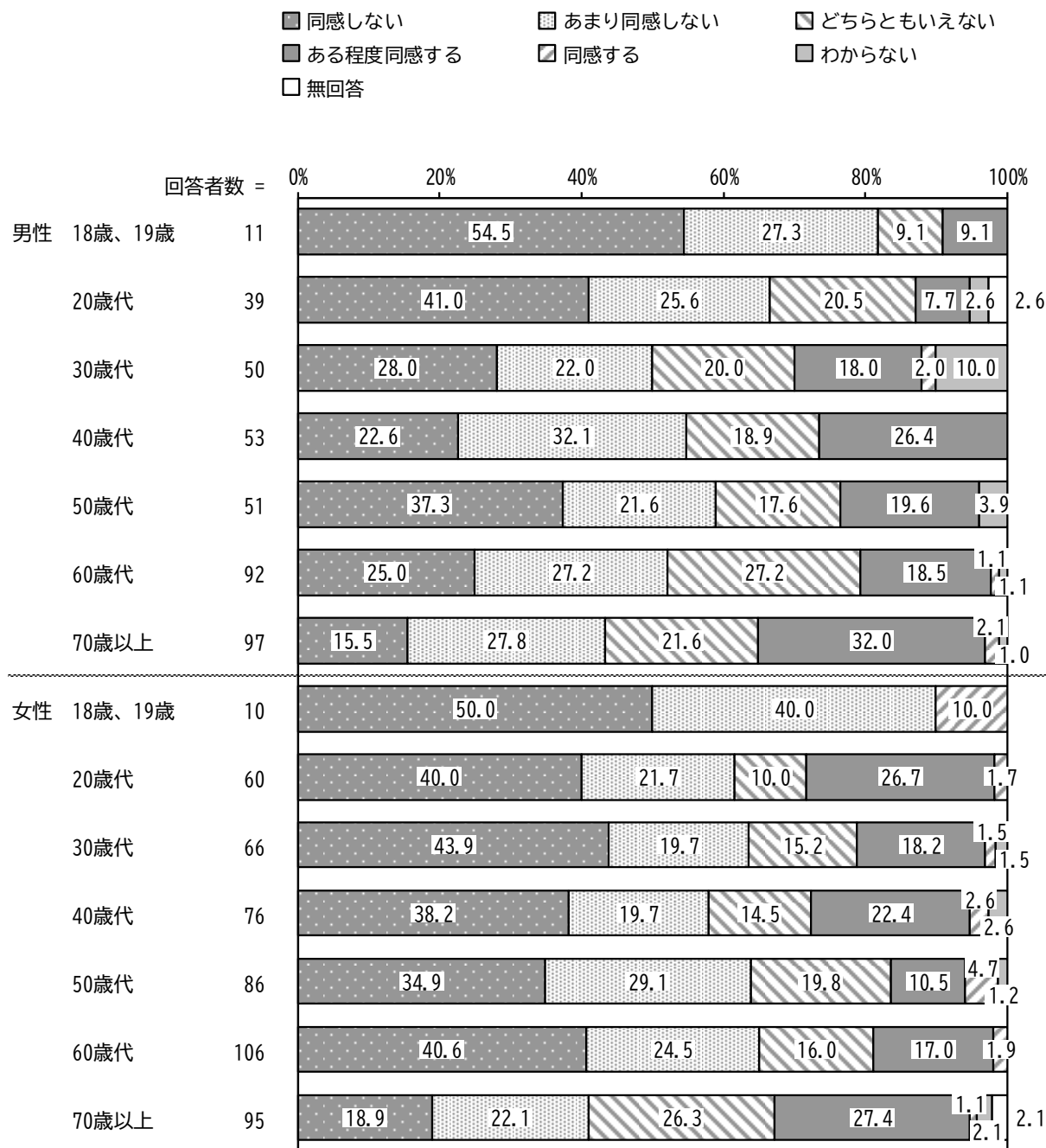
令和元年度調査と比較すると、男女ともに“同感しない”の割合が増加し、“同感する”の割合が減少しています。また、女性で「どちらともいえない」の割合が減少しています。



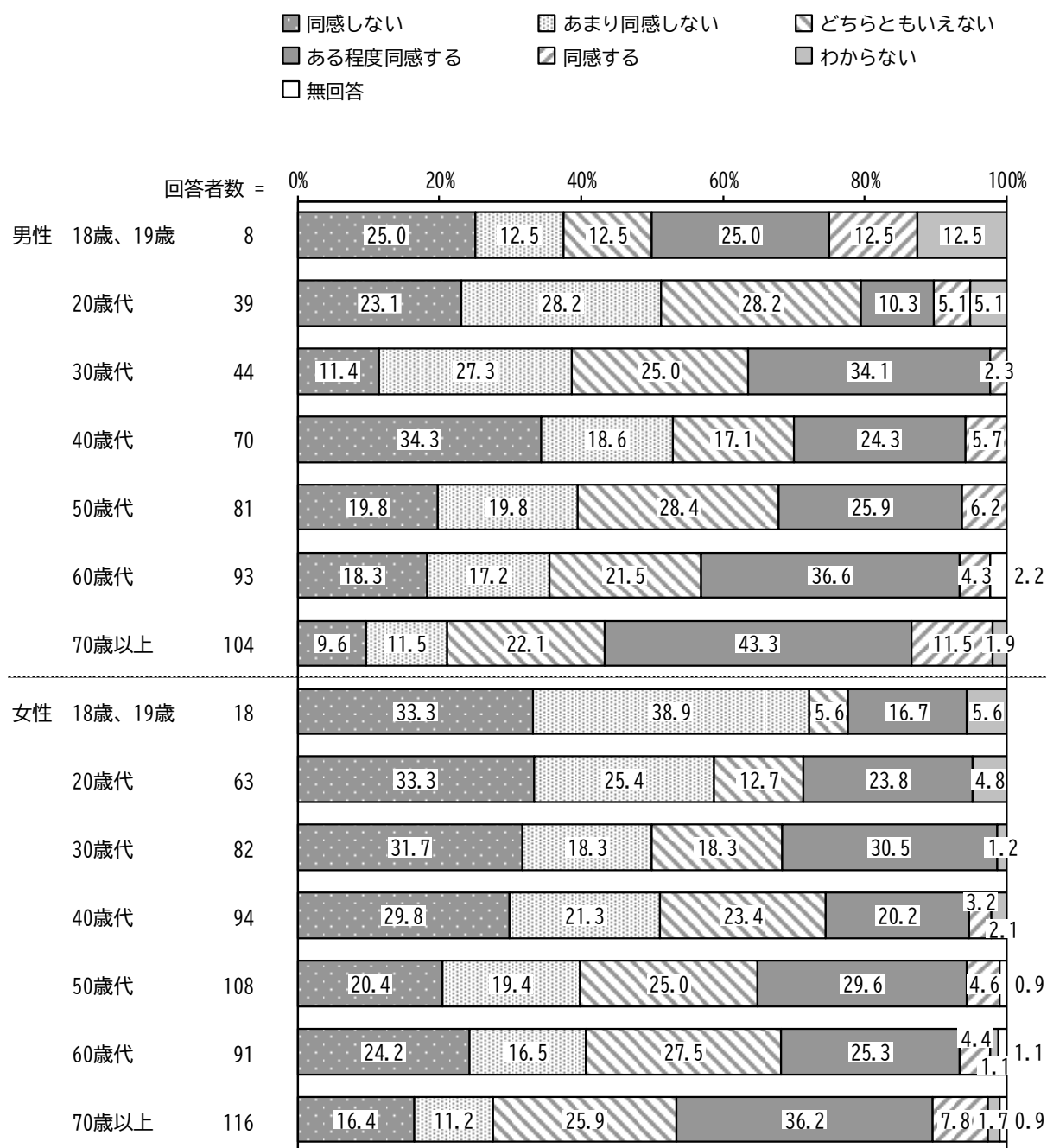
【性・年代別】

性・年代別でみると、男女ともに18歳、19歳で“同感しない”の割合が、70歳以上で“同感する”の割合が高くなっています。

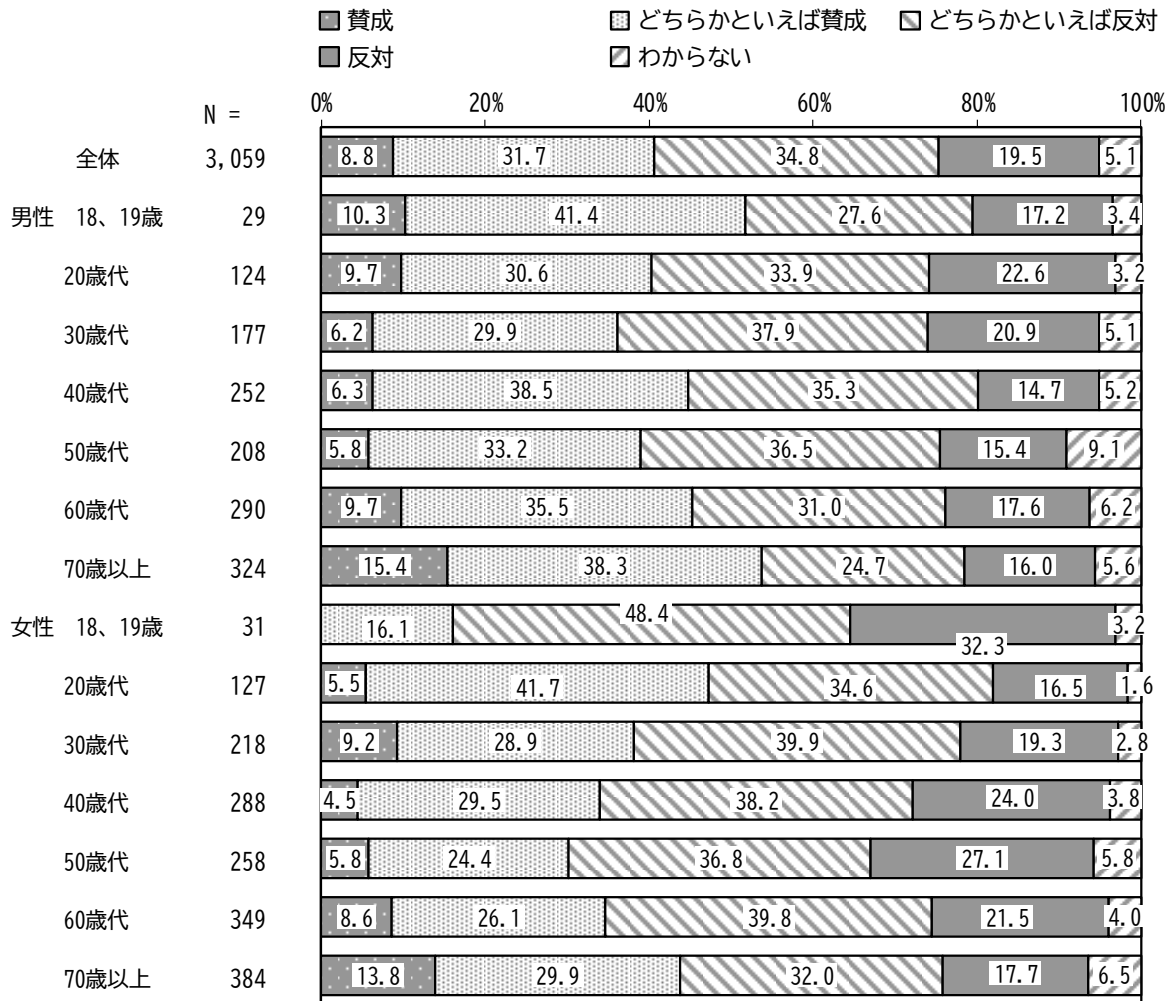
令和元年度調査と比較すると、男性の40歳代、女性の20歳代以外の年代で“同感しない”の割合が増加しています。一方、男性の40歳代、女性の20歳代と40歳代以外の年代で“同感する”の割合が減少しています。



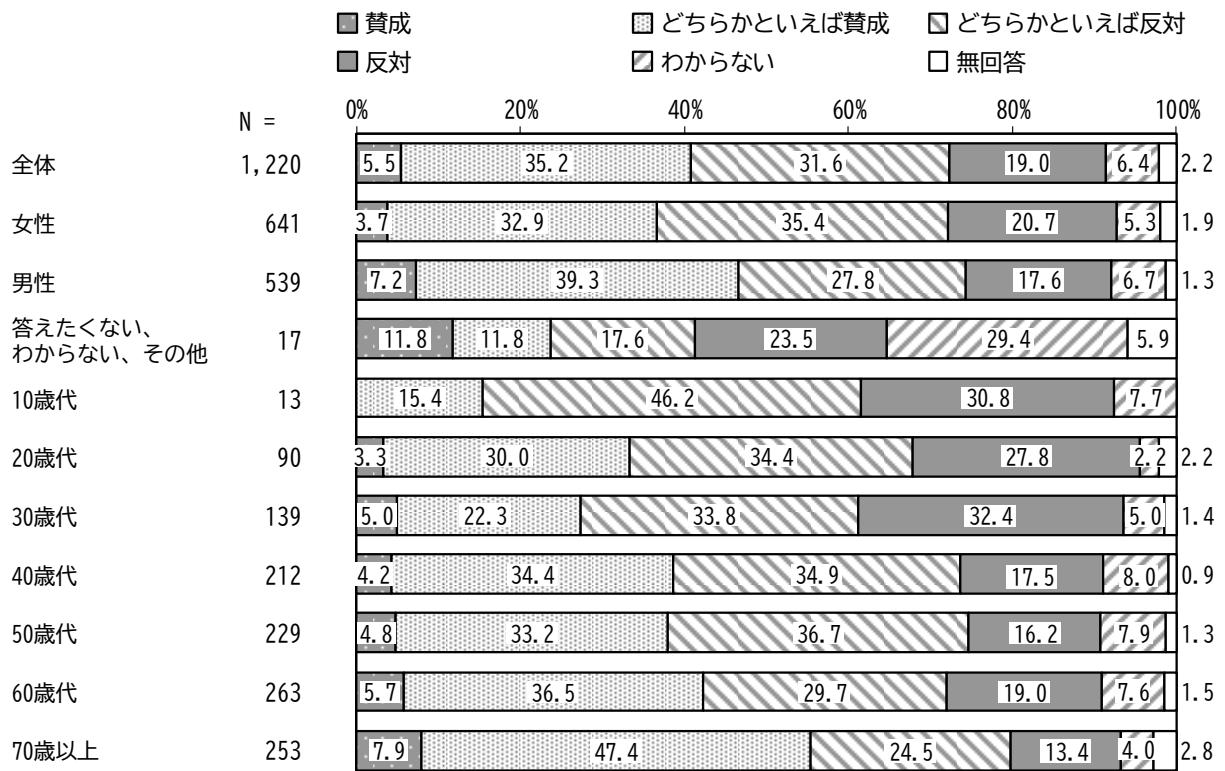
[令和元年度調査]



(参考) 全国調査 (令和4年内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」)

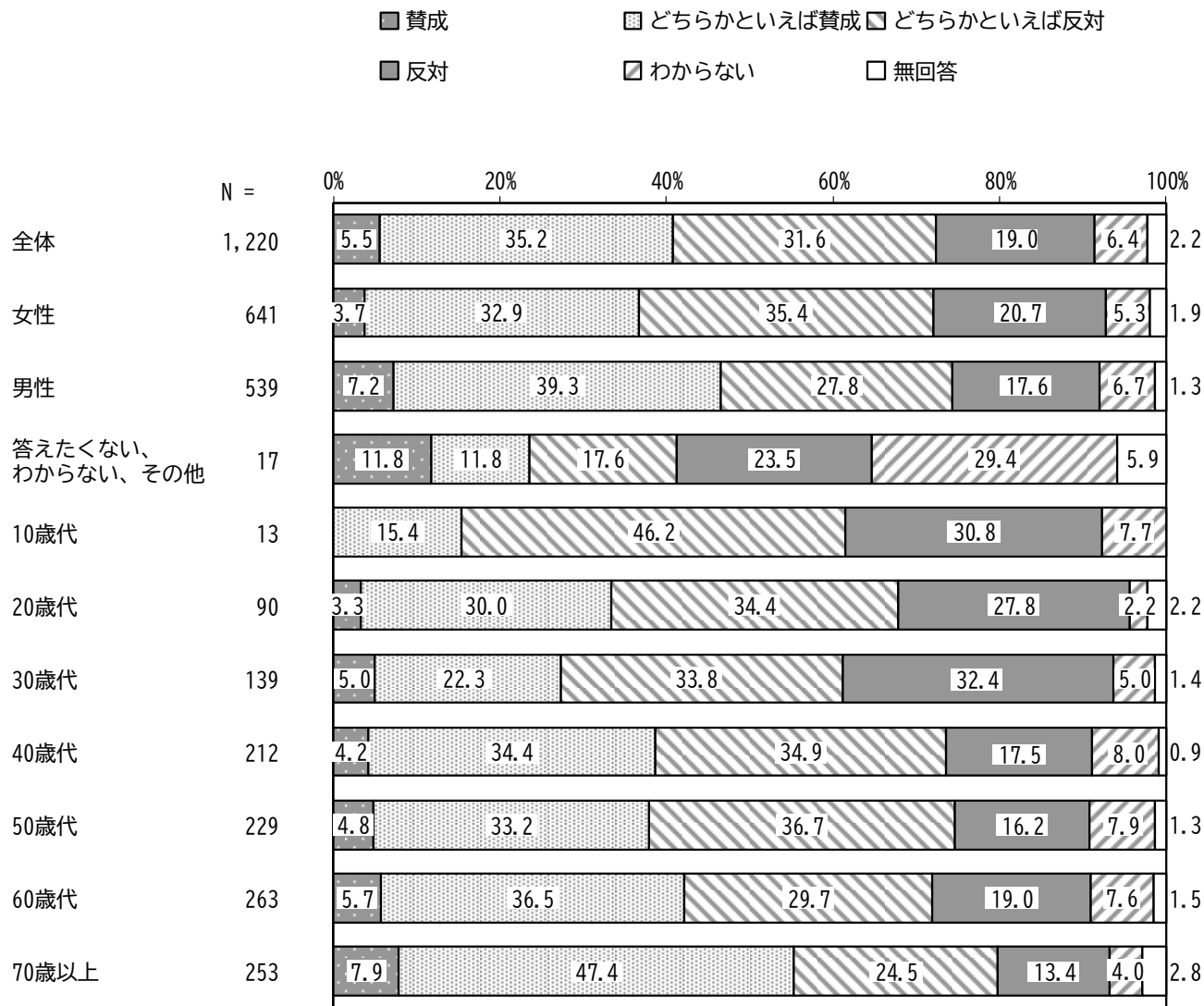


(参考) 愛知県調査 (令和元年「男女共同参画意識に関する調査」)



※豊川市の今回調査と選択肢の順が反対になっています。

(参考) 愛知県調査 (令和元年「男女共同参画意識に関する調査」)

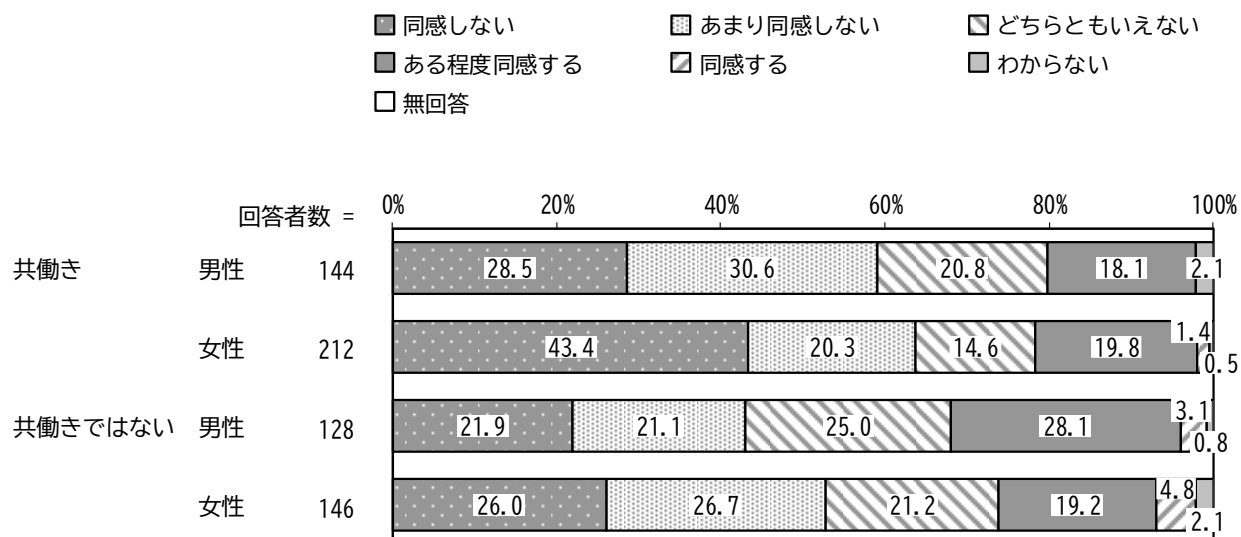


※豊川市の今回調査と選択肢の順が反対になっています。

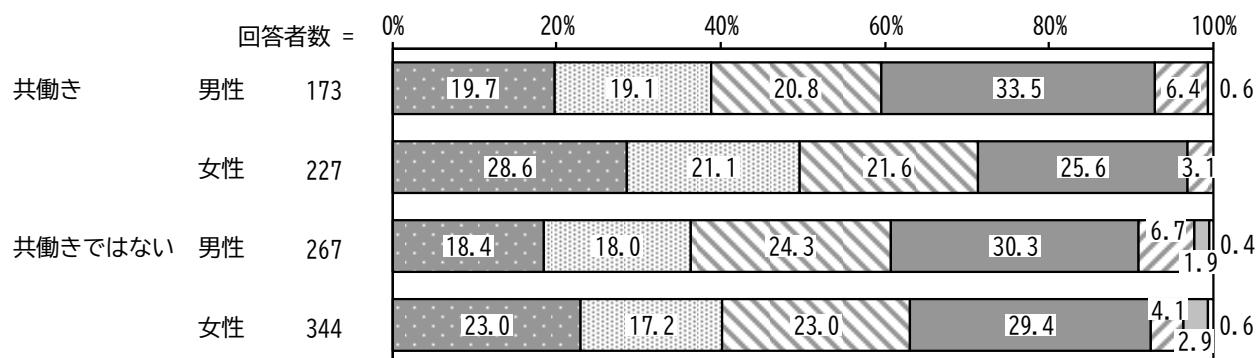
【共働き・性別】

共働き・性別でみると、共働きの女性で“同感しない”の割合が高くなっています。一方、共働きではない男性で“同感する”の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、共働き、共働きではないともに“同感しない”の割合が増加し、“同感する”の割合が減少しています。



【令和元年度調査】

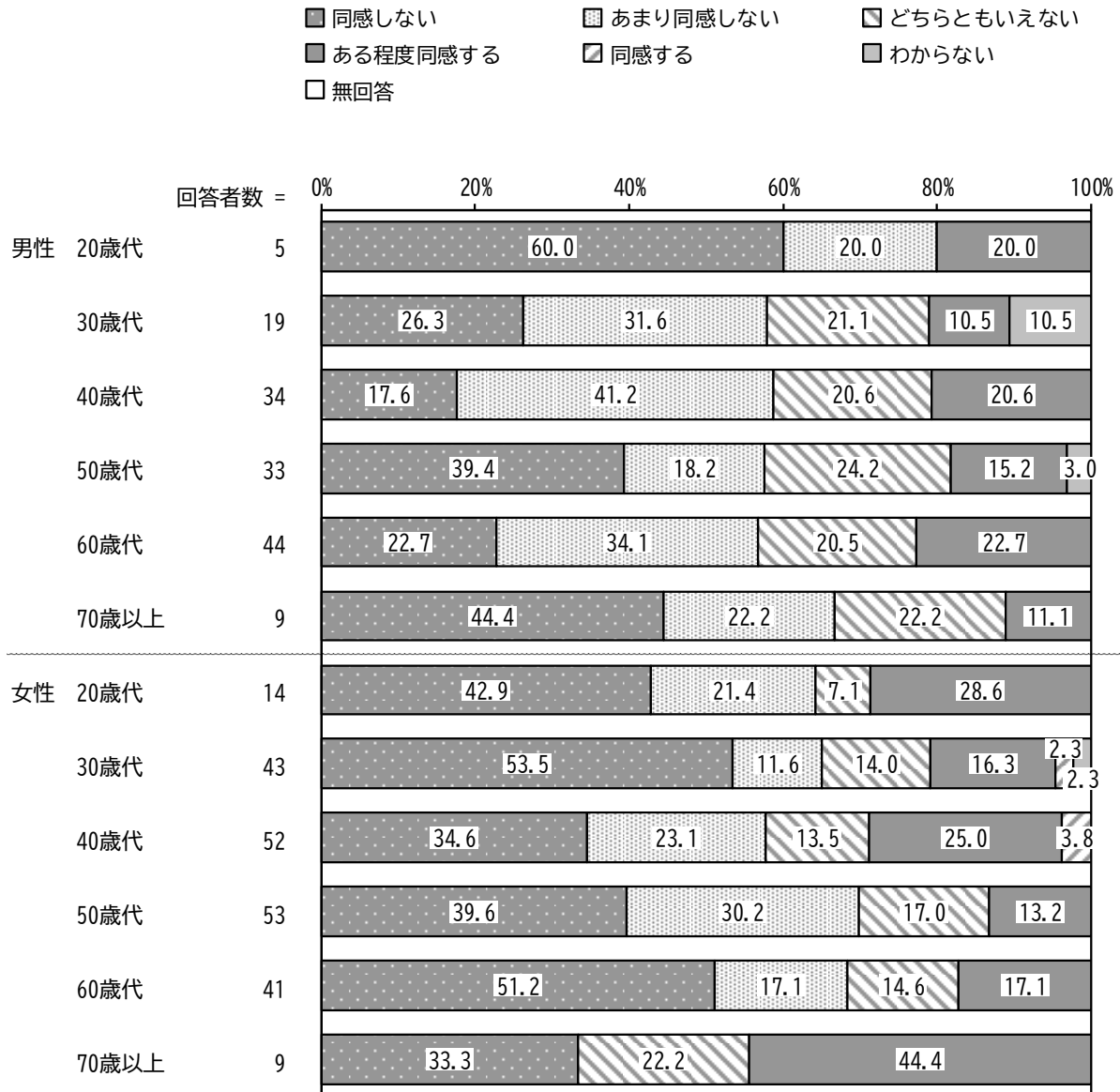


【共働き・性・年代別】

①共働きの人

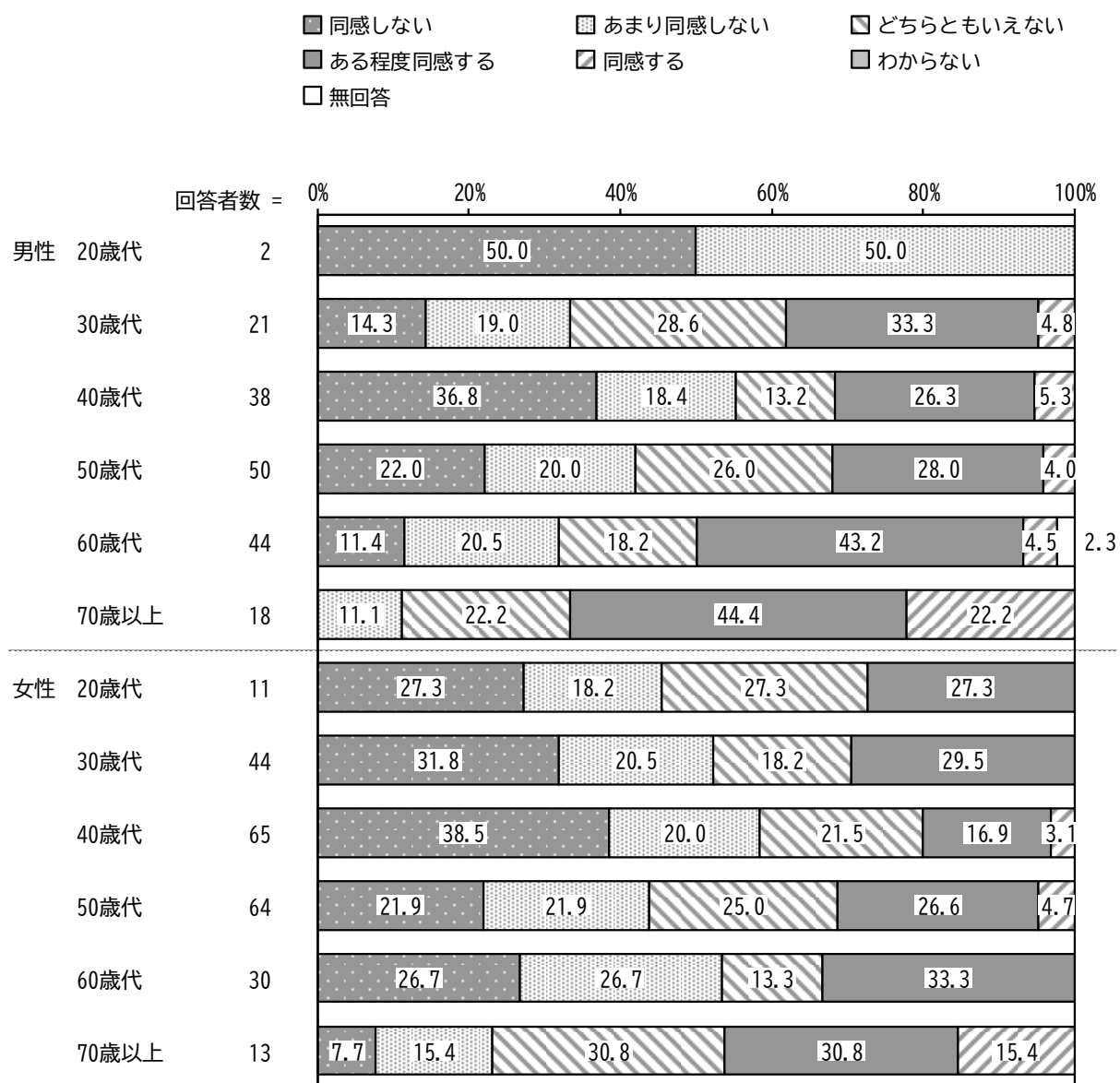
共働きの人を性・年代別でみると、男性では、40歳代と60歳代で“同感する”の割合が高くなっています。女性では、50歳代と60歳代で“同感しない”の割合が高くなっています。一方、20歳代と40歳代で“同感する”の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、男女ともにすべての年代で“同感しない”の割合が増加し、30歳代～60歳代で“同感する”の割合が減少しています。



※「18歳、19歳」は回答者数=0のため省略しています。

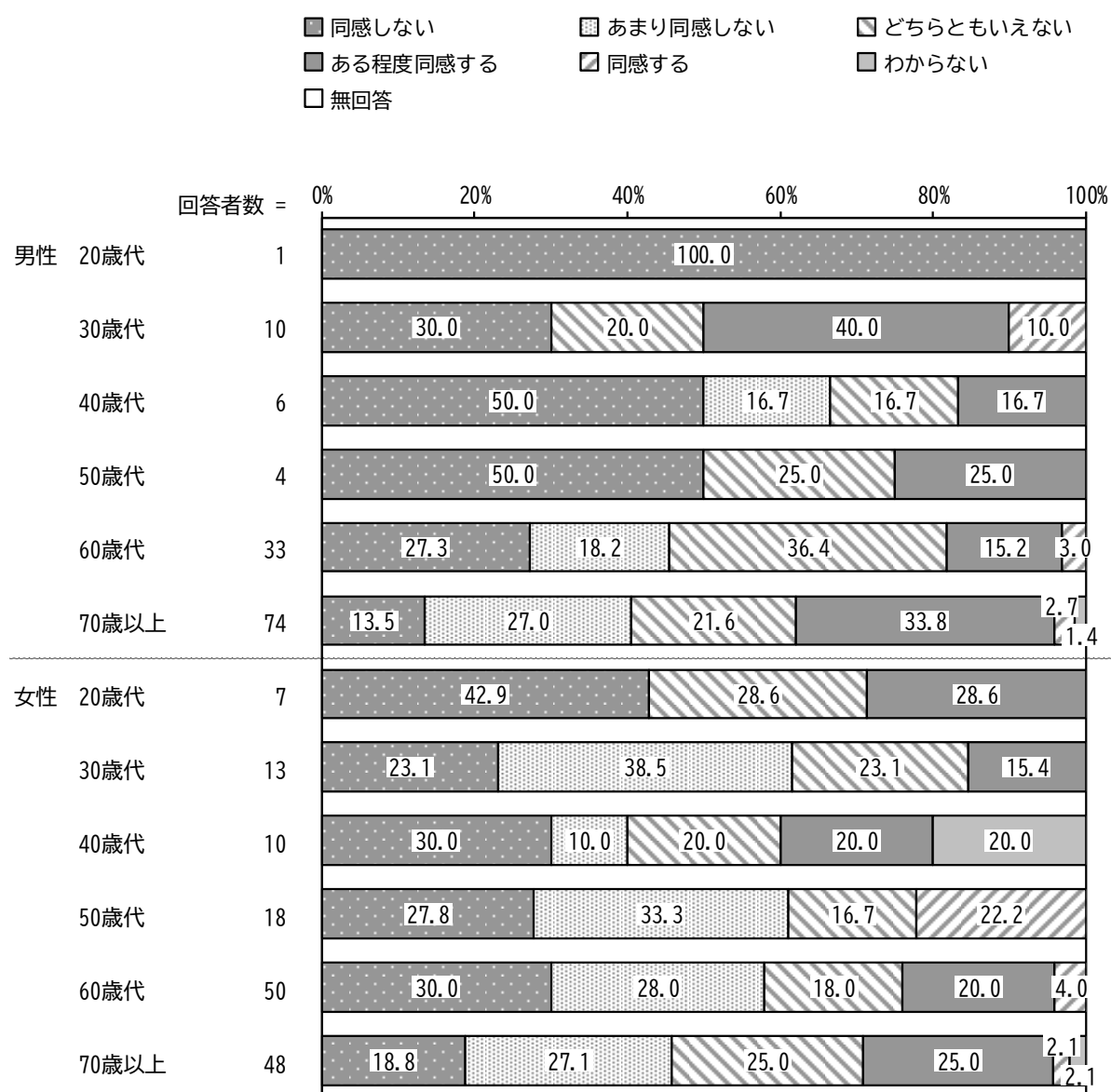
[令和元年度調査]



②共働きではない人

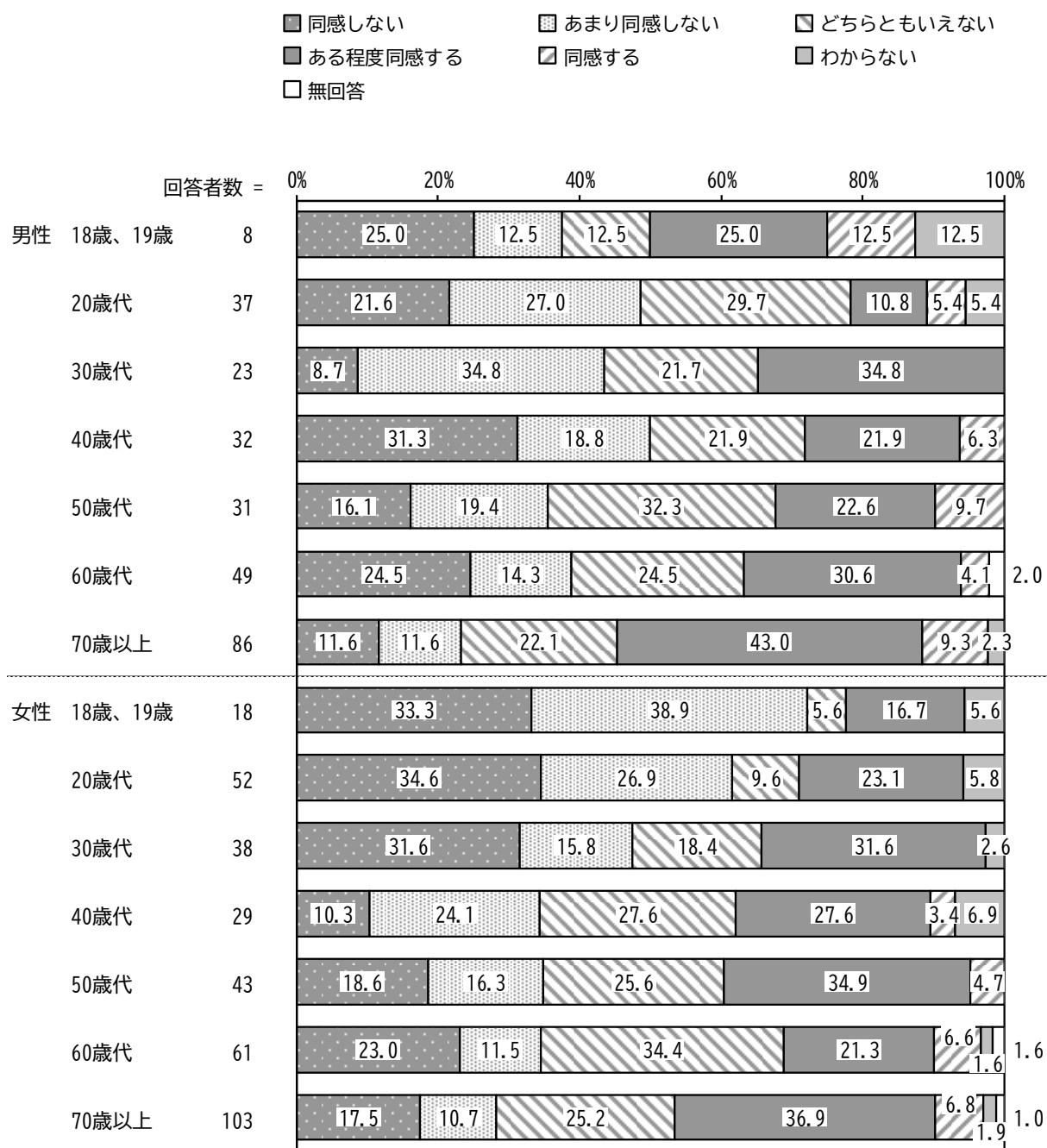
共働きではない人を性・年代別でみると、男性では、60歳代で“同感しない”の割合が高くなっています。一方、30歳代と70歳以上で“同感する”の割合が高くなっています。女性では、30歳代と50歳代で“同感しない”の割合が高くなっています。一方、70歳以上で“同感する”の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、男性では、60歳代と70歳以上で“同感しない”の割合が、30歳代で“同感する”の割合が増加しています。女性では、30歳代～70歳以上で“同感しない”の割合が増加しています。



※「18歳、19歳」は回答者数=0のため省略しています。

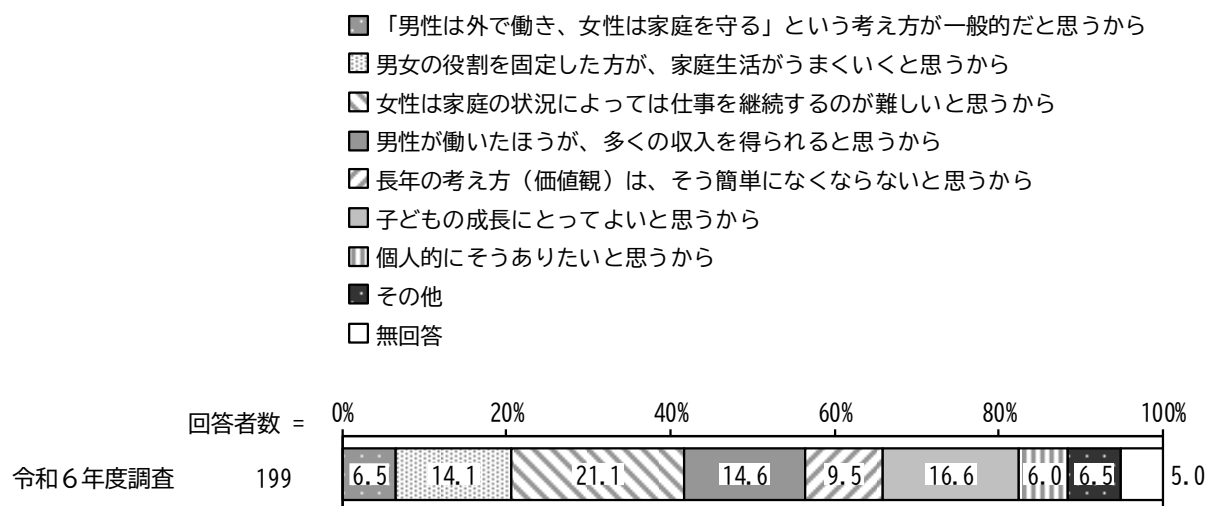
[令和元年度調査]



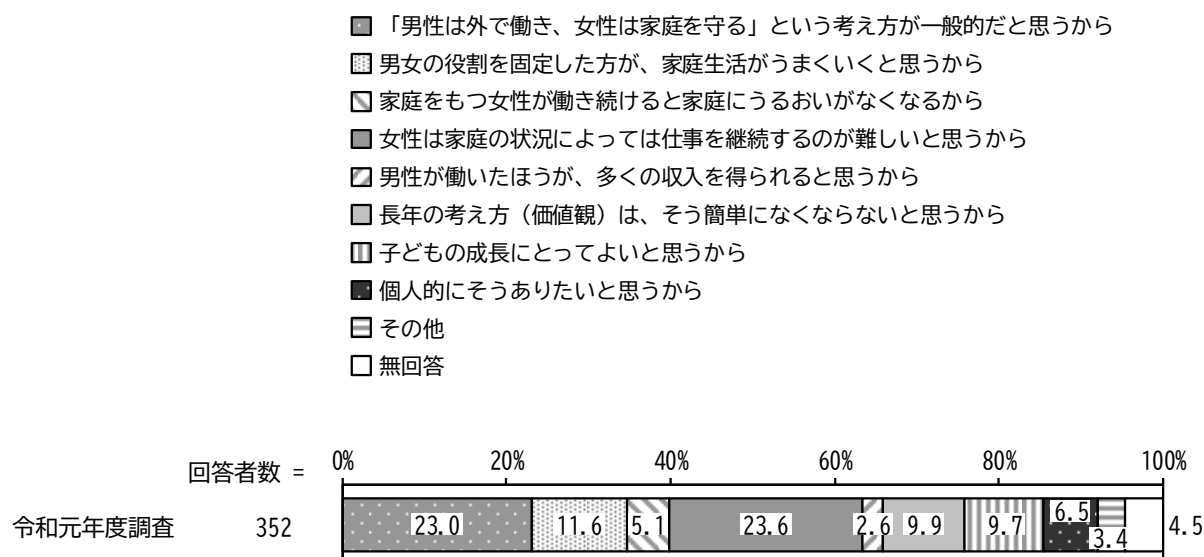
問4で「ある程度同感する」「同感する」と答えた方におたずねします。

問5 そう思うのはどのような理由からですか（1つに○）。

「女性は家庭の状況によっては仕事を継続するのが難しいと思うから」の割合が21.1%と最も高く、次いで「子どもの成長にとってよいと思うから」の割合が16.6%、「男性が働いたほうが、多くの収入を得られると思うから」の割合が14.6%となっています。



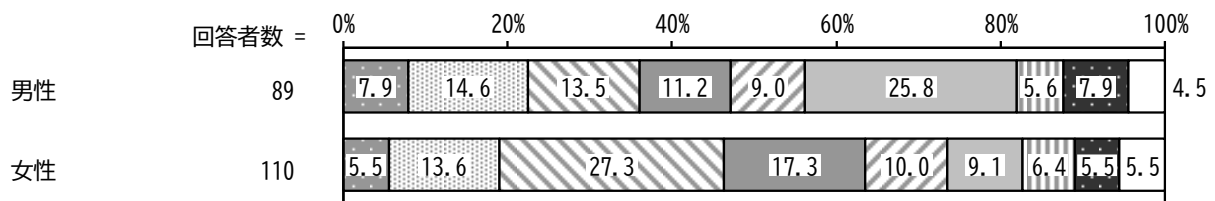
〔（参考）令和元年度調査〕



【性別】

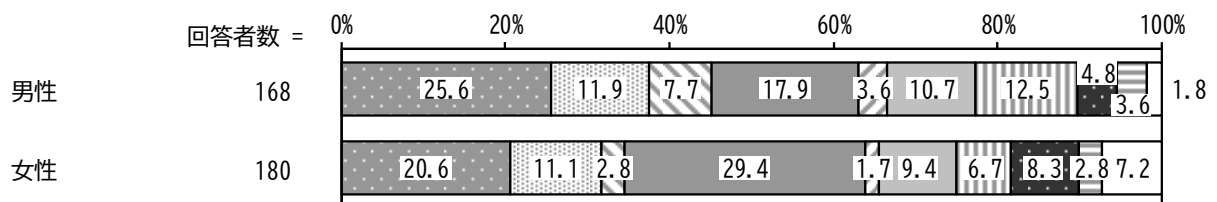
性別でみると、男性で「子どもの成長にとってよいと思うから」の割合が、女性で「女性は家庭の状況によっては仕事を継続するのが難しいと思うから」の割合が高くなっています。

- 「男性は外で働き、女性は家庭を守る」という考え方が一般的だと思うから
- ▨ 男女の役割を固定した方が、家庭生活がうまくいくと思うから
- ▩ 女性は家庭の状況によっては仕事を継続するのが難しいと思うから
- 男性が働いたほうが、多くの収入を得られると思うから
- ▨ 長年の考え方（価値観）は、そう簡単にならないと思うから
- 子どもの成長にとってよいと思うから
- ▨ 個人的にそうありたいと思うから
- その他
- 無回答



【(参考) 令和元年度調査】

- 「男性は外で働き、女性は家庭を守る」という考え方が一般的だと思うから
- ▨ 男女の役割を固定した方が、家庭生活がうまくいくと思うから
- ▩ 家庭をもつ女性が働き続けると家庭にうるおいがなくなるから
- 女性は家庭の状況によっては仕事を継続するのが難しいと思うから
- ▨ 男性が働いたほうが、多くの収入を得られると思うから
- ▨ 長年の考え方（価値観）は、そう簡単にならないと思うから
- 子どもの成長にとってよいと思うから
- 個人的にそうありたいと思うから
- その他
- 無回答

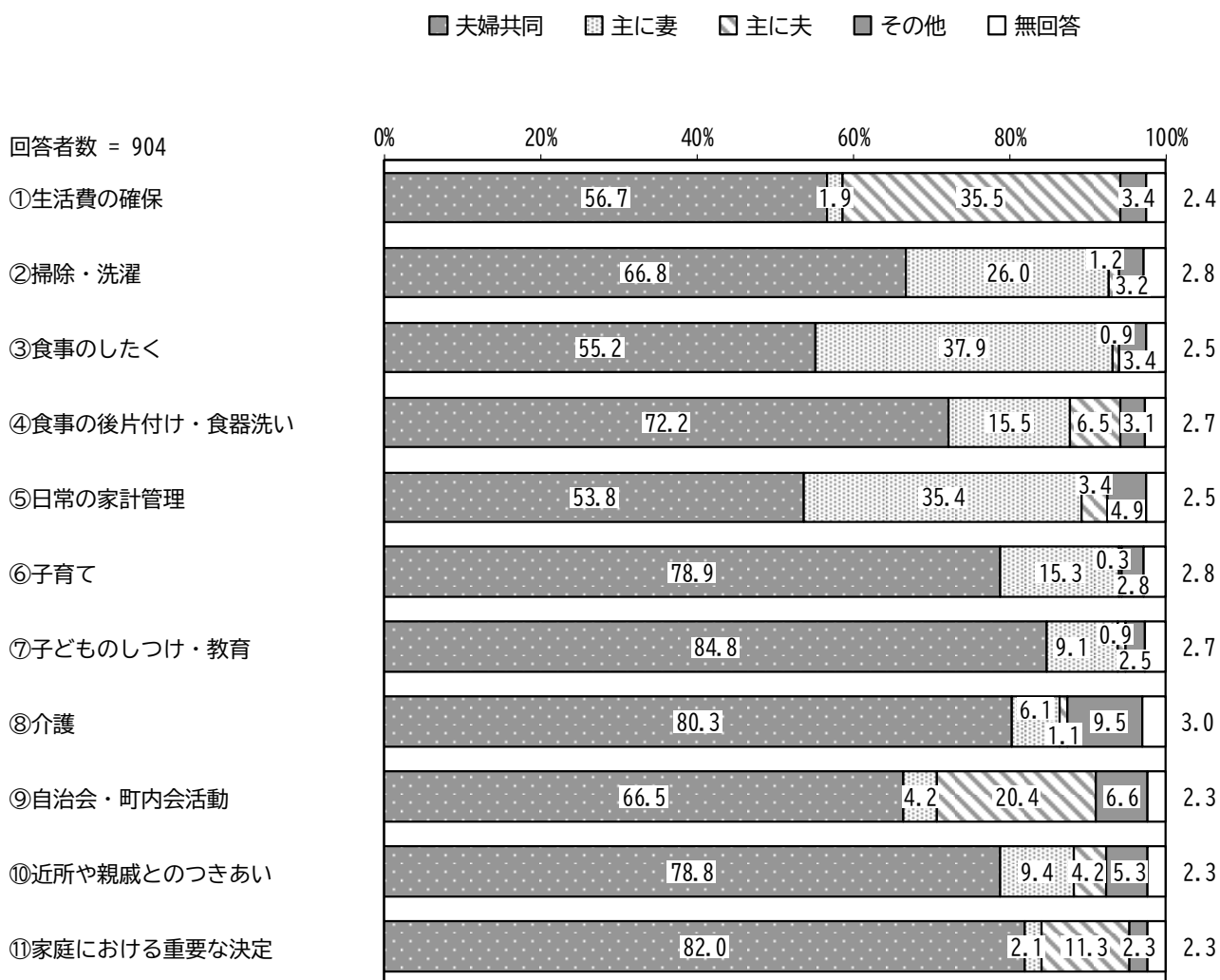


問6 次にあげる家庭でのことがらは、夫婦でどのように分担するのが理想だと思いますか
(それぞれ1つに○)。

《理想》

『⑦子どものしつけ・教育』『⑧介護』『⑪家庭における重要な決定』で「夫婦共同」の割合が、『③食事のしたく』『⑤日常の家計管理』で「主に妻」の割合が、『①生活費の確保』で「主に夫」の割合が高くなっています。

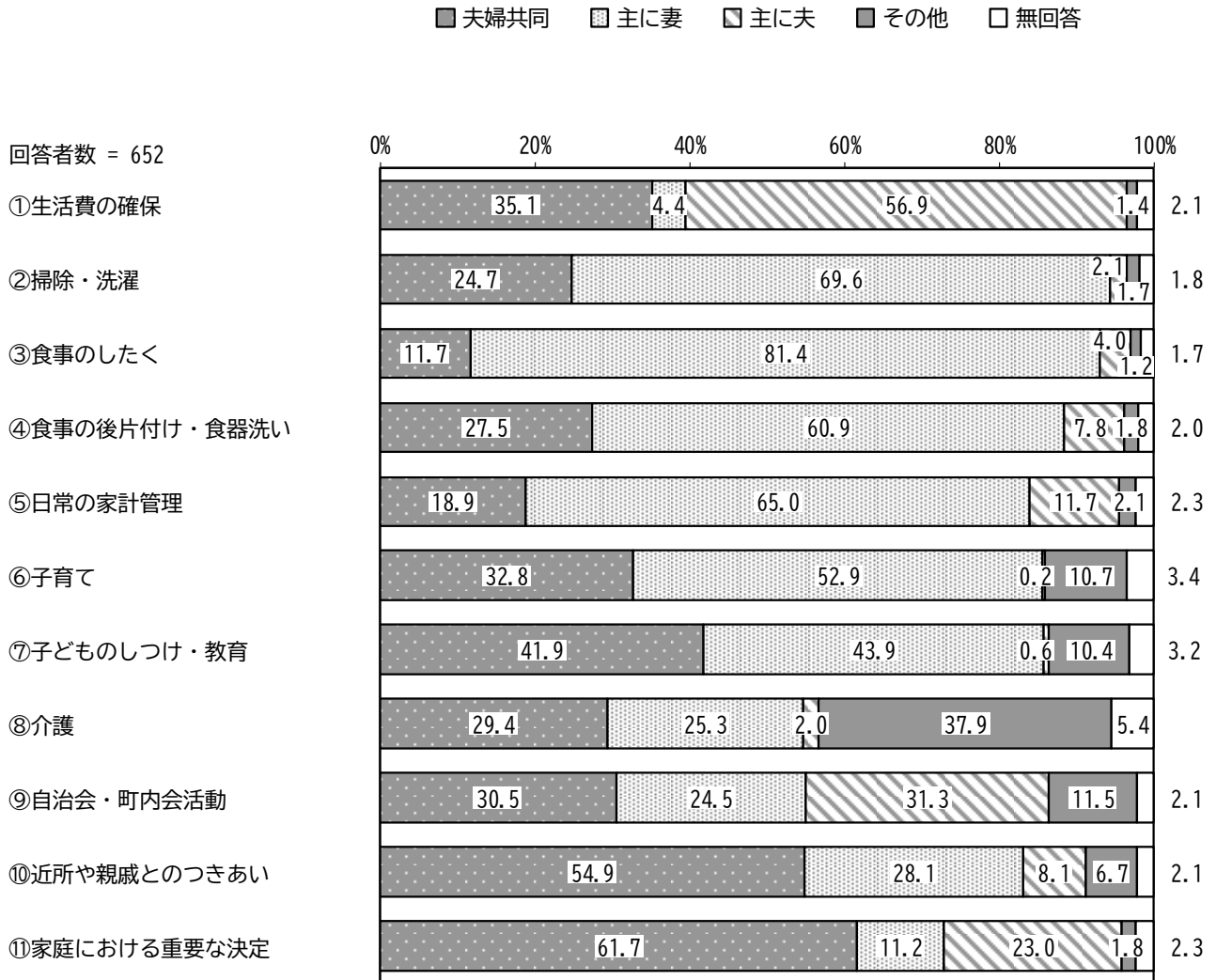
令和元年度調査と比較すると、『①生活費の確保』『②掃除・洗濯』『③食事のしたく』『④食事の後片付け・食器洗い』『⑤日常の家計管理』『⑥子育て』『⑪家庭における重要な決定』で「夫婦共同」の割合が増加しています。一方、『②掃除・洗濯』『③食事のしたく』『④食事の後片付け・食器洗い』『⑤日常の家計管理』『⑥子育て』で「主に妻」の割合が、『①生活費の確保』『⑪家庭における重要な決定』で「主に夫」の割合が減少しています。



《実際》（結婚している（事実婚、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）方のみ）

『⑪家庭における重要な決定』で「夫婦共同」の割合が、『③食事のしたく』で「主に妻」の割合が、『①生活費の確保』で「主に夫」の割合が高くなっています。また、『⑧介護』で「その他」の割合が高くなっています。

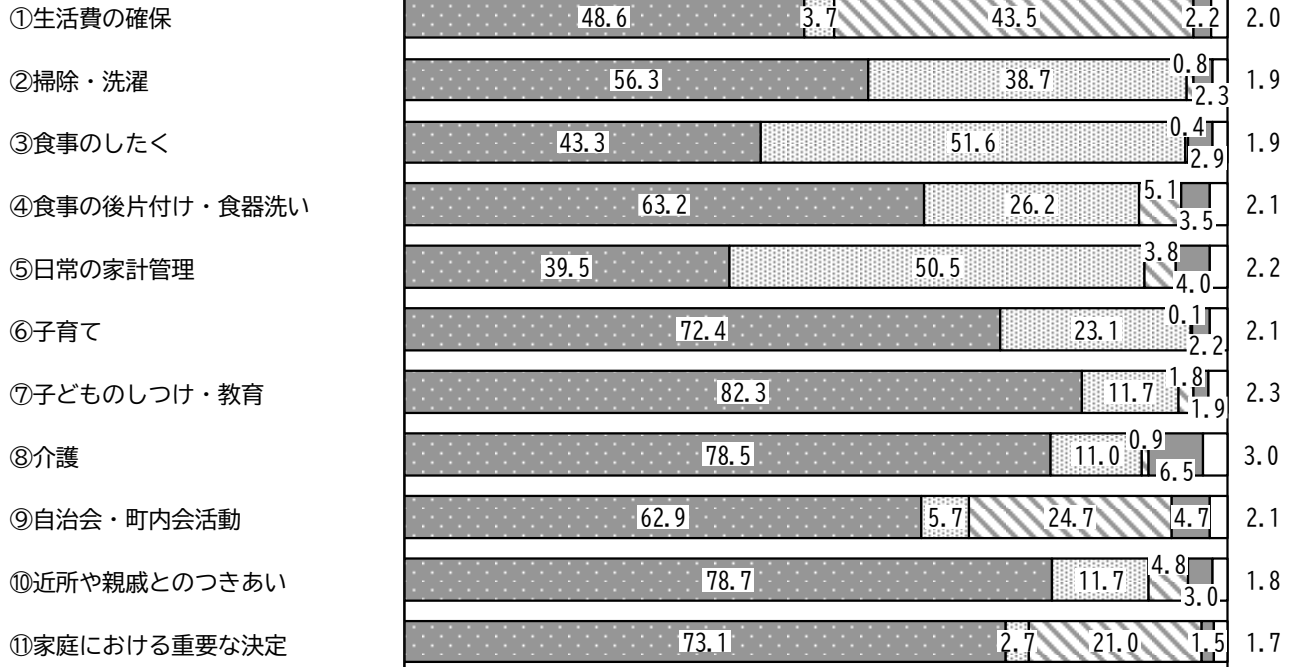
令和元年度調査と比較すると、『④食事の後片付け・食器洗い』で「夫婦共同」の割合が増加しています。一方、『②掃除・洗濯』『④食事の後片付け・食器』『⑤日常の家計管理』で「主に妻」の割合が、『⑪家庭における重要な決定』で「主に夫」の割合が減少しています。



[令和元年度調査]

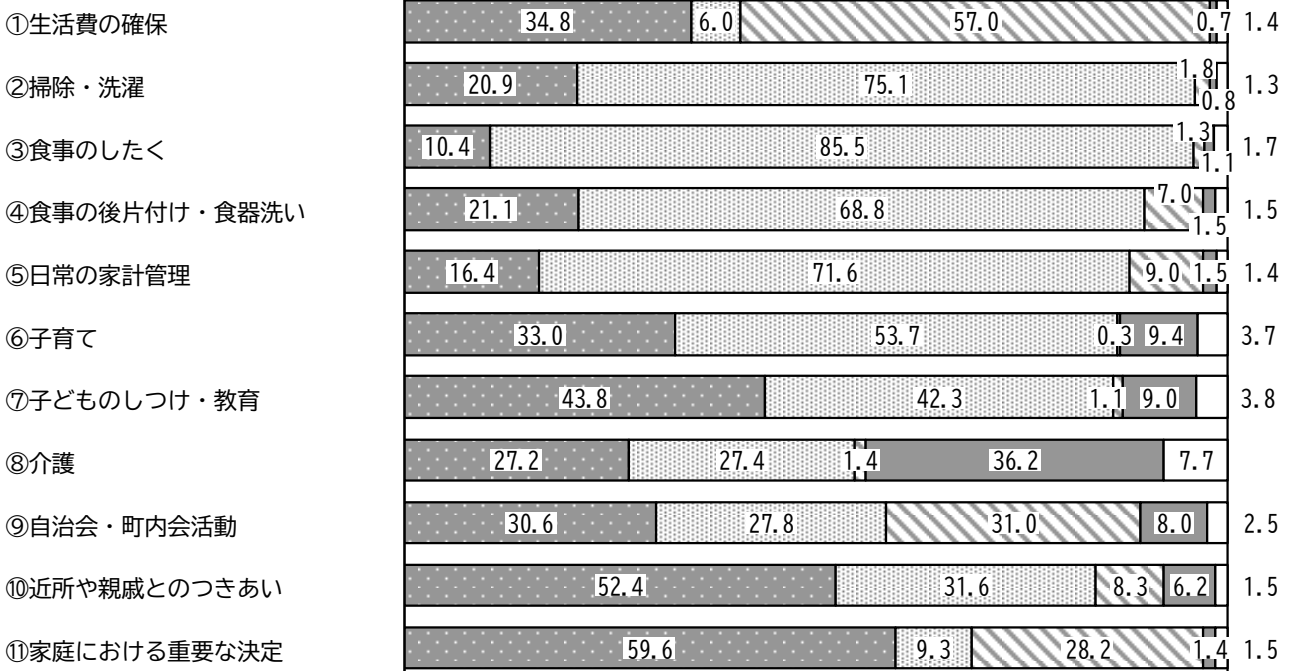
《理想》

回答者数 = 1,024



《実際》（結婚している（事実婚、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）方のみ）

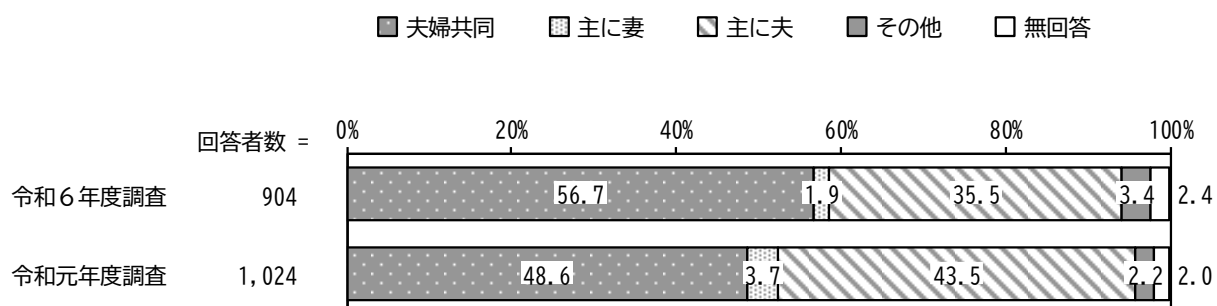
回答者数 = 712



①生活費の確保

《理想》

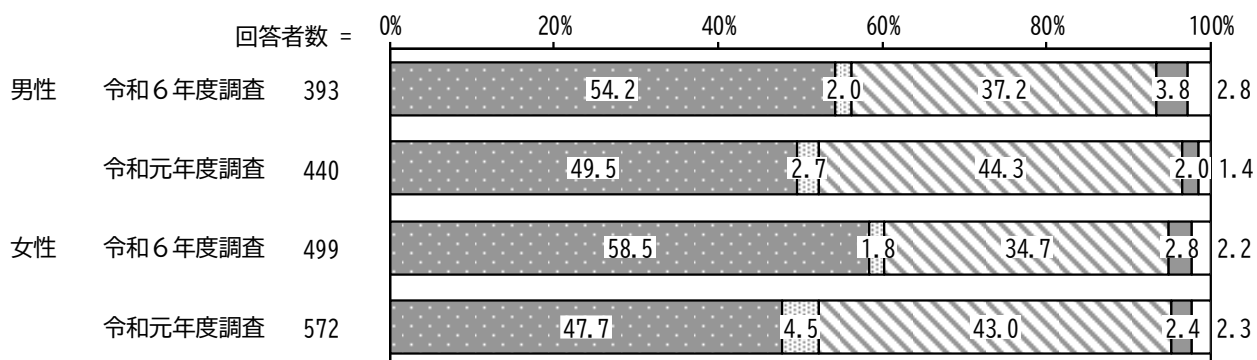
令和元年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が増加しています。一方、「主に夫」の割合が減少しています。



【性別】

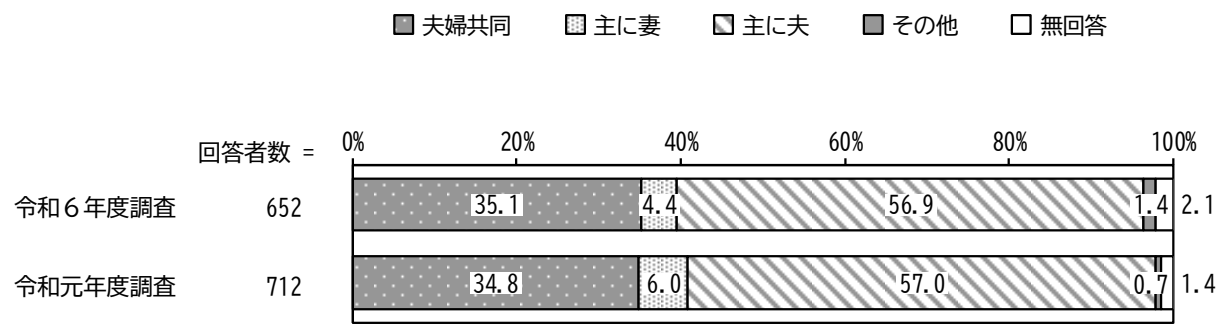
性別でみると、大きな差はみられません。

令和元年度調査と比較すると、女性で「夫婦共同」の割合が増加しています。一方、男女ともに「主に夫」の割合が減少しています。



<<実際>>（結婚している（事実婚、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）方のみ）

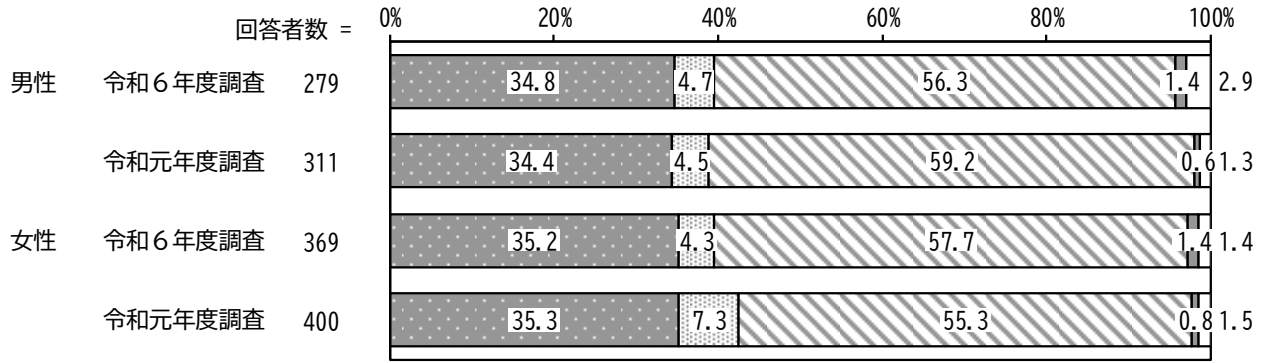
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別でみると、大きな差はみられません。

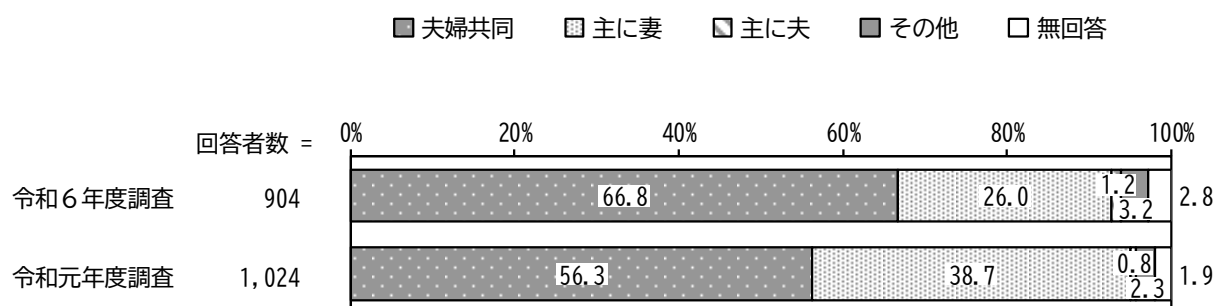
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②掃除・洗濯

《理想》

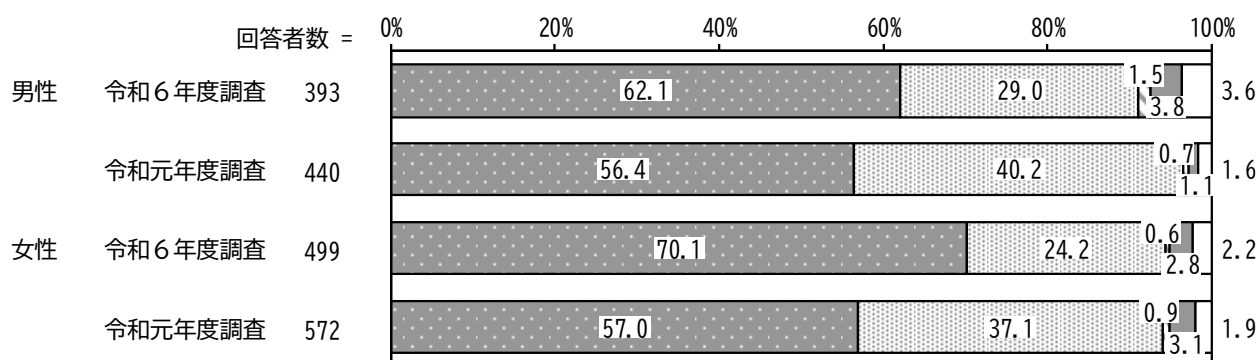
令和元年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が増加しています。一方、「主に妻」の割合が減少しています。



【性別】

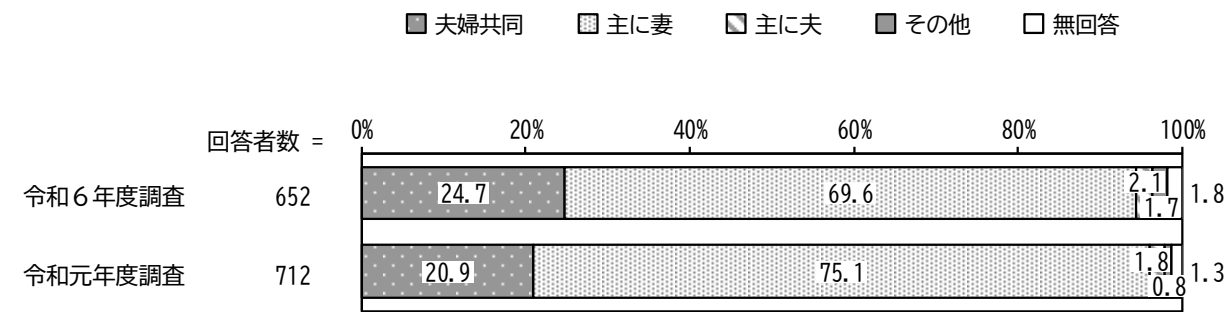
性別でみると、女性で「夫婦共同」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、男女ともに「夫婦共同」の割合が増加し、「主に妻」の割合が減少しています。



<<実際>>（結婚している（事実婚、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）方のみ）

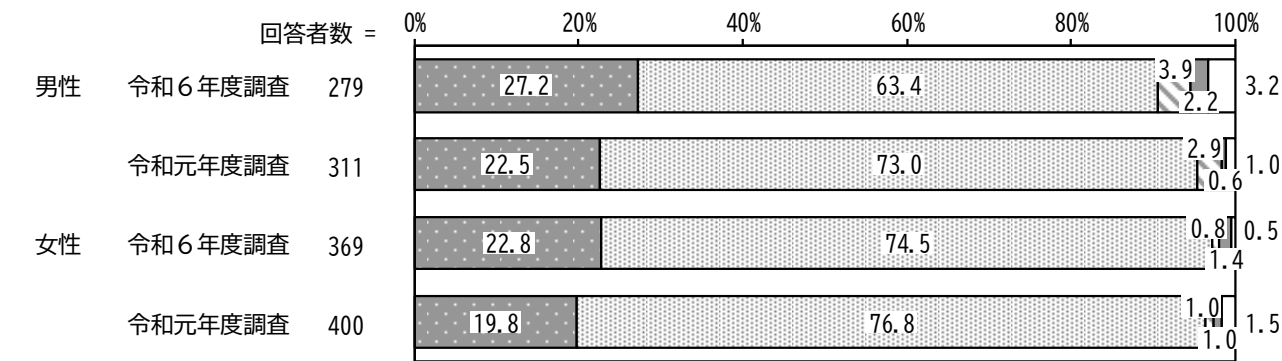
令和元年度調査と比較すると、「主に妻」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、女性で「主に妻」の割合が高くなっています。

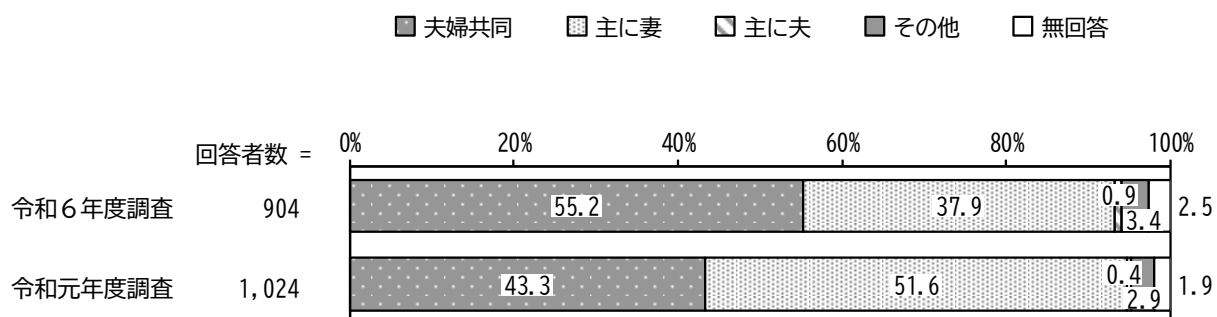
令和元年度調査と比較すると、男性で「主に妻」の割合が減少しています。



③食事のしたく

《理想》

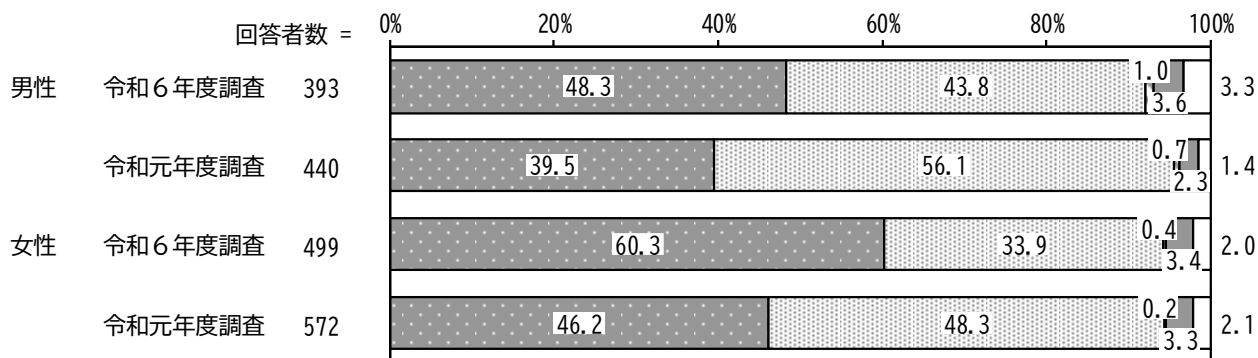
令和元年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が増加しています。一方、「主に妻」の割合が減少しています。



【性別】

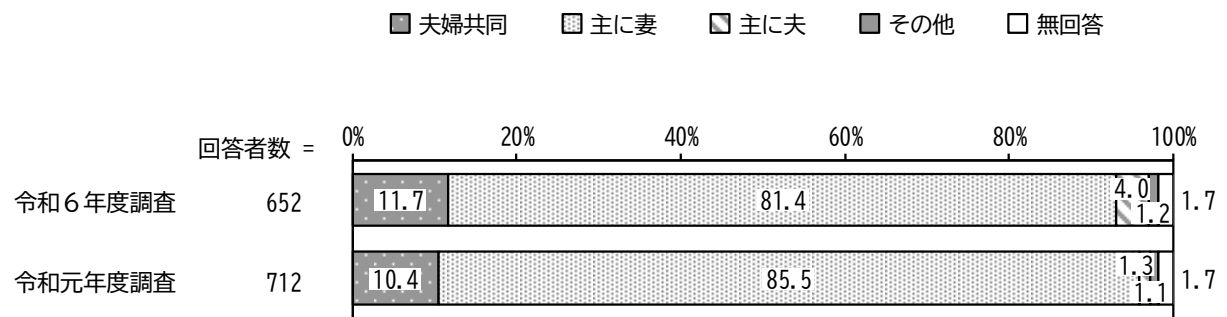
性別でみると、男性で「主に妻」の割合が、女性で「夫婦共同」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、男女ともに「夫婦共同」の割合が増加し、「主に妻」の割合が減少しています。



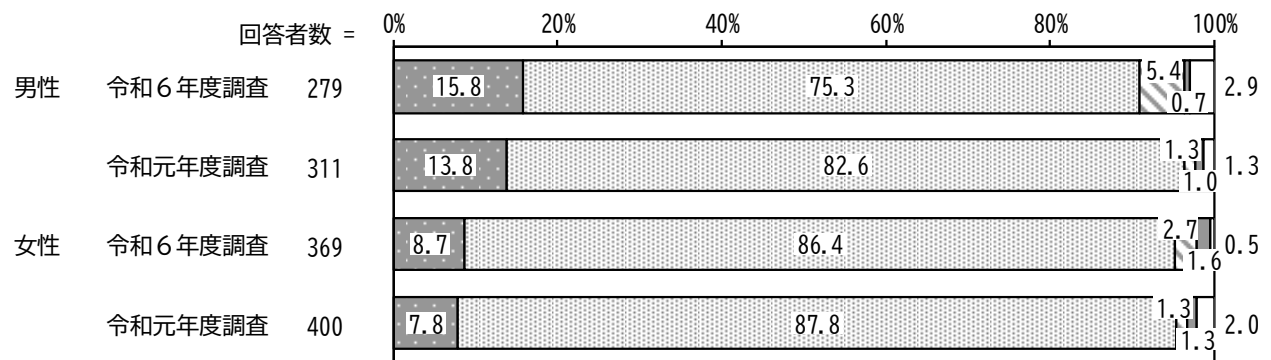
<<実際>>（結婚している（事実婚、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）方のみ）

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

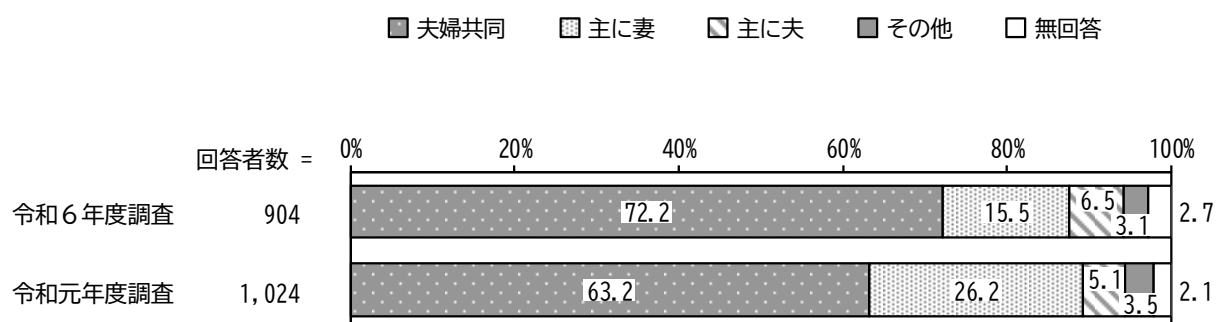
性別でみると、女性で「主に妻」の割合が高くなっています。
 令和元年度調査と比較すると、男性で「主に妻」の割合が減少しています。



④食事の後片付け・食器洗い

《理想》

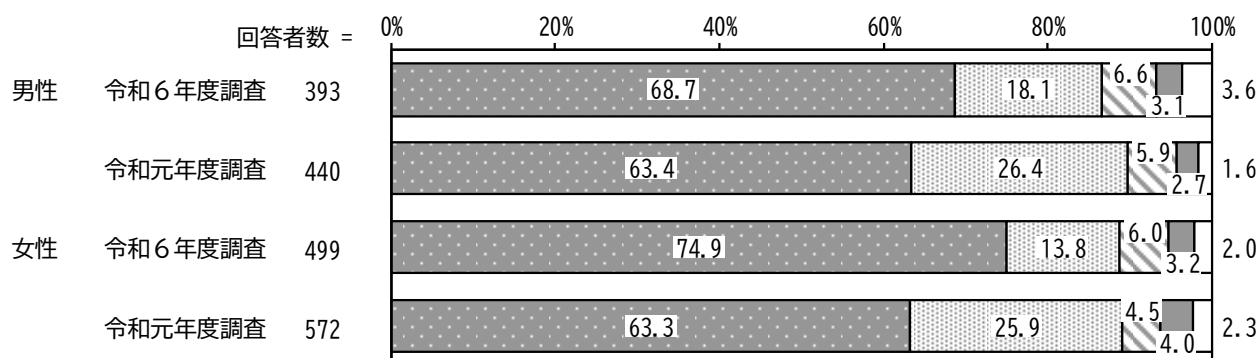
令和元年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が増加しています。一方、「主に妻」の割合が減少しています。



【性別】

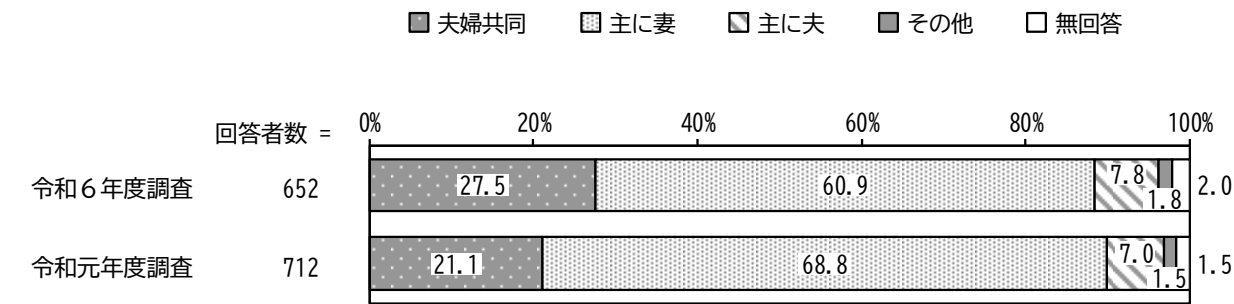
性別でみると、大きな差はみられません。

令和元年度調査と比較すると、男女ともに「夫婦共同」の割合が増加し、「主に妻」の割合が減少しています。



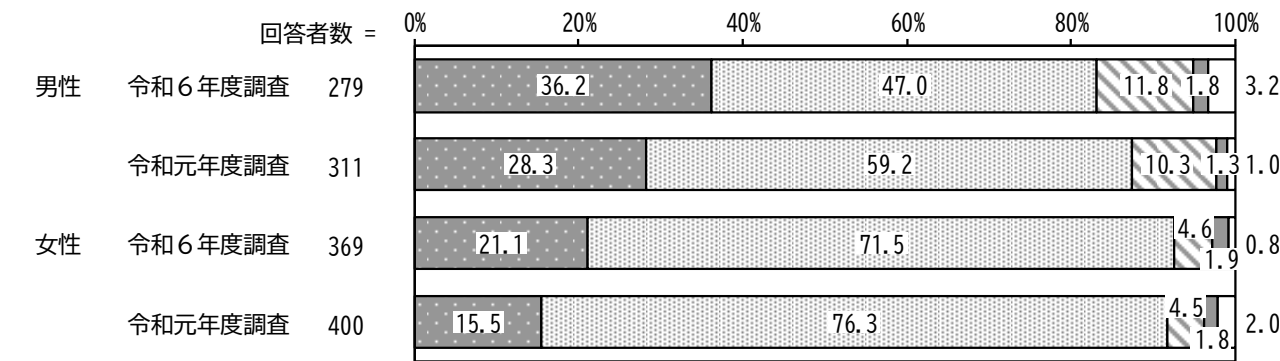
<<実際>>（結婚している（事実婚、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）方のみ）

令和元年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が増加しています。一方、「主に妻」の割合が減少しています。



【性別】

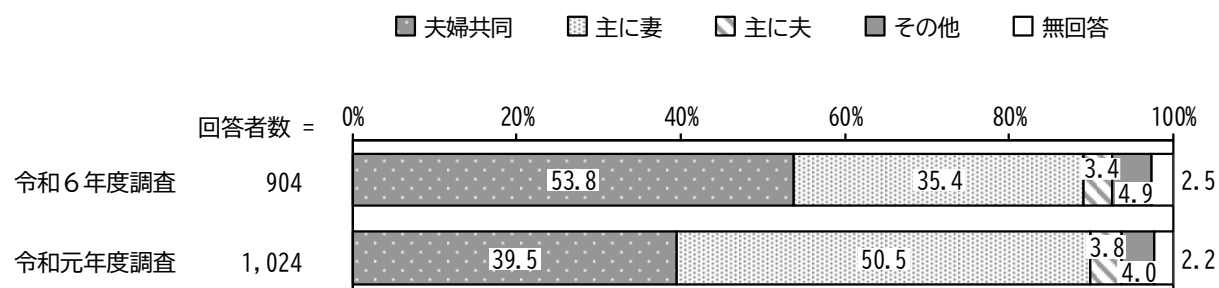
性別でみると、男性で「夫婦共同」の割合が、女性で「主に妻」の割合が高くなっています。
 令和元年度調査と比較すると、男女ともに「夫婦共同」の割合が増加しています。一方、男性で「主に妻」の割合が減少しています。



⑤日常の家計管理

《理想》

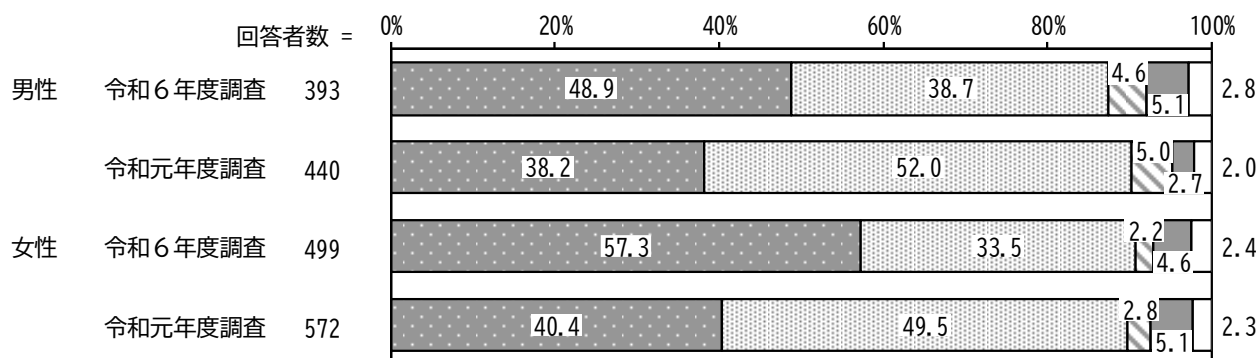
令和元年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が増加しています。一方、「主に妻」の割合が減少しています。



【性別】

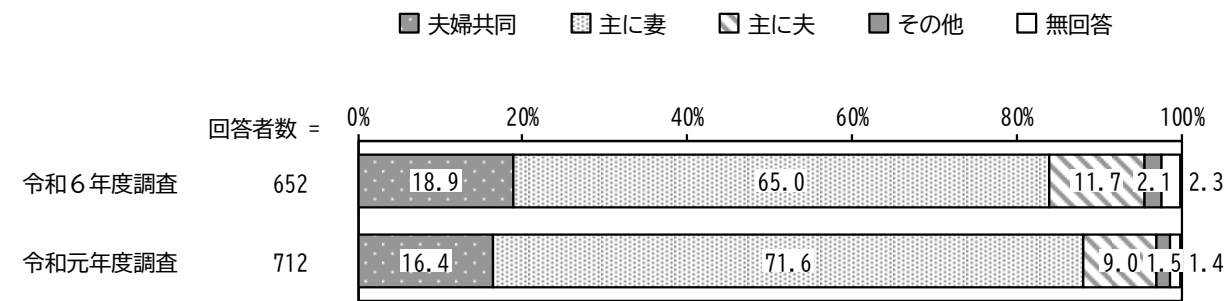
性別でみると、女性で「夫婦共同」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、男女ともに「夫婦共同」の割合が増加し、「主に妻」の割合が減少しています。



<<実際>>（結婚している（事実婚、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）方のみ）

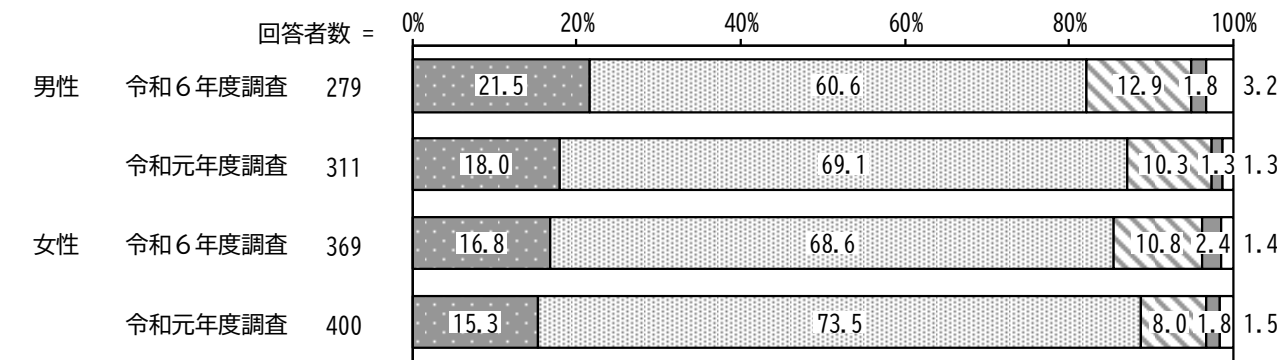
令和元年度調査と比較すると、「主に妻」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、大きな差はみられません。

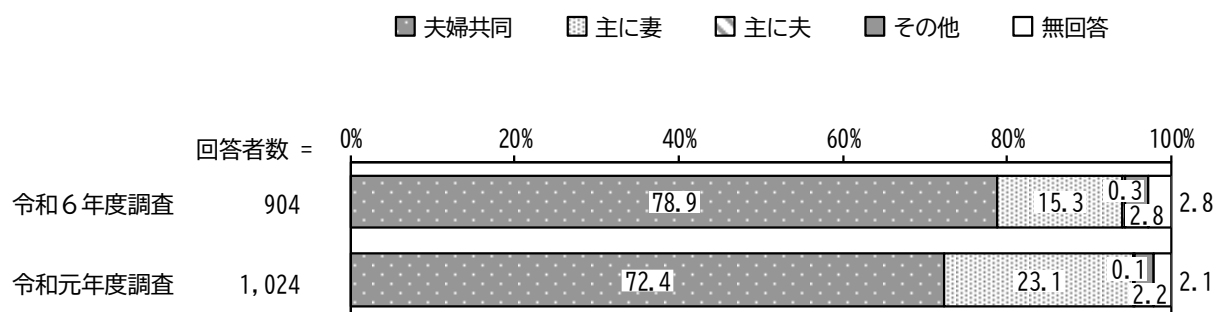
令和元年度調査と比較すると、男性で「主に妻」の割合が減少しています。



⑥子育て

《理想》

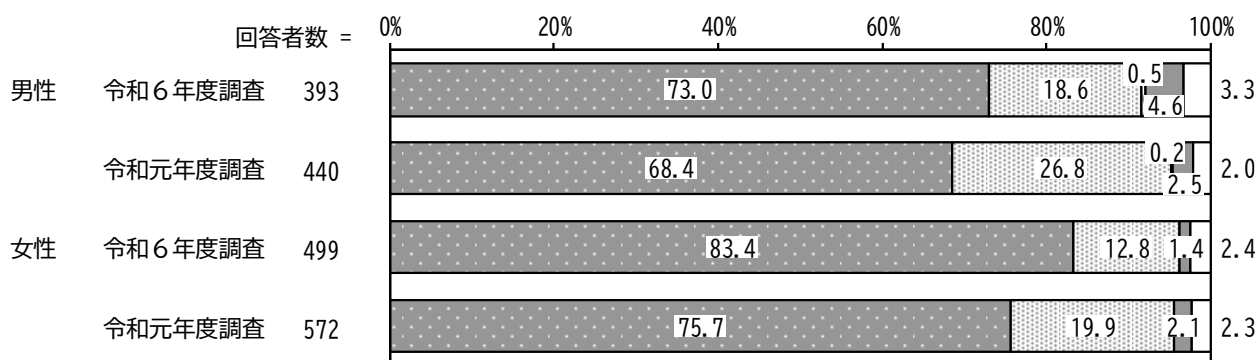
令和元年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が増加しています。一方、「主に妻」の割合が減少しています。



【性別】

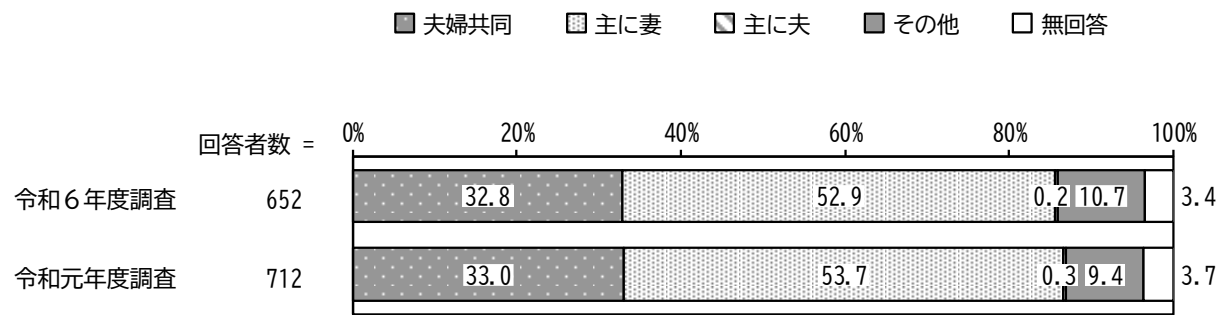
性別でみると、女性で「夫婦共同」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、女性で「夫婦共同」の割合が増加しています。一方、男女ともに「主に妻」の割合が減少しています。



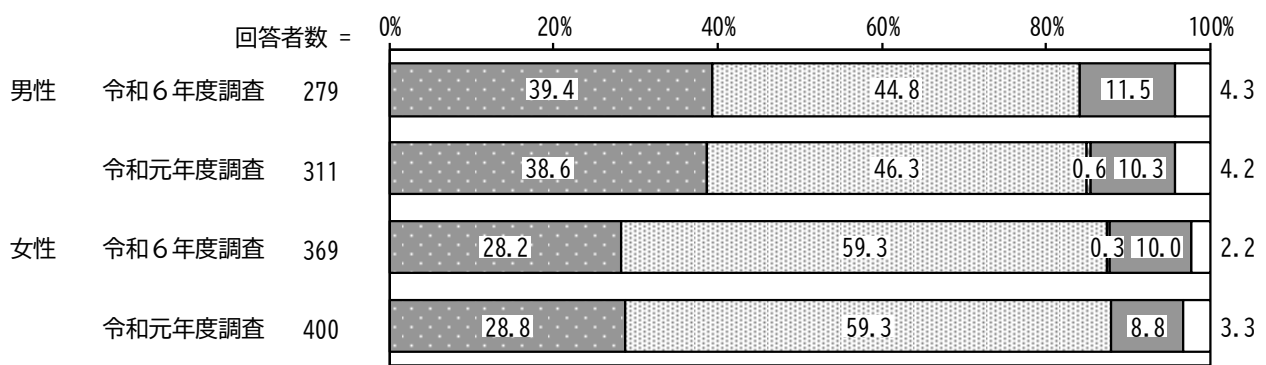
<<実際>>（結婚している（事実婚、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）方のみ）

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

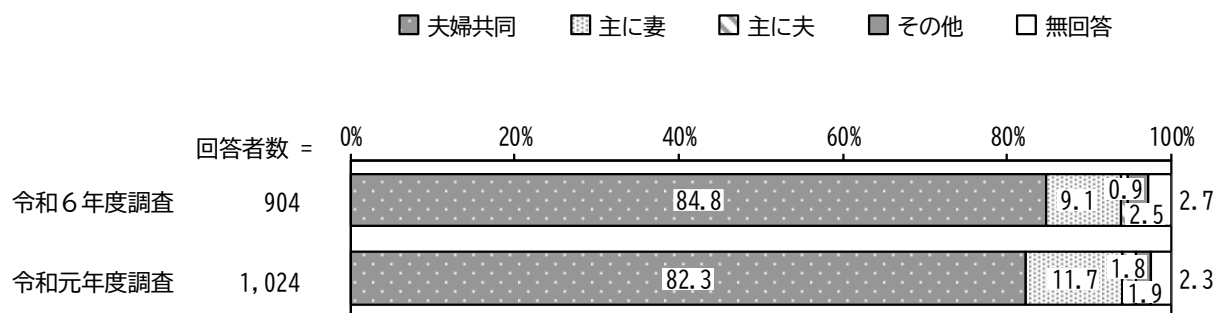
性別でみると、男性で「夫婦共同」の割合が、女性で「主に妻」の割合が高くなっています。
 令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑦子どものしつけ・教育

《理想》

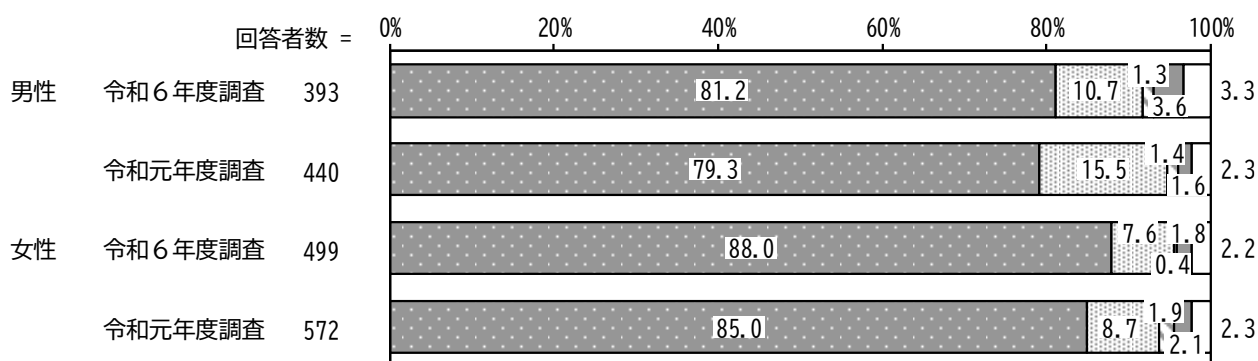
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

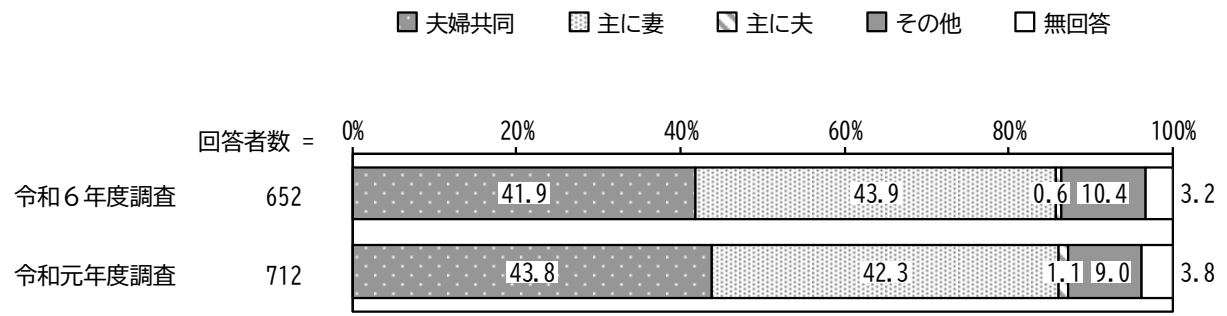
性別でみると、大きな差はみられません。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



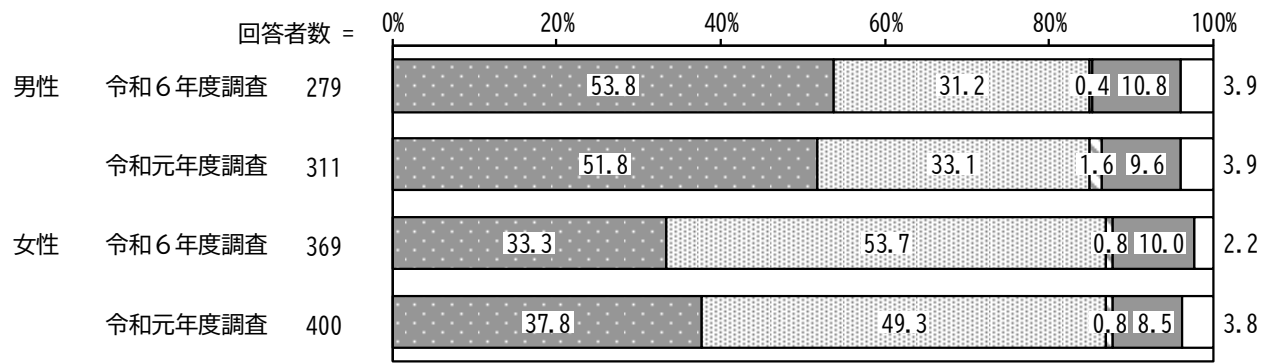
<<実際>>（結婚している（事実婚、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）方のみ）

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

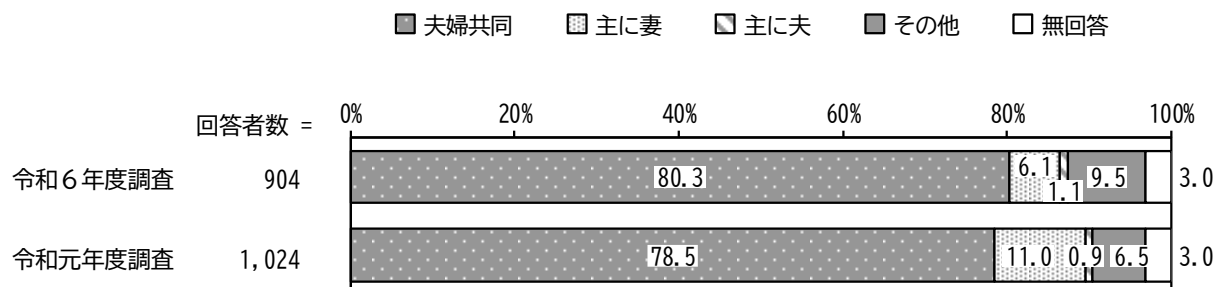
性別でみると、男性で「夫婦共同」の割合が、女性で「主に妻」の割合が高くなっています。
 令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑧介護

＜理想＞

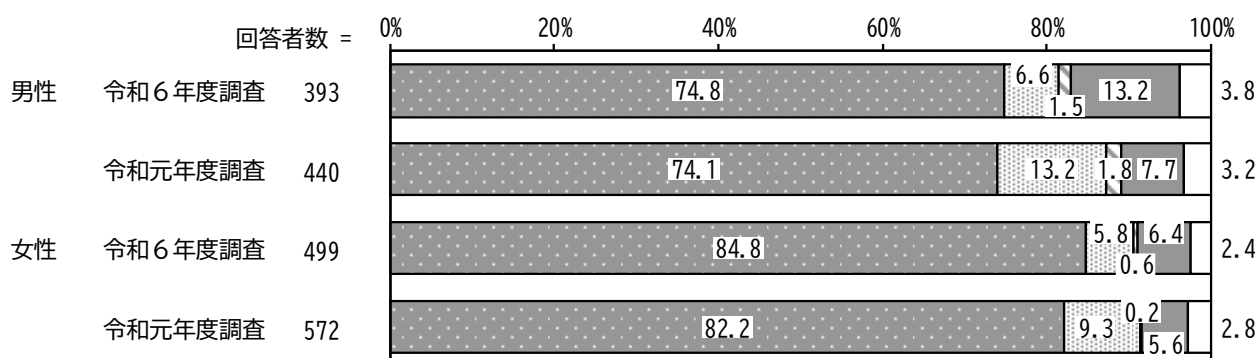
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

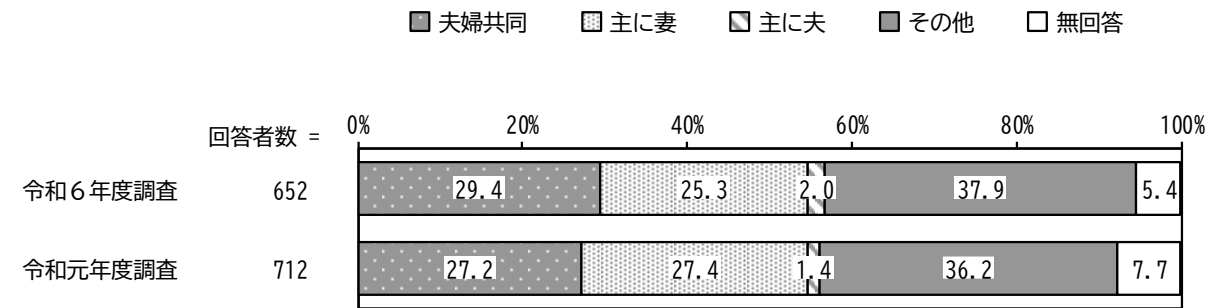
性別でみると、女性で「夫婦共同」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、男性で「主に妻」の割合が減少しています。



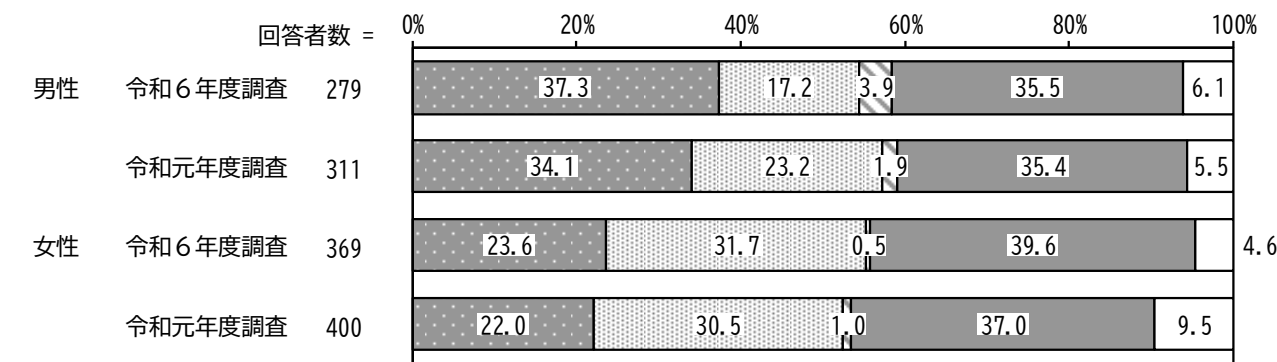
<<実際>>（結婚している（事実婚、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）方のみ）

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

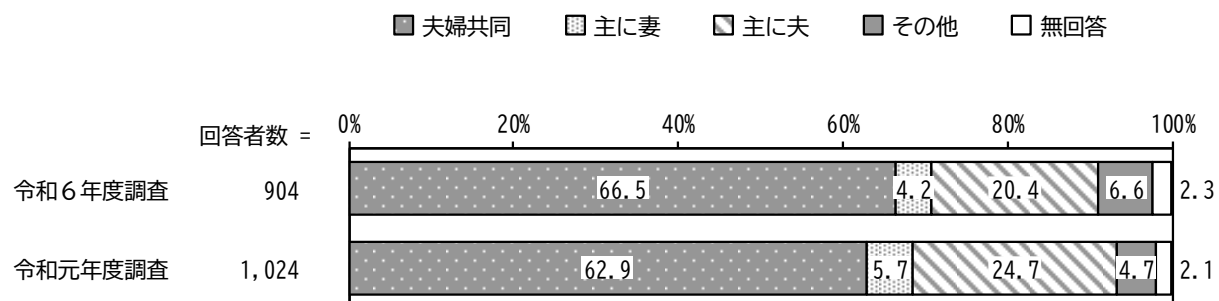
性別でみると、男性で「夫婦共同」の割合が、女性で「主に妻」の割合が高くなっています。
 令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑨自治会・町内会活動

《理想》

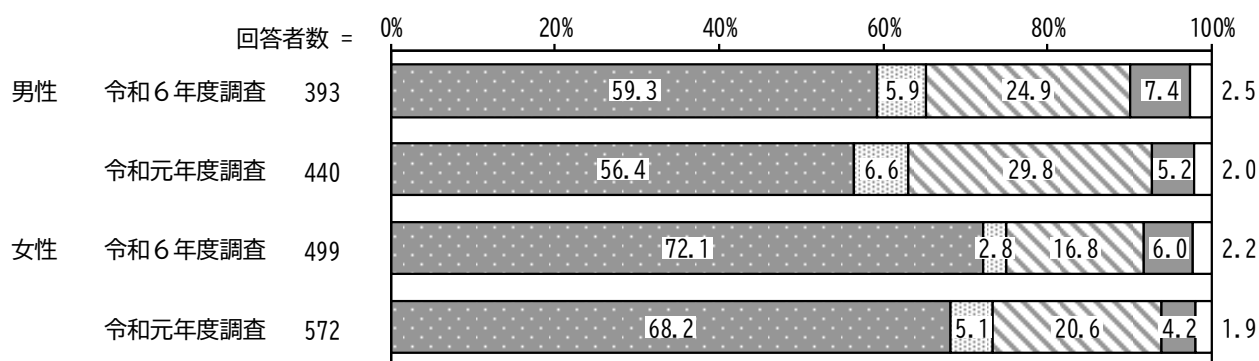
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

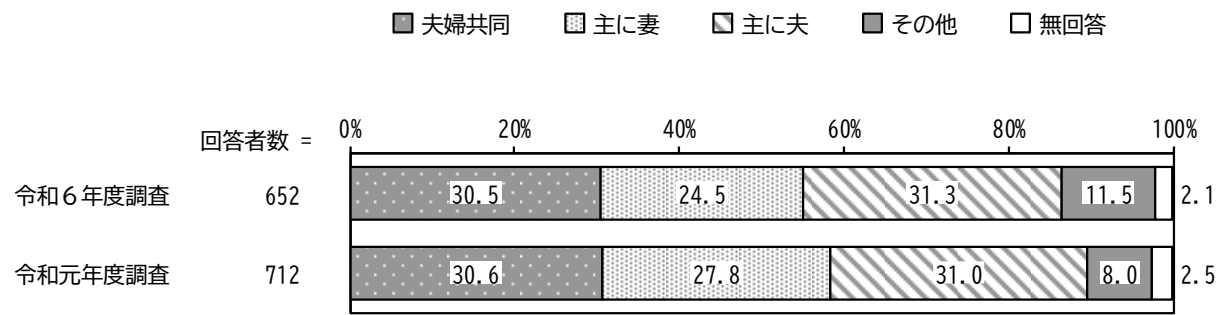
性別でみると、女性で「夫婦共同」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



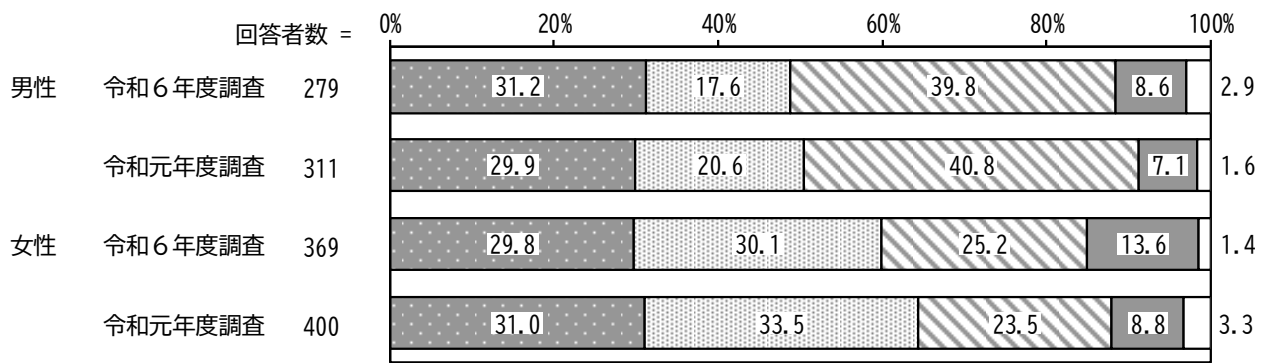
<<実際>>（結婚している（事実婚、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）方のみ）

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

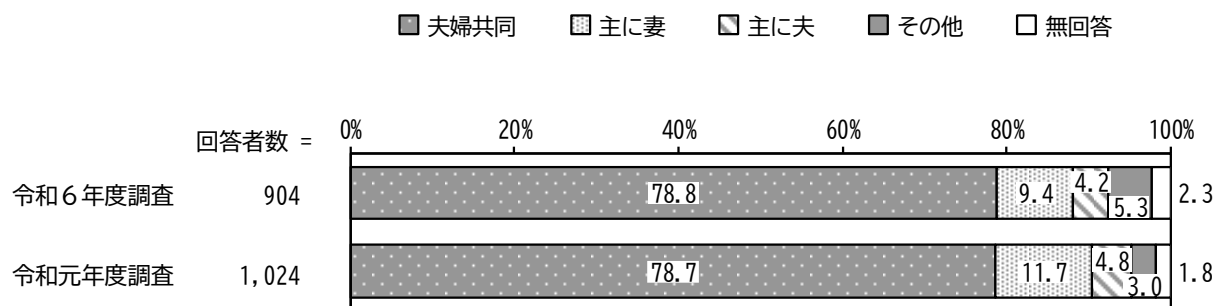
性別でみると、男性で「主に夫」の割合が、女性で「主に妻」の割合が高くなっています。
 令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑩近所や親戚とのつきあい

《理想》

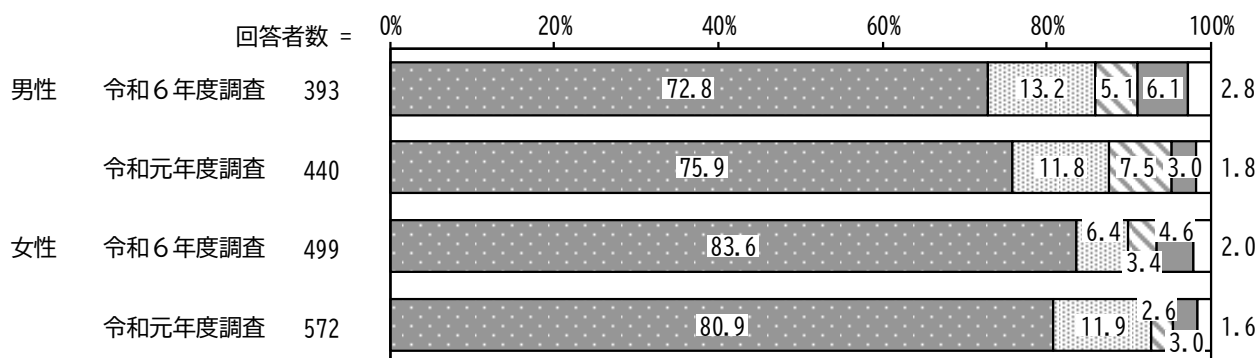
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

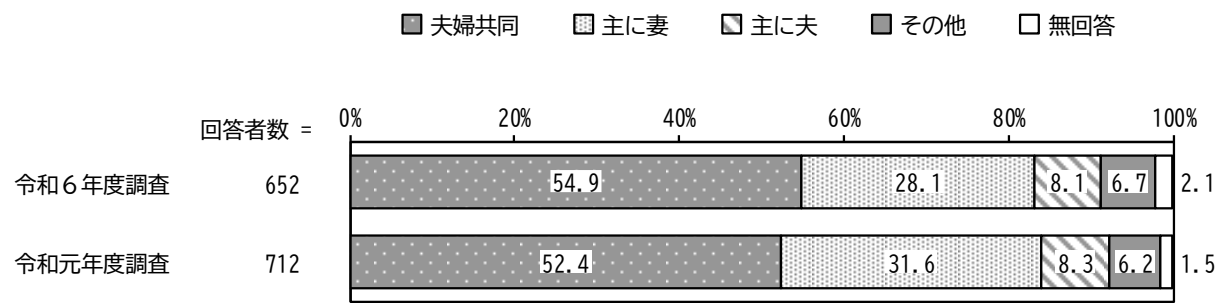
性別でみると、女性で「夫婦共同」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、女性で「主に妻」の割合が減少しています。



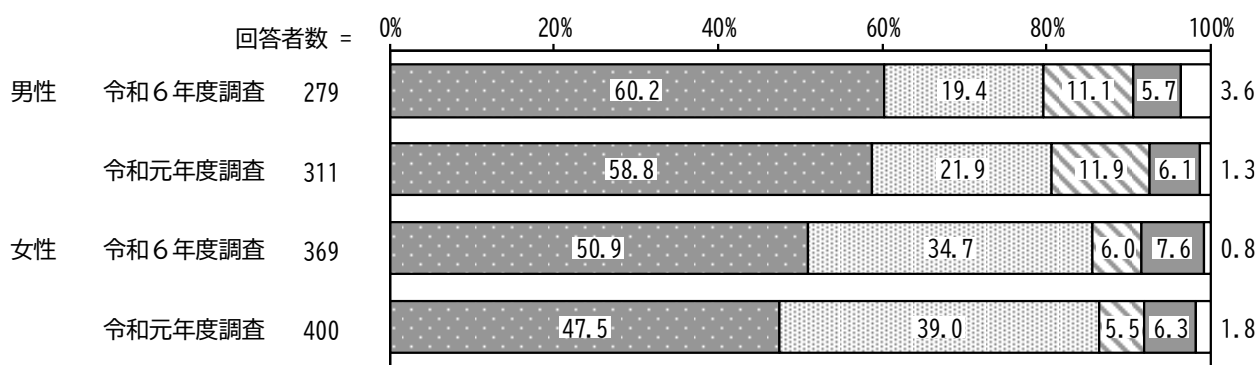
<<実際>>（結婚している（事実婚、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）方のみ）

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

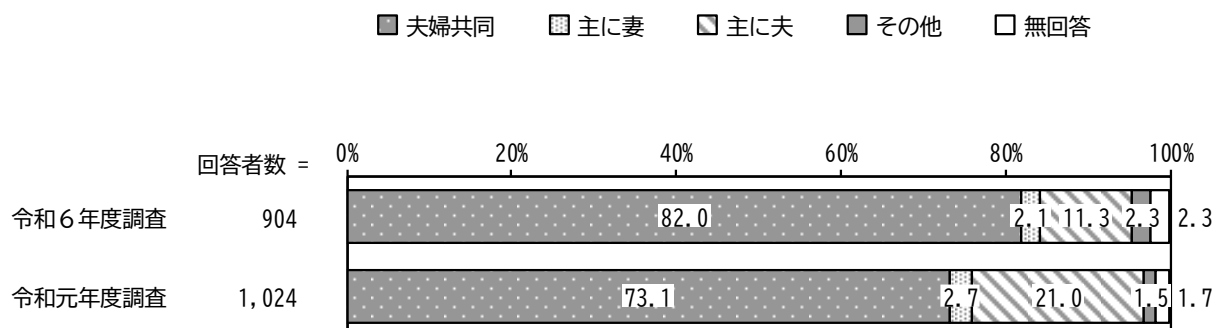
性別でみると、男性で「夫婦共同」の割合が、女性で「主に妻」の割合が高くなっています。
 令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑪家庭における重要な決定

《理想》

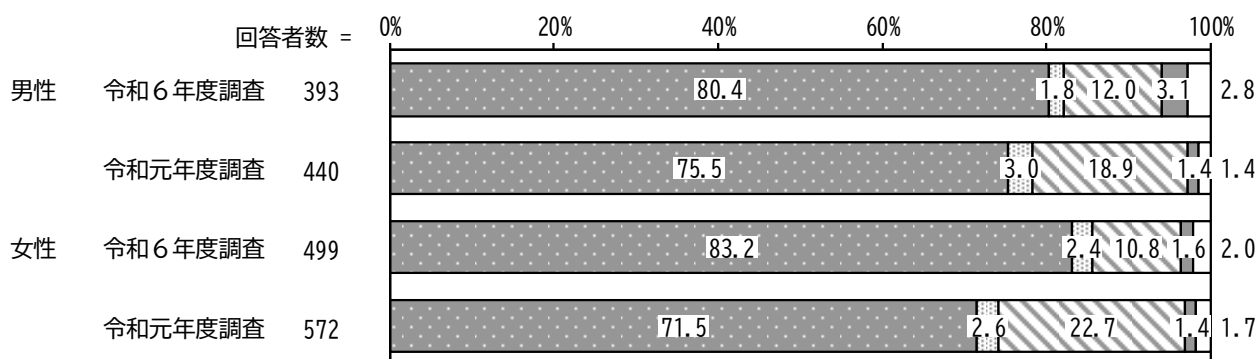
令和元年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が増加しています。一方、「主に夫」の割合が減少しています。



【性別】

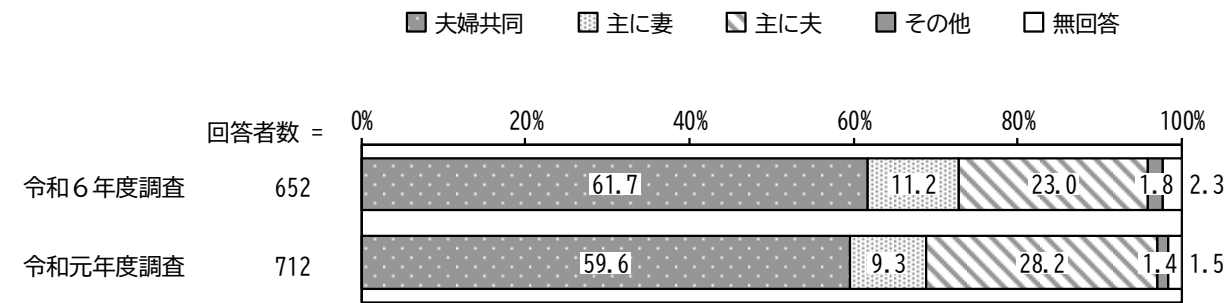
性別でみると、大きな差はみられません。

令和元年度調査と比較すると、女性で「夫婦共同」の割合が増加しています。一方、男女ともに「主に夫」の割合が減少しています。



<<実際>>（結婚している（事実婚、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）方のみ）

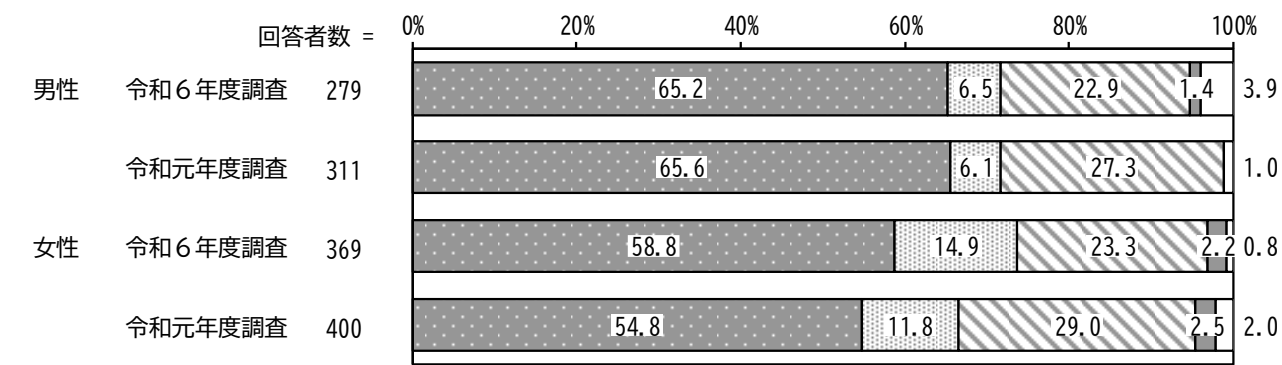
令和元年度調査と比較すると、「主に夫」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、大きな差はみられません。

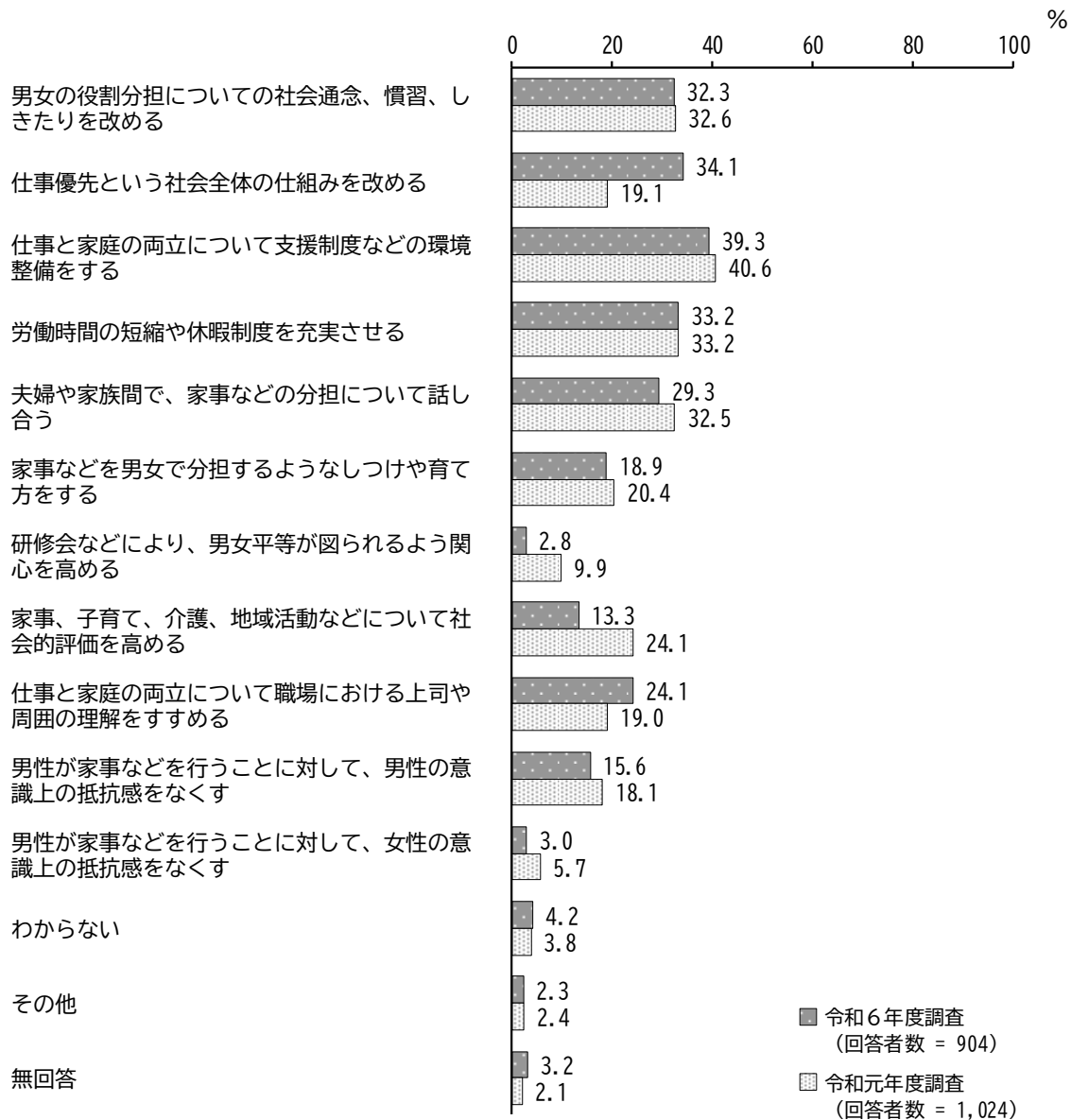
令和元年度調査と比較すると、女性で「主に夫」の割合が減少しています。



問7 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などを行うためには、どのようなことが必要だと思いますか（3つまで○）。

「仕事と家庭の両立について支援制度などの環境整備をする」の割合が 39.3%と最も高く、次いで「仕事優先という社会全体の仕組みを改める」の割合が 34.1%、「労働時間の短縮や休暇制度を充実させる」の割合が 33.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「仕事優先という社会全体の仕組みを改める」「仕事と家庭の両立について職場における上司や周囲の理解をすすめる」の割合が増加しています。一方、「研修会などにより、男女平等が図られるよう関心を高める」「家事、子育て、介護、地域活動などについて社会的評価を高める」の割合が減少しています。



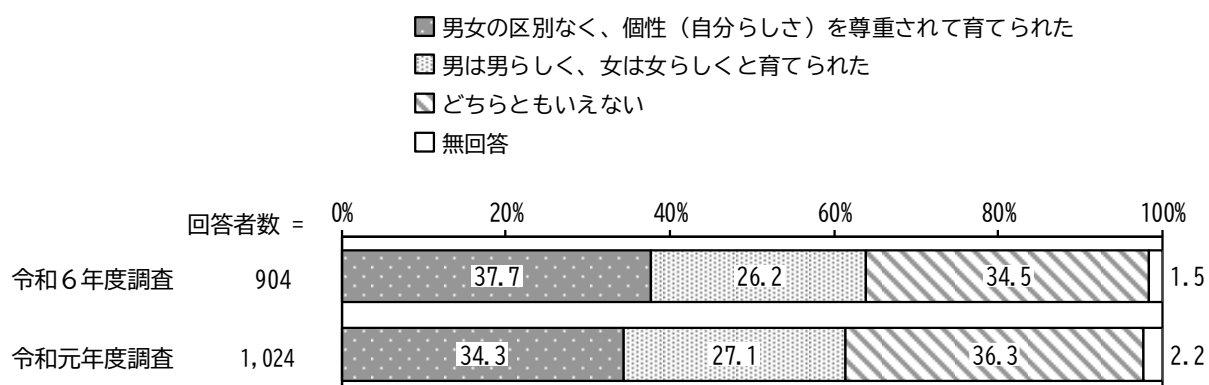
※前回調査では、「家事、子育て、介護、地域活動などについて社会的評価を高める」の選択肢は「男性による家事、子育て、介護、地域活動などへの参加について社会的評価を高める」となっていました。

4 子育てについて

問8 あなたは、どのように育てられましたか（1つに○）。

「男女の区別なく、個性（自分らしさ）を尊重されて育てられた」の割合が 37.7%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が 34.5%、「男は男らしく、女は女らしくと育てられた」の割合が 26.2%となっています。

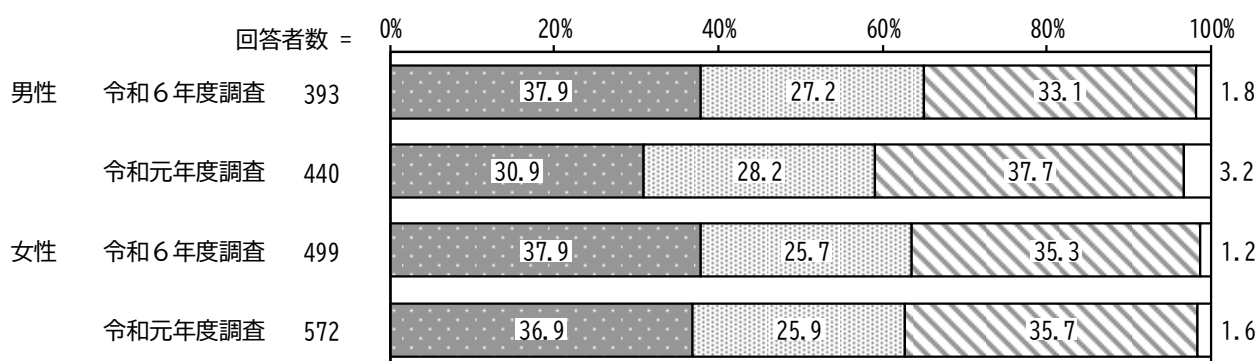
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別でみると、大きな差はみられません。

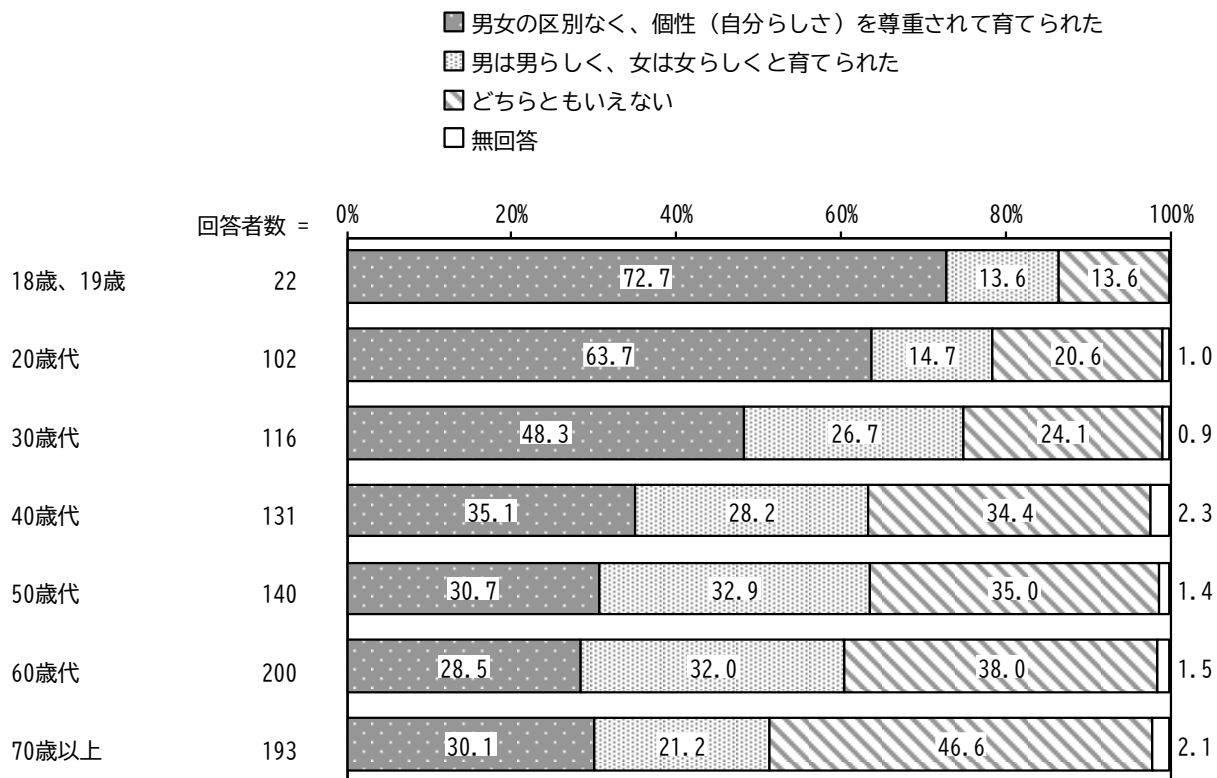
令和元年度調査と比較すると、男性で「男女の区別なく、個性（自分らしさ）を尊重されて育てられた」の割合が増加しています。



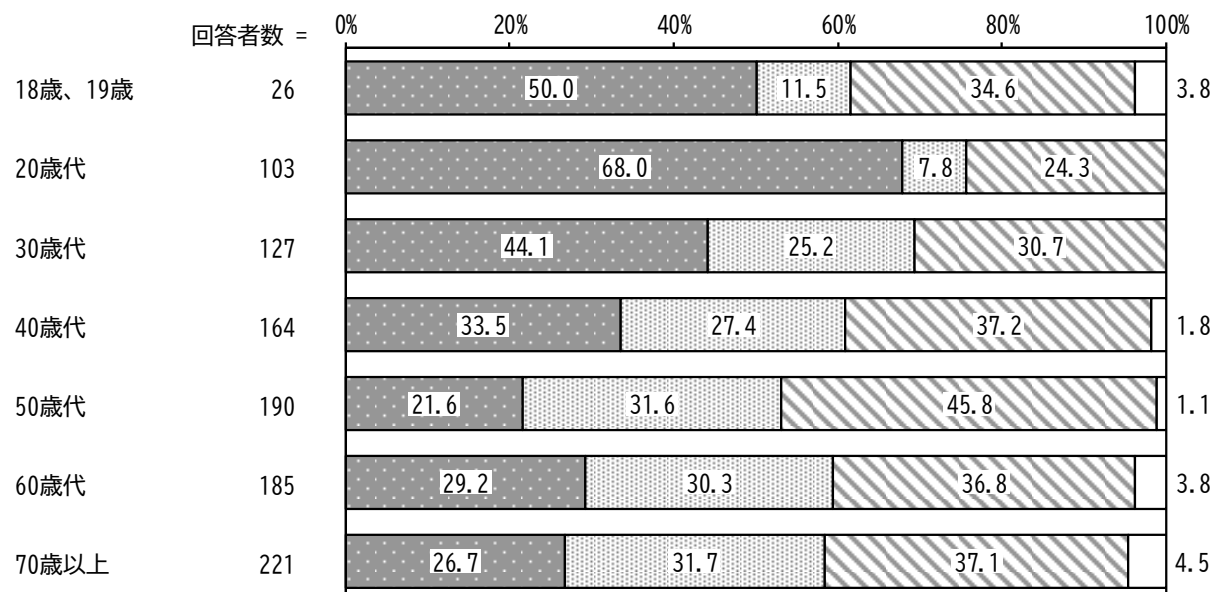
【年代別】

年代別でみると、18 歳、19 歳で「男女の区別なく、個性（自分らしさ）を尊重されて育てられた」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、20 歳代で「男は男らしく、女は女らしくと育てられた」の割合が増加しています。一方、18 歳、19 歳、50 歳代で「男女の区別なく、個性（自分らしさ）を尊重されて育てられた」の割合が、70 歳以上で「男は男らしく、女は女らしくと育てられた」の割合が減少しています。



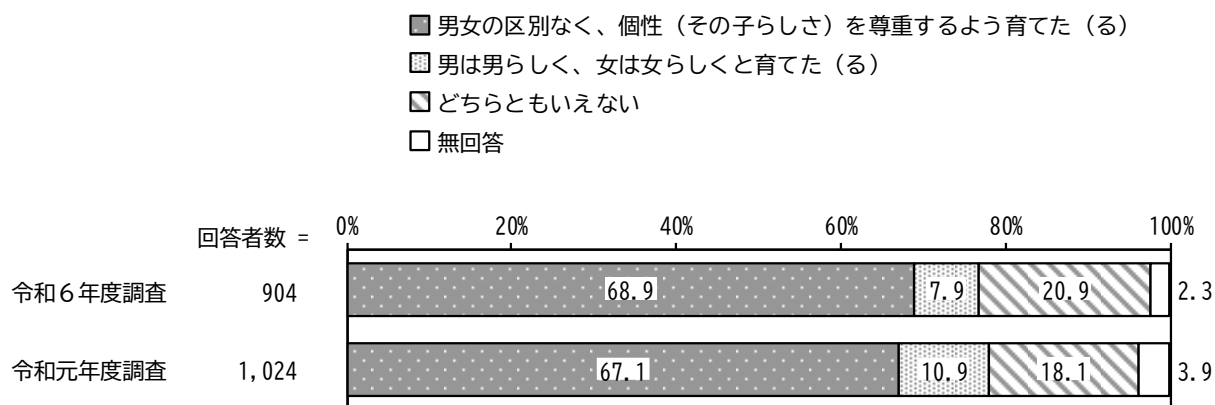
【令和元年度調査】



問9 あなたは、どのように子育てをしていましたか（1つに○）。
（子どものいない方は、「どのように育てたらよいと思うか」をお答えください。）

「男女の区別なく、個性（その子らしさ）を尊重するよう育てた（る）」の割合が68.9%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が20.9%、「男は男らしく、女は女らしくと育てた（る）」の割合が7.9%となっています。

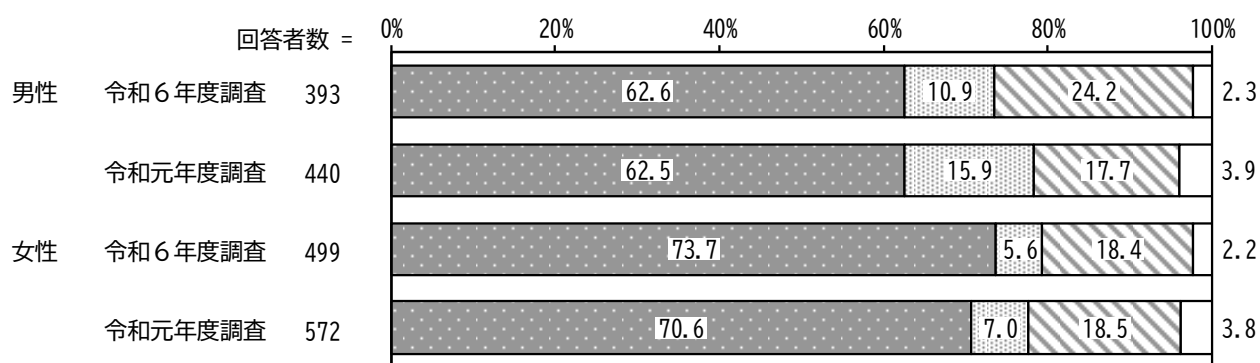
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別でみると、女性で「男女の区別なく、個性（その子らしさ）を尊重するよう育てた（る）」の割合が高くなっています。

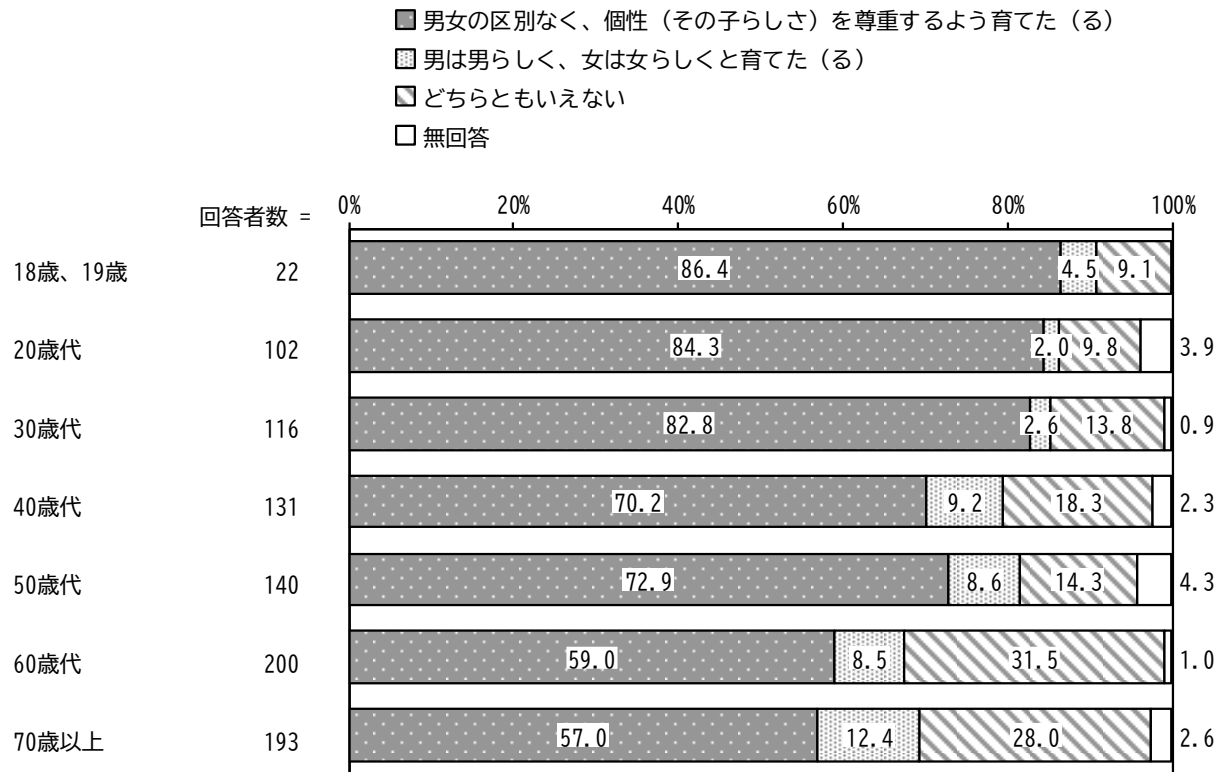
令和元年度調査と比較すると、男性で「男は男らしく、女は女らしくと育てた（る）」の割合が減少しています。



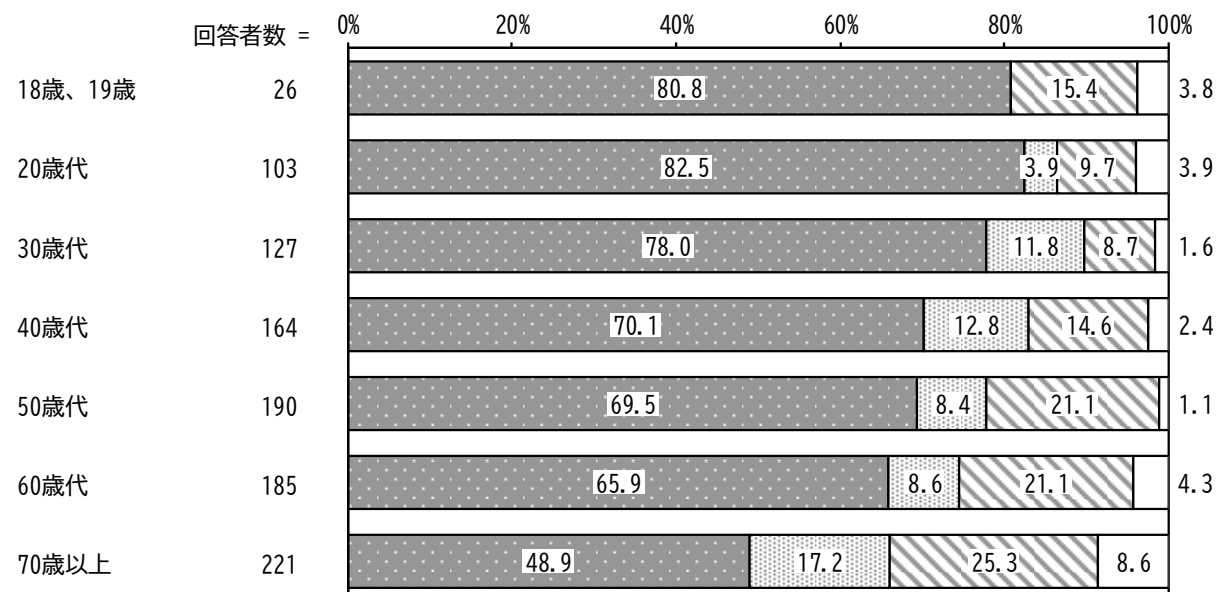
【年代別】

年代別でみると、世代が若いほど「男女の区別なく、個性（その子らしさ）を尊重するよう育てた（る）」の割合が高い傾向にあります。

令和元年度調査と比較すると、18歳、19歳、70歳以上で「男女の区別なく、個性（その子らしさ）を尊重するよう育てた（る）」の割合が増加しています。一方、30歳代で「男は男らしく、女は女らしくと育てた（る）」の割合が減少しています。



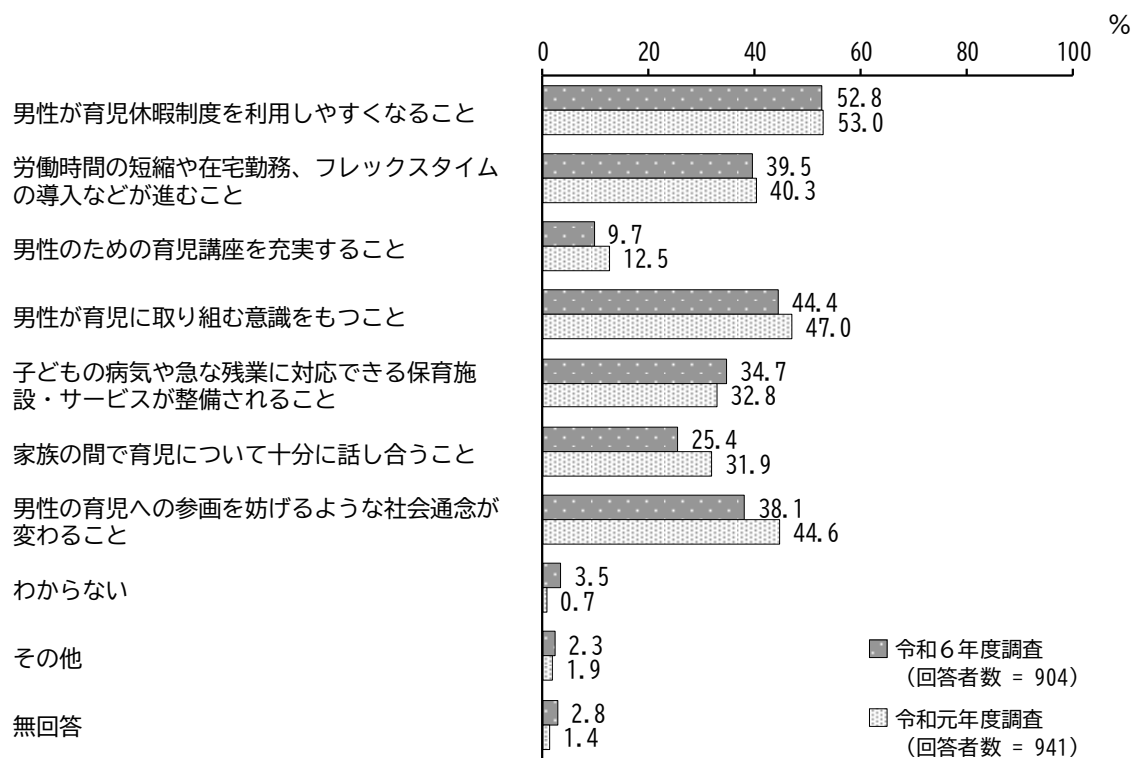
【令和元年度調査】



問 10 男性の育児への参画を促していくためには、どのようなことが重要になると思いますか
(3つまで○)。

「男性が育児休暇制度を利用しやすくなること」の割合が 52.8%と最も高く、次いで「男性が育児に取り組む意識をもつこと」の割合が 44.4%、「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などが進むこと」の割合が 39.5%となっています。

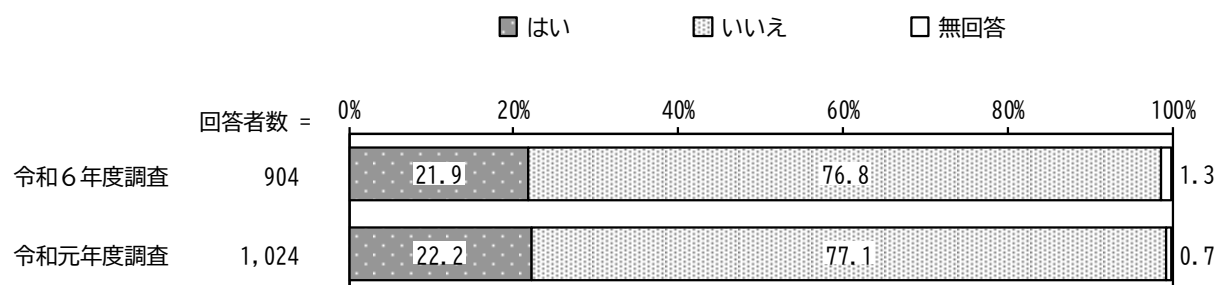
令和元年度調査と比較すると、「家族の間で育児について十分に話し合うこと」「男性の育児への参画を妨げるような社会通念が変わること」の割合が減少しています。



5 介護について

問11 あなたのご家族（同居していない場合も含む）には、介護を要する方がいますか（1つに○）。

「はい」の割合が21.9%、「いいえ」の割合が76.8%となっています。
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

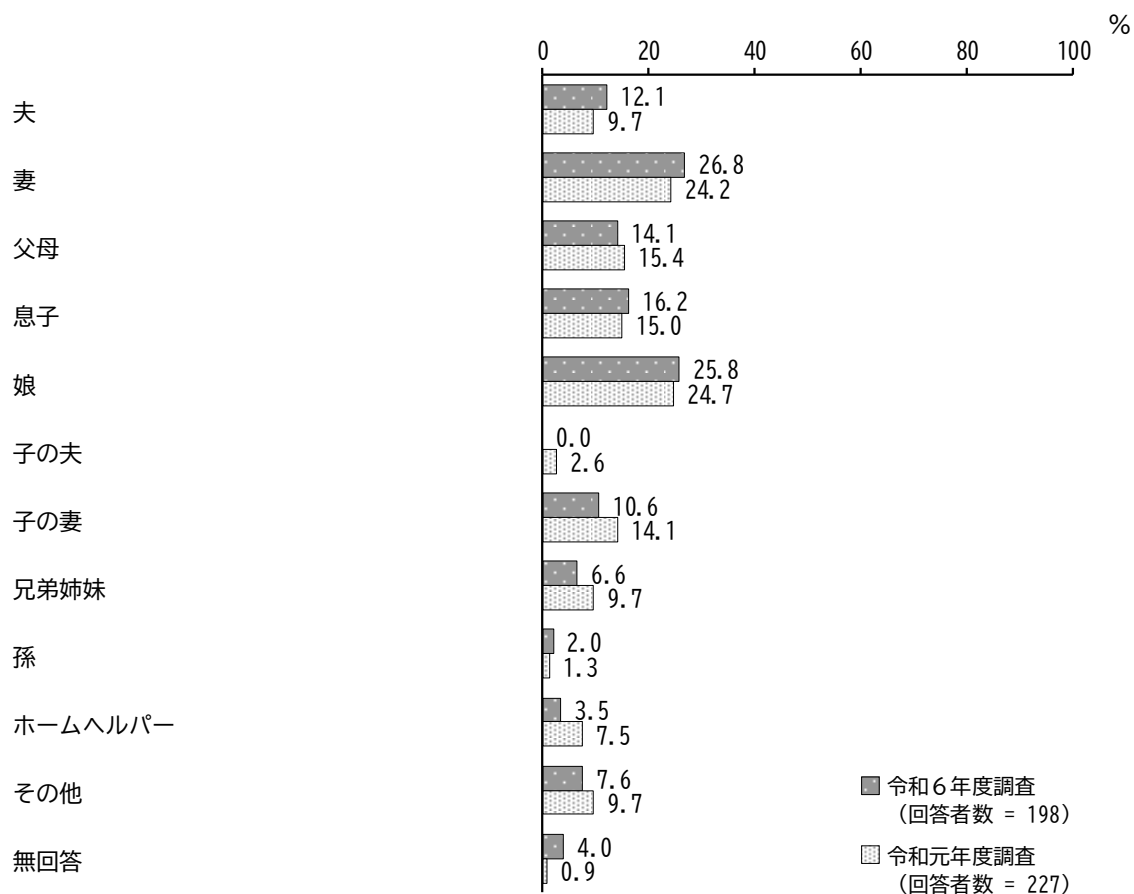


問11で「はい」と答えた方におたずねします。

問12 介護は、主にどなたがされていますか。介護を受けている方からみた関係でお答えください（2つまで○）。

「妻」の割合が26.8%と最も高く、次いで「娘」の割合が25.8%、「息子」の割合が16.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

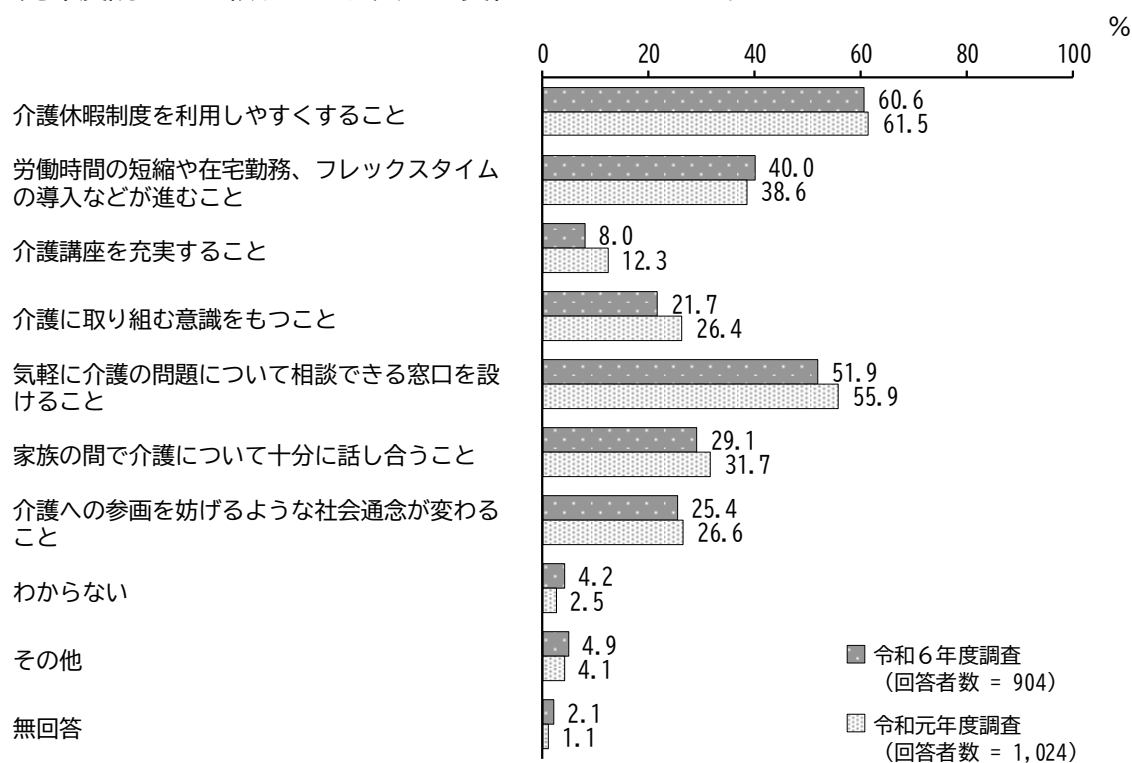


※前回調査では「家政婦」の選択肢がありましたが、今回調査では削除いたしました。

問13 今後、社会で介護を担っていくためには、どのようなことが重要になると思いますか
(3つまで○)。

「介護休暇制度を利用しやすくすること」の割合が60.6%と最も高く、次いで「気軽に介護の問題について相談できる窓口を設けること」の割合が51.9%、「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などが進むこと」の割合が40.0%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



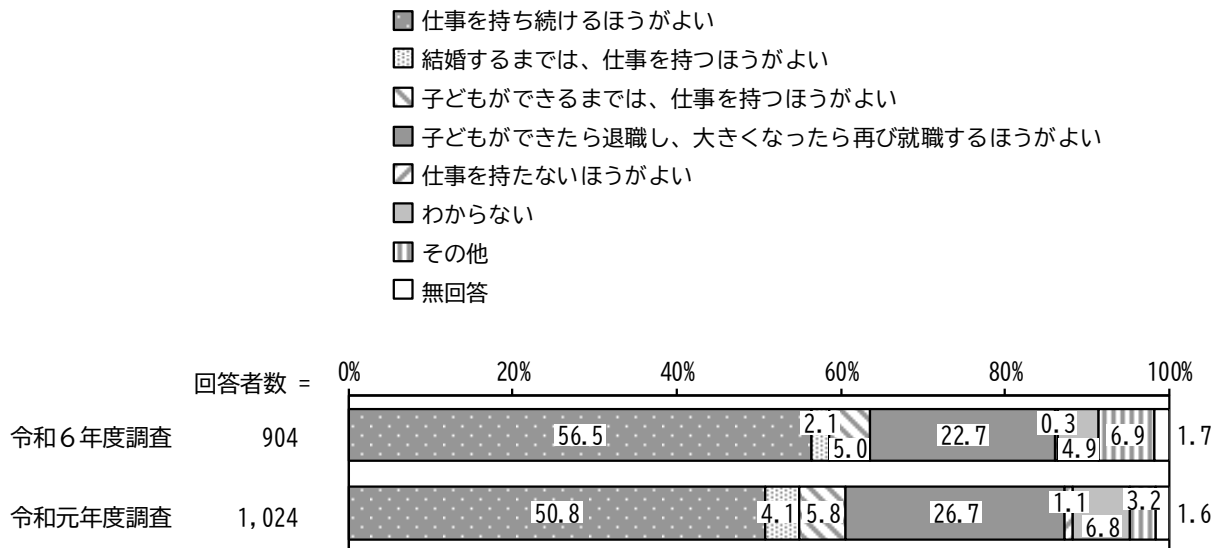
※前回調査では、「介護への参画を妨げるような社会通念が変わること」の選択肢は「男性の介護参加を妨げるような社会通念が変わること」となっていました。

6 仕事や社会参加について

問 14 女性が仕事を持つことについて、あなたは次のどの考え方に近いですか（1つに○）。

「仕事を持ち続けるほうがよい」の割合が 56.5%と最も高く、次いで「子どもができれば退職し、大きくなったら再び就職するほうがよい」の割合が 22.7%、「子どもができるまでは、仕事を持つほうがよい」の割合が 5.0%となっています。

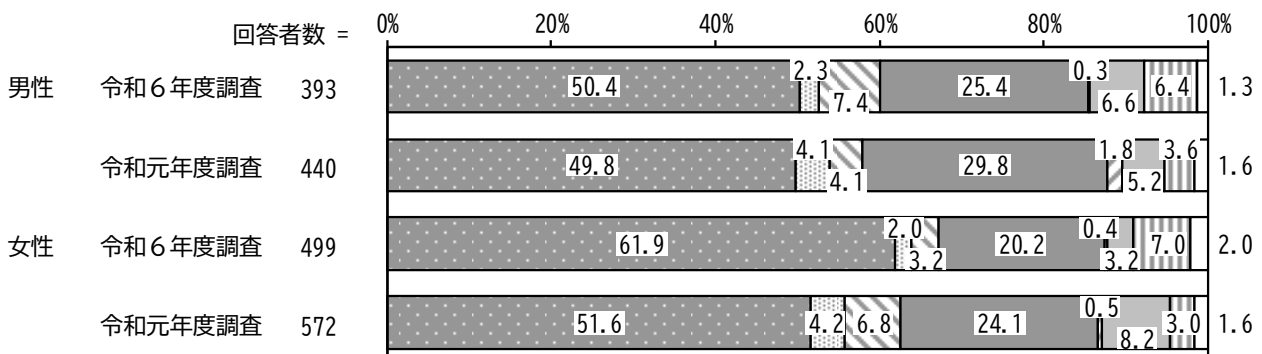
令和元年度調査と比較すると、「仕事を持ち続けるほうがよい」の割合が増加しています。



【性別】

性別でみると、女性で「仕事を持ち続けるほうがよい」の割合が高くなっています。

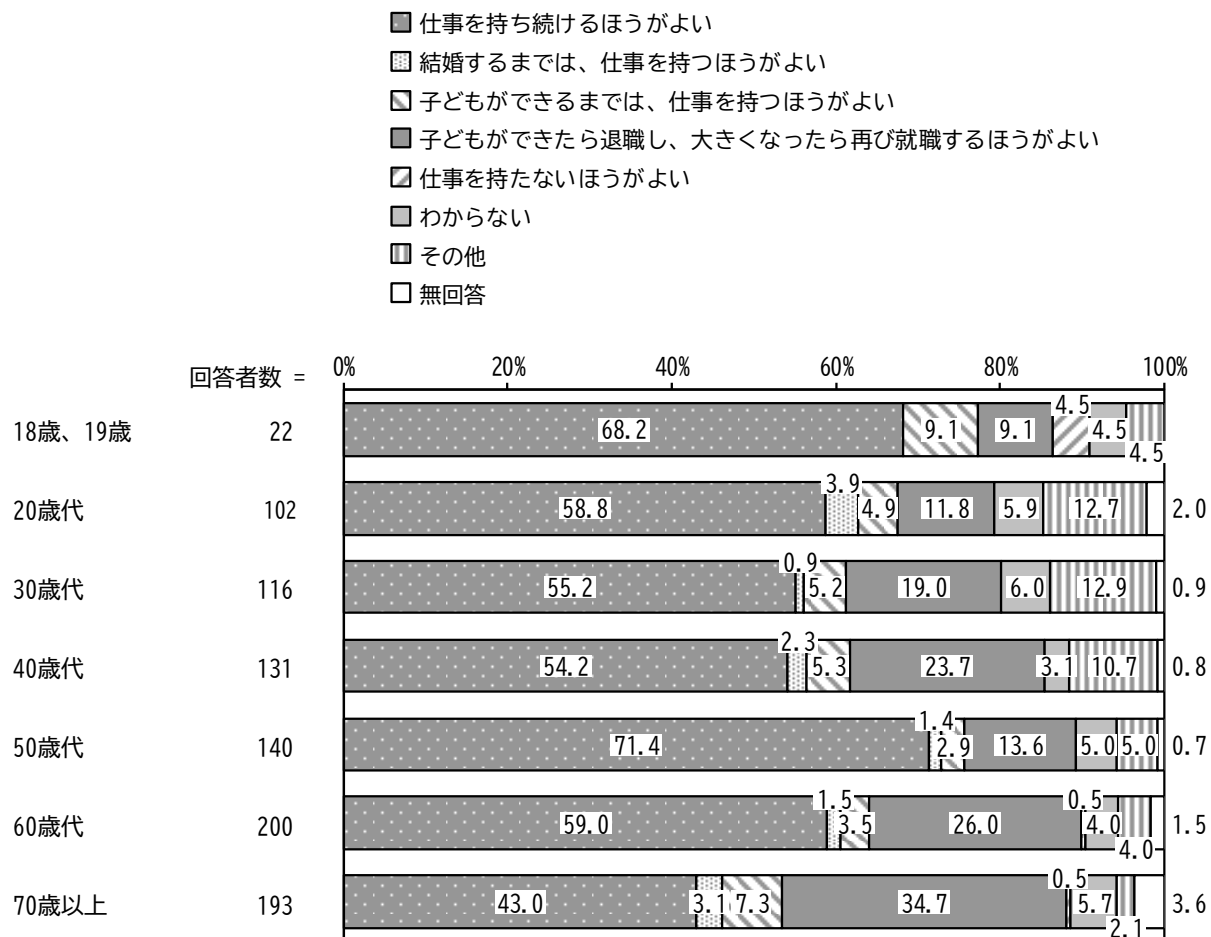
令和元年度調査と比較すると、女性で「仕事を持ち続けるほうがよい」の割合が増加しています。



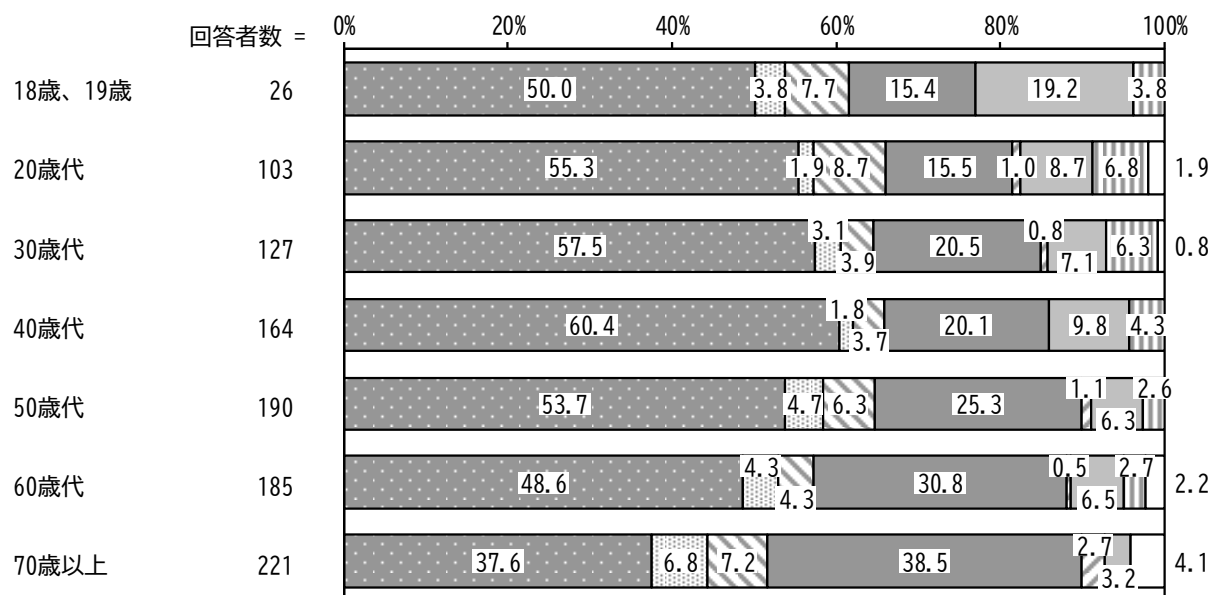
【年代別】

年代別でみると、50歳代で「仕事を続けるほうがよい」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、18歳、19歳、40歳代、50歳代、60歳代、70歳代で「仕事を続けるほうがよい」の割合が増加しています。一方、18歳、19歳、50歳代で「子どもができたなら退職し、大きくなったら再び就職するほうがよい」の割合が減少しています。



〔令和元年度調査〕

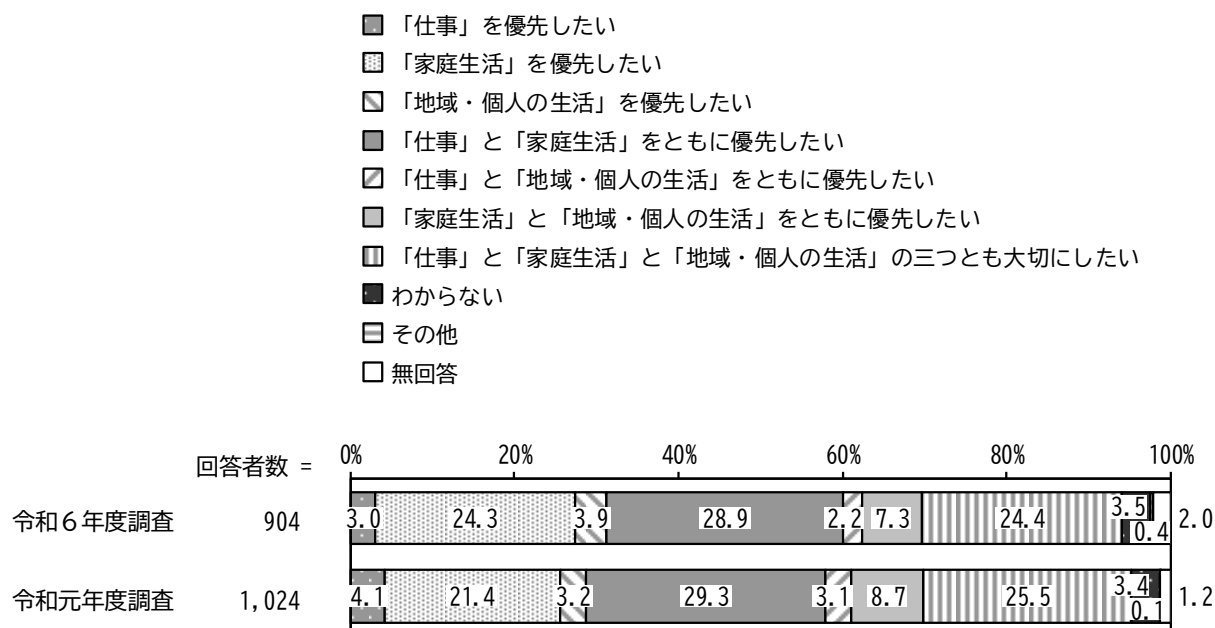


問 15 現在、ワーク・ライフ・バランスが重要視されていますが、あなたは、生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活のうち何を優先しますか。(1)、(2)についてそれぞれ1つ選んで○印をつけてください。

(1) 希望として

「仕事」と「家庭生活」とともに優先したい」の割合が28.9%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい」の割合が24.4%、「家庭生活」を優先したい」の割合が24.3%となっています。

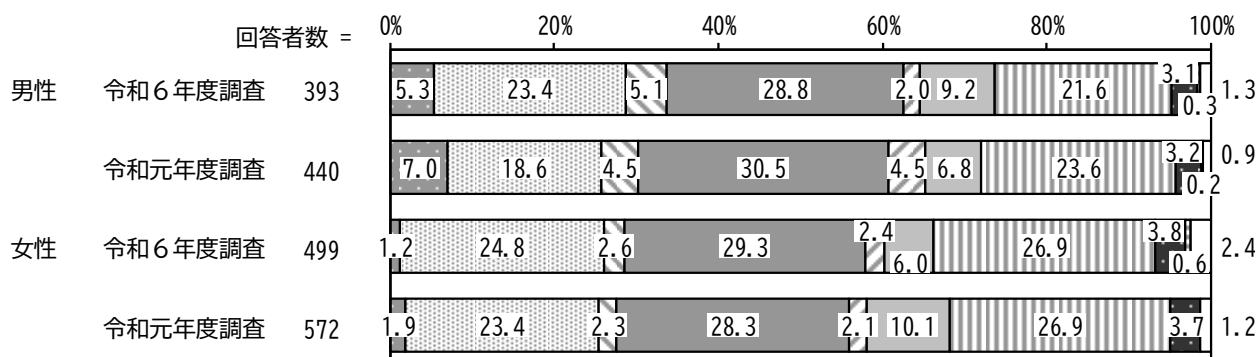
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別でみると、大きな差はみられません。

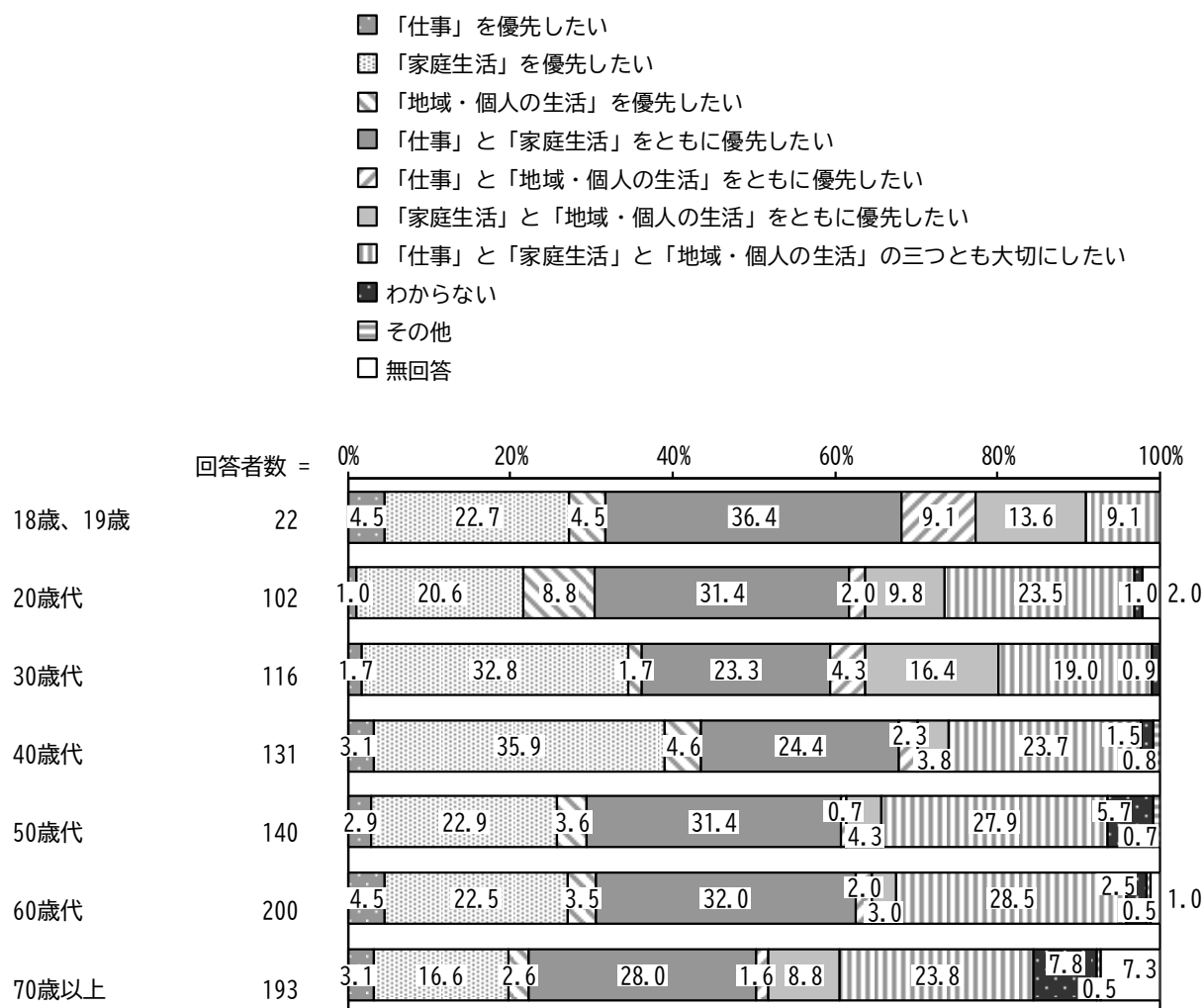
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年代別】

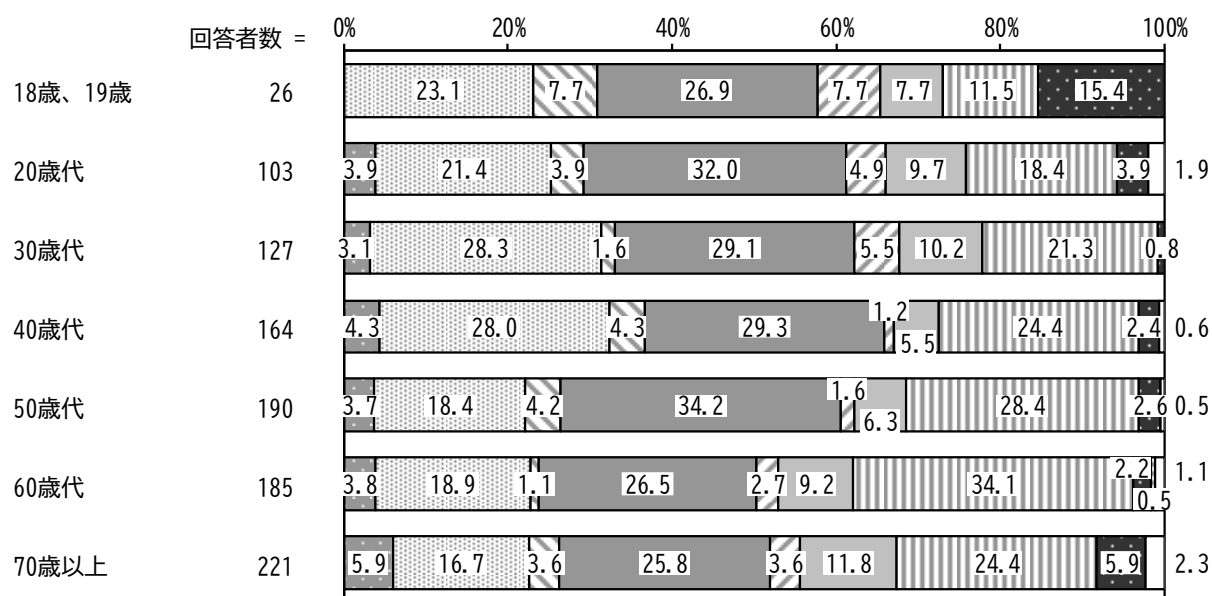
年代別でみると、40歳代で「家庭生活」を優先したい」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、40歳代で「家庭生活」を優先したい」の割合が、18歳、19歳で「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」の割合が、30歳代で「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」の割合が、20歳代で「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい」の割合が増加しています。一方、30歳代で「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が、60歳代で「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい」の割合が減少しています。



[令和元年度調査]

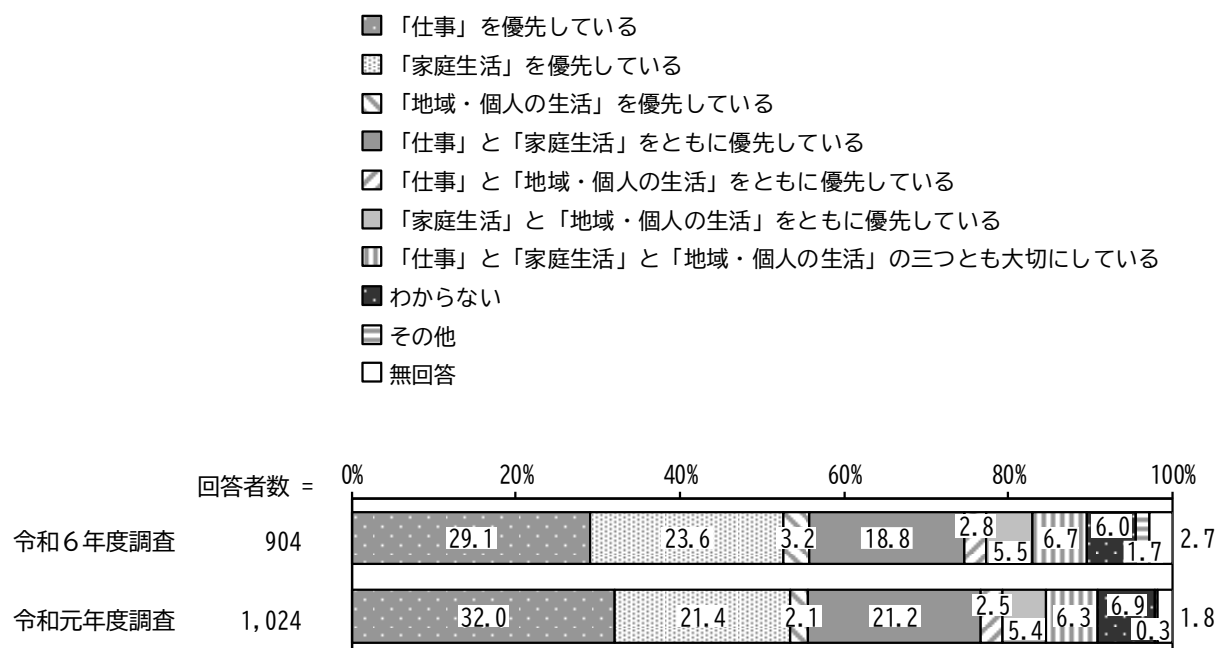
- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい
- わからない
- その他
- 無回答



(2) 現実として

「仕事」を優先している」の割合が 29.1%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先している」の割合が 23.6%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が 18.8%となっています。

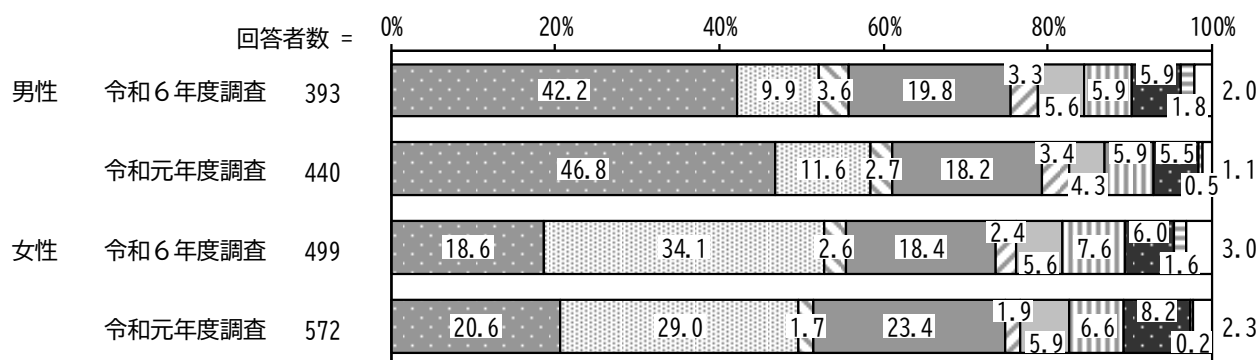
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別でみると、男性で「仕事」を優先している」の割合が高くなっています。

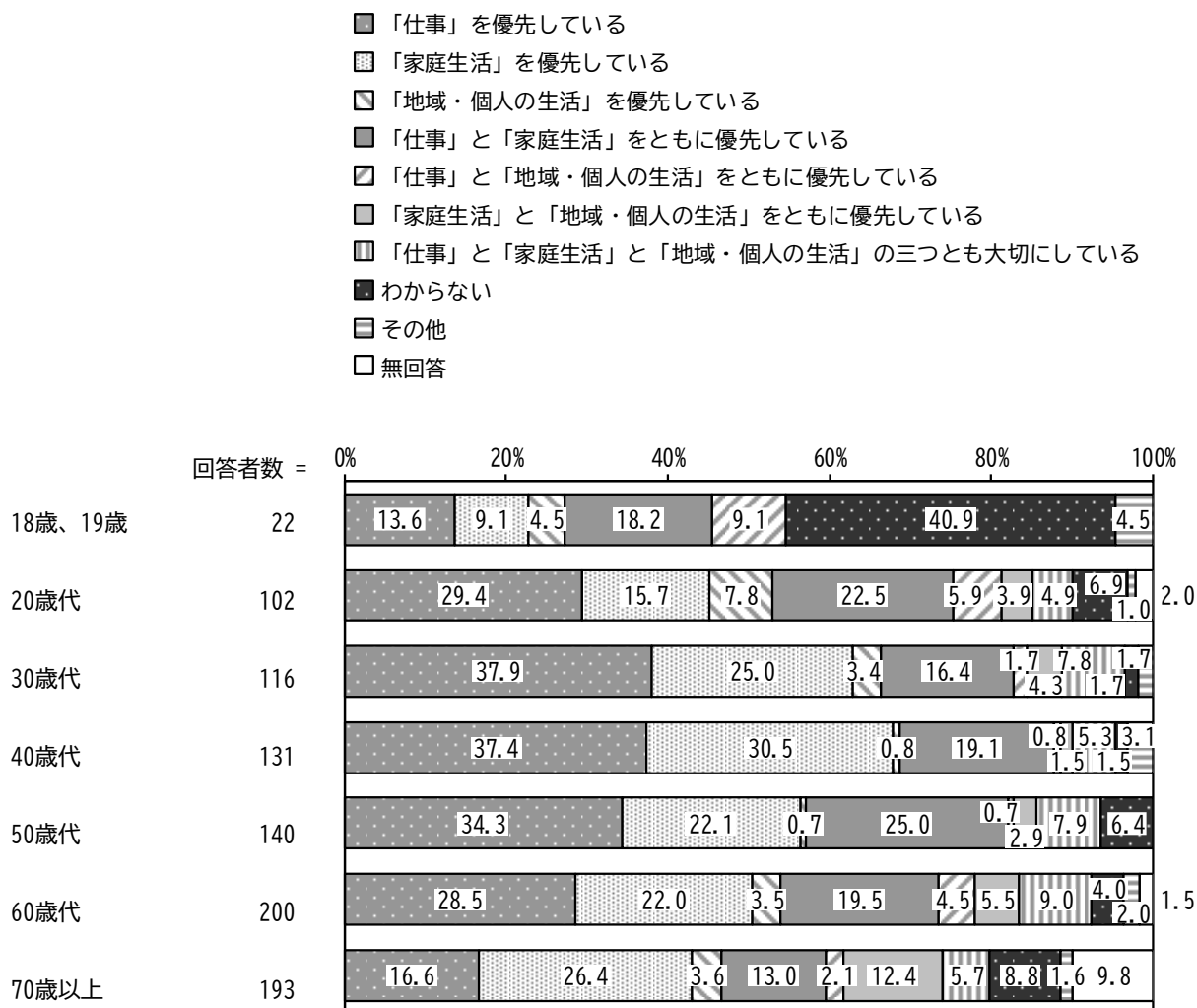
令和元年度調査と比較すると、女性で「家庭生活」を優先している」の割合が増加しています。一方、女性で「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が減少しています。



【年代別】

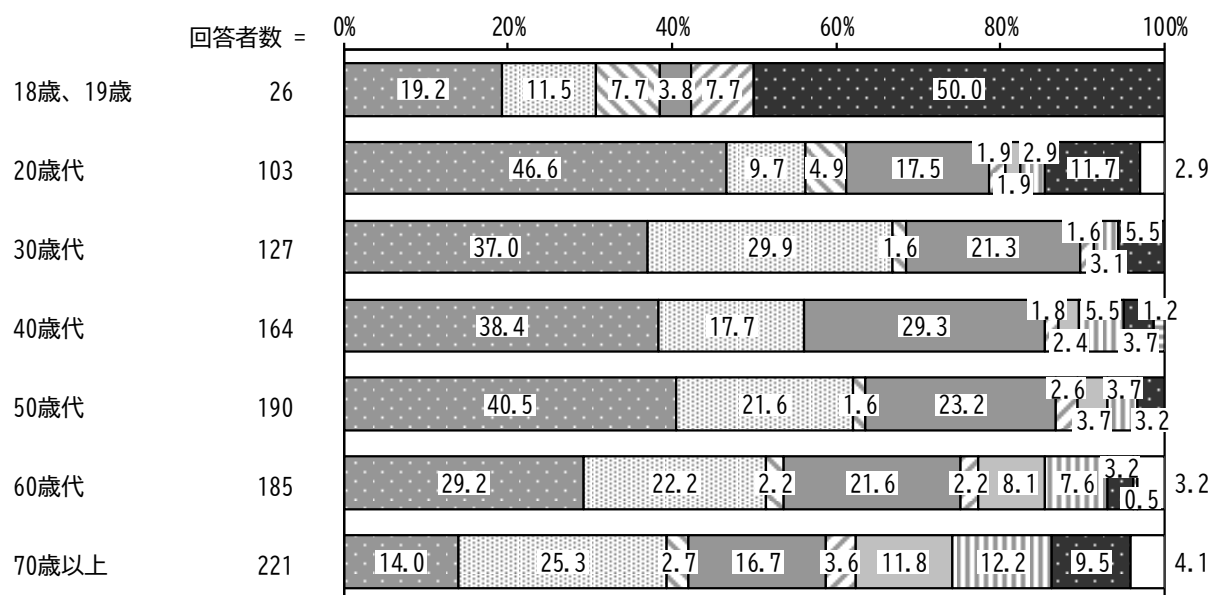
年代別でみると、30歳代で「仕事」を優先している」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、20歳代、40歳代で「家庭生活」を優先している」の割合が、18歳、19歳、20歳代で「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が増加しています。一方、18歳、19歳、20歳代、50歳代で「仕事」を優先している」の割合が、30歳代、40歳代で「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が、70歳以上で「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている」の割合が減少しています。



[令和元年度調査]

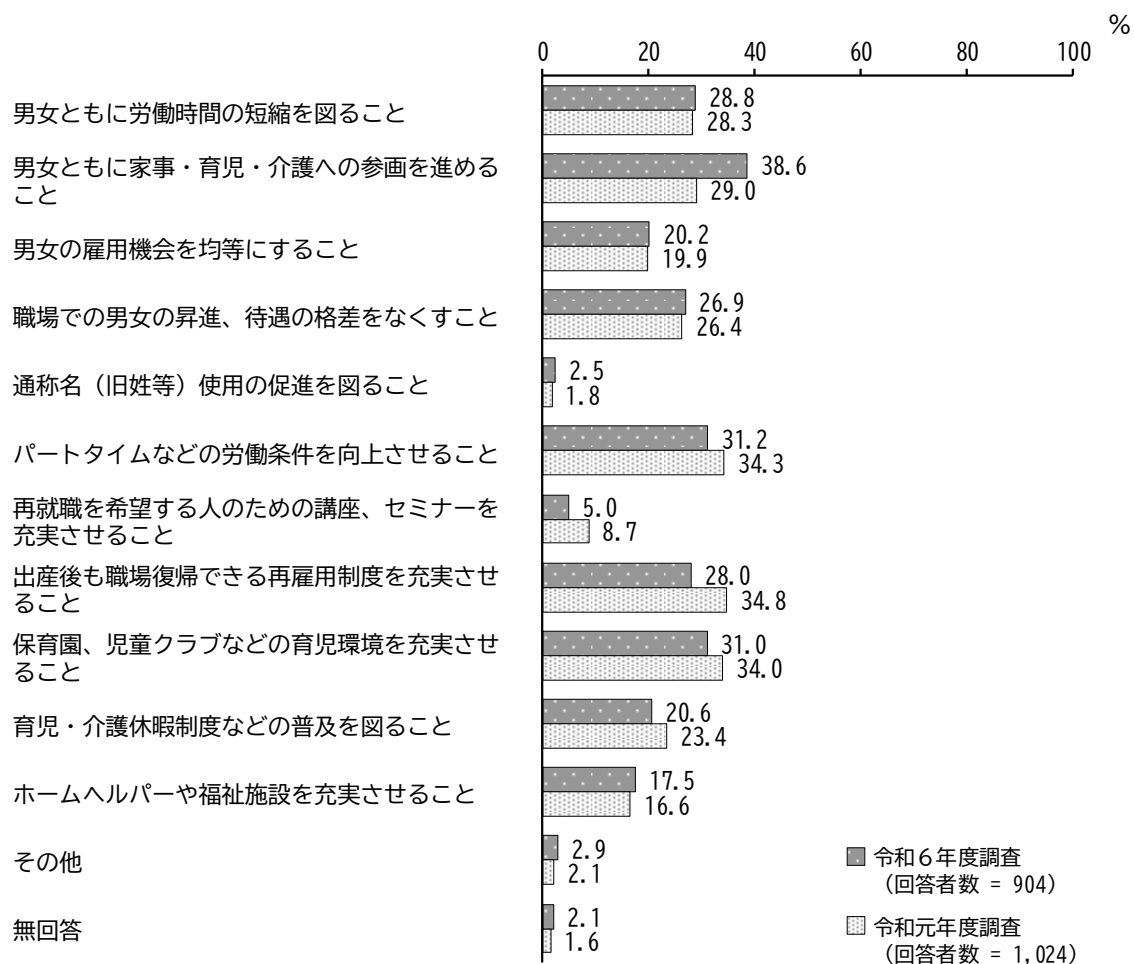
- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている
- わからない
- その他
- 無回答



問16 今後、性別に関わらず働きやすい社会環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか（3つまで○）。

「男女ともに家事・育児・介護への参画を進めること」の割合が38.6%と最も高く、次いで「パートタイムなどの労働条件を向上させること」の割合が31.2%、「保育園、児童クラブなどの育児環境を充実させること」の割合が31.0%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「男女ともに家事・育児・介護への参画を進めること」の割合が増加しています。一方、「出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実させること」の割合が減少しています。

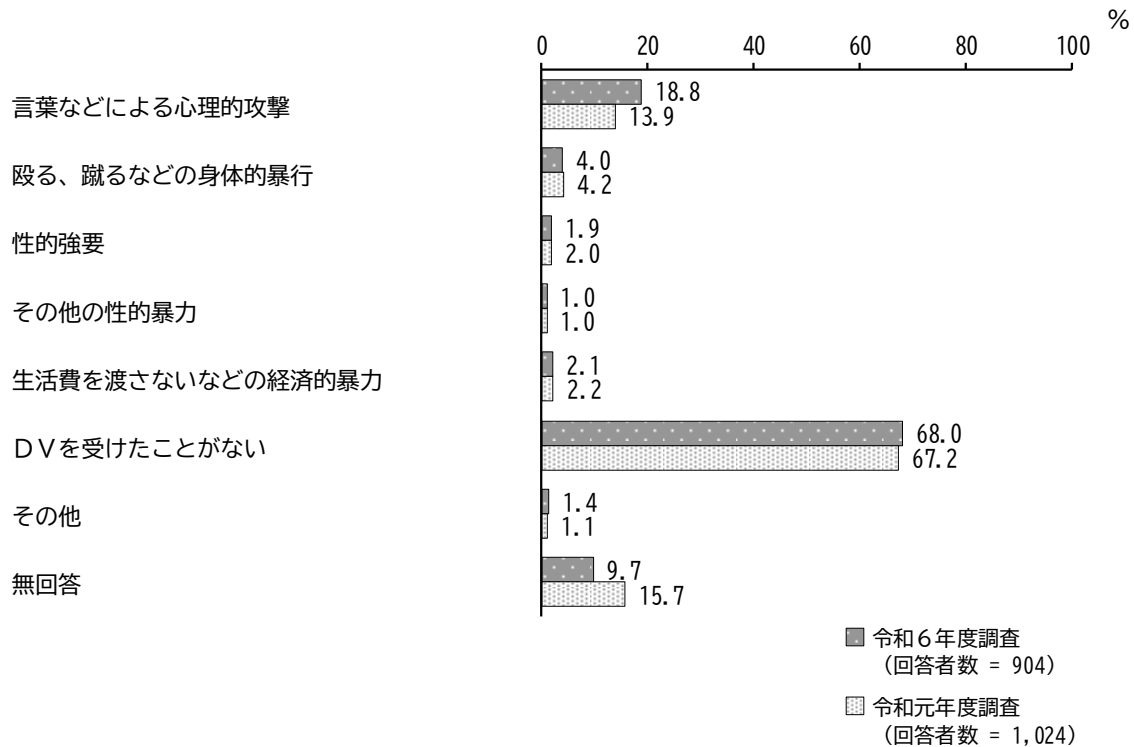


7 人権（DV、セクハラ、LGBTQ）について

問17 あなたは、これまでに、あなたの恋人や配偶者（事実婚、別居中、パートナー、離婚後を含む）から、どのようなDVを受けたことがありますか、または受けていますか（あてはまるものすべてに○）。

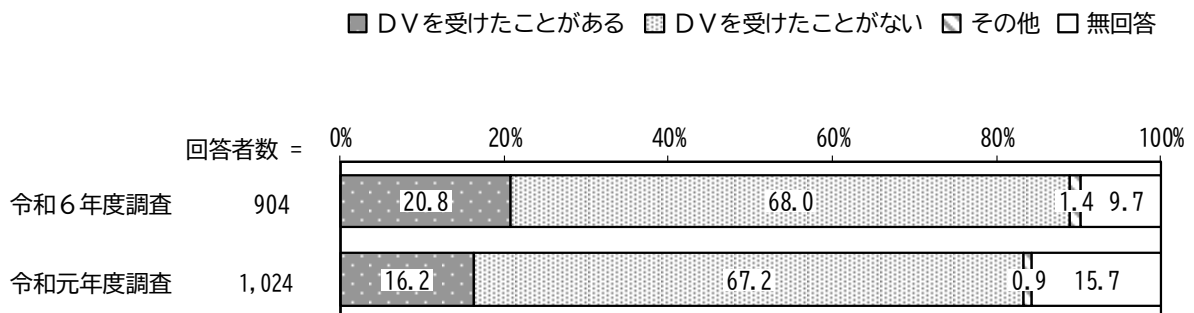
「DVを受けたことがない」の割合が68.0%と最も高く、次いで「言葉などによる心理的攻撃」の割合が18.8%、「殴る、蹴るなどの身体的暴行」の割合が4.0%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



「言葉などによる心理的攻撃」、「殴る、蹴るなどの身体的暴行」、「性的強要」、「その他の性的暴力」、「生活費を渡さないなどの経済的暴力」を合計した「DVを受けたことがある」の割合は20.8%となっています。

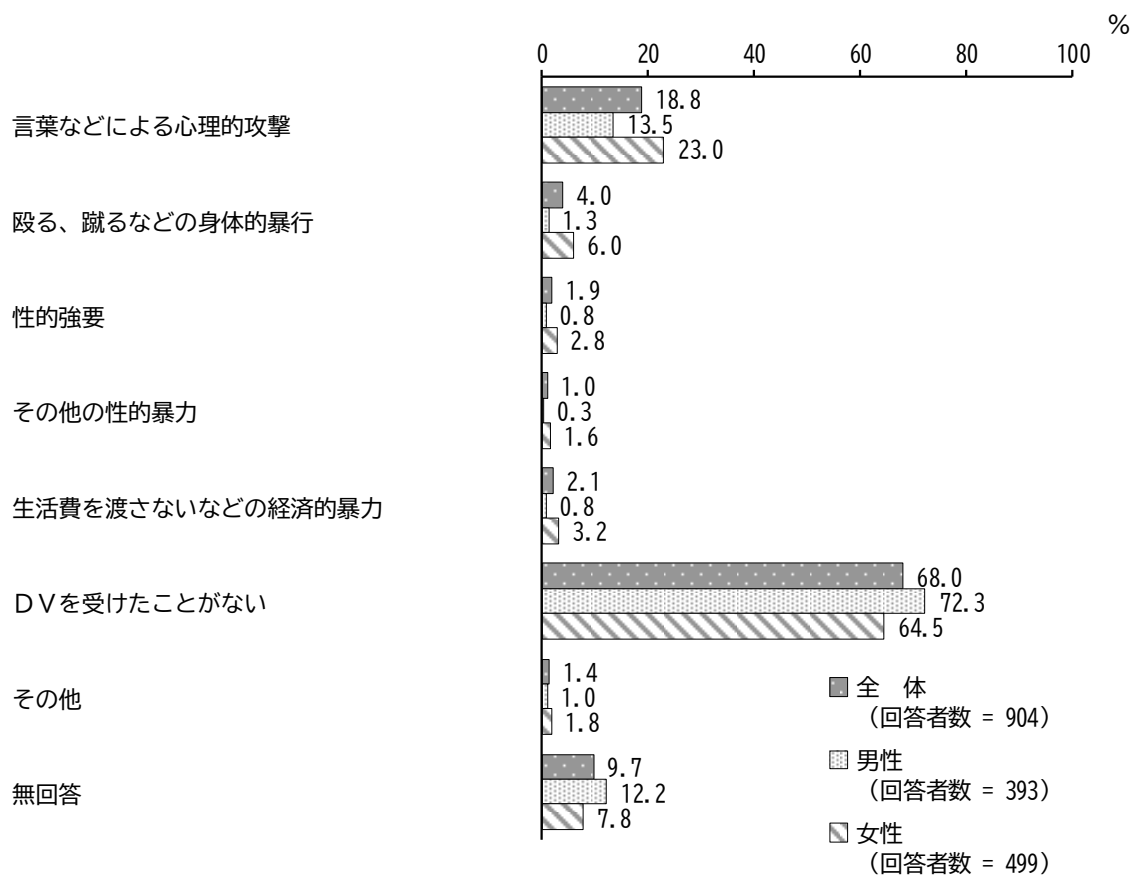
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



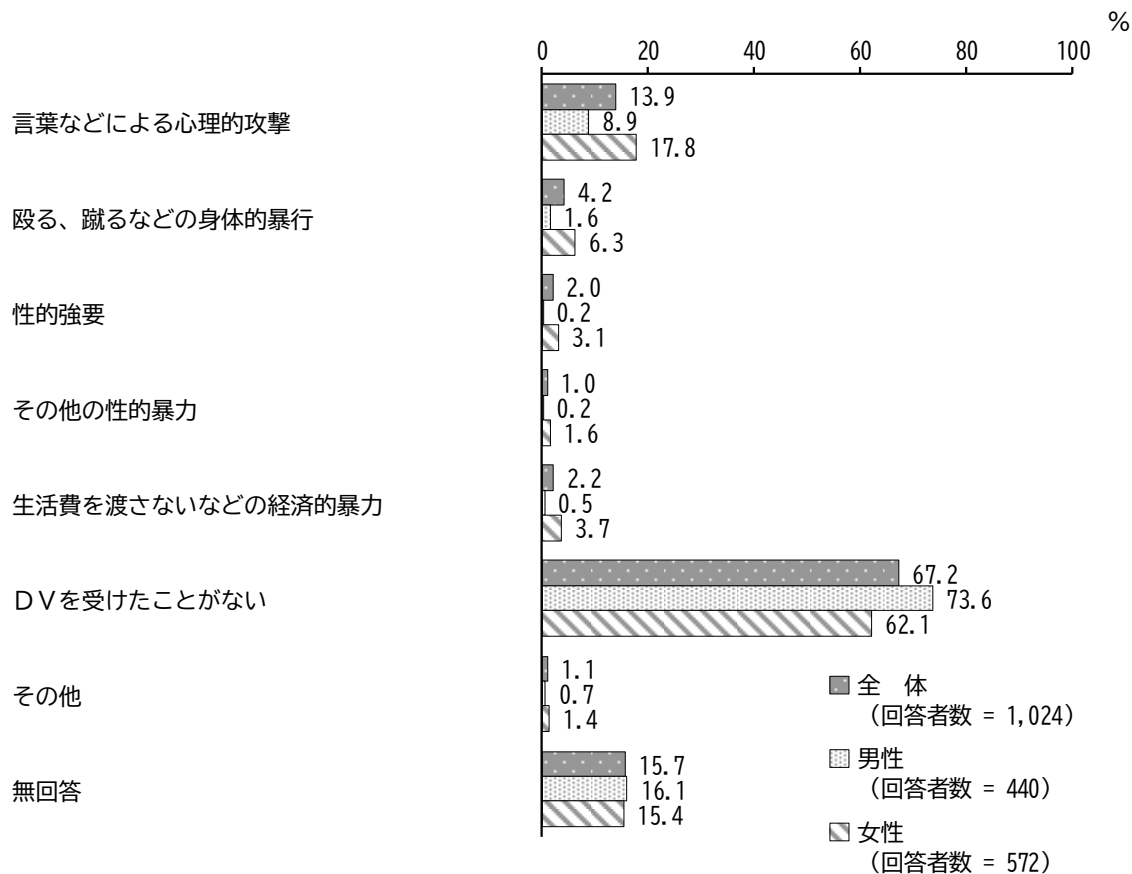
【性別】

性別でみると、女性で「言葉などによる心理的攻撃」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、女性で「言葉などによる心理的攻撃」の割合が増加しています。



[令和元年度調査]

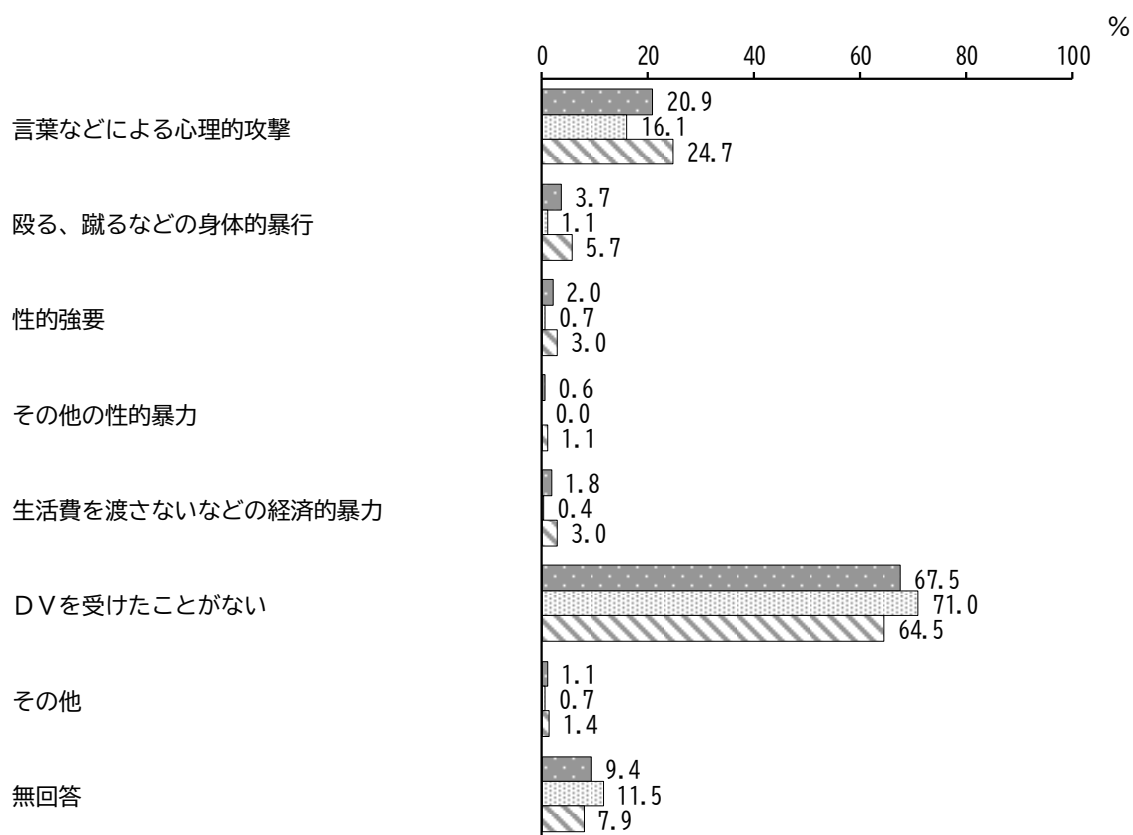


【婚姻別】

婚姻別でみると、他に比べ、③結婚していないで「DVを受けたことがない」の割合が高くなっています。一方、①結婚している（事実婚や別居中、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）、で「言葉などによる心理的攻撃」の割合が高く、②結婚していたが、離別・死別したで「言葉などによる心理的攻撃」「殴る、蹴るなどの身体的暴行」「生活費を渡さないなどの経済的暴力」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、①結婚している（事実婚や別居中、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）男女ともに「言葉などによる心理的攻撃」の割合が、②結婚していたが、離別・死別した男性、③結婚していない女性で「DVを受けたことがない」の割合が増加しています。

①結婚している（事実婚や別居中、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）

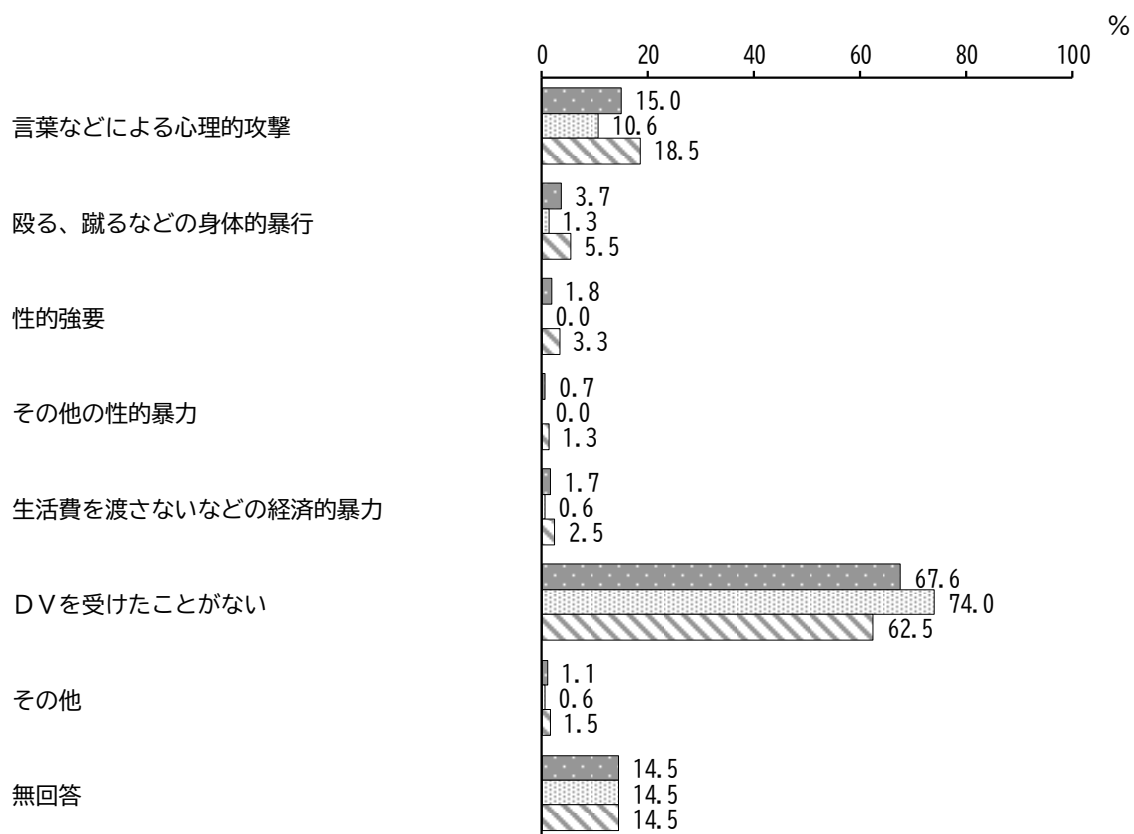


■ 全 体
(回答者数 = 652)

▨ 結婚している（事実婚や別居中、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）男性
(回答者数 = 279)

▨ 結婚している（事実婚や別居中、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）女性
(回答者数 = 369)

[令和元年度調査]

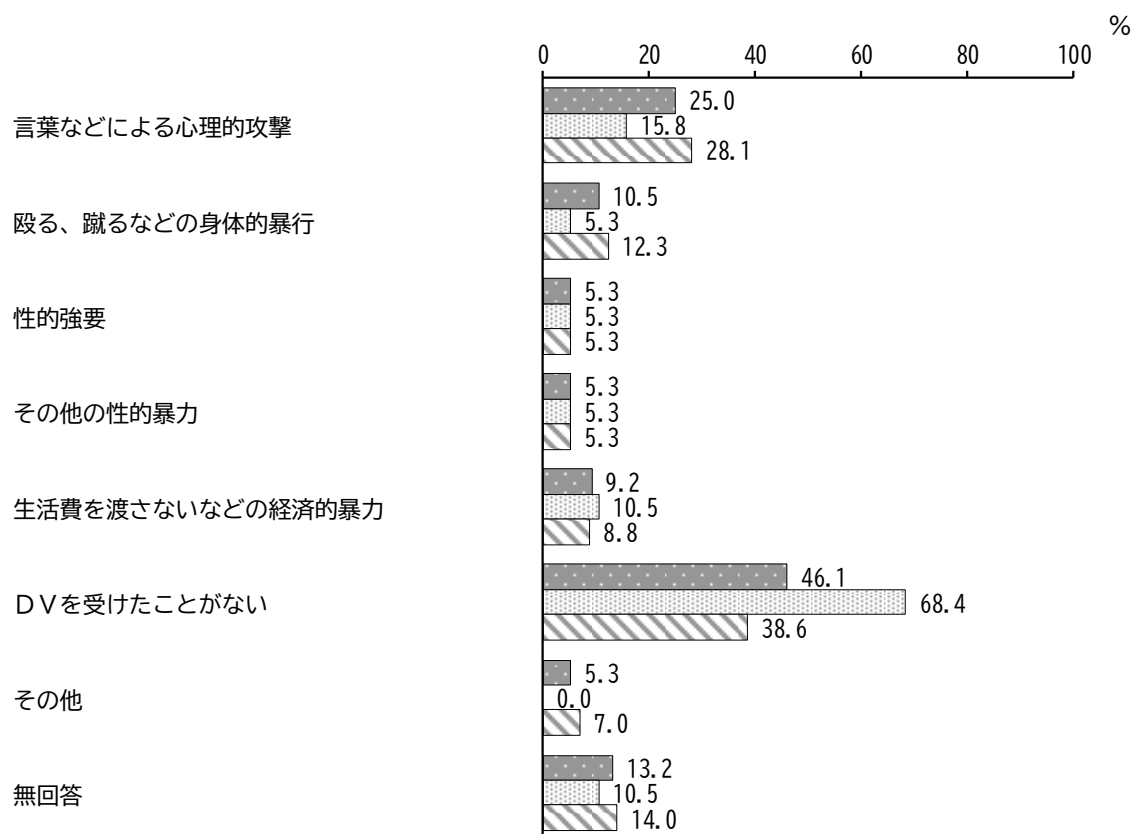


■ 全体
(回答者数 = 712)

▨ 結婚している（事実婚や別居中、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）男性
(回答者数 = 311)

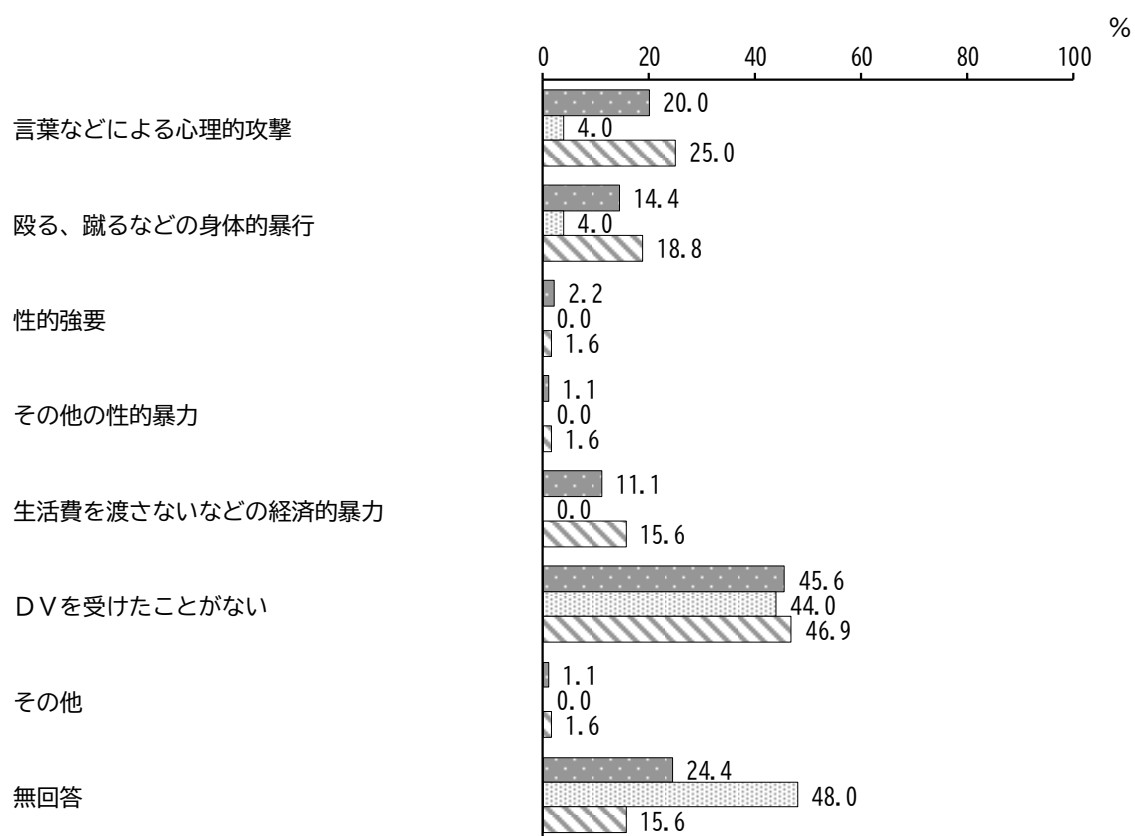
▤ 結婚している（事実婚や別居中、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む）女性
(回答者数 = 400)

②結婚していたが、離別・死別した



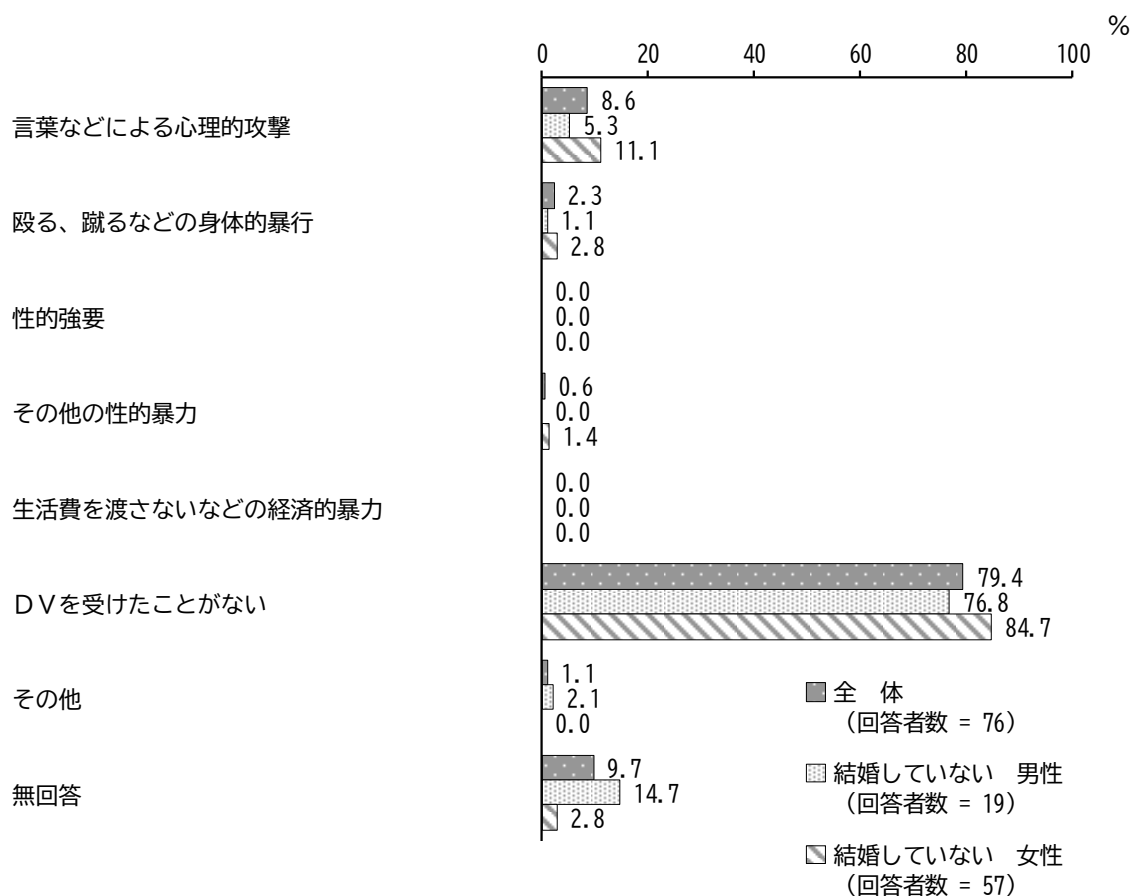
- 全 体
(回答者数 = 76)
- ▤ 結婚していたが、離別・死別した 男性
(回答者数 = 19)
- ▨ 結婚していたが、離別・死別した 女性
(回答者数 = 57)

[令和元年度調査]

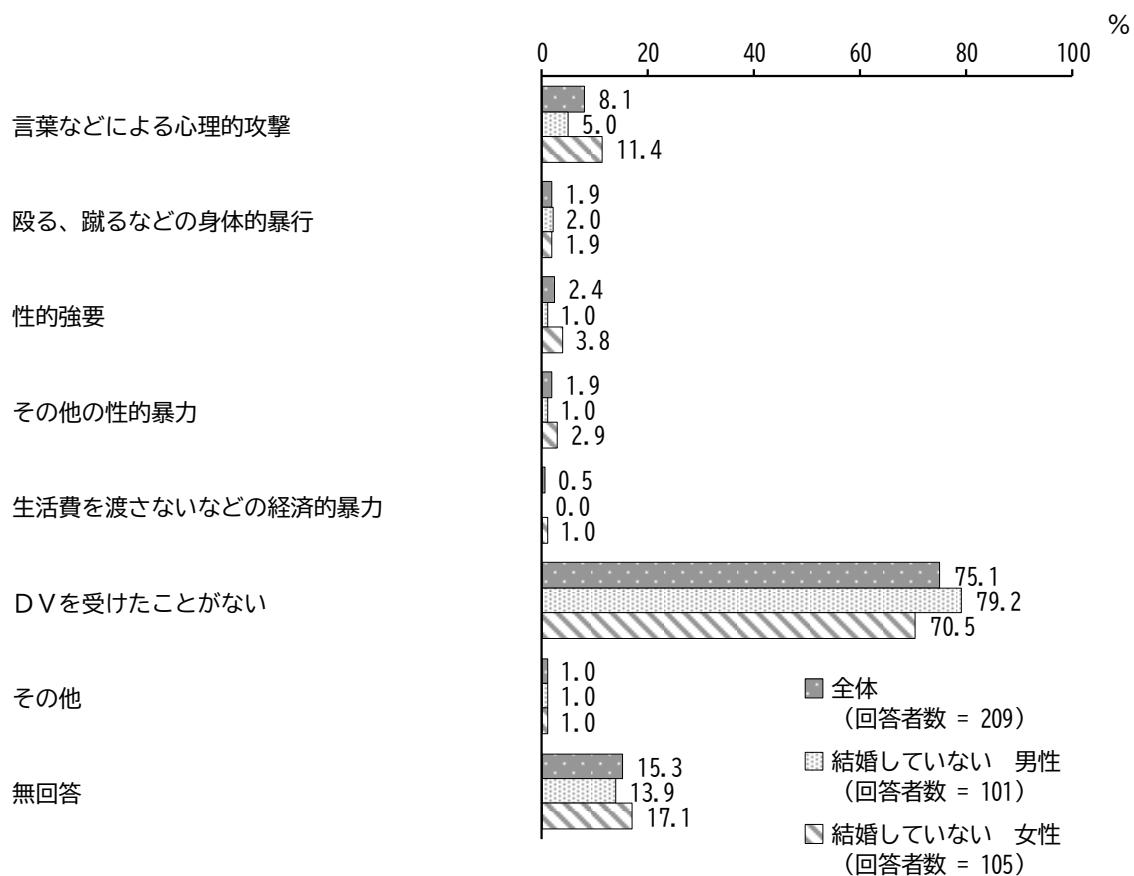


- 全体
(回答者数 = 90)
- ▨ 結婚していたが、離別・死別した 男性
(回答者数 = 25)
- ▤ 結婚していたが、離別・死別した 女性
(回答者数 = 64)

③結婚していない



[令和元年度調査]

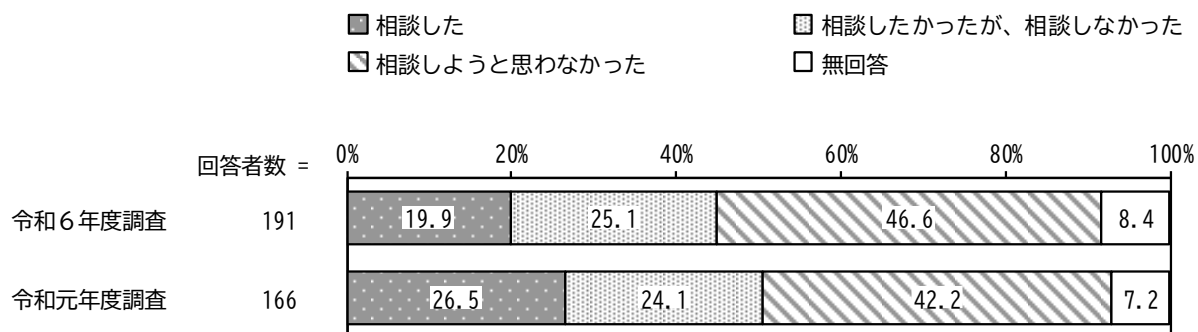


問 17 でDVを受けたことがある（「言葉などによる心理的攻撃」「殴る、蹴るなどの身体的暴行」「性的強要」「その他の性的暴力」「生活費を渡さないなどの経済的暴力」と答えた方におたずねします。

問 18 あなたは、DVを受けたときに、相談しましたか（1つに○）。

「相談しようと思わなかった」の割合が 46.6%と最も高く、次いで「相談したかったが、相談しなかった」の割合が 25.1%、「相談した」の割合が 19.9%となっています。

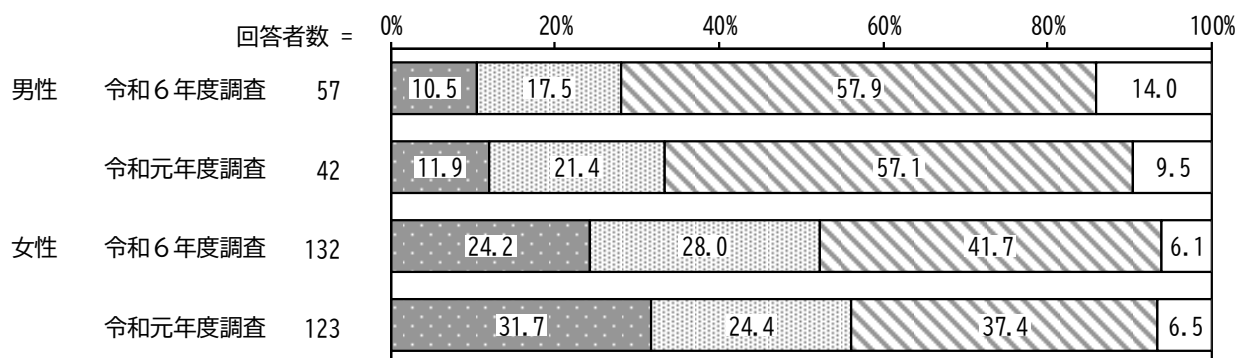
令和元年度調査と比較すると、「相談した」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、男性で「相談しようと思わなかった」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、女性で「相談した」の割合が減少しています。

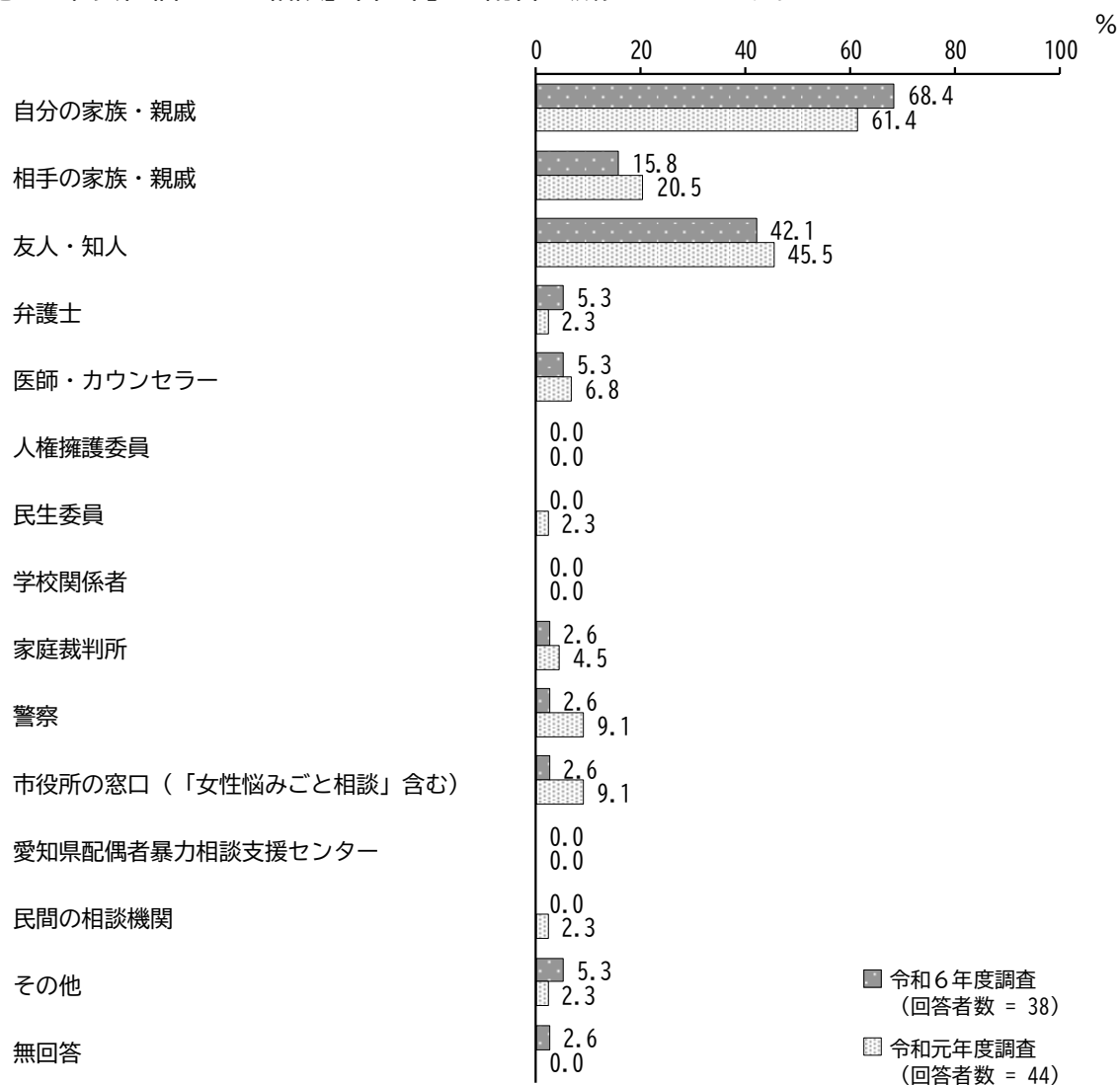


問 18 で「1 相談した」と答えた方におたずねします。

問 19 DVを受けたときに、あなたが安心して相談できたのは次のどれですか
(あてはまるものすべてに○)。

「自分の家族・親戚」の割合が 68.4%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が 42.1%、「相手の家族・親戚」の割合が 15.8%となっています。

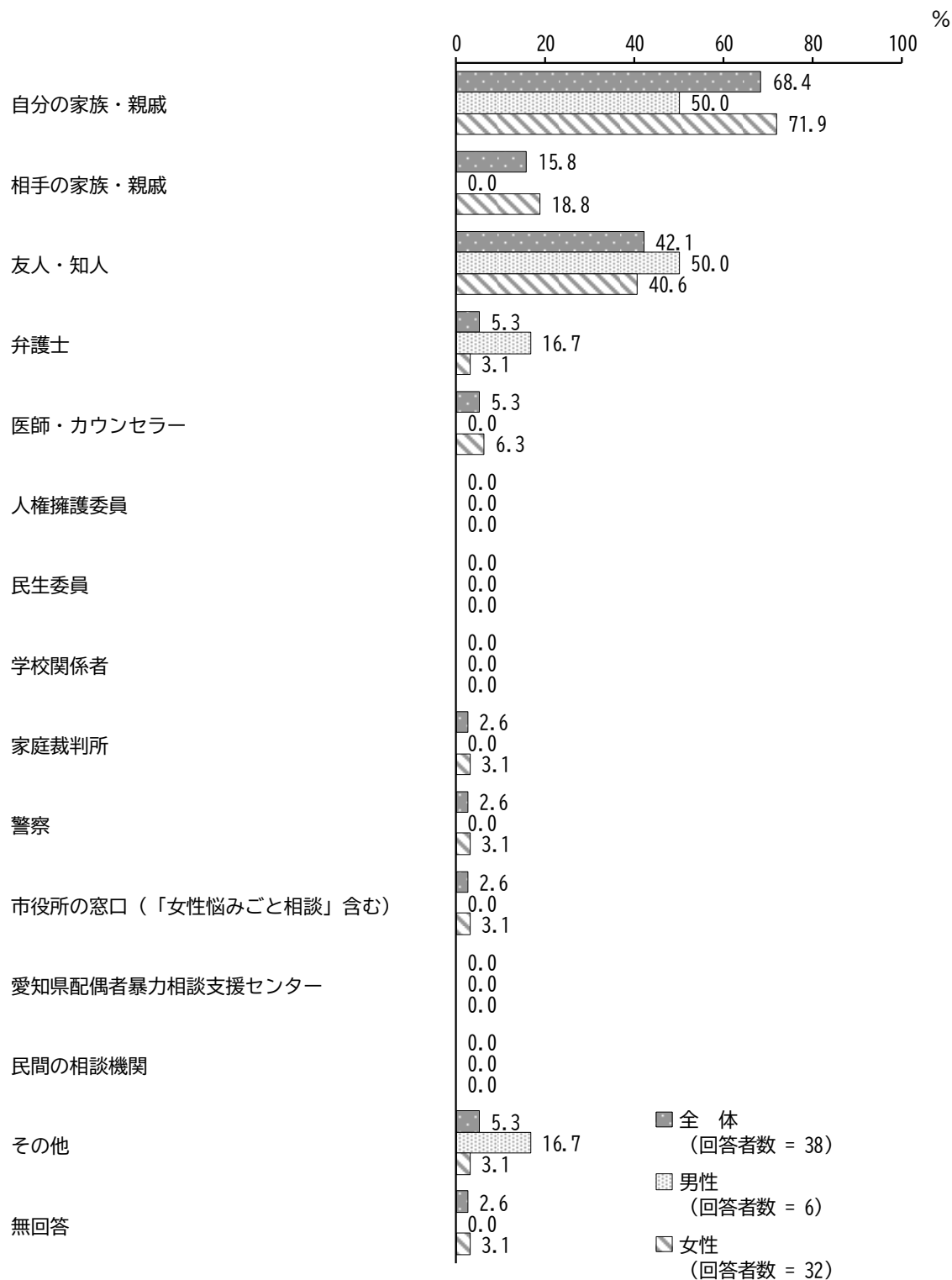
令和元年度調査と比較すると、「自分の家族・親戚」の割合が増加しています。一方、「警察」「市役所の窓口（「女性悩みごと相談」含む）」の割合が減少しています。



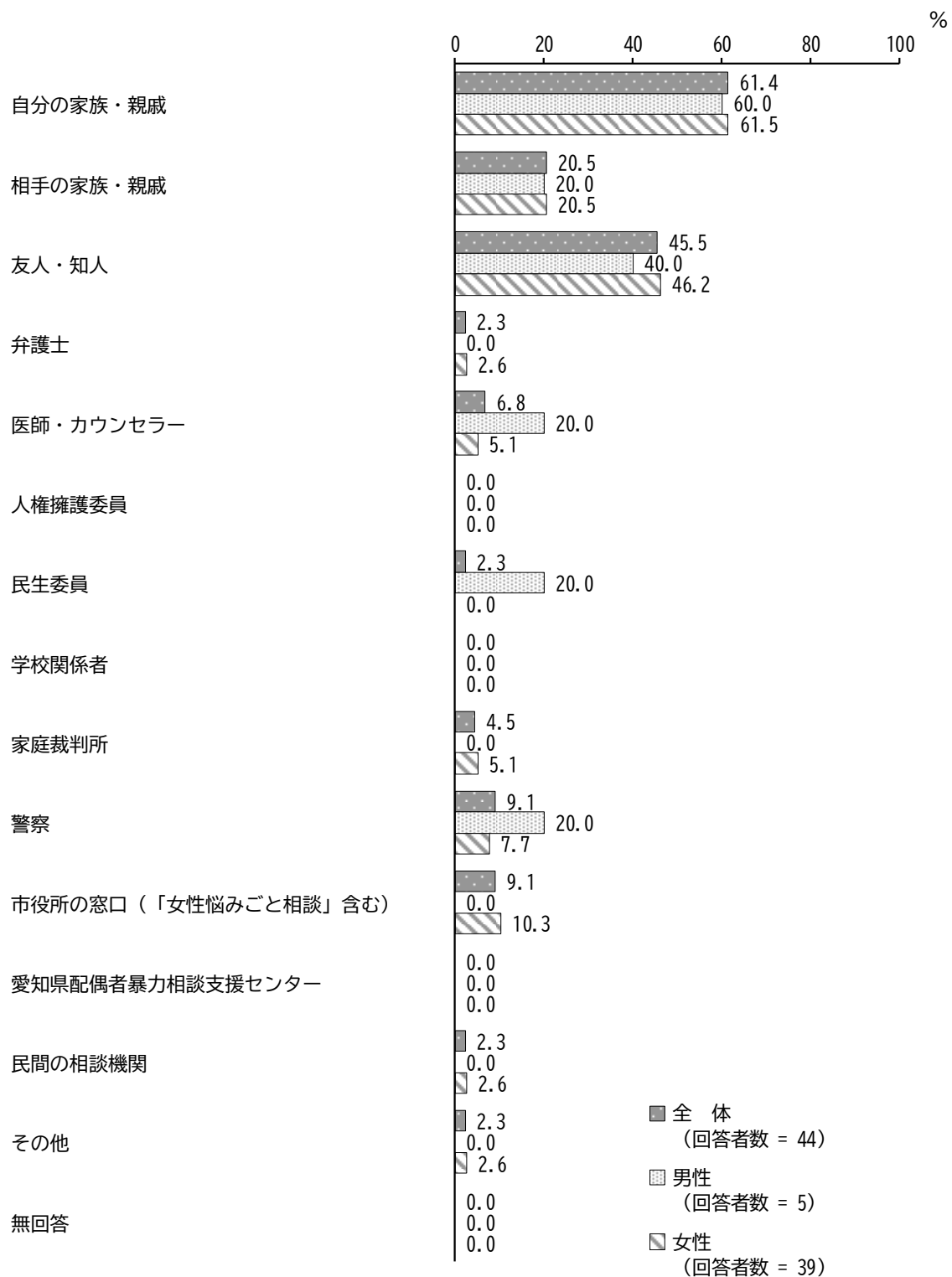
【性別】

性別でみると、女性で「自分の家族・親戚」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、女性で「自分の家族・親戚」の割合が増加しています。一方、「市役所の窓口（「女性悩みごと相談」含む）」「友人・知人」の割合が減少しています。



[令和元年度調査]

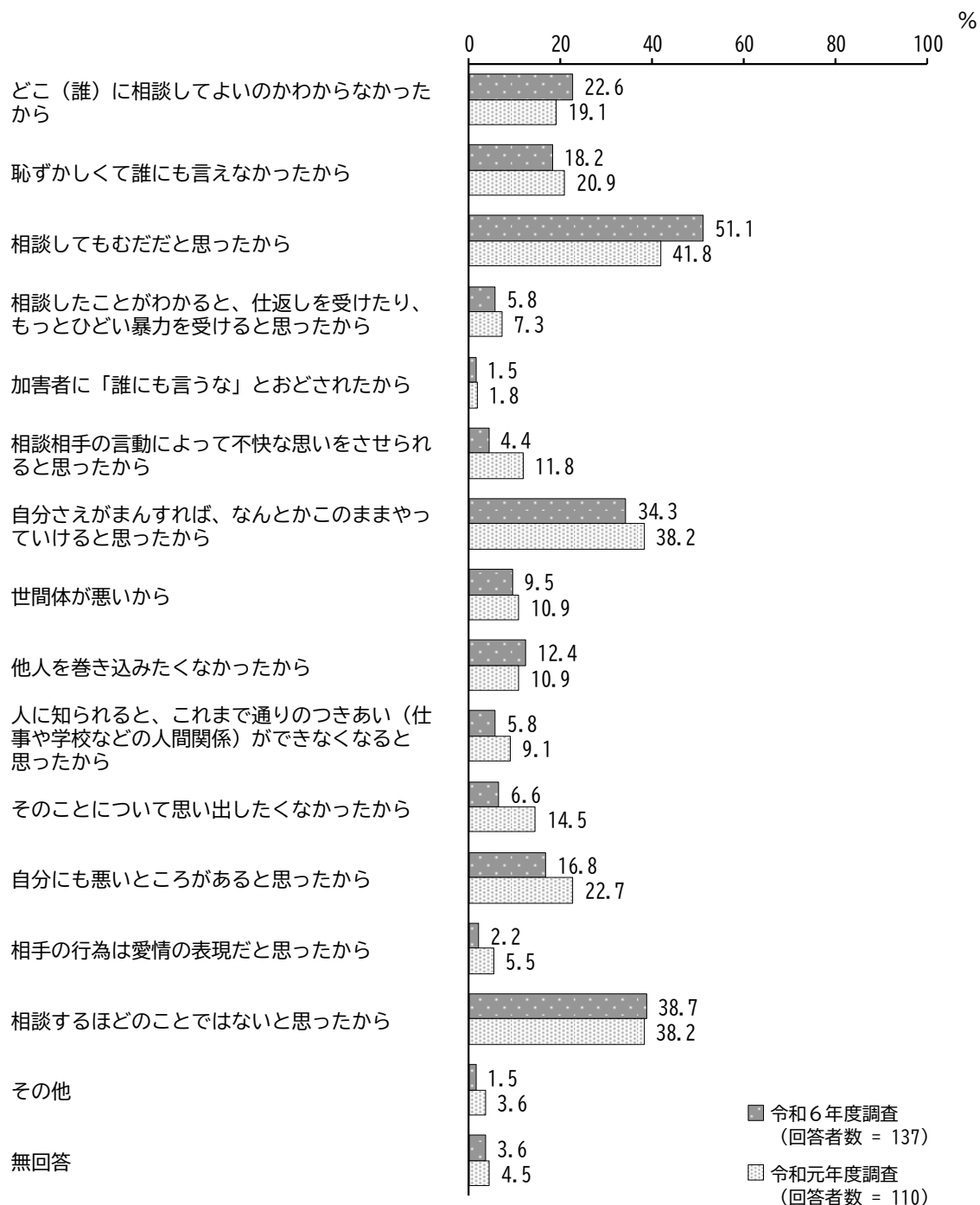


問 18 で「相談したかったが、相談しなかった」または「相談しようと思わなかった」と答えた方におたずねします。

問 20 相談しなかった理由は、何ですか（あてはまるものすべてに○）。

「相談してもむだだと思ったから」の割合が 51.1%と最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が 38.7%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」の割合が 34.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「相談してもむだだと思ったから」の割合が増加しています。一方、「相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから」「そのことについて思い出したくなかったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が減少しています。

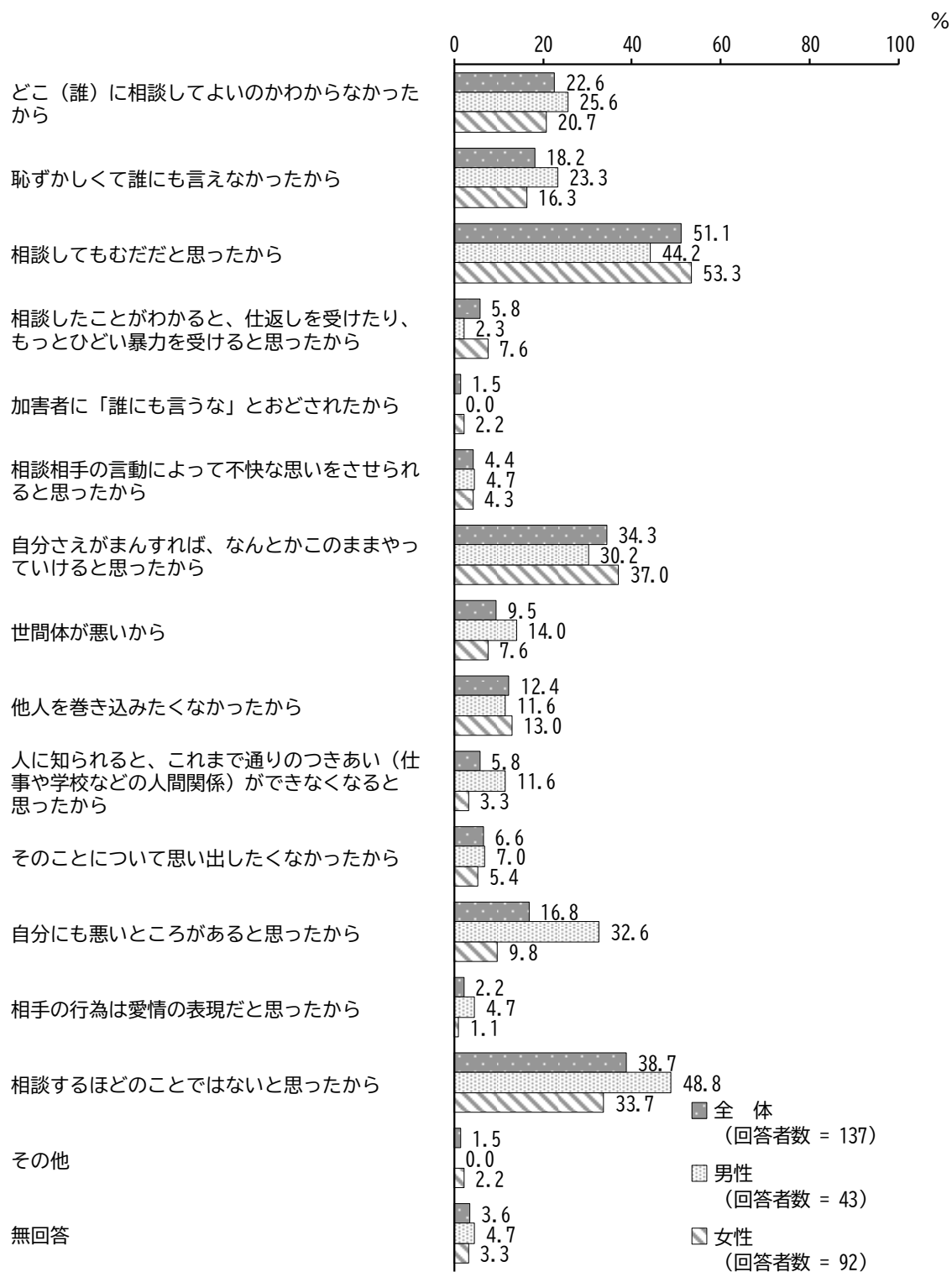


【性別】

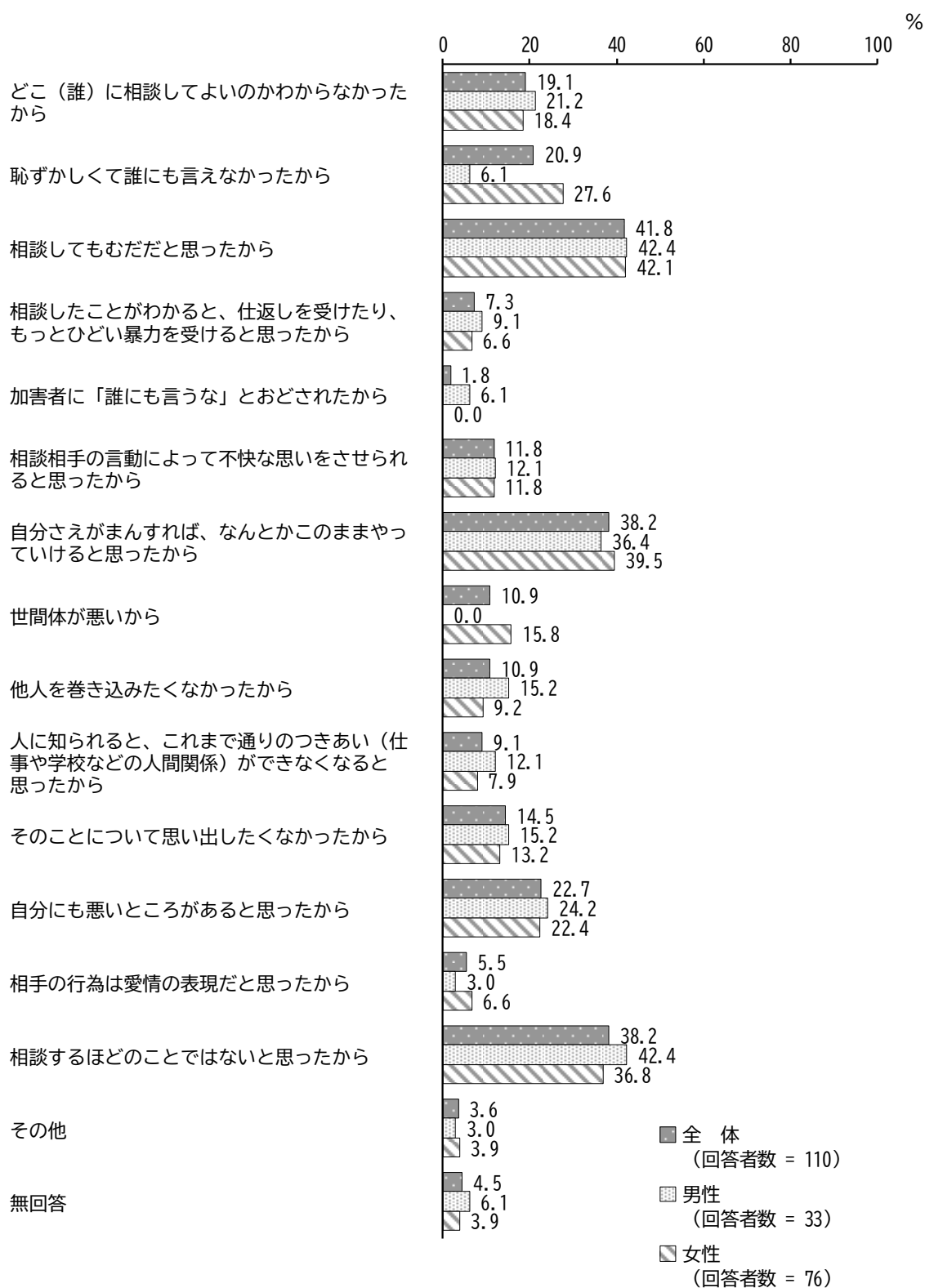
性別でみると、男性で「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が高くなっています。

男性では、「相談してもむだだと思ったから」の割合が最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が高くなっています。女性では、「相談してもむだだと思ったから」の割合が最も高く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、男性で「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」「世間体が悪いから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が、女性で「相談してもむだだと思ったから」の割合が増加しています。一方、男女ともに「相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから」「そのことについて思い出したくなかったから」の割合が、男性で「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから」「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」の割合が、女性で「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」「世間体が悪いから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「相手の行為は愛情の表現だと思ったから」の割合が減少しています。



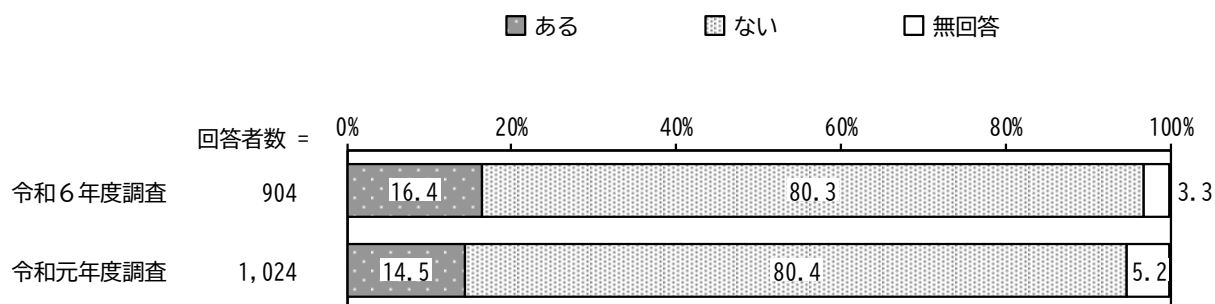
[令和元年度調査]



問 21 あなたは、これまでに、セクハラを受けたことがありますか（1つに○）。

「ある」の割合が16.4%、「ない」の割合が80.3%となっています。

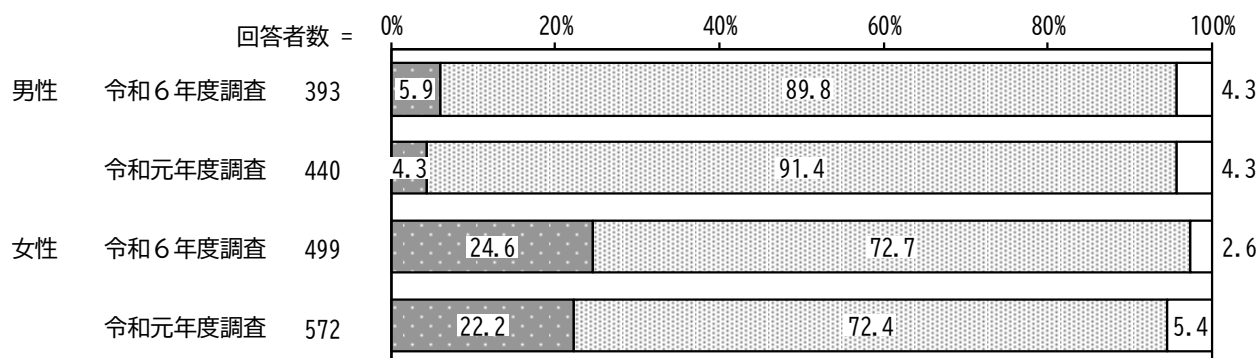
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

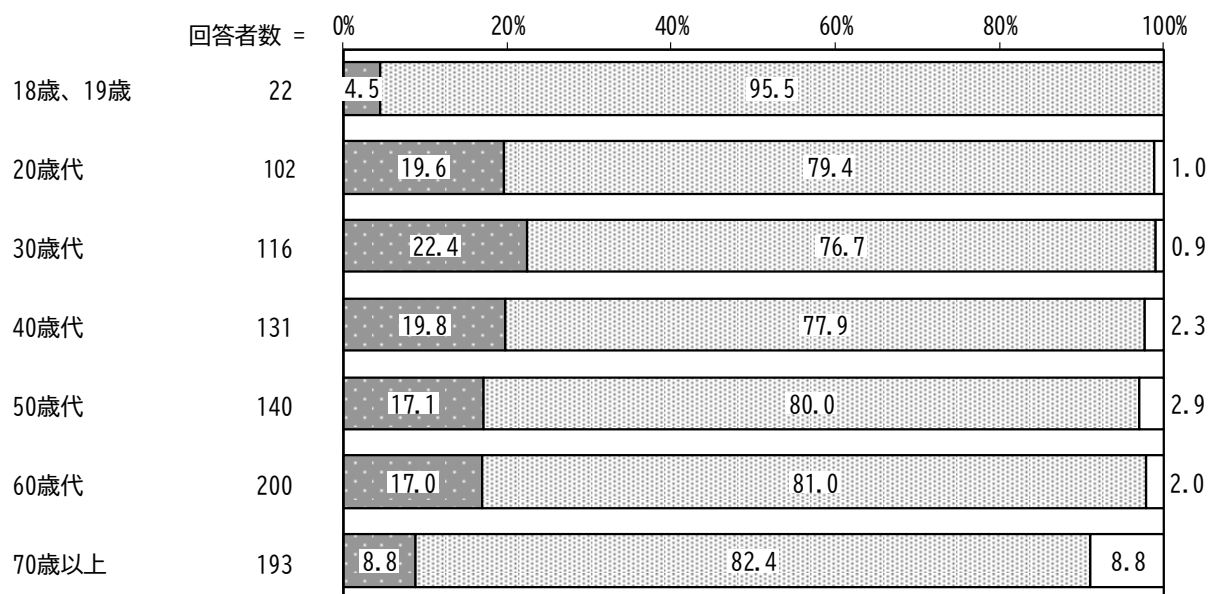
性別でみると、女性で「ある」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年代別】

年代別でみると、30歳代で「ある」の割合が高くなっています。

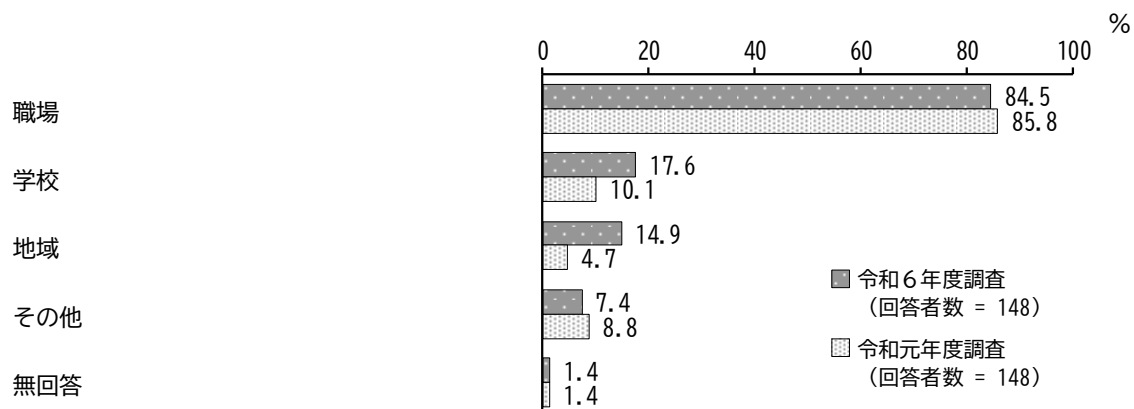


問 21 で「1 ある」と答えた方におたずねします。

問 22 セクハラが行われた場所はどこですか（あてはまるものすべてに○）。

「職場」の割合が 84.5%と最も高く、次いで「学校」の割合が 17.6%、「地域」の割合が 14.9%となっています。

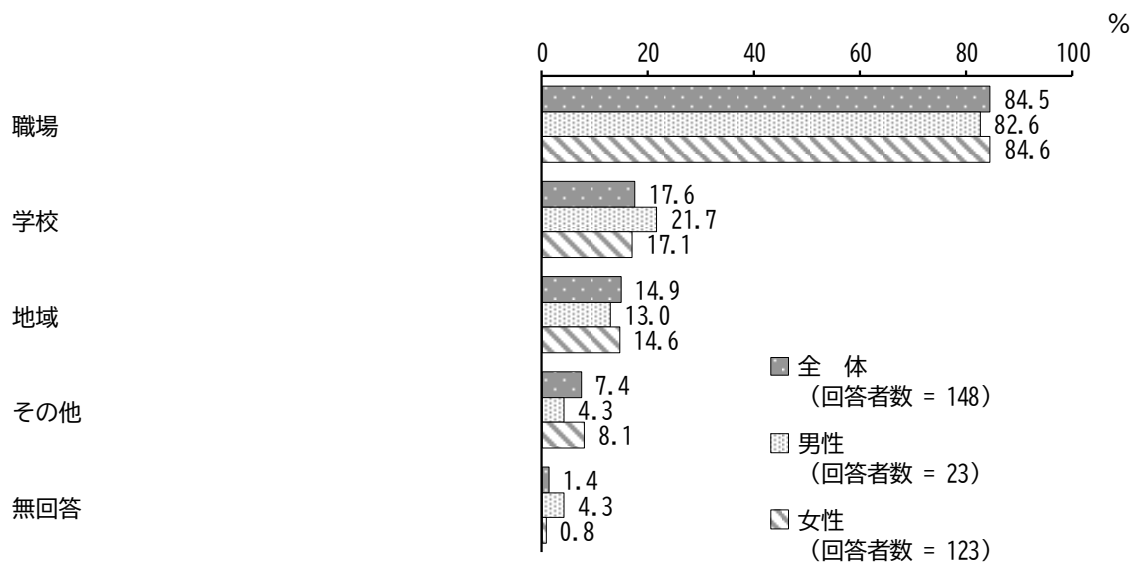
令和元年度調査と比較すると、「学校」「地域」の割合が増加しています。



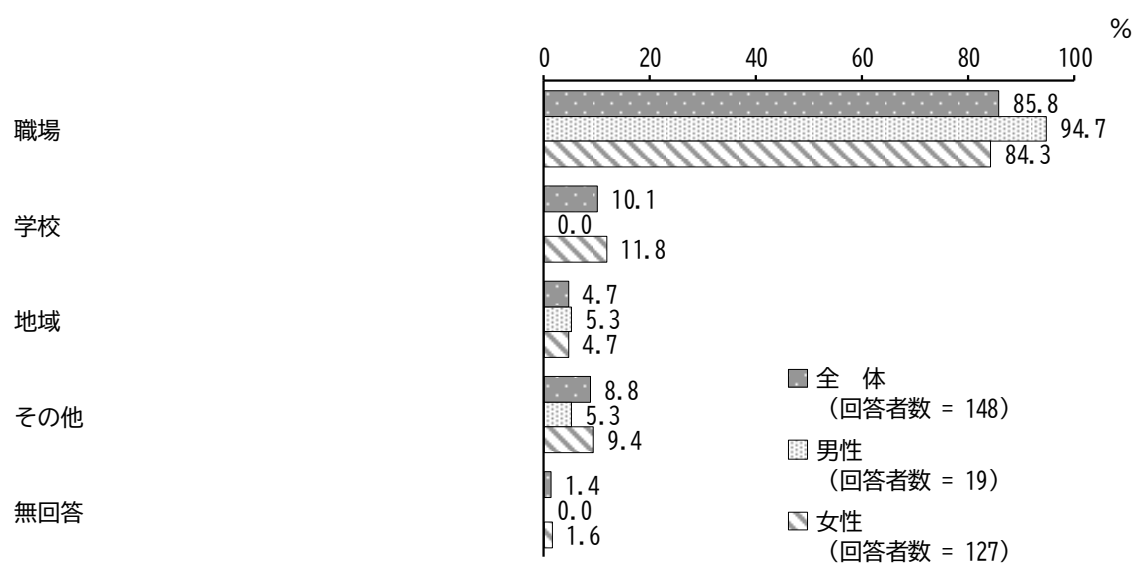
【性別】

性別でみると、大きな差はみられません。

令和元年度調査と比較すると、男性で「職場」「学校」「地域」の割合が、女性で「地域」の割合が増加しています。

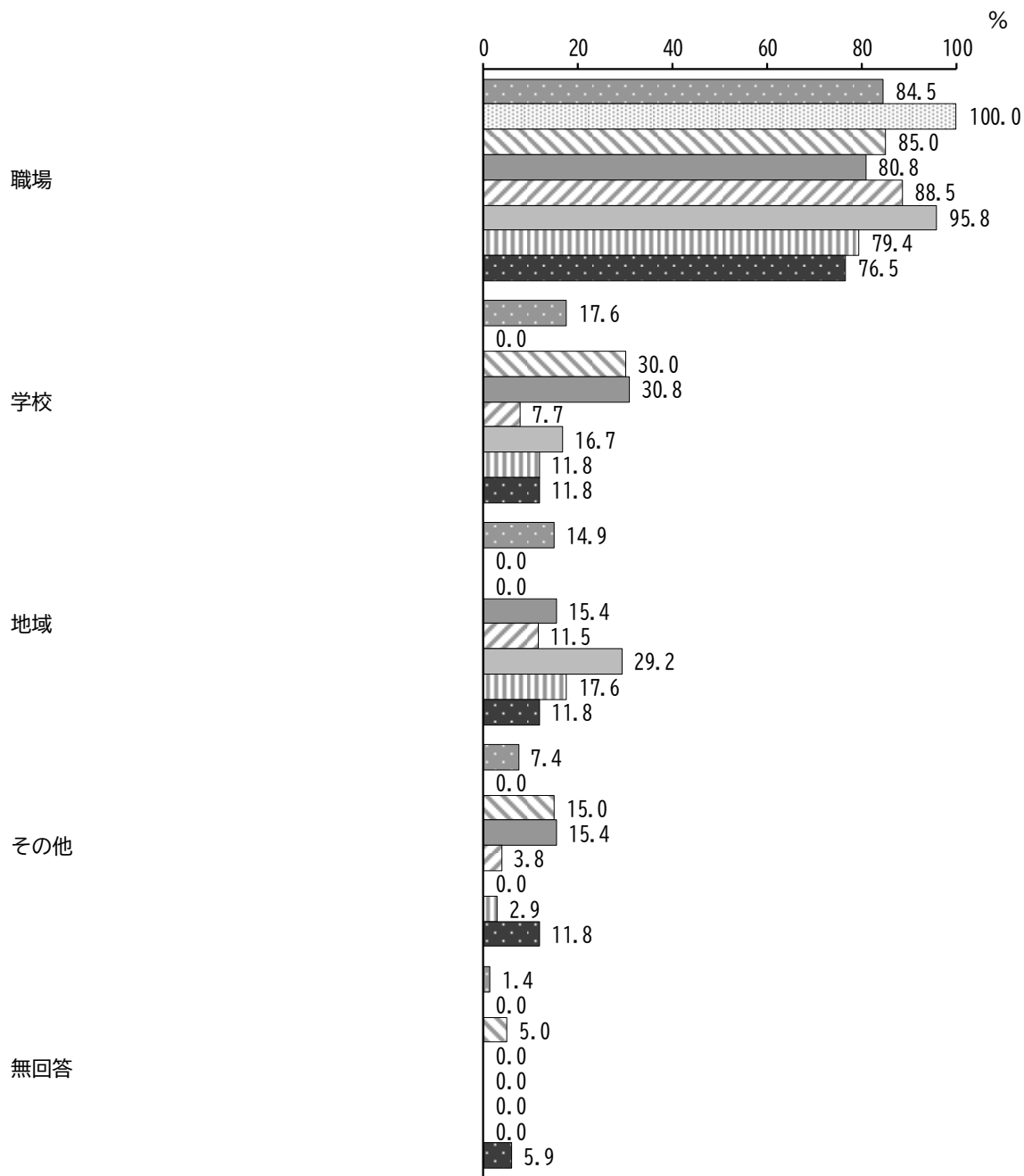


[令和元年度調査]



【年代別】

年代別でみると、50歳代で「地域」の割合が高くなっています。

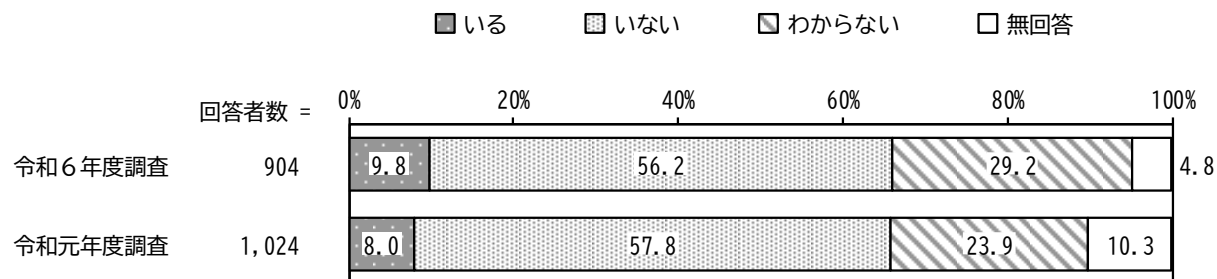


- 全 体 (回答者数 = 148)
- 18歳、19歳 (回答者数 = 1)
- 20歳代 (回答者数 = 20)
- 30歳代 (回答者数 = 26)
- 40歳代 (回答者数 = 26)
- 50歳代 (回答者数 = 24)
- 60歳代 (回答者数 = 34)
- 70歳以上 (回答者数 = 17)

問 23 あなた自身あるいはあなたの身近（家族、親戚、友人、知人、職場関係）に、L G B T Qの方は、いますか（1つに○）。

「いない」の割合が 56.2%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 29.2%、「いる」の割合が 9.8%となっています。

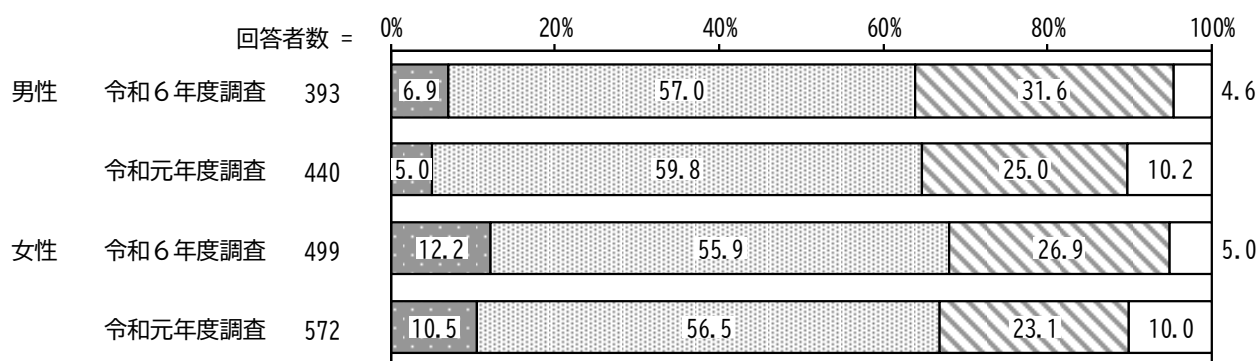
令和元年度調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。



【性別】

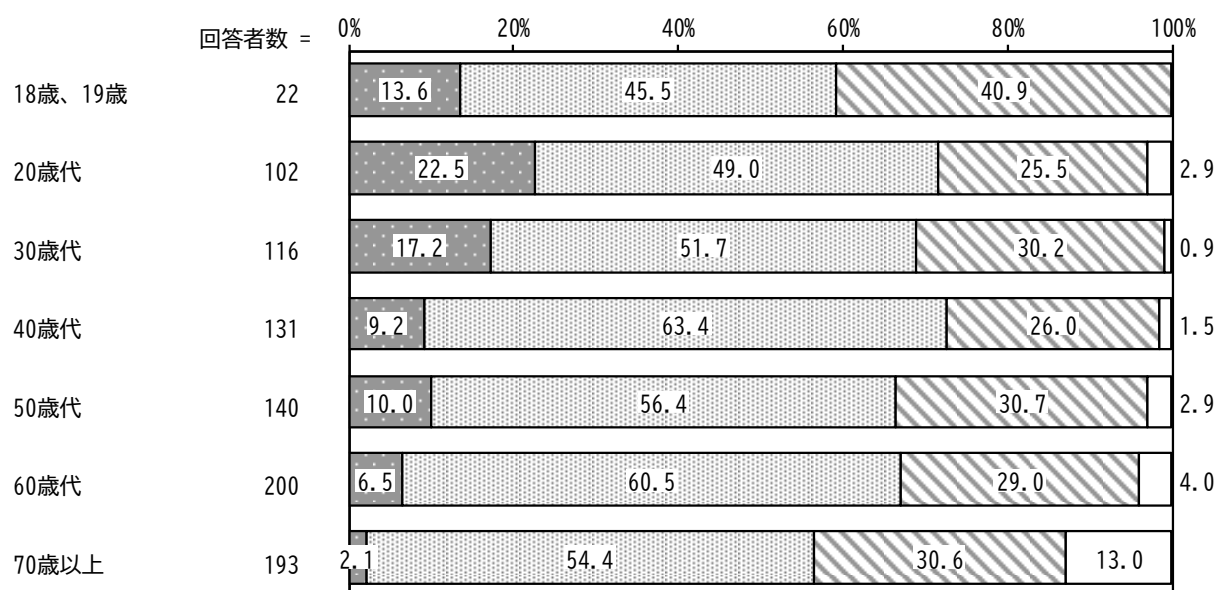
性別でみると、大きな差はみられません。

令和元年度調査と比較すると、男性で「いない」の割合は減少しています。



【年代別】

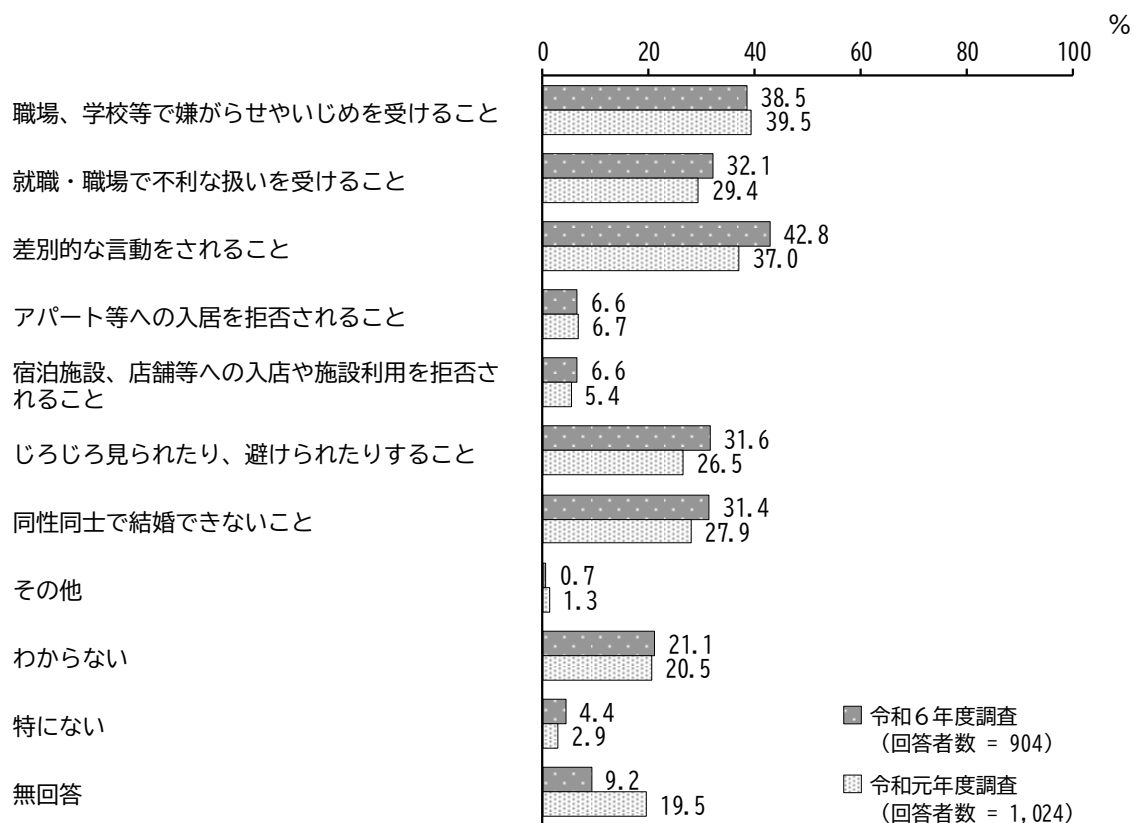
年代別でみると、18歳、19歳で「わからない」の割合が高くなっています。



問 24 L G B T Qに関して、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか
(あてはまるものすべてに○)。

「差別的な言動をされること」の割合が 42.8%と最も高く、次いで「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」の割合が 38.5%、「就職・職場で不利な扱いを受けること」の割合が 32.1%となっています。

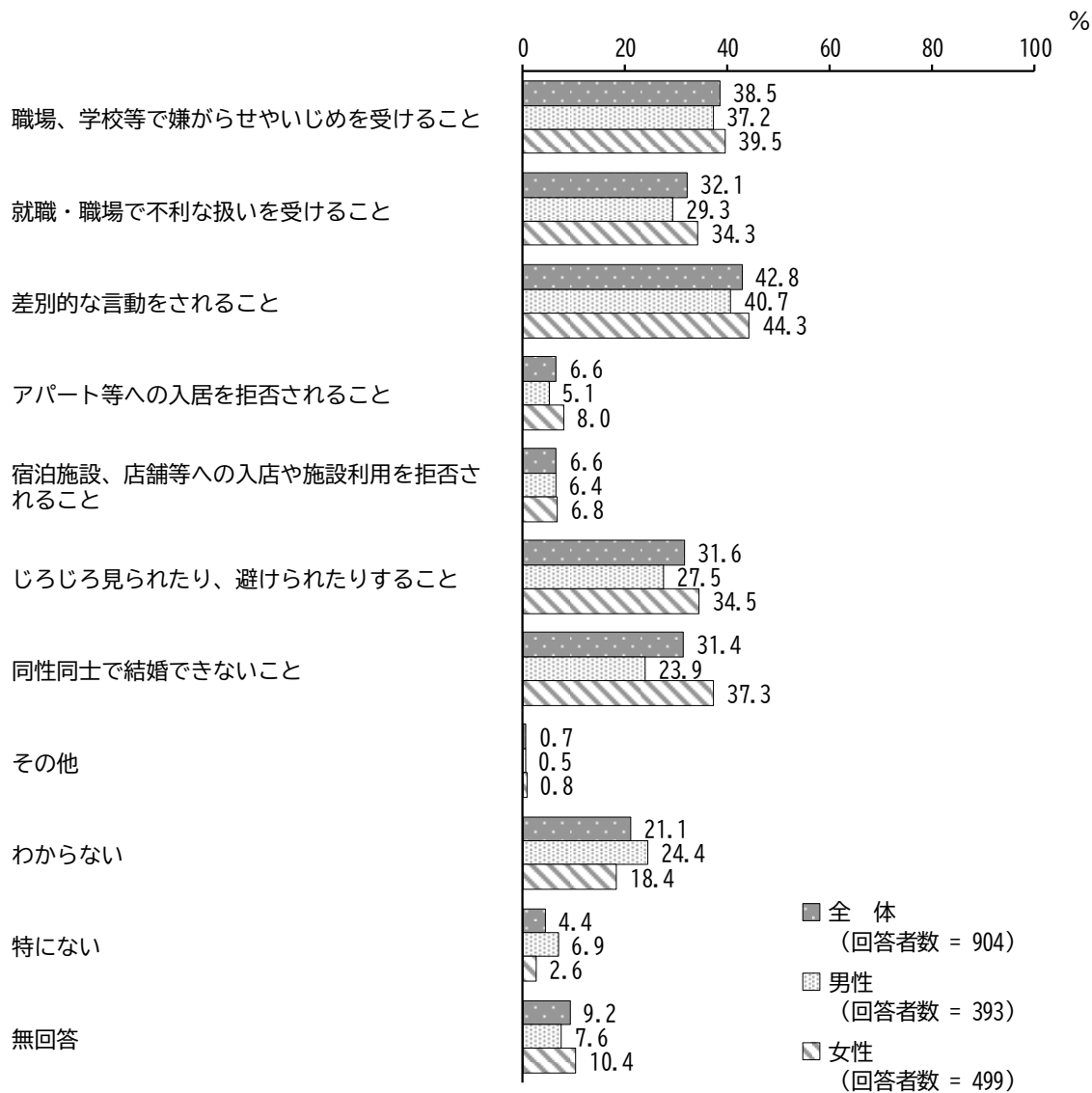
令和元年度調査と比較すると、「差別的な言動をされること」「じろじろ見られたり、避けられたりすること」の割合が増加しています。



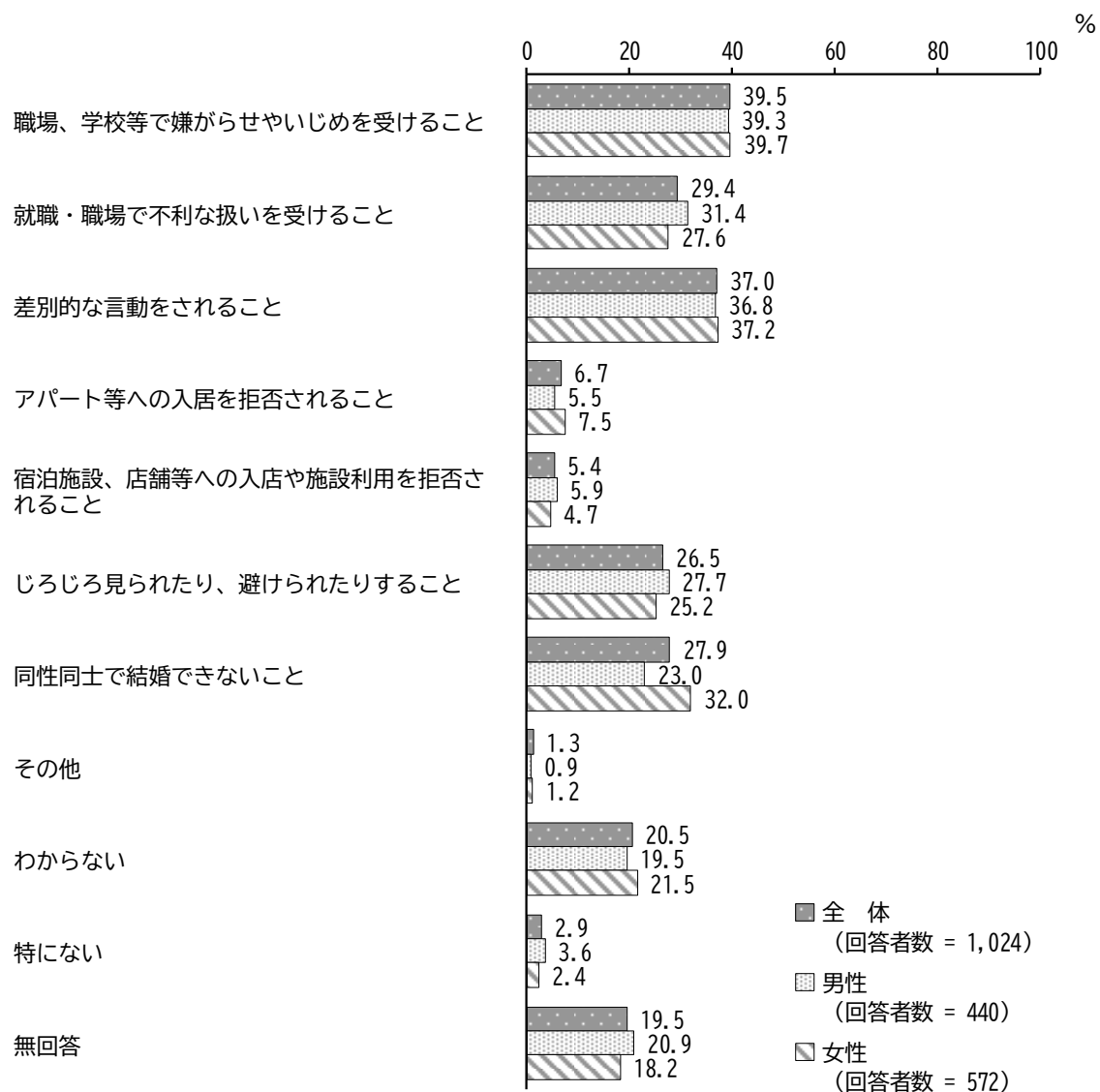
【性別】

性別でみると、女性で「同性同士で結婚できないこと」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、女性で「就職・職場で不利な扱いを受けること」「差別的な言動をされること」「じろじろ見られたり、避けられたりすること」「同性同士で結婚できないこと」の割合が増加しています。



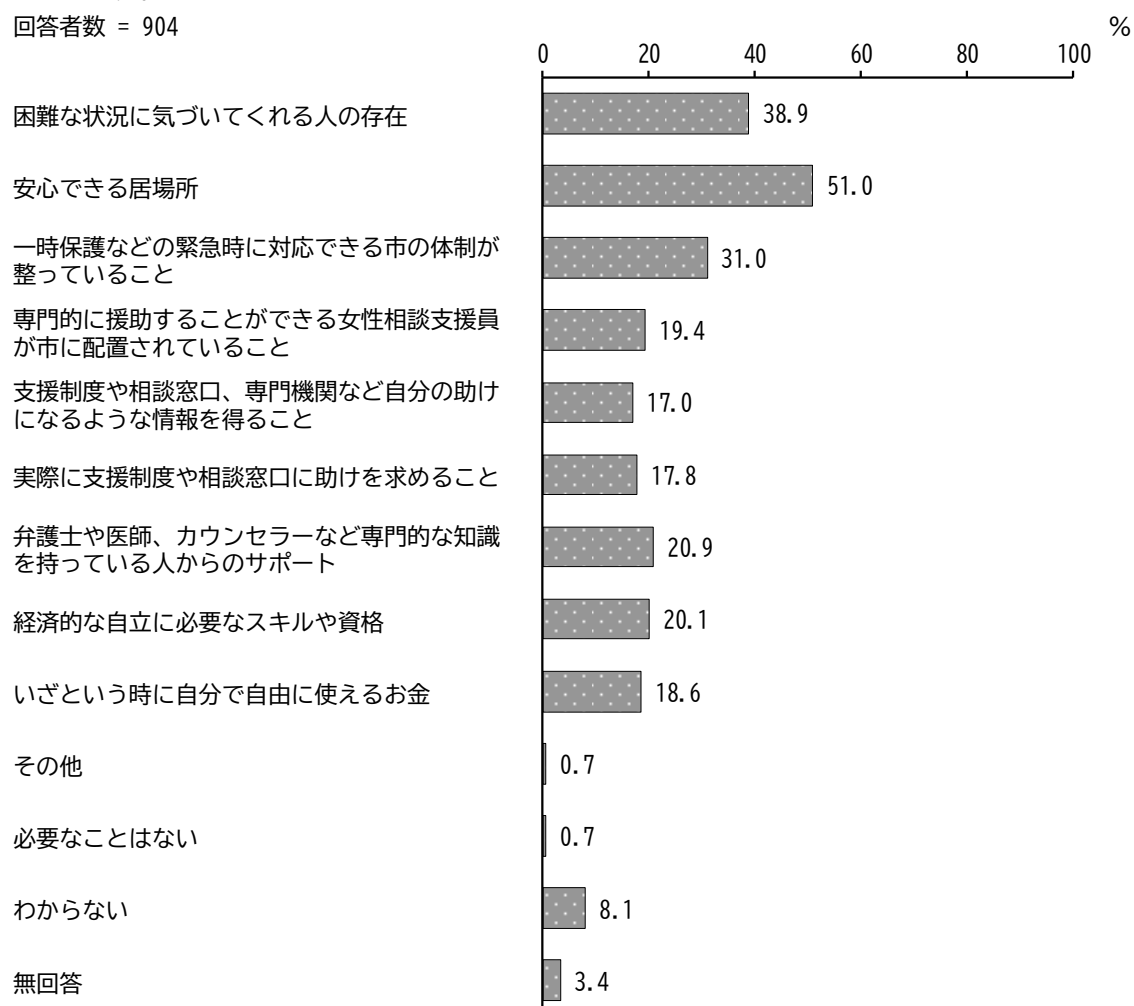
[令和元年度調査]



問 25 困難な問題を抱える女性への支援が求められています、女性が困難な状況から回復するためには、どんなことが必要だと思いますか（3つまで○）。

「安心できる居場所」の割合が 51.0%と最も高く、次いで「困難な状況に気づいてくれる人の存在」の割合が 38.9%、「一時保護などの緊急時に対応できる市の体制が整っていること」の割合が 31.0%となっています。

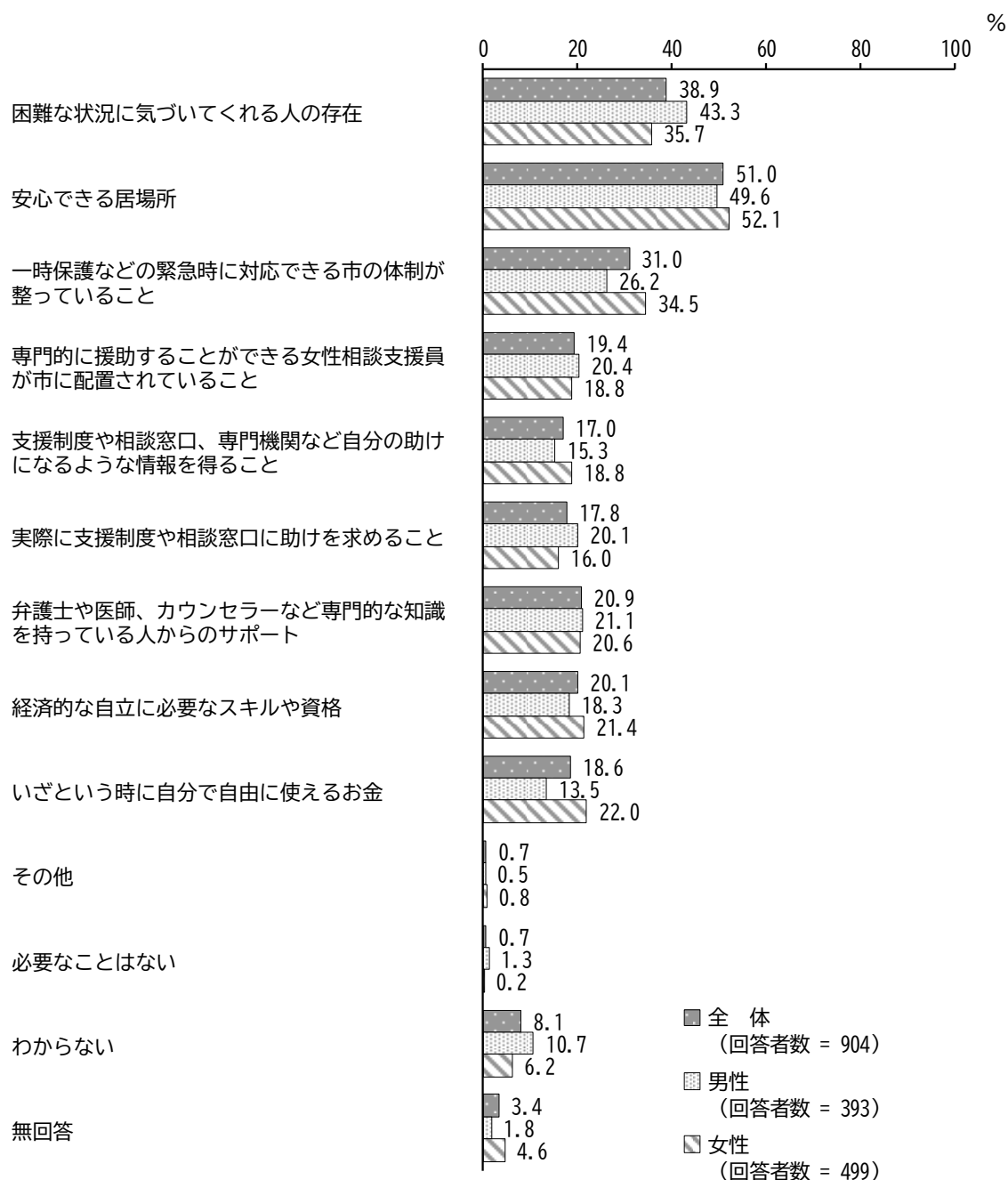
回答者数 = 904



【性別】

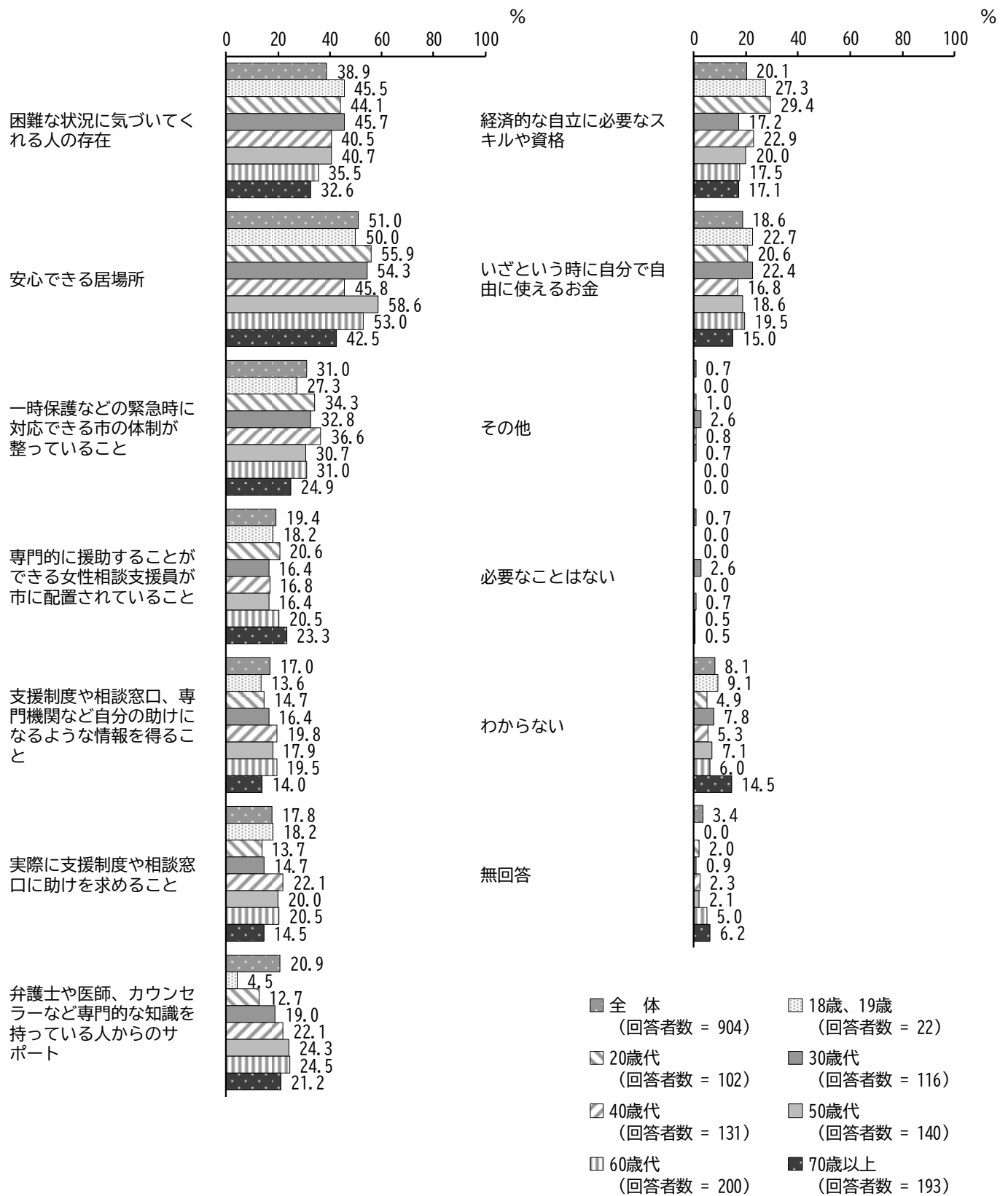
性別でみると、女性で「いざという時に自分で自由に使えるお金」の割合が、男性で「困難な状況に気づいてくれる人の存在」の割合が高くなっています。

また、男性では「安心できる場所」の割合が 49.6%と最も高く、次いで「困難な状況に気づいてくれる人の存在」の割合が 43.3%となっています。女性では「安心できる場所」の割合が 52.1%と最も高く、次いで「困難な状況に気づいてくれる人の存在」の割合が 35.7%、「一時保護などの緊急時に対応できる市の体制が整っていること」の割合が 34.5%となっています。



【年代別】

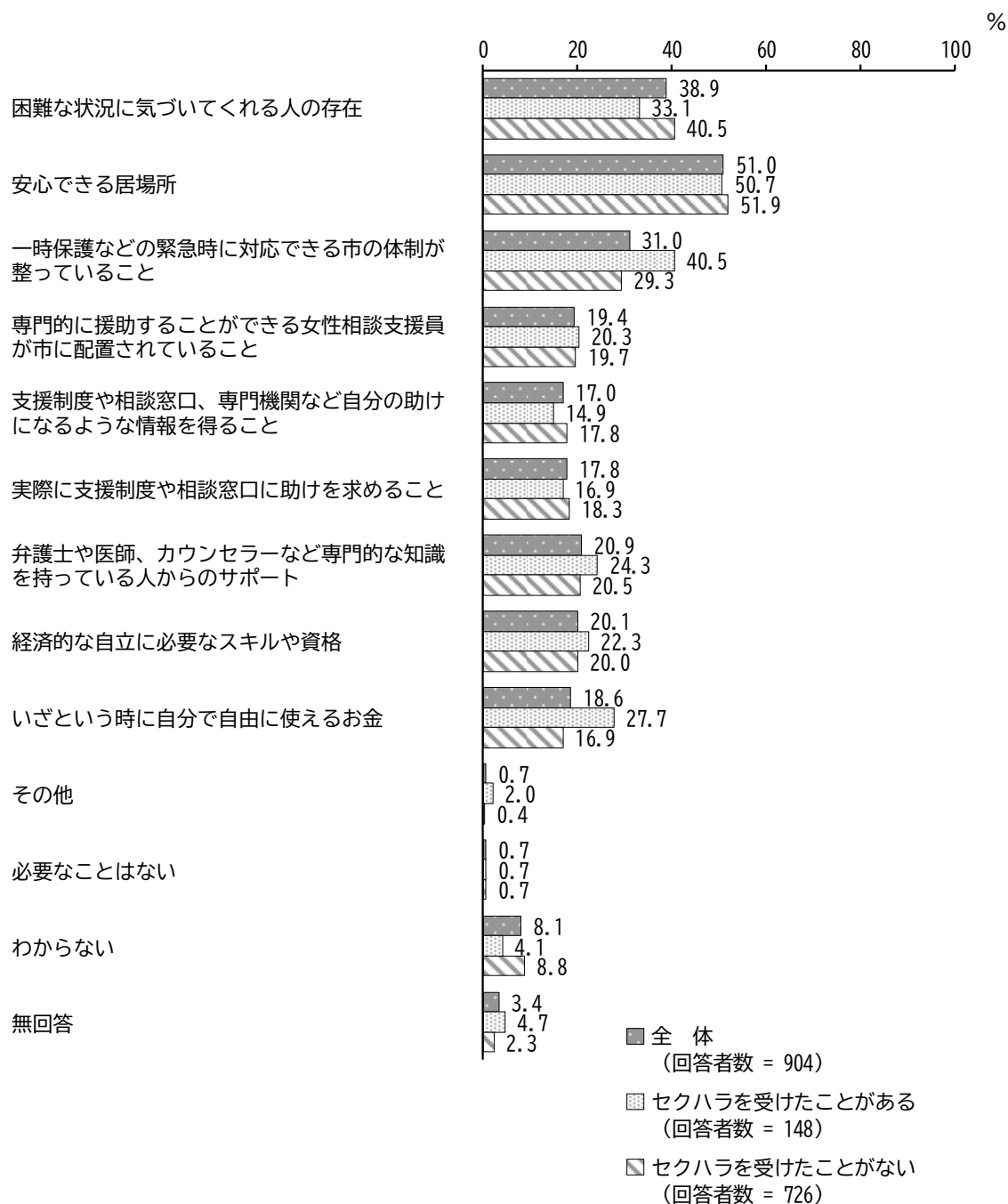
年代別でみると、20歳代で「経済的な自立に必要なスキルや資格」の割合が高くなっています。



【セクハラを受けたことの有無別】

セクハラを受けたことの有無別でみると、セクハラを受けたことがあるで「一時保護などの緊急時に対応できる市の体制が整っていること」の割合が高くなっています。

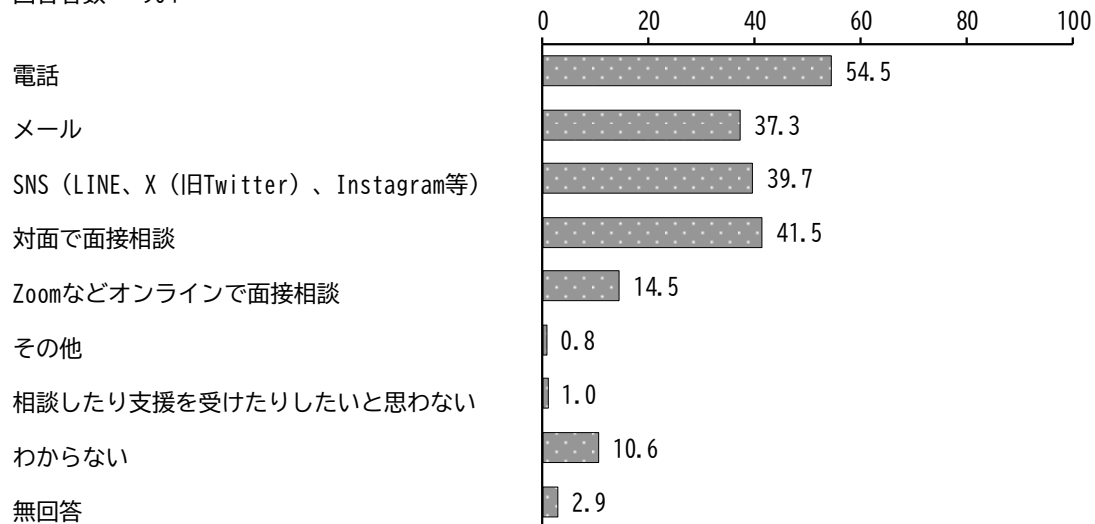
セクハラを受けたことがあるでは、「安心できる場所」の割合が50.7%と最も高く、次いで「一時保護などの緊急時に対応できる市の体制が整っていること」の割合が40.5%となっています。セクハラを受けたことがないでは、「安心できる場所」の割合が51.9%と最も高く、次いで「困難な状況に気づいてくれる人の存在」の割合が40.5%となっています。



問 26 あなたは、困難な問題を抱える女性が公的機関等に相談する場合、どのような方法が相談しやすいと思いますか（あてはまるものすべてに○）。

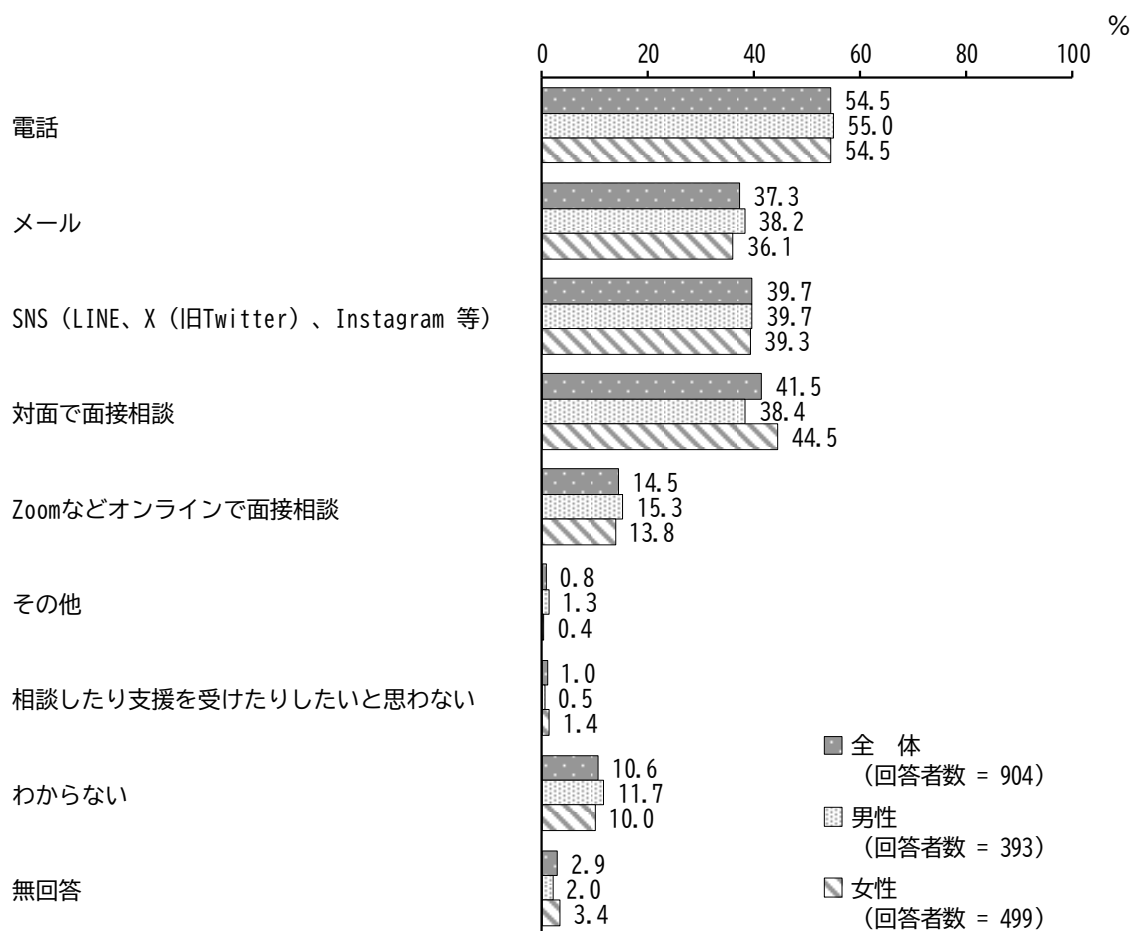
「電話」の割合が 54.5%と最も高く、次いで「対面で面接相談」の割合が 41.5%、「SNS（LINE、X（旧 Twitter）、Instagram 等）」の割合が 39.7%となっています。

回答者数 = 904



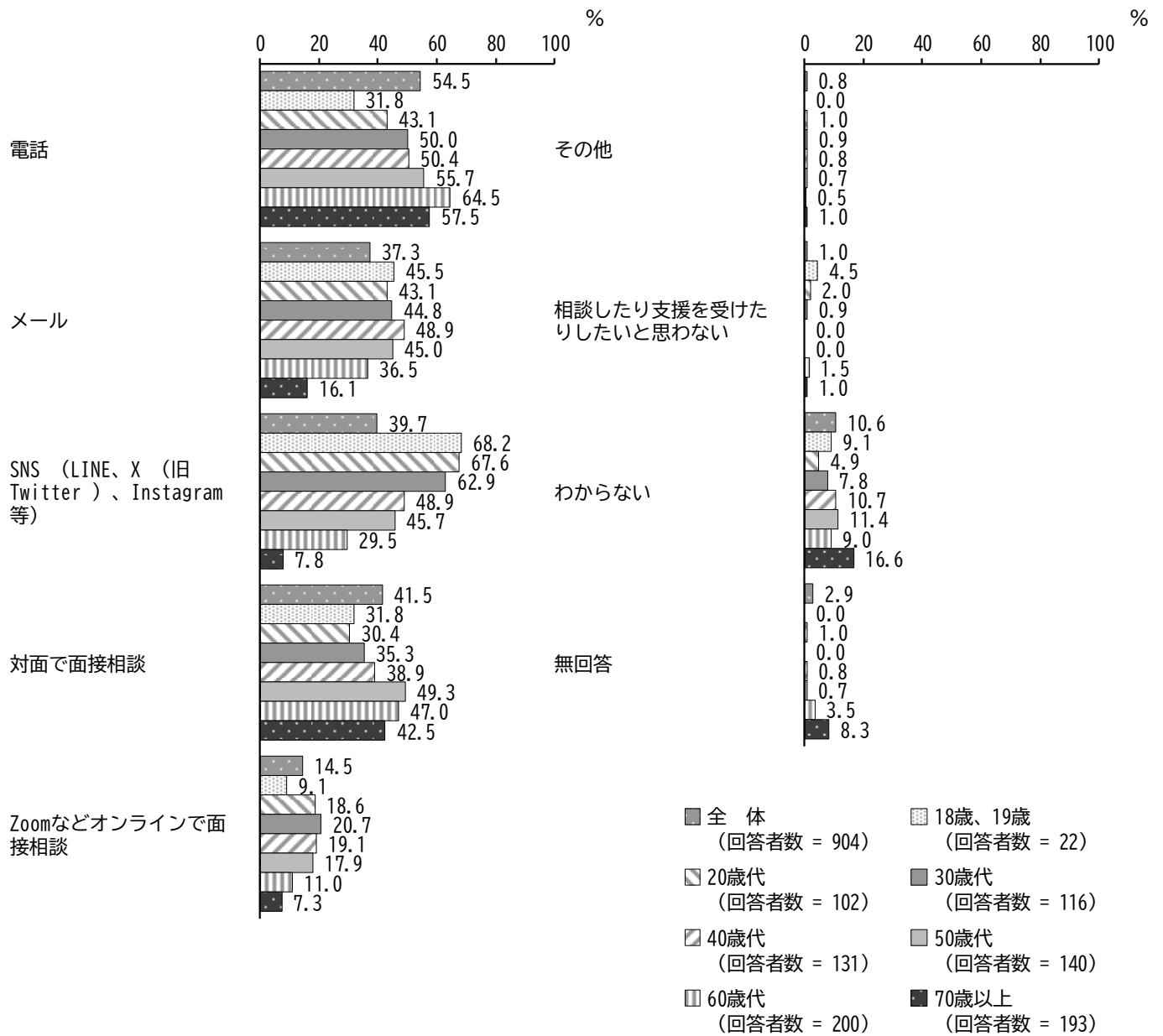
【性別】

性別でみると、女性で「対面で面接相談」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、18歳、19歳で「SNS（LINE、X（旧Twitter）、Instagram等）」の割合が高くなっています。

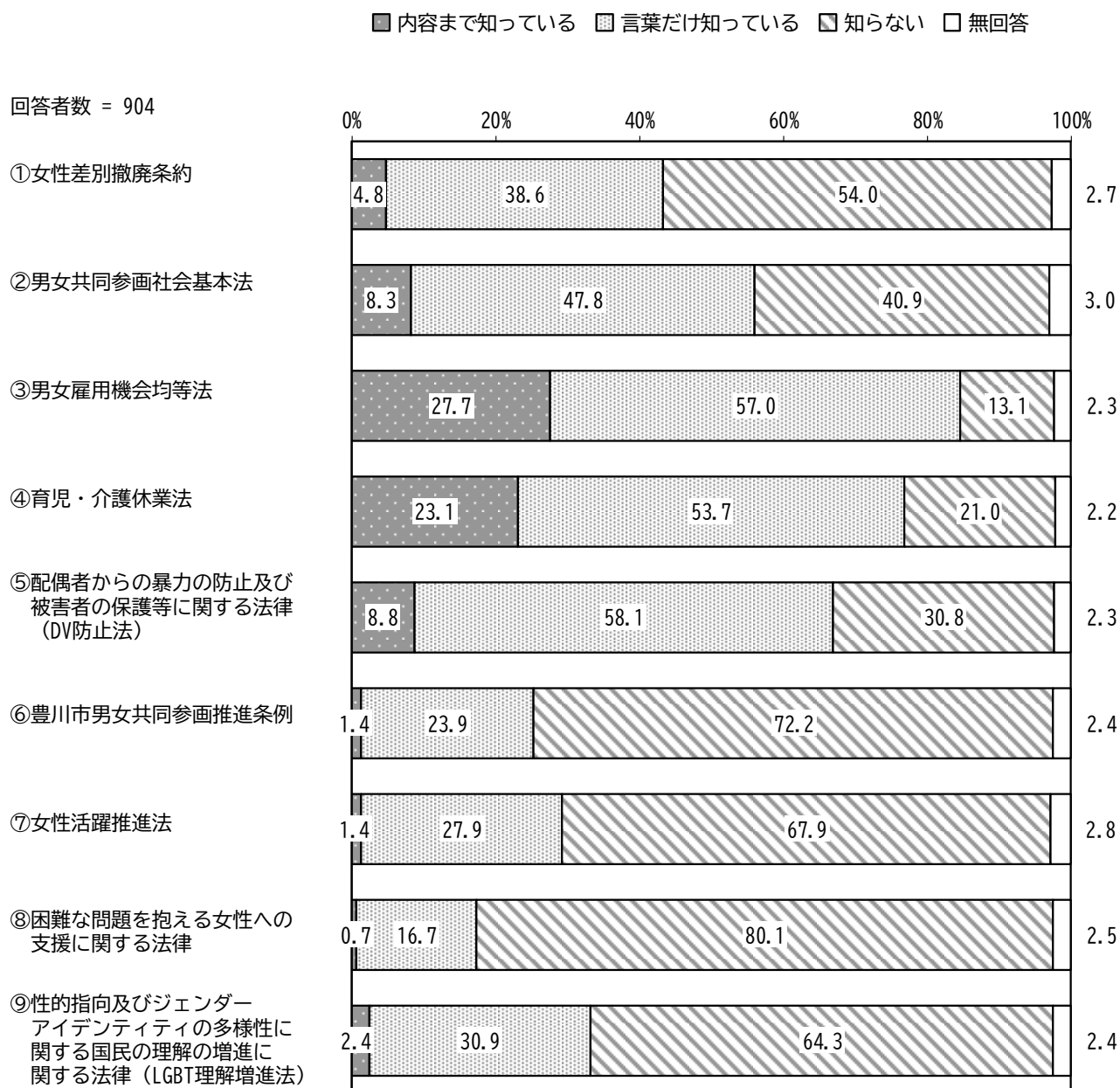


8 男女共同参画について

問 27 あなたは、①～⑨の法律・条例等を知っていますか（それぞれ1つに○）。

『③男女雇用機会均等法』『④育児・介護休業法』で「内容まで知っている」の割合が高くなっています。一方、『⑧困難な問題を抱える女性への支援に関する法律』で「知らない」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、『①女性差別撤廃条約』『②男女共同参画社会基本法』『⑤配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）』で「言葉だけ知っている」の割合が増加しています。

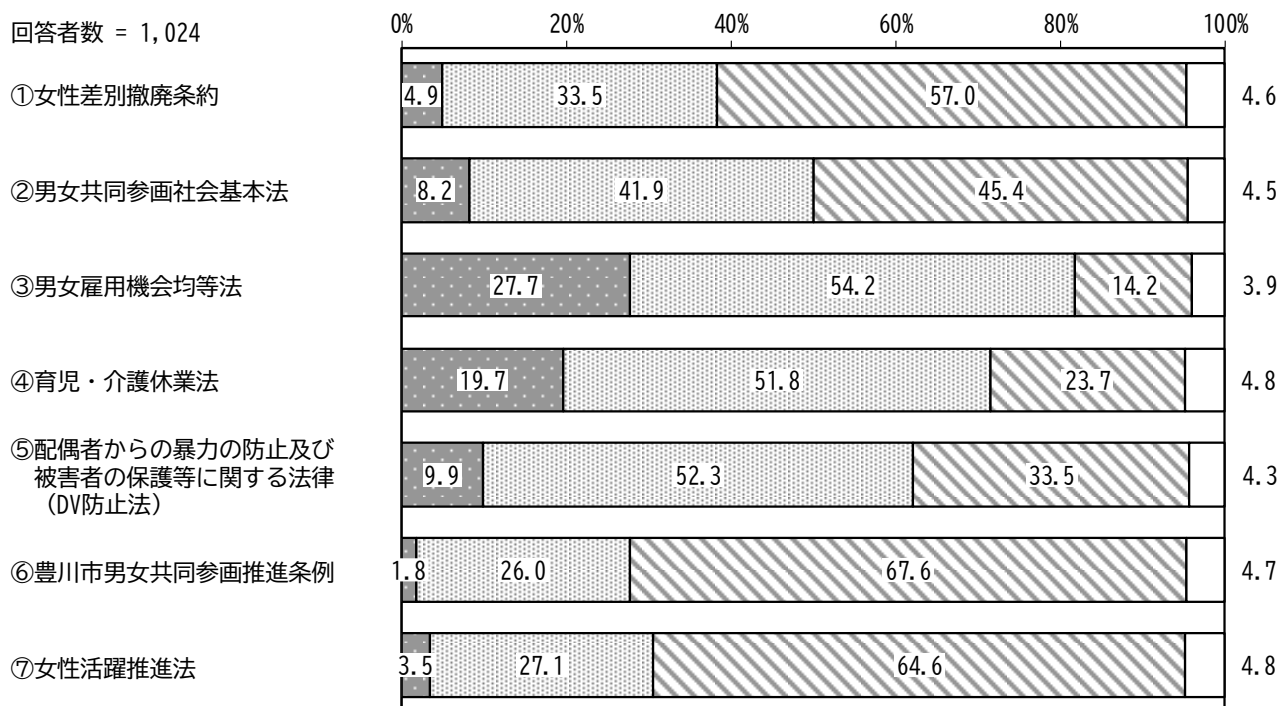


※『⑧困難な問題を抱える女性への支援に関する法律』『⑨性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律（LGBT理解増進法）』は、今回調査から追加されました。

[令和元年度調査]

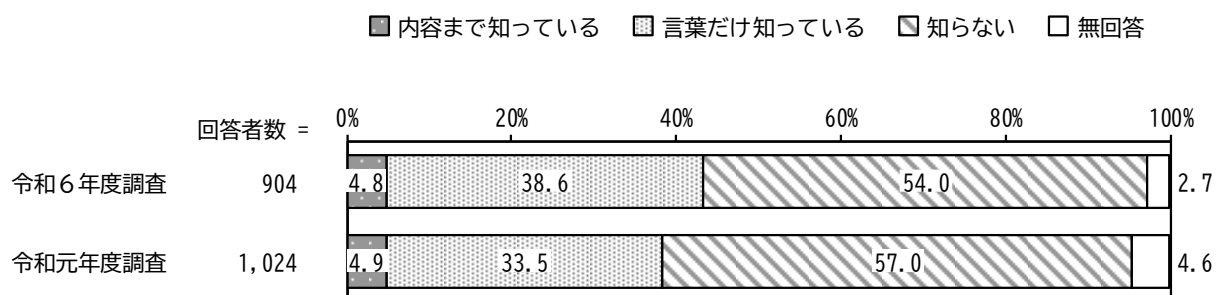
■ 内容まで知っている ■ 言葉だけ知っている ■ 知らない □ 無回答

回答者数 = 1,024



①女性差別撤廃条約

令和元年度調査と比較すると、「言葉だけ知っている」の割合が増加しています。



【性別】

性別でみると、大きな差はみられません。

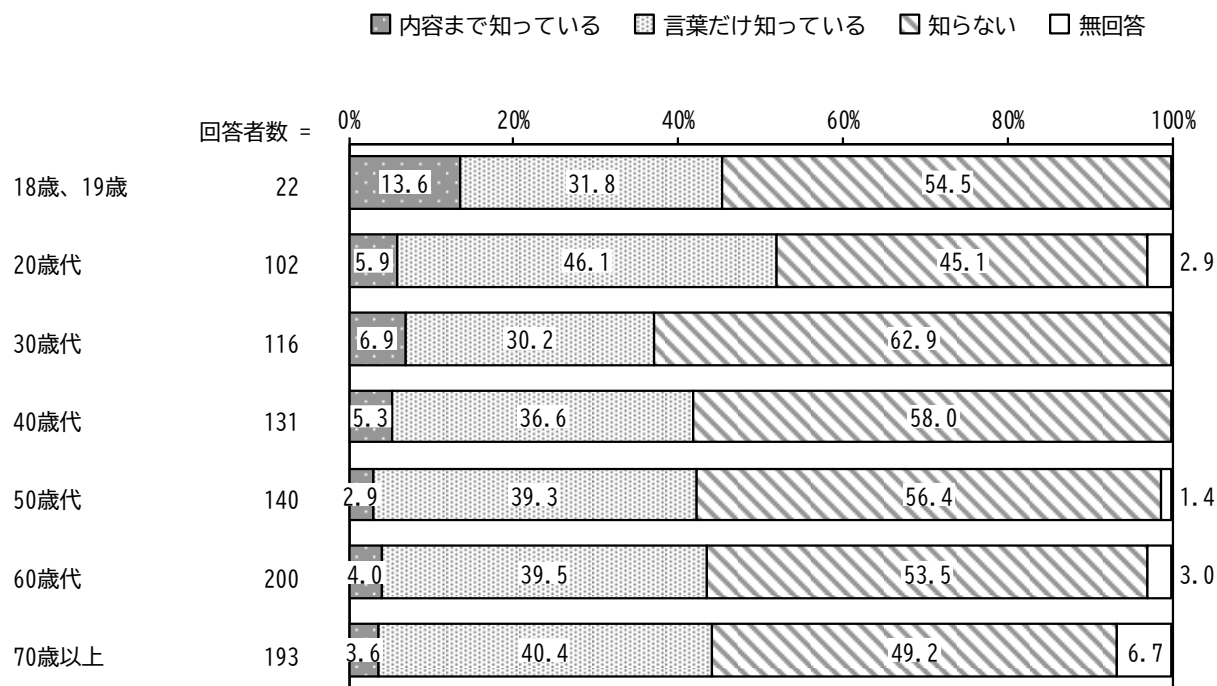
令和元年度調査と比較すると、女性で「言葉だけ知っている」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。



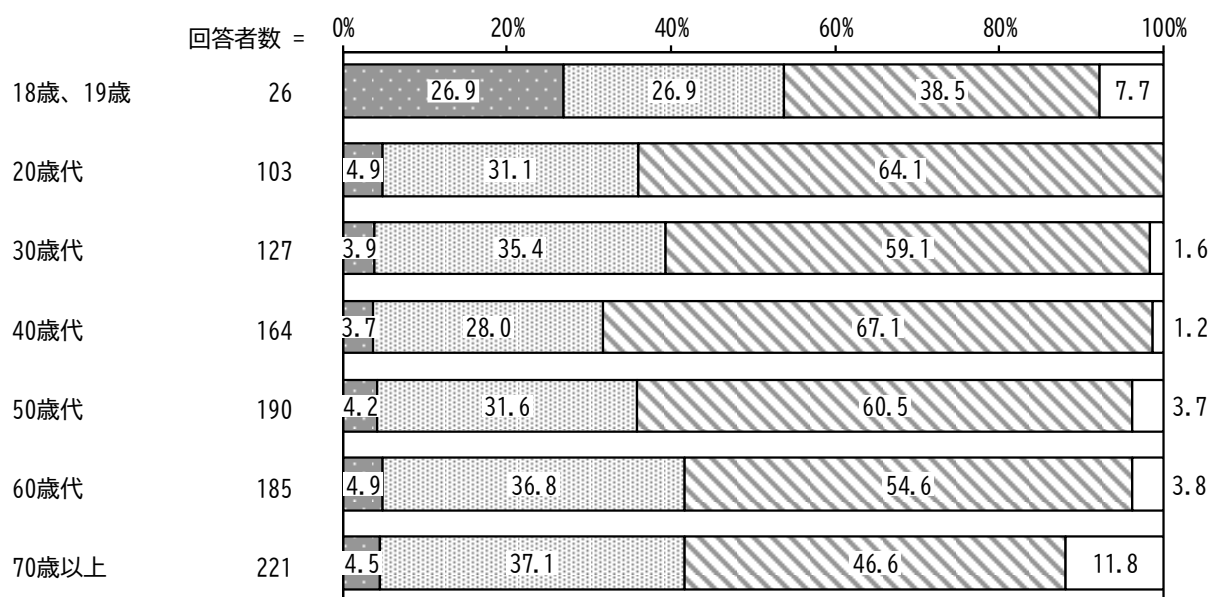
【年代別】

年代別でみると、30歳代で「知らない」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、20歳代、40歳代、50歳代で「言葉だけ知っている」の割合が、18歳、19歳で「知らない」の割合が増加しています。一方、18歳、19歳で「内容まで知っている」の割合が、20歳代、40歳代で「知らない」の割合が減少しています。

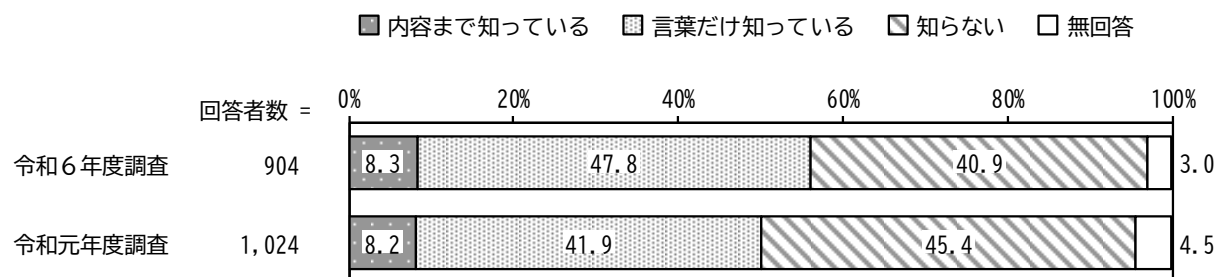


〔令和元年度調査〕



②男女共同参画社会基本法

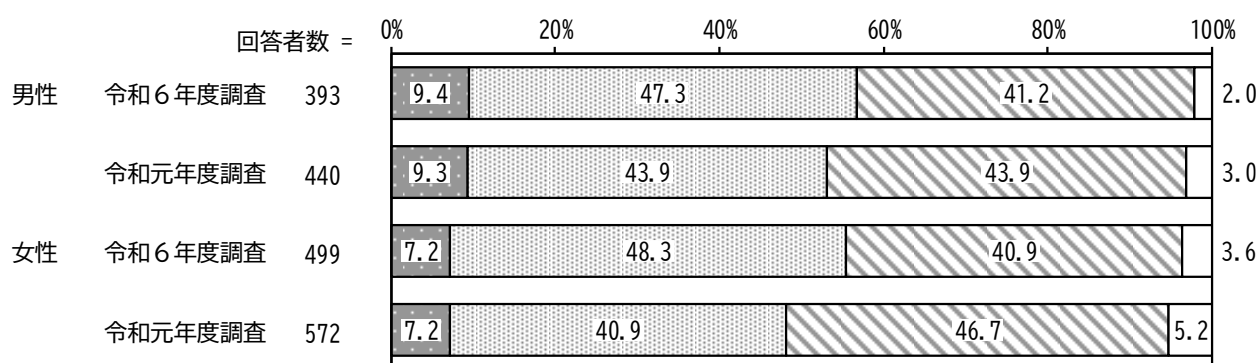
令和元年度調査と比較すると、「言葉だけ知っている」の割合が増加しています。



【性別】

性別でみると、大きな差はみられません。

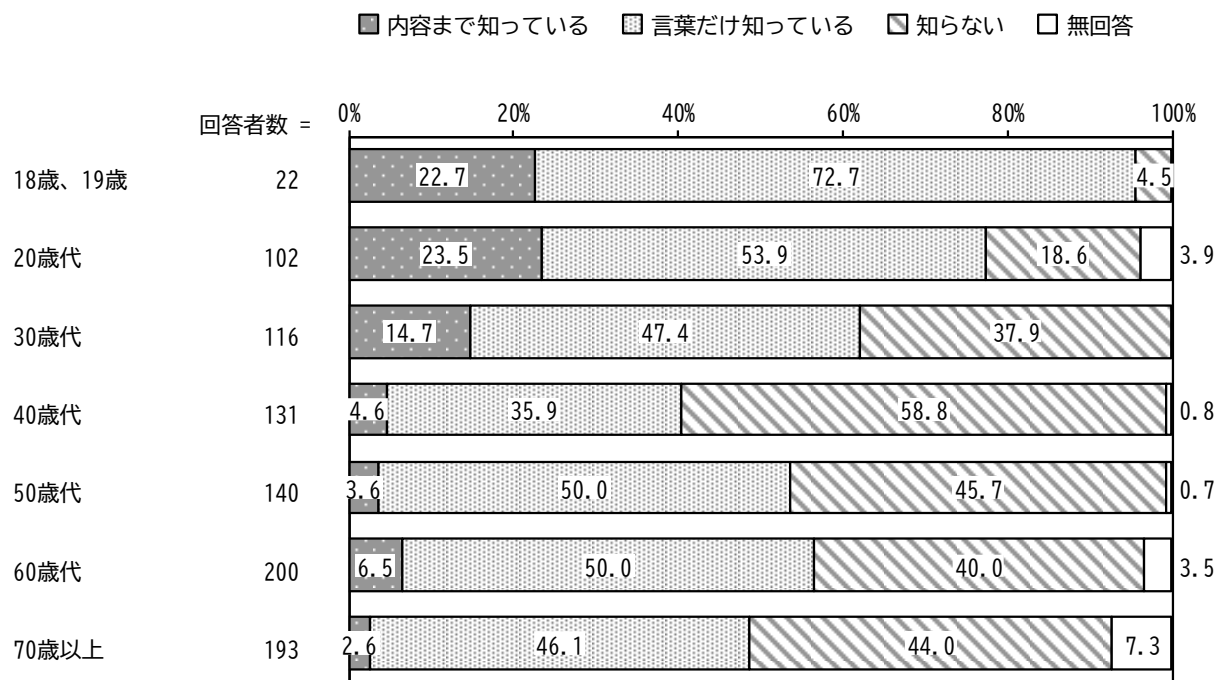
令和元年度調査と比較すると、女性で「言葉だけ知っている」の割合が増加しています。一方、女性で「知らない」の割合が減少しています。



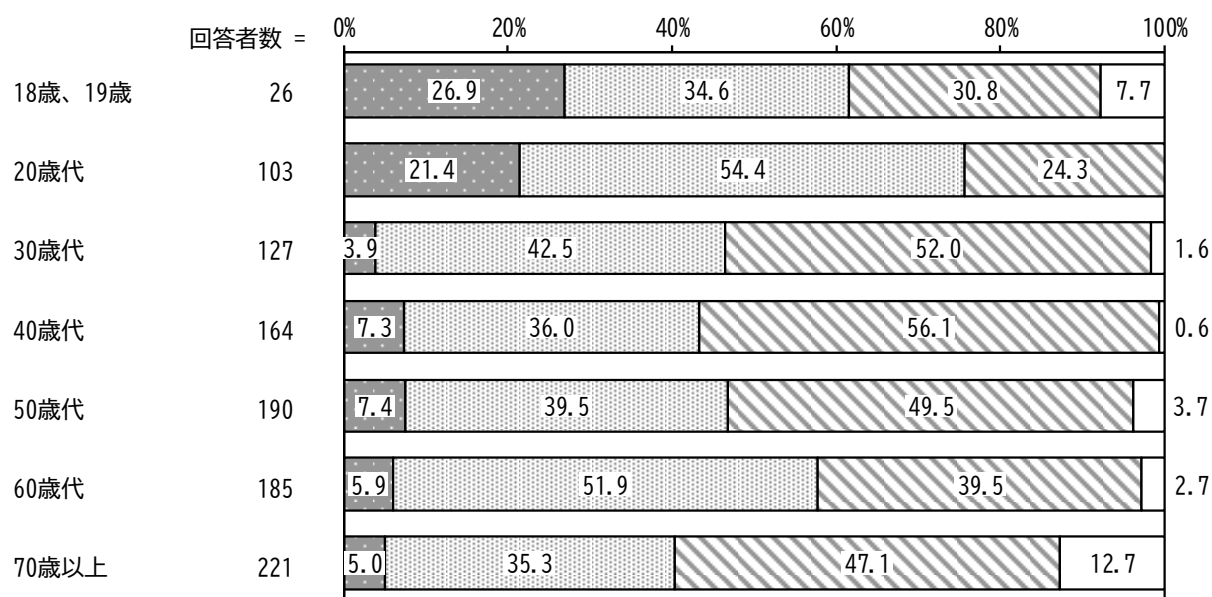
【年代別】

年代別でみると、18歳、19歳で「言葉だけ知っている」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、30歳代で「内容まで知っている」の割合が、18歳、19歳、50歳代、70歳以上で「言葉だけ知っている」の割合が増加しています。一方、18歳、19歳、20歳代、30歳代で「知らない」の割合が減少しています。

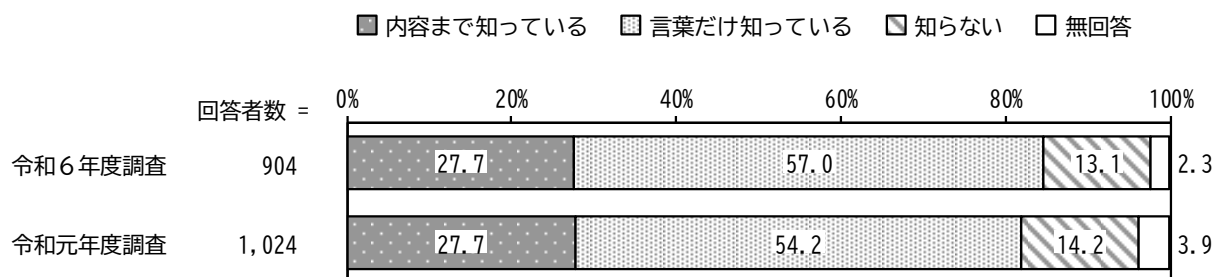


〔令和元年度調査〕



③男女雇用機会均等法

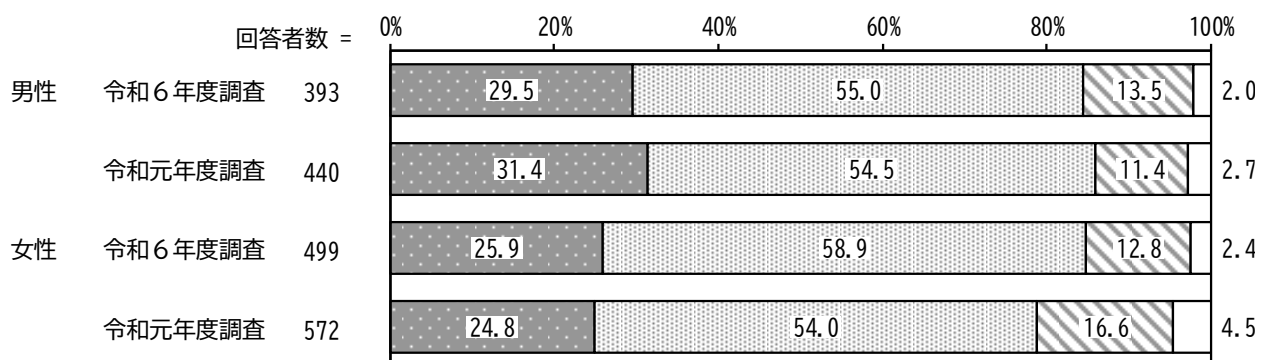
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別でみると、大きな差はみられません。

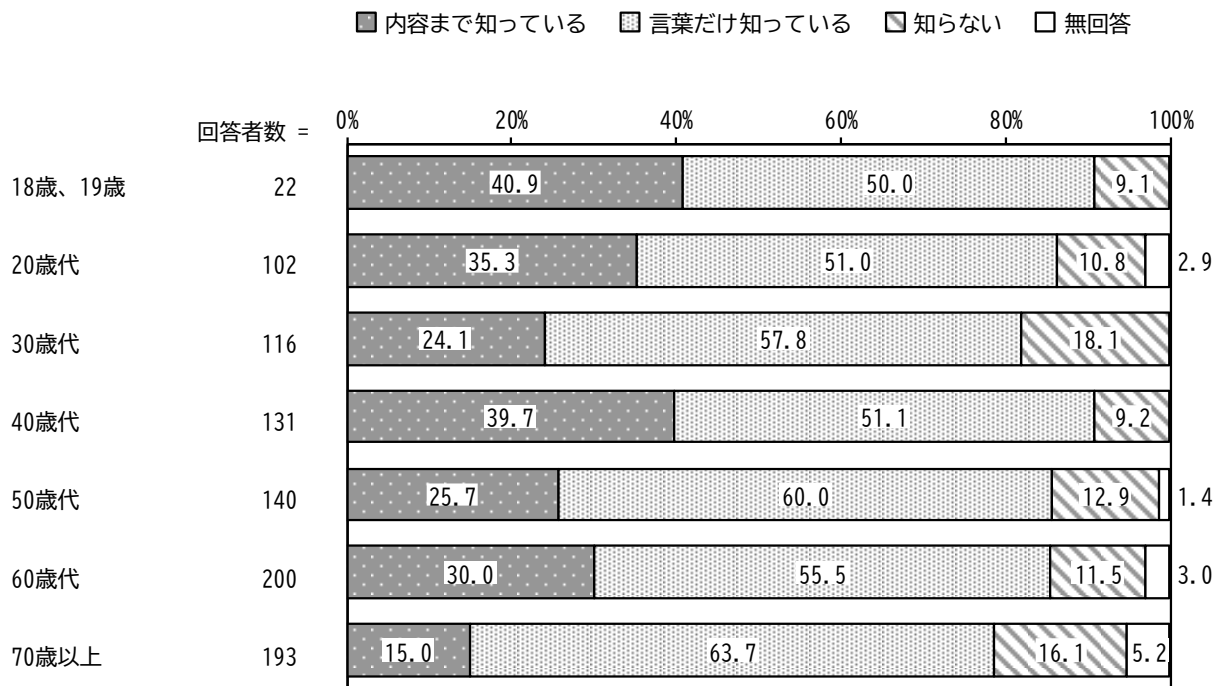
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



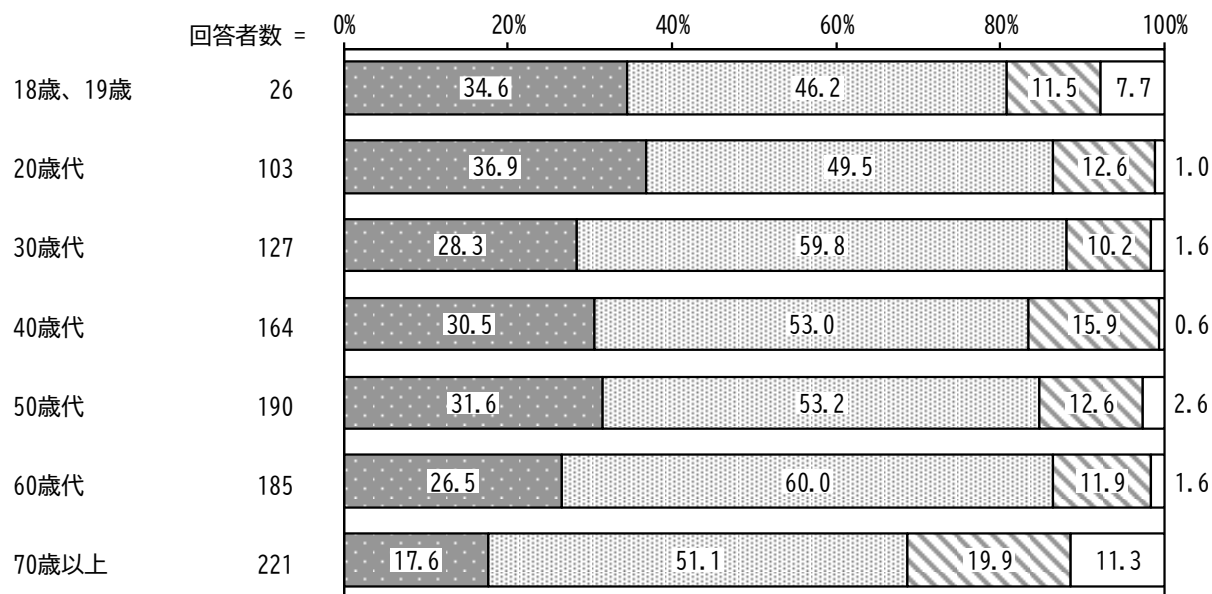
【年代別】

年代別でみると、18歳、19歳で「内容まで知っている」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、18歳、19歳、40歳代で「内容まで知っている」の割合が、70歳以上で「言葉だけ知っている」の割合が、30歳代で「知らない」の割合が増加しています。一方、50歳代で「内容まで知っている」の割合が、30歳代、40歳代で「知らない」の割合が減少しています。

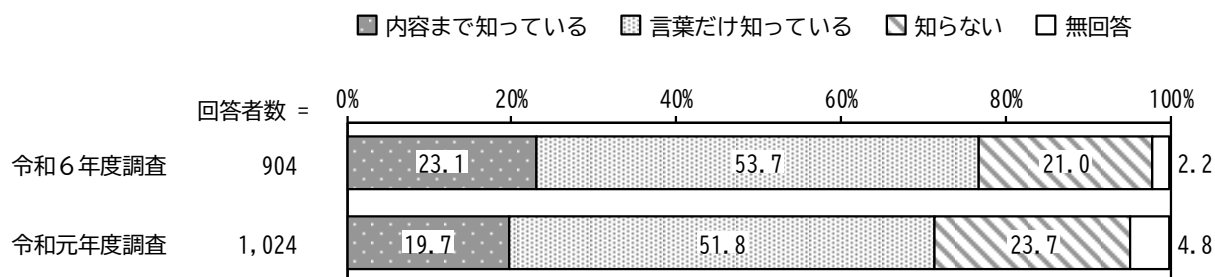


〔令和元年度調査〕



④育児・介護休業法

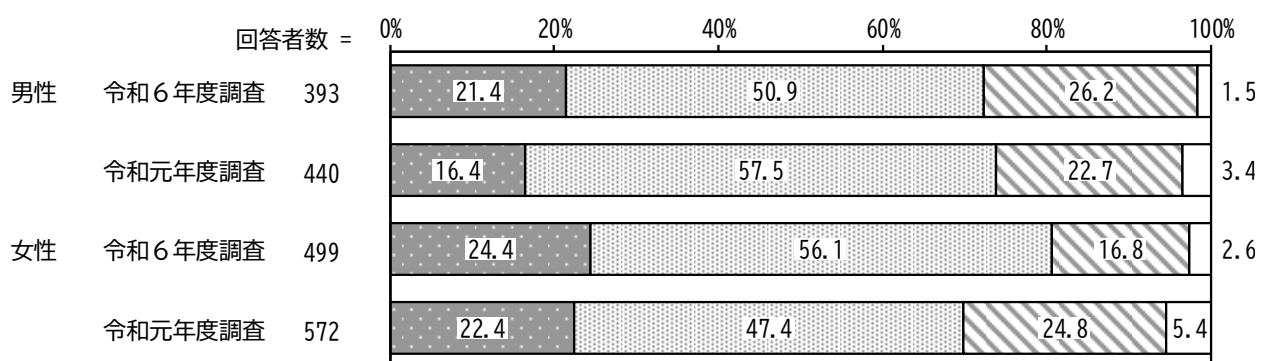
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別でみると、男性で「知らない」の割合が高くなっています。

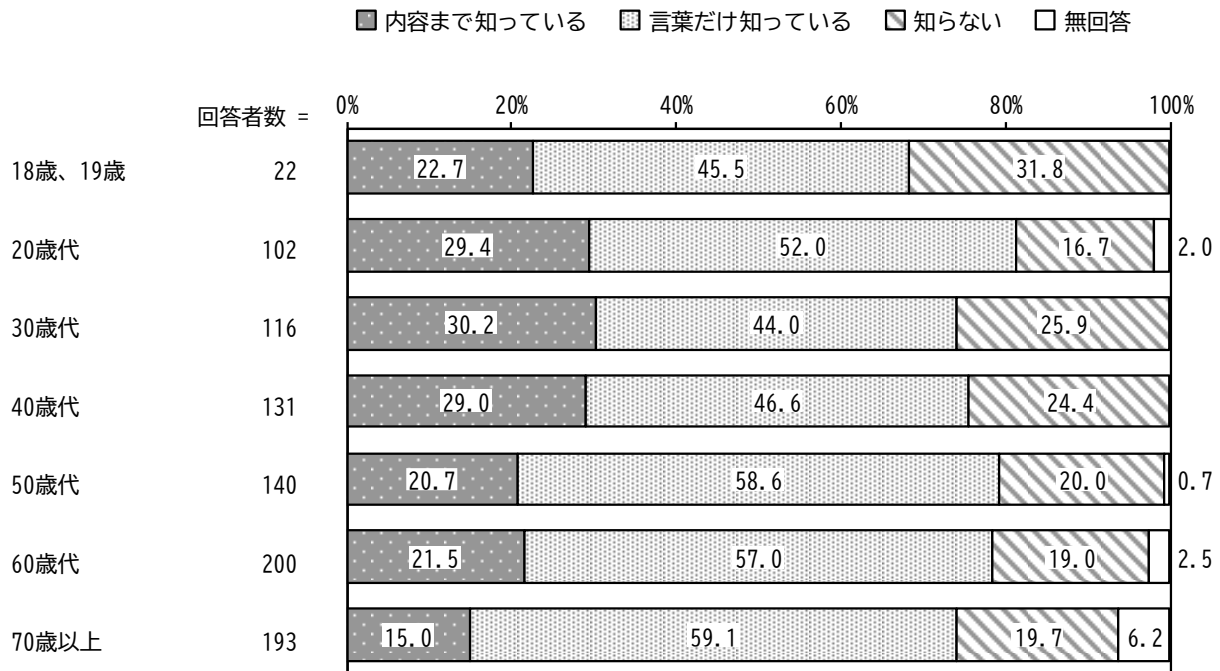
令和元年度調査と比較すると、男性で「内容まで知っている」の割合が、女性で「言葉だけ知っている」の割合が増加しています。一方、男性で「言葉だけ知っている」の割合が、女性で「知らない」の割合が減少しています。



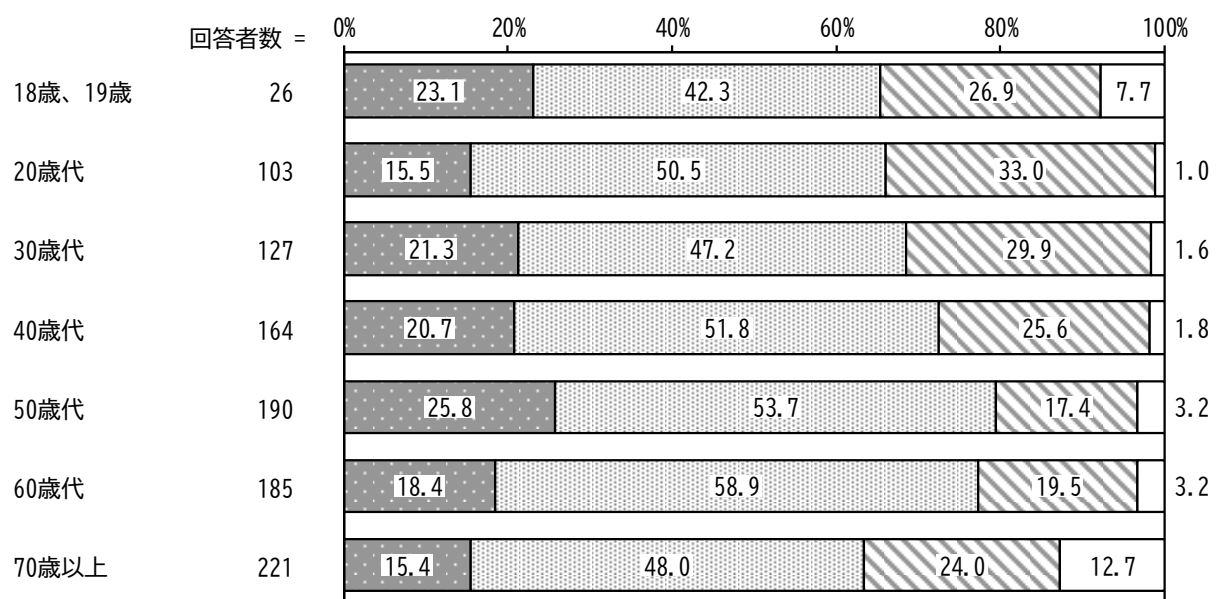
【年代別】

年代別でみると、18歳、19歳で「知らない」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、20歳代、30歳代で「内容まで知っている」の割合が、70歳以上で「言葉だけ知っている」の割合が増加しています。一方、40歳代で「言葉だけ知っている」の割合が、20歳代で「知らない」の割合が減少しています。

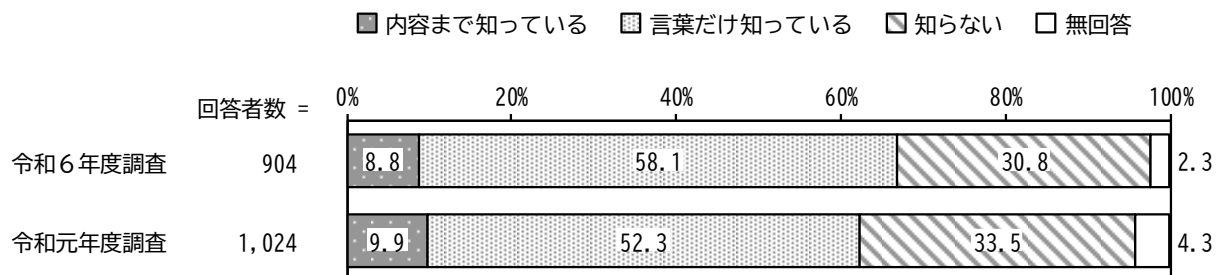


〔令和元年度調査〕



⑤配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV 防止法）

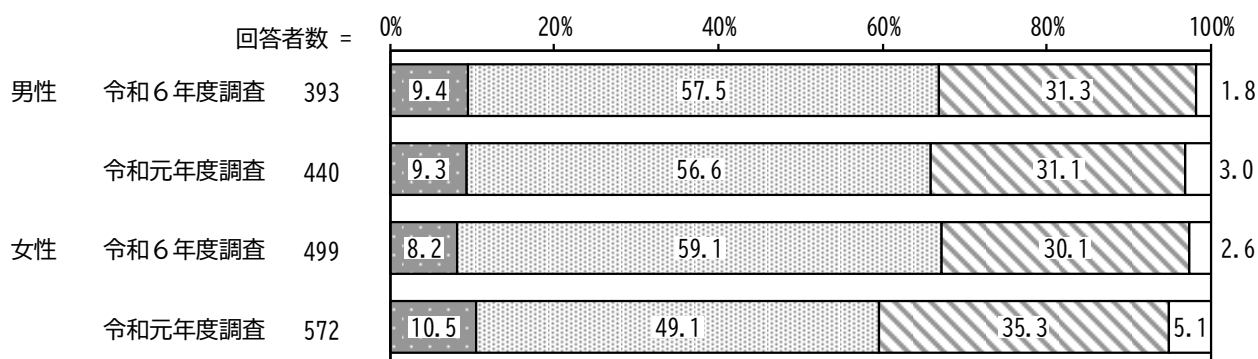
令和元年度調査と比較すると、「言葉だけ知っている」の割合が増加しています。



【性別】

性別でみると、大きな差はみられません。

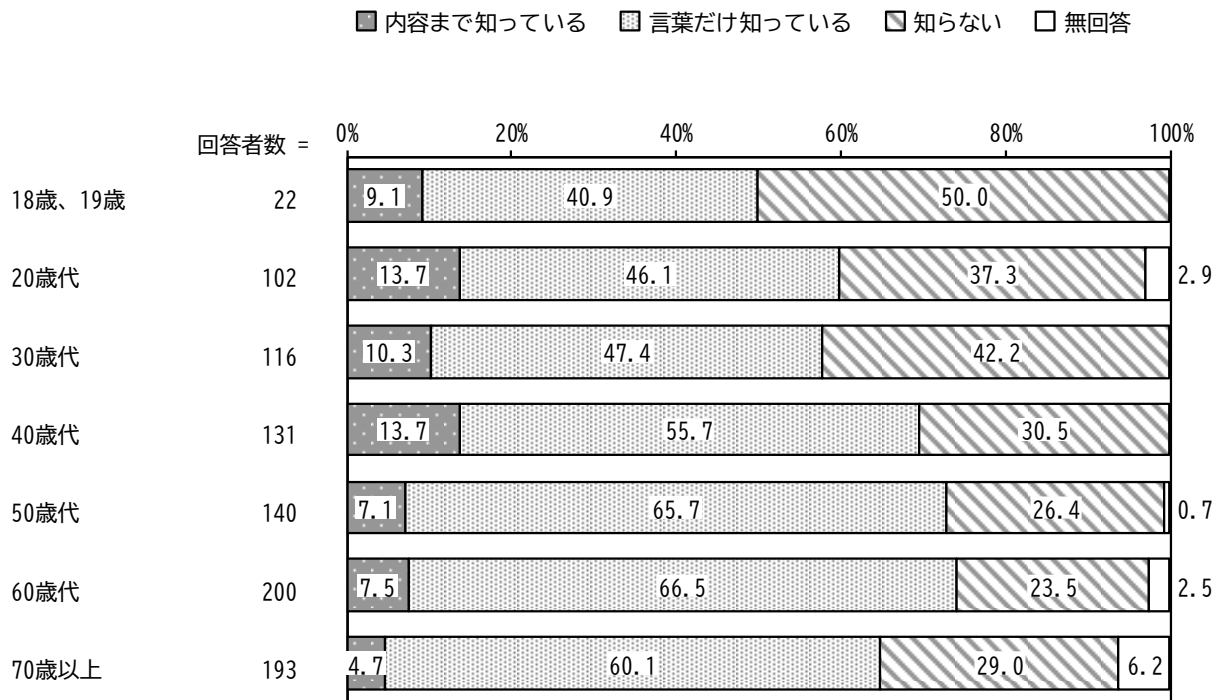
令和元年度調査と比較すると、女性で「言葉だけ知っている」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。



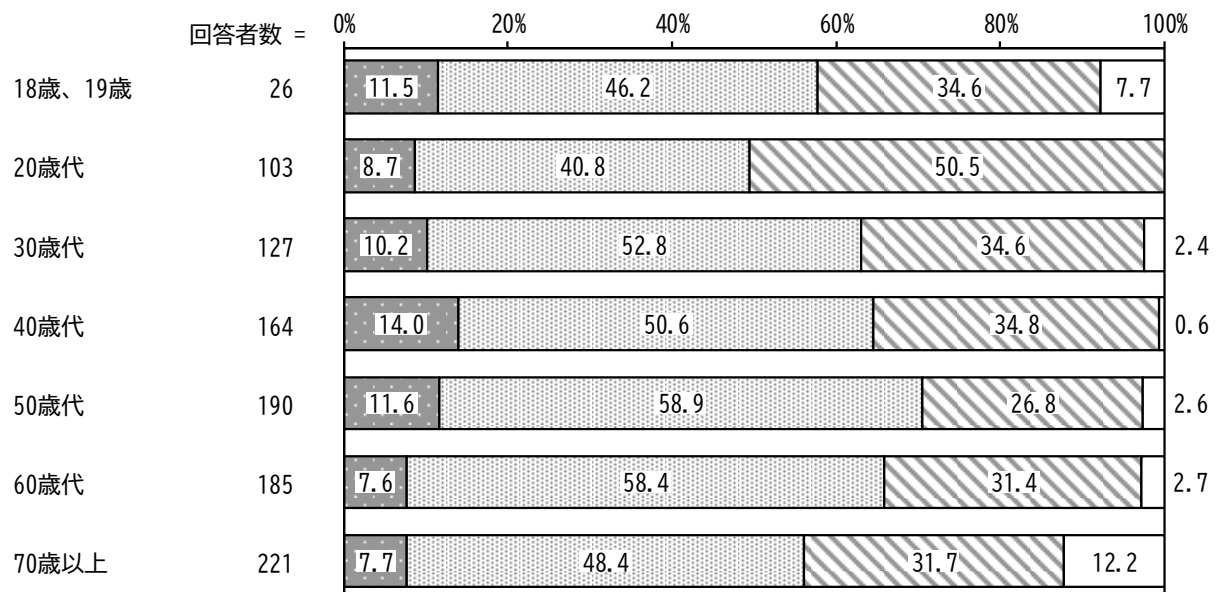
【年代別】

年代別でみると、18歳、19歳で「知らない」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、20歳代で「内容まで知っている」「言葉だけ知っている」の割合が、40歳代～70歳以上で「言葉だけ知っている」の割合が、18歳、19歳、30歳代で「知らない」の割合が増加しています。一方、18歳、19歳、30歳代、40歳代で「言葉だけ知っている」の割合が減少しています。

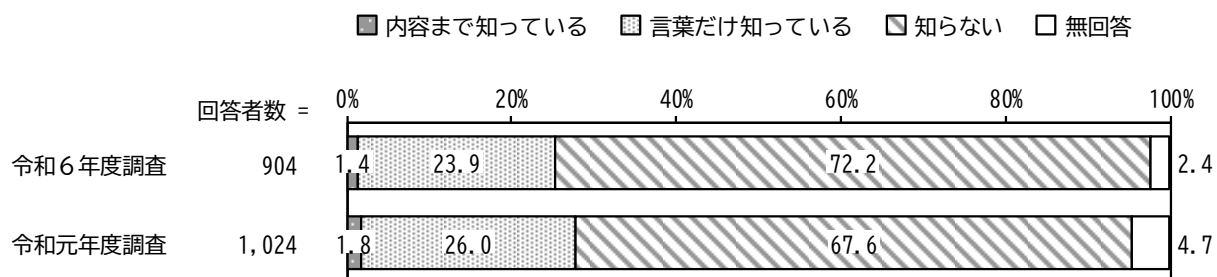


〔令和元年度調査〕



⑥豊川市男女共同参画推進条例

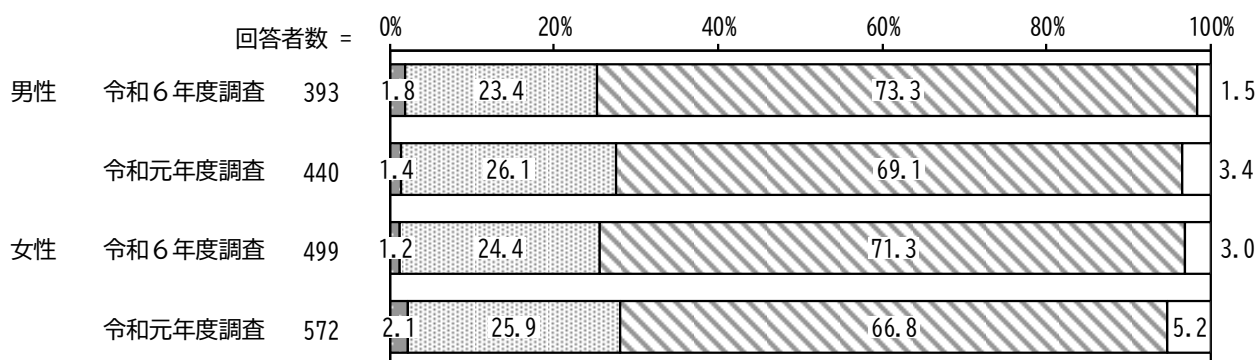
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別でみると、大きな差はみられません。

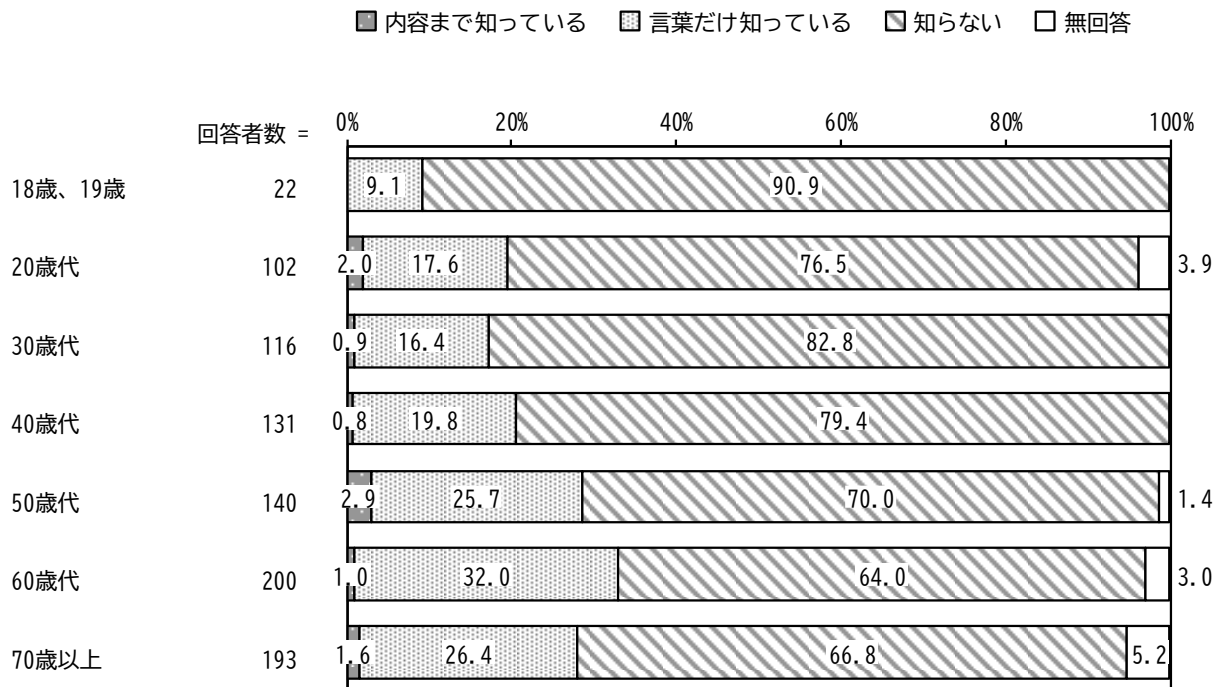
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



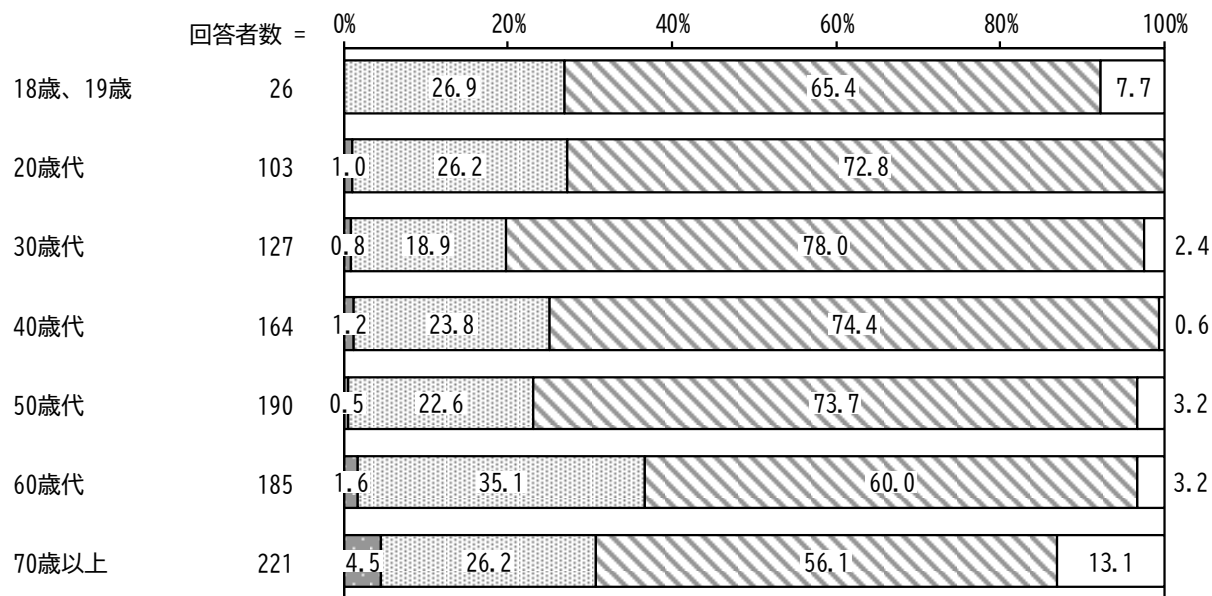
【年代別】

年代別でみると、18歳、19歳で「知らない」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、18歳、19歳、40歳代、70歳以上で「知らない」の割合が増加しています。一方、18歳、19歳、20歳代で「言葉だけ知っている」の割合が減少しています。

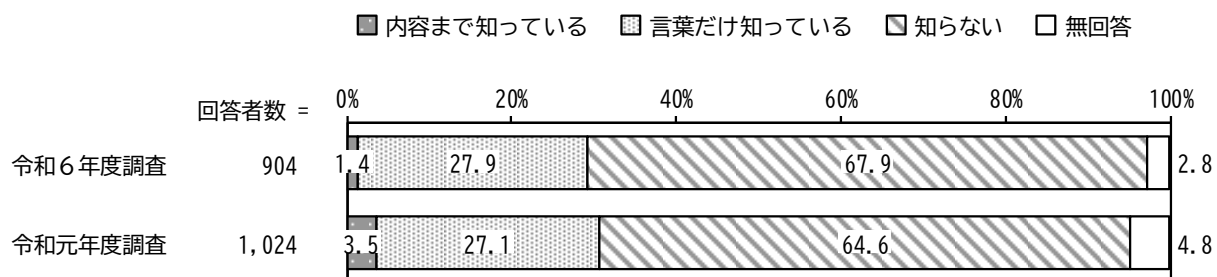


〔令和元年度調査〕



⑦女性活躍推進法

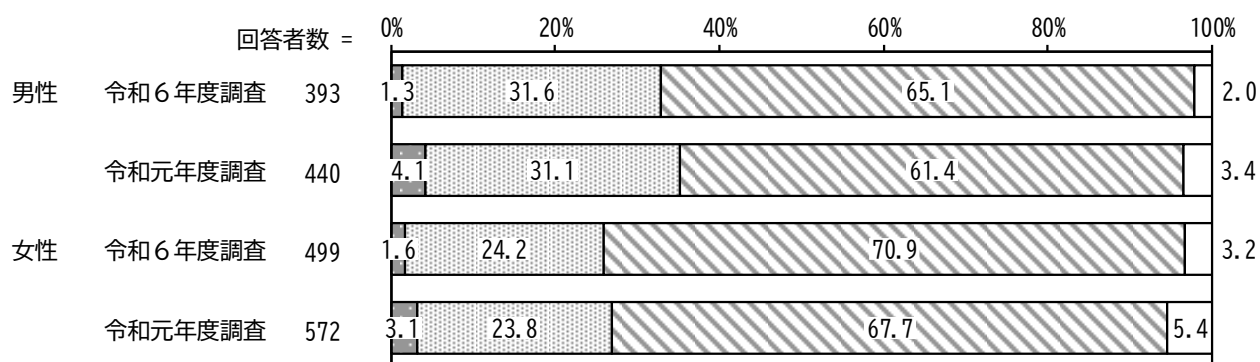
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別でみると、男性で「言葉だけ知っている」の割合が高くなっています。

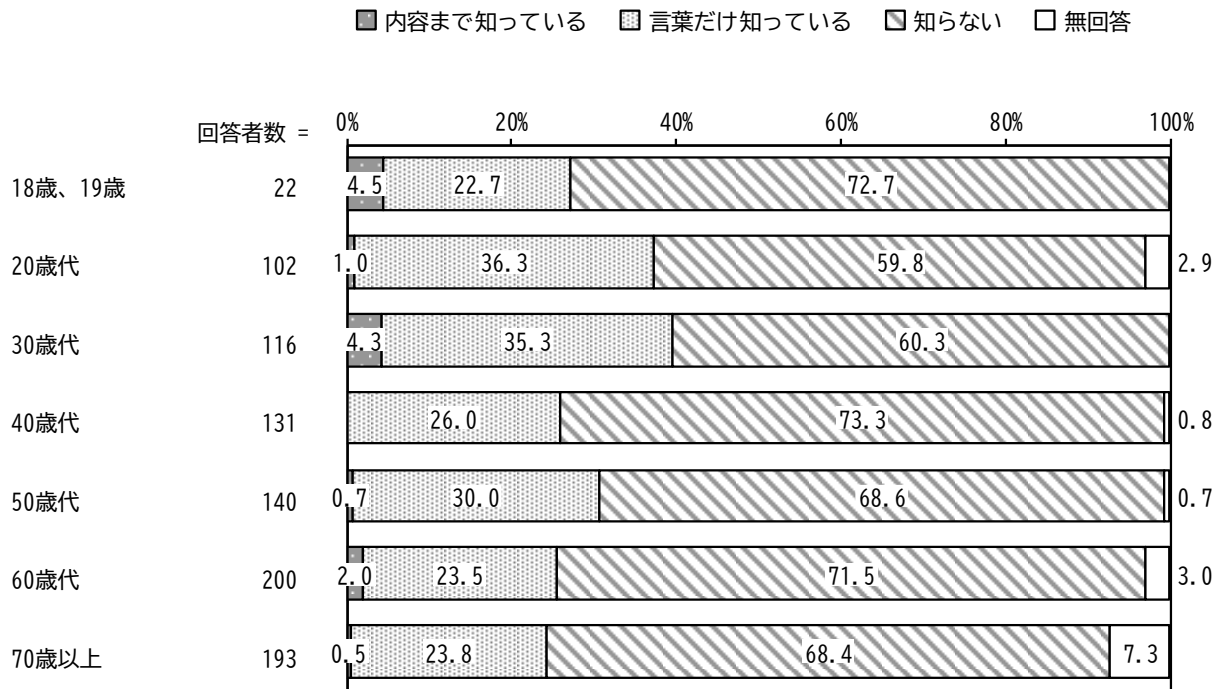
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



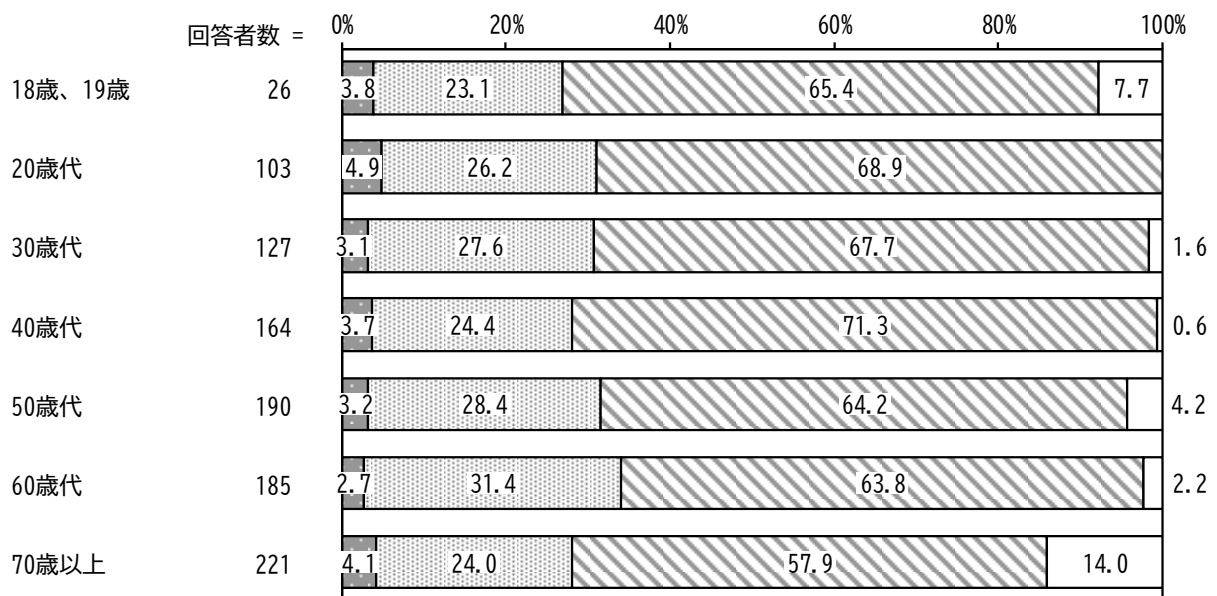
【年代別】

年代別でみると、20 歳代で「言葉だけ知っている」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、20 歳代、30 歳代で「言葉だけ知っている」の割合が、18 歳、19 歳、60 歳代、70 歳以上で「知らない」の割合が増加しています。一方、20 歳代、30 歳代で「知らない」の割合が減少しています。

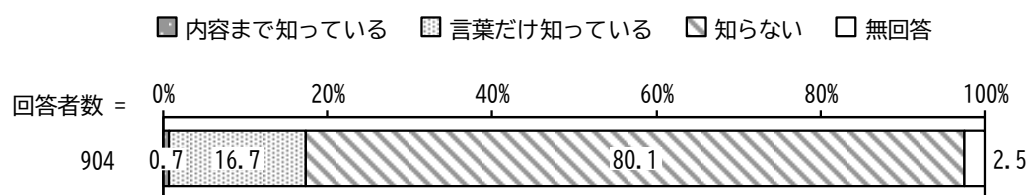


【令和元年度調査】



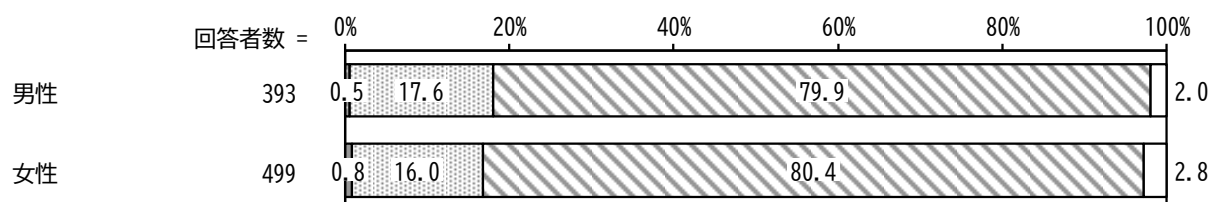
⑧困難な問題を抱える女性への支援に関する法律

「知らない」の割合が80.1%と最も高く、次いで「言葉だけ知っている」の割合が16.7%となっています。



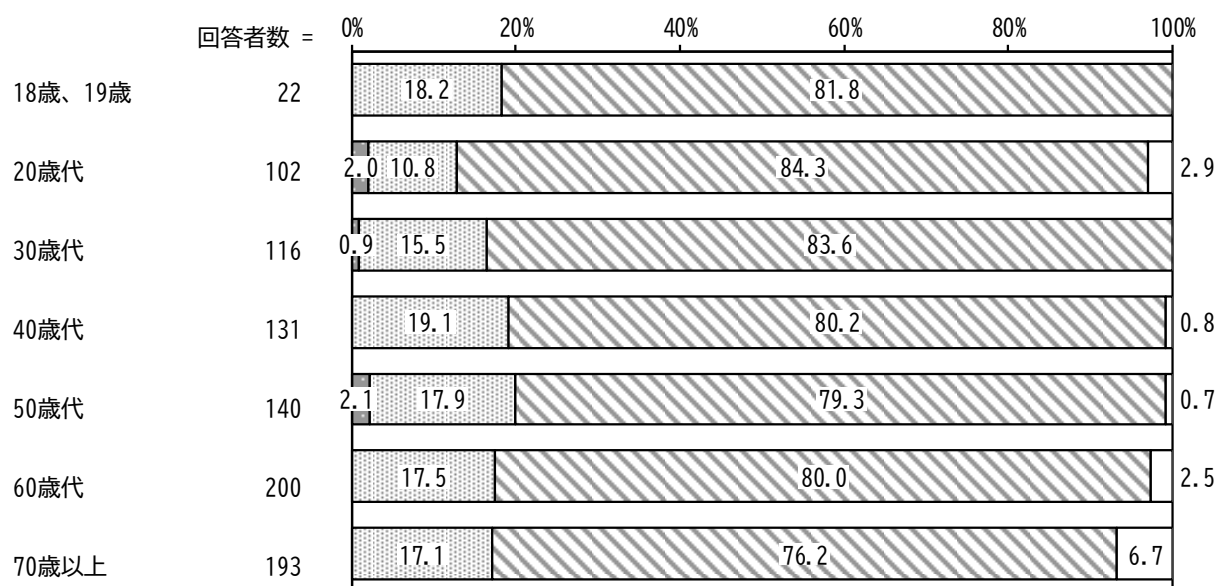
【性別】

性別でみると、大きな差はみられません。



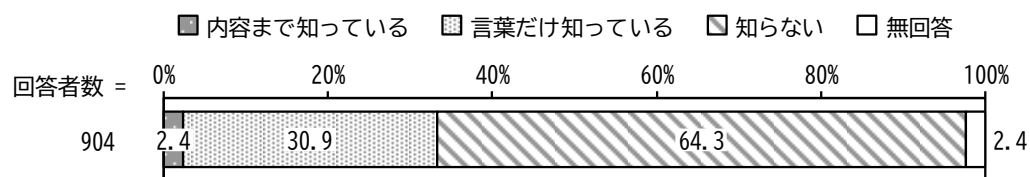
【年代別】

年代別でみると、大きな差はみられません。



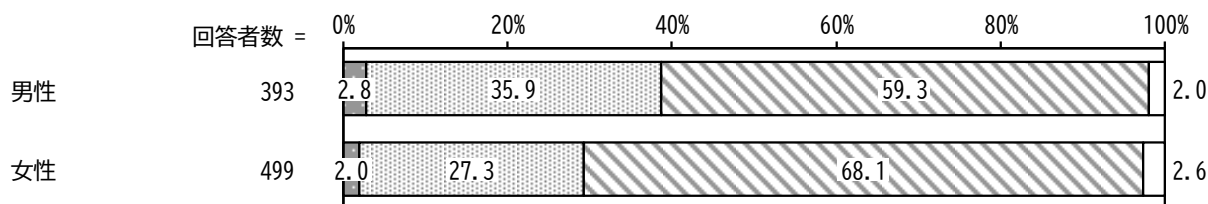
⑨性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律
(LGBT 理解増進法)

「知らない」の割合が64.3%と最も高く、次いで「言葉だけ知っている」の割合が30.9%となっています。



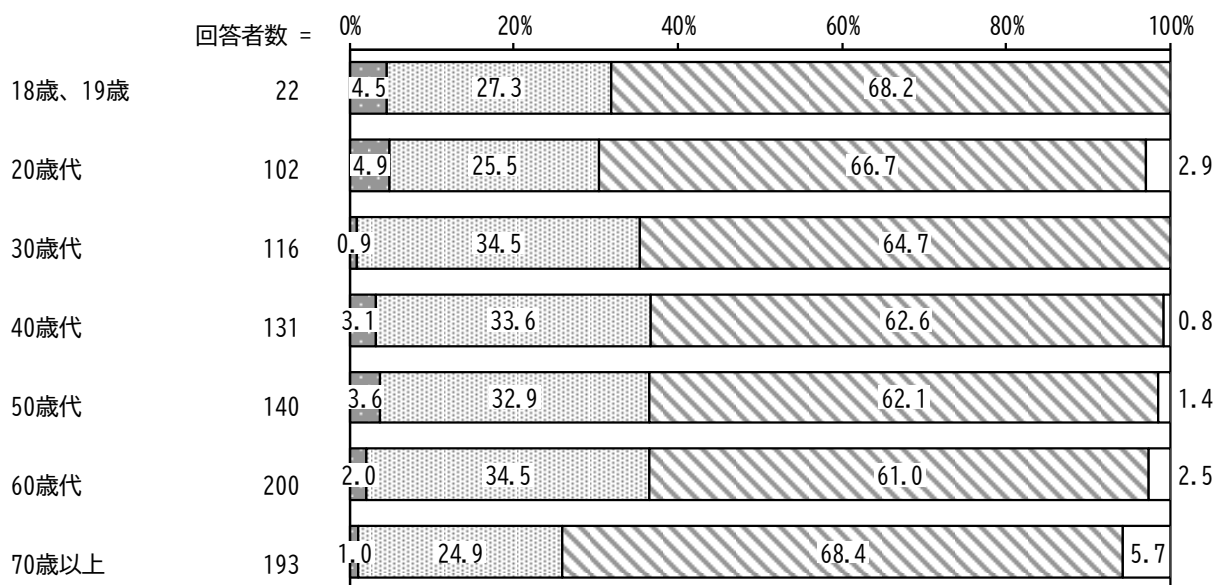
【性別】

性別でみると、男性で「内容まで知っている」の割合が高くなっています。



【年代別】

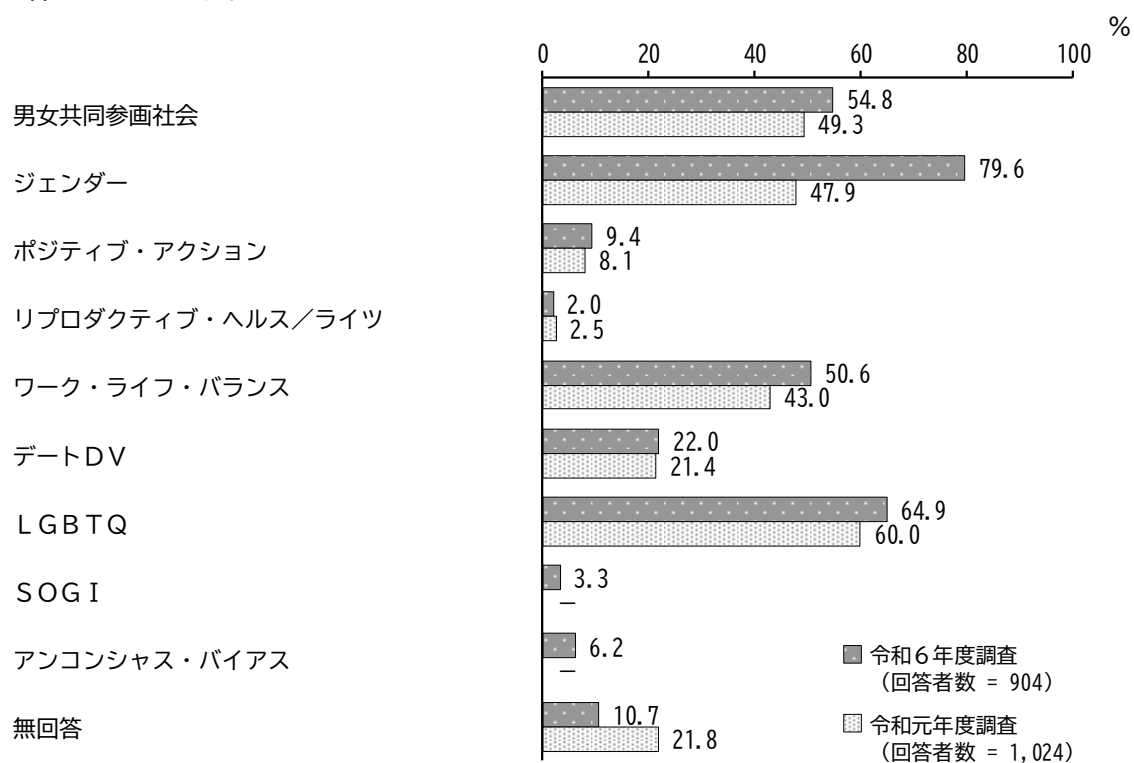
年代別でみると、大きな差はみられません。



問 28 あなたは、この調査を受け取る前から次の言葉を知っていましたか
(知っていたものすべてに○)。

「ジェンダー」の割合が 79.6%と最も高く、次いで「LGBTQ」の割合が 64.9%、「男女共同参画社会」の割合が 54.8%となっています。

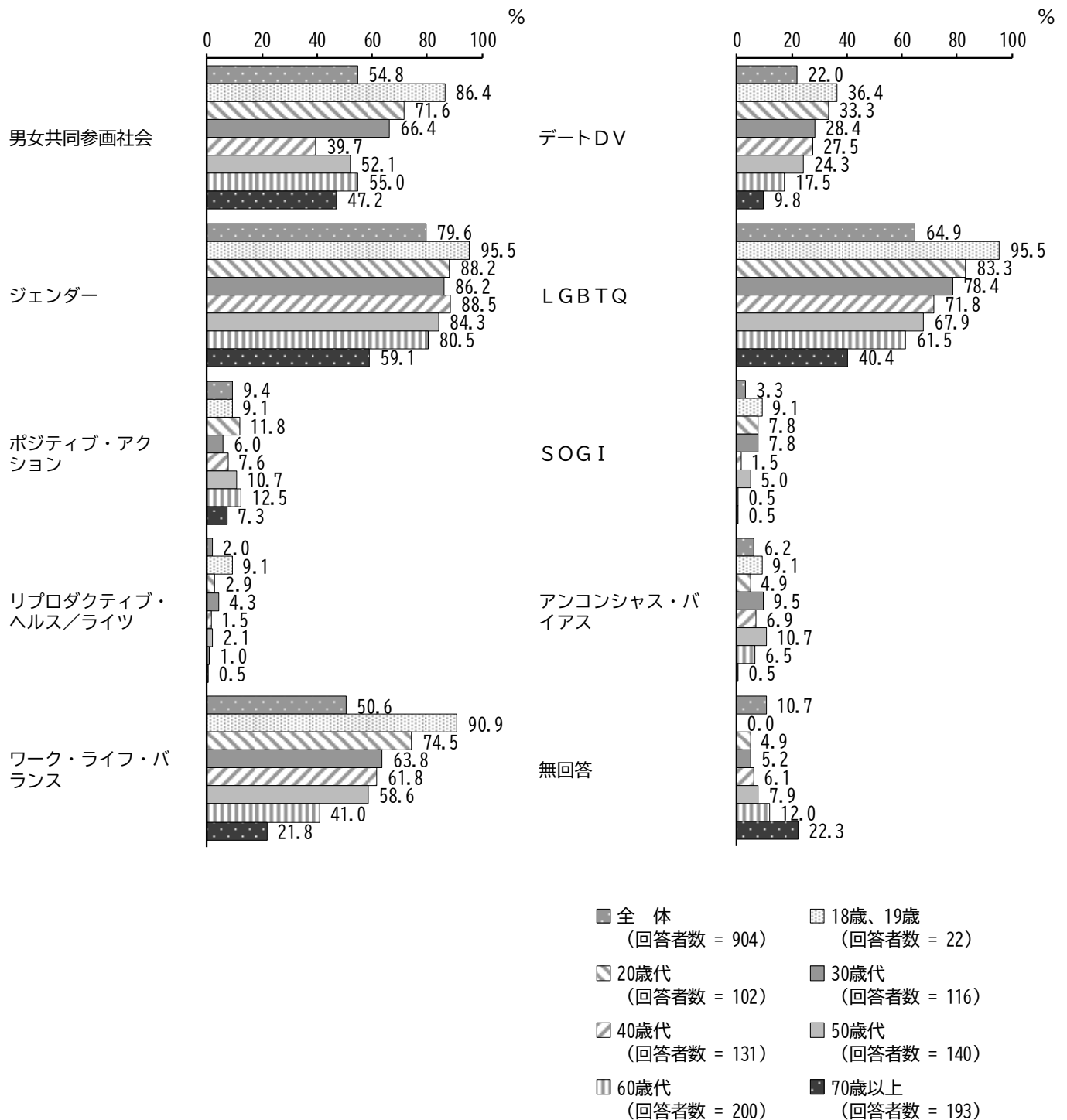
令和元年度調査と比較すると、「男女共同参画社会」「ジェンダー」「ワーク・ライフ・バランス」の割合が増加しています。



※前回調査では、「SOGI」「アンコンシャス・バイアス」の選択肢はありませんでした。

【年代別】

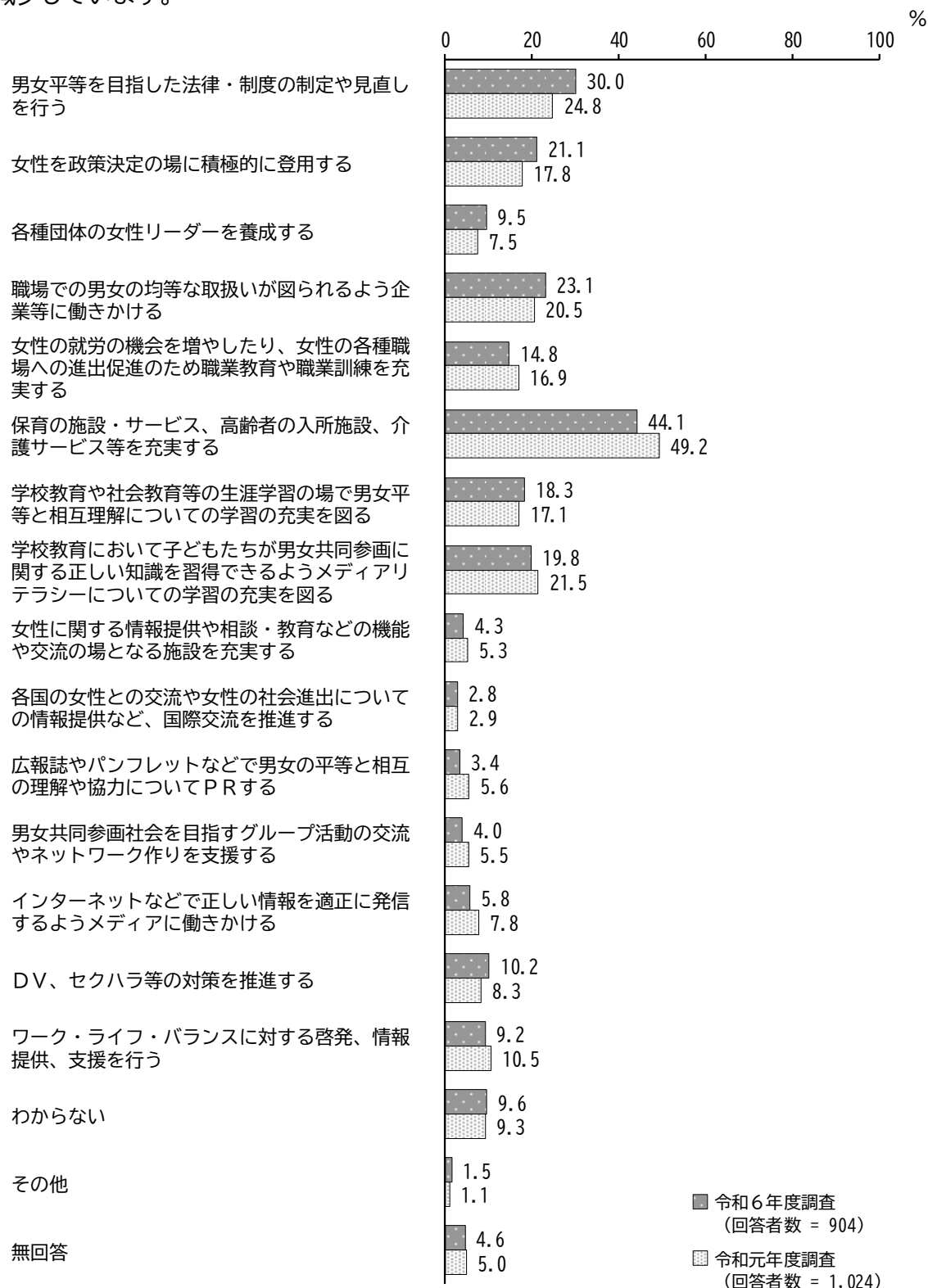
年代別でみると、18歳、19歳で「ワーク・ライフ・バランス」の割合が高くなっています。



問 29 今後、男女共同参画社会の形成をより積極的に推進していくために、行政はどのようなことに力を入れていくことが必要だと思いますか（3つまで○）。

「保育の施設・サービス、高齢者の入所施設、介護サービス等を充実する」の割合が 44.1%と最も高く、次いで「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」の割合が 30.0%、「職場での男女の均等な取扱いが図られるよう企業等に働きかける」の割合が 23.1%となっています。

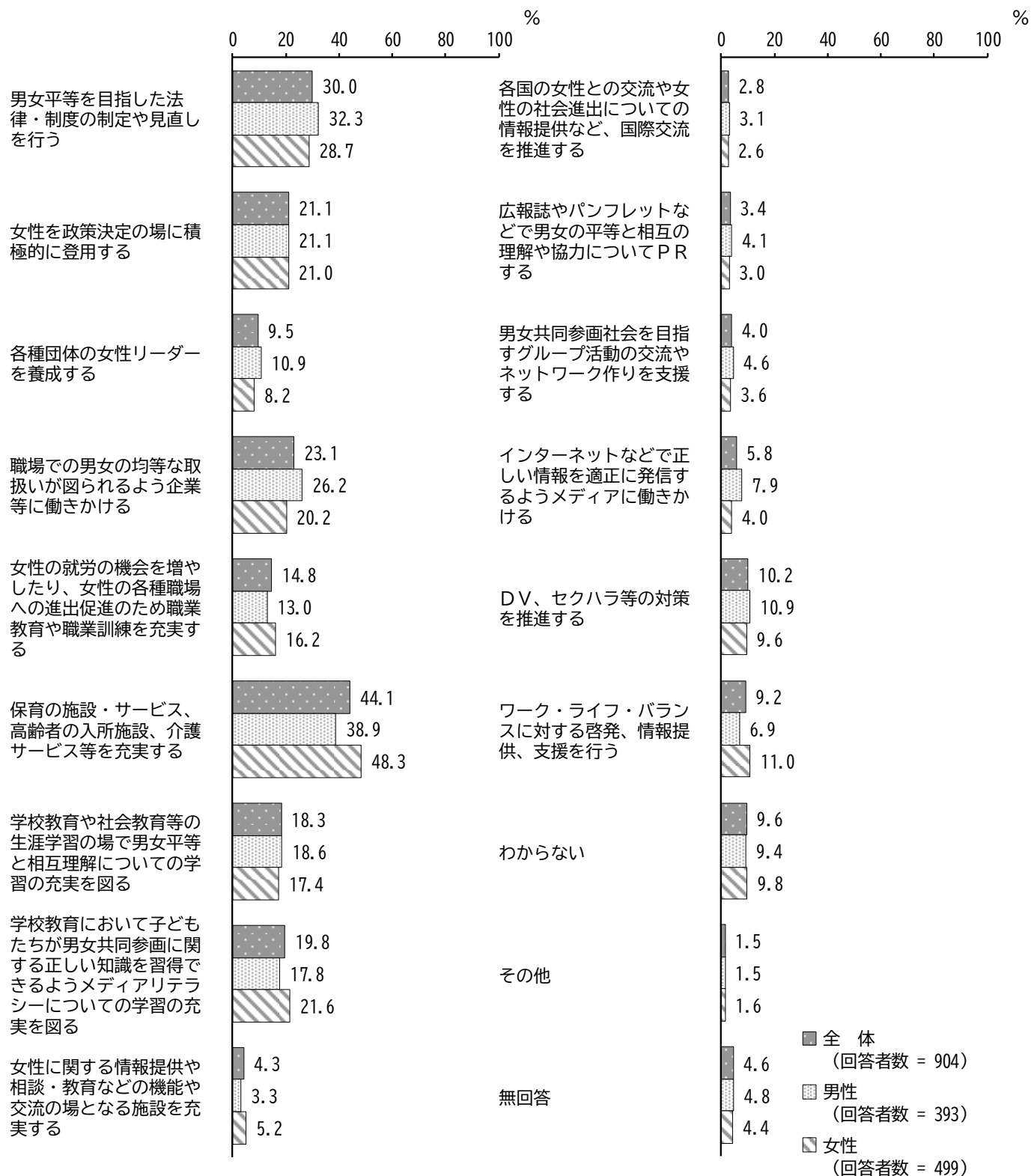
令和元年度調査と比較すると、「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」の割合が増加しています。一方、「保育の施設・サービス、高齢者の入所施設、介護サービス等を充実する」の割合が減少しています。



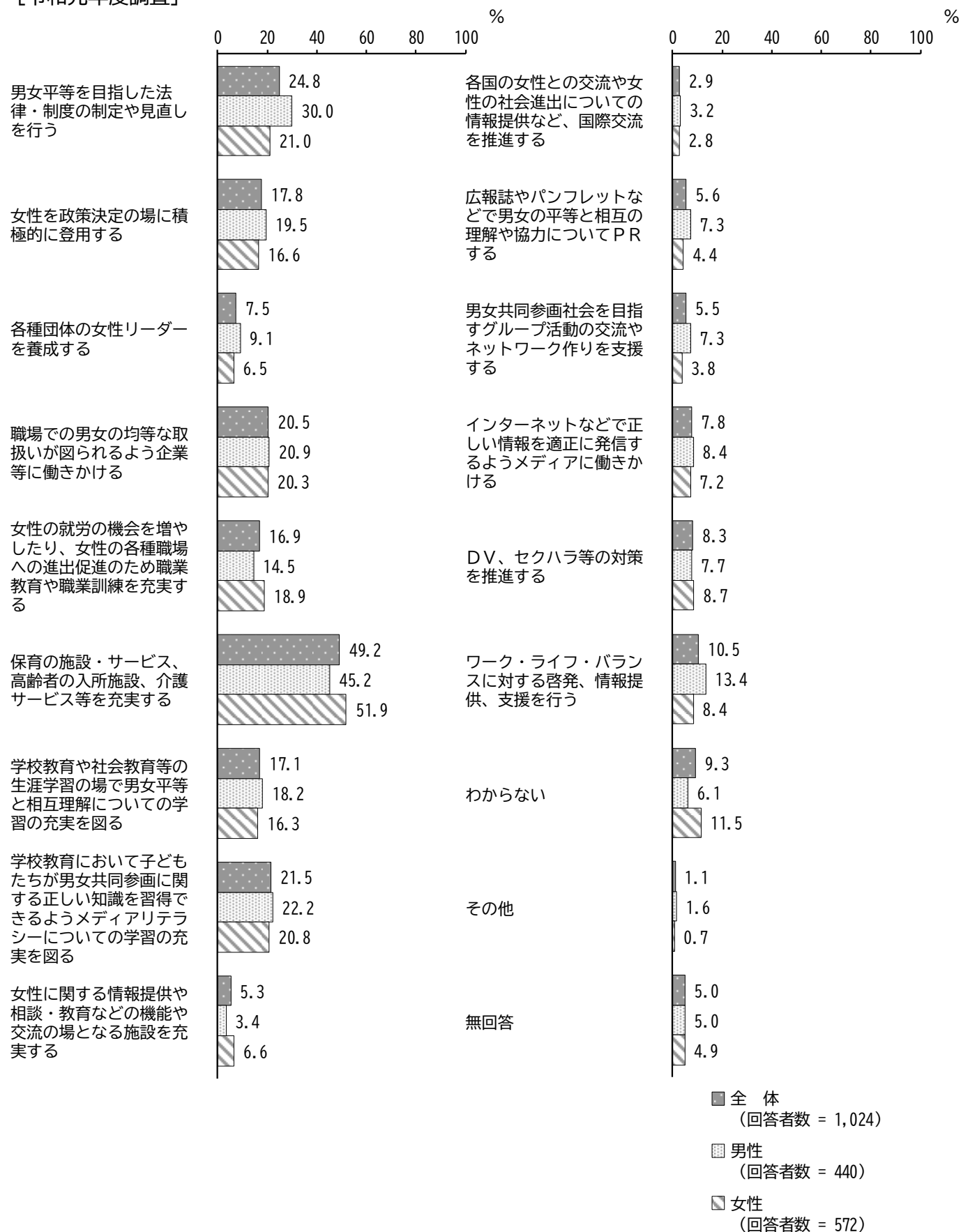
【性別】

性別でみると、女性で「保育の施設・サービス、高齢者の入所施設、介護サービス等を充実する」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、男性で「職場での男女の均等な取扱いが図られるよう企業等に働きかける」の割合が、女性で「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」の割合が増加しています。一方、男性で「保育の施設・サービス、高齢者の入所施設、介護サービス等を充実する」「ワーク・ライフ・バランスに対する啓発、情報提供、支援を行う」の割合が減少しています。



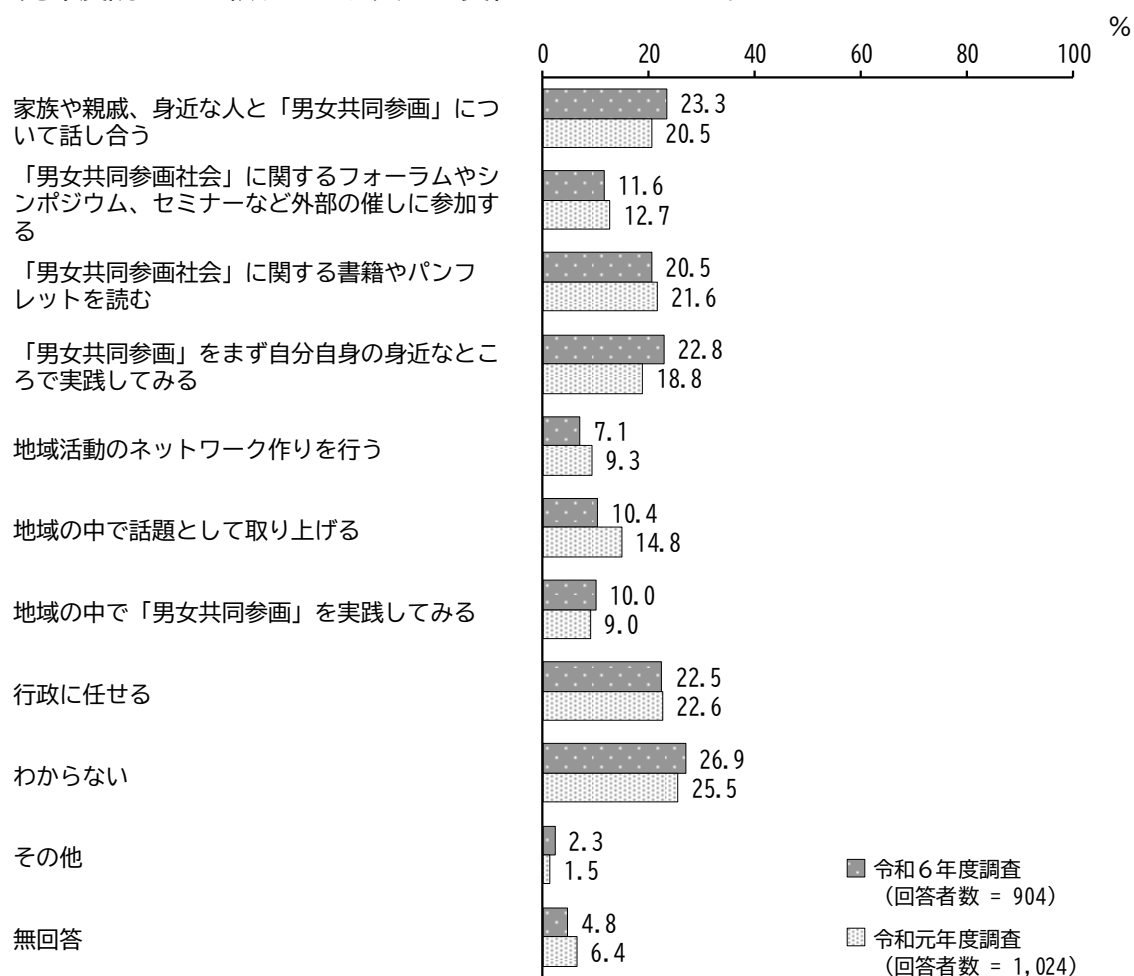
〔令和元年度調査〕



問 30 「男女共同参画社会」を形成・実現するために、あなた自身としてどのようなことを実践していきたいと考えますか（3つまで○）。

「わからない」の割合が 26.9%と最も高く、次いで「家族や親戚、身近な人と「男女共同参画」について話し合う」の割合が 23.3%、「男女共同参画」をまず自分自身の身近なところで実践してみる」の割合が 22.8%となっています。

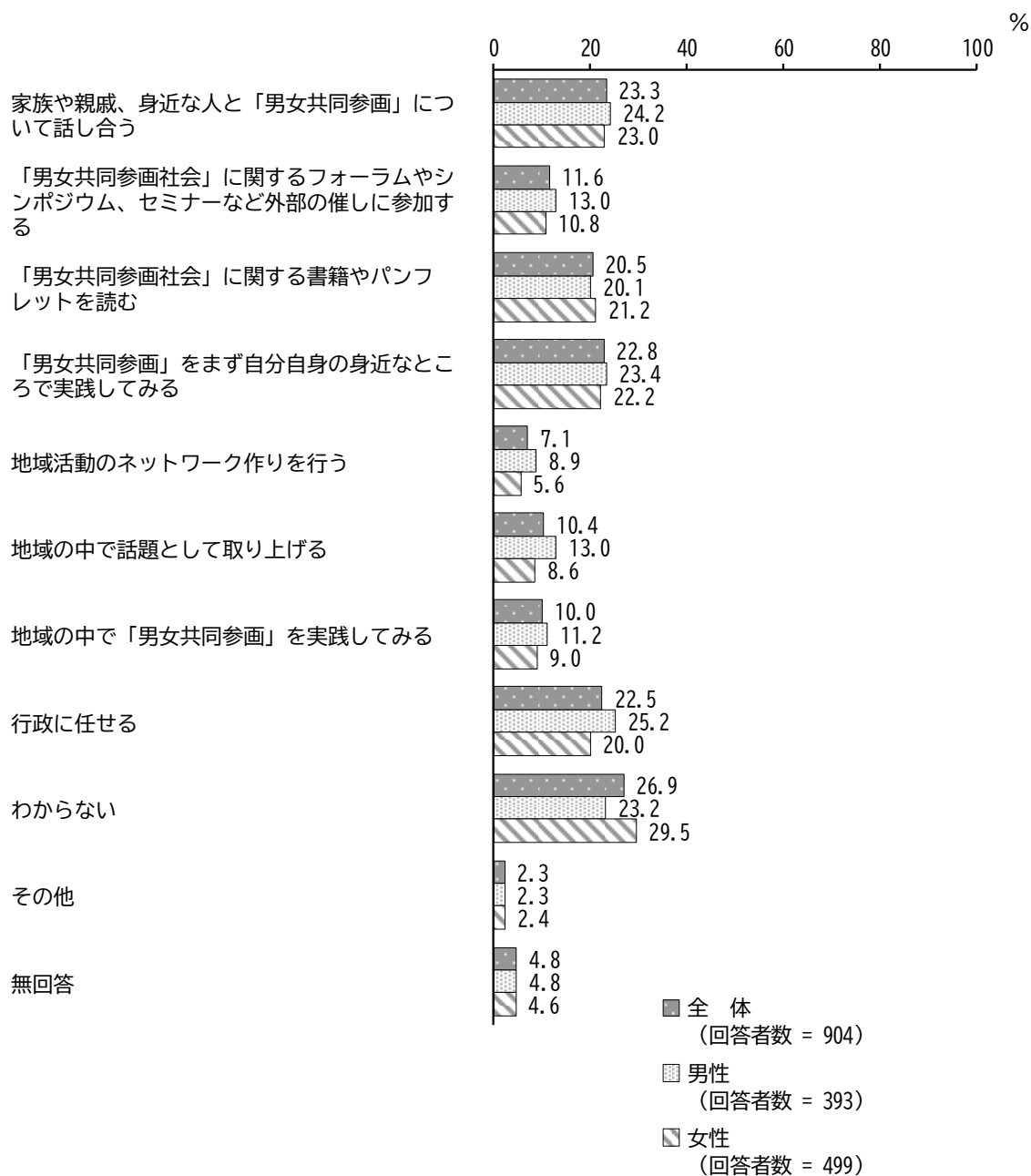
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



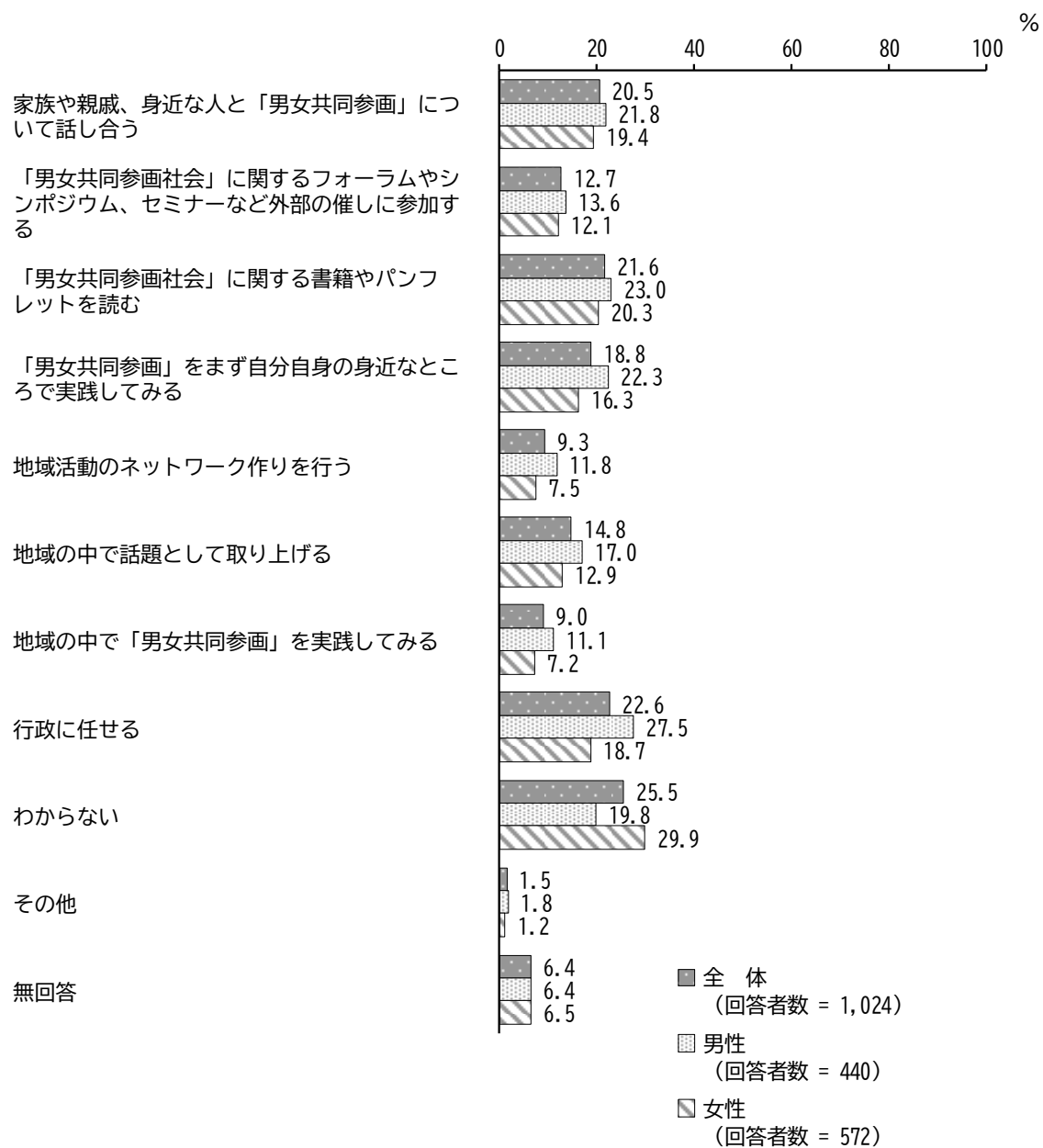
【性別】

性別でみると、男性で「行政に任せる」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、女性で「男女共同参画」をまず自分自身の身近なところで実践してみる」の割合が増加しています。



〔令和元年度調査〕



Ⅲ 資料

1 「その他」欄意見

問4 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか（1つに○）。

問4で「4. ある程度同感する」「5. 同感する」と答えた方におたずねします。

問5 そう思うのはどのような理由からですか（1つに○）。（17件）

項 目	件数
女性が家庭に入ることに良さを感じる	4
子どもの事を考えると同感	4
社会的な状況から同意	3
男性が働きに出ることに良さを感じる	2
平等には無理	1
人それぞれ	1
質問が男性が用意し、女性が含まれた質問に思えない	1
あまり考えたことがない	1
合 計	17

問7 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などを行うためには、どのようなことが必要だと思いますか（3つまで○）。（26件）

項 目	件数
経済的余裕・経済的支援	6
やりかた、お手本	3
子どもの頃からの教育	3
互いの思いやり	2
家庭内の役割分担	2
専門家、専門施設	2
海外にならう必要はない	1
現状で協力的である	1
仕事によって異なる	1
地域活動はやりたい人、できる時間のある人がするべき	1
やる人間が全てやらざるを得ないという状況の方が多い	1
企業側の理解	1
時間	1
社会的仕組み	1
合 計	26

問10 男性の育児への参画を促していくためには、どのようなことが重要になると思いますか（3つまで○）。（22件）

項 目	件数
育休取得とそのための人材確保	5
経済的な支援	4
社会・企業の意識の改善	4
学校での教育	2
各家庭で必要なことが異なる	2
現状で参加している	2
男性は育児に向くのか	1
やり方	1
女性の専業主婦から共働きへの移行	1
合 計	22

問11 あなたのご家族（同居していない場合も含む）には、介護を要する方がいますか（1つに○）。

問11で「1. はい」と答えた方におたずねします。

問12 介護は、主にどなたがされていますか。介護を受けている方からみた関係でお答えください（2つまで○）。（26件）

項 目	件数
介護・養護施設等を利用している	18
家族・親族	6
ショートステイを利用している	1
デイサービスを利用している	1
合 計	26

問13 今後、社会で介護を担っていくためには、どのようなことが重要になると思いますか
(3つまで○)。(48件)

項 目	件数
介護施設の充実	13
経済的支援	10
介護職の給与・社会的地位の向上	8
専門家や周囲のサポート	3
介護サービスを受けやすくする	3
介護制度の充実	2
企業の担い手確保のため海外の人材確保	1
自分の世話は自分でする	1
介護認定の基準を下げ取りやすくする	1
人、親、家族について教育させる	1
行政のほうで手続きを進められるようにする	1
介護されている側の認識をあらためる	1
安楽死制度の導入	1
夫の意識改善	1
介護とはなにかわからない	1
合 計	48

問14 女性が仕事を持つことについて、あなたは次のどの考え方に近いですか
(1つに○)。(70件)

項 目	件数
本人の自由意志で決めれば良い	25
子どもの成長に合わせた働き方ができれば良い	13
各々の状況で人それぞれ違う	13
家庭内・パートナーとの相談で決めれば良い	10
自由に選択できると良い	3
子育てを優先する方が良い	2
高校にも給食があれば、働きやすい	1
男がたくさん稼いで女が子供を家で余裕をもってみれる 社会になれば良い	1
女性の方が負担が大きくなることは間違いないので根本 的な解決が出来れば良いと思う	1
この質問が不快	1
合 計	70

問 15 現在、ワーク・ライフ・バランスが重要視されていますが、あなたは、生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活のうち何を優先しますか。(1)、(2)についてそれぞれ1つ選んで○印をつけてください。

(1) 希望として (7件)

項 目	件数
高齢なので自分の生活で精一杯	1
子どもの成長時期と自分の年齢により変わる	1
私は内職をしながら近所の方に声かけてもらい助かった	1
今は「地域・個人の生活」を優先したいが今後はわからない	1
高齢で病患っているので、気が回らない	1
個人を優先することで仕事や家庭生活を充実させる	1
なぜ個人を地域と一括りにするのか意味が分からない	1
合 計	7

(2) 現実として (17件)

項 目	件数
仕事を優先してきた	4
仕事をしていない	2
現在は家庭生活を優先しているが今後は仕事を優先	2
どちらかといえば家庭生活を優先したい	1
自宅保育しながらリモートワーク	1
自分中心の生活	1
仕事と家庭生活と個人	1
今までは仕事を優先していたが、今は地域・個人の生活を優先している	1
仕事をしたくない	1
高齢で病患っているので、気が回らない	1
お金	1
どちらでもない	1
合 計	17

問 16 今後、性別に関わらず働きやすい社会環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか（3つまで○）。（28 件）

項 目	件数
賃金・収入の増大	9
減税・被扶養者所得制限の撤廃	4
男女平等について	3
多様な働き方	3
子育て環境	2
男性の意識をかえること	1
労働する事により社会的、将来的に幸福になれること	1
個人事業主にも労働基準法を適用	1
病気、不妊症、不育症等への理解が増し社会通念が変わること	1
結果の平等ではなく機会の平等を目指す	1
制度の問題だけではないように思う	1
すでにある程度の社会環境はできているので政治や行政がこれ以上口出しすべきではない	1
合 計	28

問 17 あなたは、これまでに、あなたの恋人や配偶者（事実婚、別居中、パートナー、離婚後を含む）から、どのようなDVを受けたことがありますか、または受けていますか（あてはまるものすべてに○）。（5 件）

項 目	件数
パートナーには1度 親からは何回かある	1
別居しても機嫌を悪くするとなぐりこんでくる	1
物心ついた時から 20 才まで殴る、蹴る、言葉の暴力など過去に家族（実家）にされていた	1
物を壊す	1
持ち物を隠された	1
合 計	5

問 18 あなたは、DVを受けたときに、相談しましたか（1 つに○）。

問 18 で「1. 相談した」と答えた方におたずねします。

問 19 DVを受けたときに、あなたが安心して相談できたのは次のどれですか（あてはまるものすべてに○）。（2 件）

項 目	件数
夫	1
会社の同僚	1
合 計	2

問 18 で「2. 相談したかったが、相談しなかった」または「3. 相談しようと思わなかった」と答えた方におたずねします。

問 20 相談しなかった理由は、何ですか（あてはまるものすべてに○）。（3 件）

項 目	件数
自分のまわりに、どなる男が多数いた	1
殴った後、あやまれたから	1
自分で処理出来と思ったから	1
合 計	3

問 21 あなたは、これまでに、セクハラを受けたことがありますか（1 つに○）。

問 21 で「1. ある」と答えた方におたずねします。

問 22 セクハラが行われた場所はどこですか（あてはまるものすべてに○）。（13 件）

項 目	件数
図書館、駅、店の中等	3
電車	2
家	2
接骨院	1
昔、草むら	1
道を歩いていて	1
小さい頃に義祖父に胸を触られた	1
授乳中に義父に見られた、夜の営みについて聞かれた	1
全て豊川に引っ越す前	1
合 計	13

問 24 L G B T Qに関して、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか
(あてはまるものすべてに○)。(6件)

項 目	件数
トイレ、温泉、更衣室等	2
その人にとっては生まれた時からの当たり前の感性なのに、社会が特別扱いしてわざわざ取り上げること	2
L G B T Qを利用したL G B Tでない人の性的被害	1
堂々と公言できないこと	1
合 計	6

問 25 困難な問題を抱える女性への支援が求められていますが、女性が困難な状況から回復するためには、どんなことが必要だと思いますか (3つまで○)。(7件)

項 目	件数
対策や再発防止に取り組み、相談しやすい環境・社会	3
本人の意識や自覚、家庭環境	2
対象を女性に限定しないこと	1
加害者への罰を重くしてほしい	1
合 計	7

問 26 あなたは、困難な問題を抱える女性が公的機関等に相談する場合、どのような方法が
相談しやすいと思いますか (あてはまるものすべてに○)。(6件)

項 目	件数
専門家の訪問	2
相談しやすい場所	1
第三者からの相談	1
保護できる場所	1
女性のアドバイザー	1
合 計	6

問 29 今後、男女共同参画社会の形成をより積極的に推進していくために、行政はどのようなことに力を入れていくことが必要だと思いますか（3つまで○）。（15 件）

項 目	件数
男女ではなく個人の評価をするべき	6
男女平等は難しい	2
男が家庭、女が育児を社会的・制度的に受け入れるようにする	2
女性の「女だから」と言う消極的意識の変革	1
男女共同参画の予算が多すぎる精査が必要	1
ゆとり教育を止め、道徳等の教育をしっかり行う	1
公務員や嘱託の公務員の給料を上げる	1
こんなアンケートをしなくてはならないほど自分たちで考えられないかと思うと情けない	1
合 計	15

問 30 「男女共同参画社会」を形成・実現するために、あなた自身としてどのようなことを実践していきたいと考えますか（3つまで○）。（18 件）

項 目	件数
わからない、必要性を感じない	4
まずは自分や自分の子どもから	3
差別をしない	2
社会の仕組みなどを改善する	2
女性への支援	2
夫婦関係の改善のための勉強	1
子育てや介護をしている間の企業からの経済的支援	1
若い人に期待している	1
資本主義に任せる	1
行政に期待しないこと	1
合 計	18

2 自由意見のまとめ

自由意見を内容別に集計しました。

項 目	件数
男女平等について	12
性別役割分担について	10
子育てについて	6
介護について	1
仕事や社会参加について	16
人権（DV、セクハラ、L G B T Qについて）	5
男女共同参画について	12
社会制度・慣行の見直し、意識の改革	9
市政について	11
アンケートについて	7
その他	3
合 計	92

3 男女共同参画に関する市民意識調査票

豊川市 男女共同参画に関する市民意識調査 —調査の趣旨とご協力のお願い—

市民の皆さまには、日ごろから市政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。


豊川市では、「豊川市男女共同参画推進条例」に基づき、令和3年3月に「第3次豊川市男女共同参画基本計画」を策定し、性別にかかわらず個性と能力を発揮し、いきいきと暮らすことができる社会の実現を目指し、さまざまな取組を進めています。

今回、「第3次豊川市男女共同参画基本計画」の見直しの年度となることから、男女共同参画に対する市民の意識や行政に対する要望などをお聞かせいただき、計画の見直しに役立てることを目的としたアンケート調査を実施することとなりました。

本アンケート調査は、豊川市内の18歳以上の男女各1,000人の方を無作為に選び実施するものです。お答えは、すべて無記名で統計的に処理しますので、個人が特定されるなど、回答された方にご迷惑をお掛けするようなことはございません。お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和6年9月

豊川市長 竹本 幸夫

調査票（郵送）による回答	インターネット回答
<ul style="list-style-type: none">調査票には、お名前・ご住所を記入しないでください。宛名のご本人がご記入ください。 ご本人のご記入が困難な場合は、ご家族の方などが、お考えをお聞きのうえ、代理でご記入してください。多くの質問は選択式になっています。あてはまる選択肢に「○」印を付けてください。また、「その他」に「○」印を付けた方は、（ ）に具体的な内容をご記入ください。回答終了後は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに回答期限までにポストに投函してください。	<ul style="list-style-type: none">スマートフォンから二次元バーコードを読み込む、またはURLを入力し、専用サイトからご回答ください。 【URL】 https://www15.webcas.net/form/pub/websurvey/toyokawa_shimin【二次元バーコード】 【ID】 ●●●●●●インターネットでご回答いただいた場合、調査票を返送いただく必要はありません。

【回答期限】 令和6年 10月1日（火）までにご回答ください。

＜お問い合わせ＞

豊川市役所 市民部 人権生活安全課 人権推進係

電話：0533-89-2149

FAX：0533-89-2125

1 あなた自身のことについておたずねします。

問1 ご回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについておたずねします。

(1) あなたの性別は次のうちどれですか(1つに○)。

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 回答しない |
|-------|-------|----------|

(2) あなたの年齢はおいくつですか(1つに○)。

- | | | | |
|------------|---------|----------|---------|
| 1. 18歳、19歳 | 2. 20歳代 | 3. 30歳代 | 4. 40歳代 |
| 5. 50歳代 | 6. 60歳代 | 7. 70歳以上 | |

(3) あなたは現在結婚していますか(1つに○)。

- | |
|--|
| 1. 結婚している(事実婚や別居中、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む) |
| 2. 結婚していたが、離別・死別した |
| 3. 結婚していない |

(4) あなたの世帯は、どれですか(1つに○)。

- | | |
|-----------|----------|
| 1. 単身 | 2. 夫婦だけ |
| 3. 親子 | 4. 親と子と孫 |
| 5. その他の世帯 | |

(5) あなたの職業に該当する番号を選んでください(1つに○)。

- | | | |
|----------|---------------|------------------|
| 1. 会社員 | 2. 公務員 | 3. 自営業・家業 |
| 4. 家族従事者 | 5. 派遣・請負社員 | 6. パート・アルバイト・嘱託等 |
| 7. 内職 | 8. 専業主婦・専業主夫 | 9. 学生 |
| 10. 無職 | 11. その他(具体的に： |) |

(6) あなたには、お子さんがいますか(1つに○)。

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

(7) 結婚している(事実婚や別居中、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓者を含む)方におたずねします。あなたの配偶者の職業に該当する番号を選んでください(1つに○)。

- | | | |
|----------|---------------|------------------|
| 1. 会社員 | 2. 公務員 | 3. 自営業・家業 |
| 4. 家族従事者 | 5. 派遣・請負社員 | 6. パート・アルバイト・嘱託等 |
| 7. 内職 | 8. 専業主婦・専業主夫 | 9. 学生 |
| 10. 無職 | 11. その他(具体的に： |) |

2 男女平等の現状についておたずねします。

問2 あなたは、次の各分野で男女どちらが優遇されていると思いますか
(それぞれ1つに○)。

	男性が優遇されている	どちらかと言えば男性が優遇されている	平等である	どちらかと言えば女性が優遇されている	女性が優遇されている	どちらともいえない	わからない
①家庭生活	1	2	3	4	5	6	7
②職場	1	2	3	4	5	6	7
③学校教育	1	2	3	4	5	6	7
④地域活動	1	2	3	4	5	6	7
⑤法律、制度	1	2	3	4	5	6	7
⑥社会通念、慣習、しきたり	1	2	3	4	5	6	7
⑦社会全体	1	2	3	4	5	6	7

問3 あなたは、性別に関することで、生きづらさを感じていますか
(1つに○)。

1. 感じている

2. 感じていない

3 性別役割分担についておたずねします。

問4 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか
(1つに○)。

1. 同感しない

2. あまり同感しない

3. どちらともいえない

4. ある程度同感する

5. 同感する

6. わからない

問4で「4. ある程度同感する」「5. 同感する」と答えた方におたずねします。

問5 そう思うのはどのような理由からですか（1つに○）。

1. 「男性は外で働き、女性は家庭を守る」という考え方が一般的だと思うから
2. 男女の役割を固定した方が、家庭生活がうまくいくと思うから
3. 女性は家庭の状況によっては仕事を継続するのが難しいと思うから
4. 男性が働いたほうが、多くの収入を得られると思うから
5. 長年の考え方（価値観）は、そう簡単になくならないと思うから
6. 子どもの成長にとってよいと思うから
7. 個人的にそうありたいと思うから
8. その他（具体的に： _____）

問6 次にあげる家庭でのことがらは、夫婦でどのように分担するのが理想だと思いますか（それぞれ1つに○）。

	夫婦共同	主に妻	主に夫	その他
①生活費の確保	1	2	3	4
②掃除・洗濯	1	2	3	4
③食事のしたく	1	2	3	4
④食事の後片付け・食器洗い	1	2	3	4
⑤日常の家計管理	1	2	3	4
⑥子育て	1	2	3	4
⑦子どものしつけ・教育	1	2	3	4
⑧介護	1	2	3	4
⑨自治会・町内会活動	1	2	3	4
⑩近所や親戚とのつきあい	1	2	3	4
⑪家庭における重要な決定	1	2	3	4

前問では、理想をお聞きしましたが、ここでは実際に夫婦でどのように分担しているかお聞きします（それぞれ1つに○）。

問7 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などを行うためには、どのようなことが必要だと思いますか（3つまで○）。

-)

4 子育てについておたずねします。

問8 あなたは、どのように育てられましたか（1つに○）。

1. 男女の区別なく、個性（自分らしさ）を尊重されて育てられた
2. 男は男らしく、女は女らしくと育てられた
3. どちらともいえない

問9 あなたは、どのように子育てをしていましたか（1つに○）。
（子どものいない方は、「どのように育てたらよいと思うか」をお答えください。）

1. 男女の区別なく、個性（その子らしさ）を尊重するよう育てた（る）
2. 男は男らしく、女は女らしくと育てた（る）
3. どちらともいえない

問10 男性の育児への参画を促していくためには、どのようなことが重要になると思いますか（3つまで○）。

1. 男性が育児休暇制度を利用しやすくなること
2. 労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイム（※1）の導入などが進むこと
3. 男性のための育児講座を充実すること
4. 男性が育児に取り組む意識をもつこと
5. 子どもの病気や急な残業に対応できる保育施設・サービスが整備されること
6. 家族の間で育児について十分に話し合うこと
7. 男性の育児への参画を妨げるような社会通念が変わること
8. わからない
9. その他（具体的に： _____ ）

※1 フレックスタイム

1日の労働時間は一定とするが、出退勤の時間を各自の裁量により決めることができる制度をいいます。（豊川市男女共同参画基本計画より）

5 介護についておたずねします。

問11 あなたのご家族（同居していない場合も含む）には、介護を要する方がいますか（1つに○）。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問11で「1. はい」と答えた方におたずねします。

問12 介護は、主にどなたがされていますか。介護を受けている方からみた関係でお答えください（2つまで○）。

- | | | |
|---------------|---------|--------|
| 1. 夫 | 2. 妻 | 3. 父母 |
| 4. 息子 | 5. 娘 | 6. 子の夫 |
| 7. 子の妻 | 8. 兄弟姉妹 | 9. 孫 |
| 10. ホームヘルパー | | |
| 11. その他（具体的に： | | ） |

問13 今後、社会で介護を担っていくためには、どのようなことが重要になると思いますか（3つまで○）。

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1. 介護休暇制度を利用しやすくすること | |
| 2. 労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などが進むこと | |
| 3. 介護講座を充実すること | |
| 4. 介護に取り組む意識をもつこと | |
| 5. 気軽に介護の問題について相談できる窓口を設けること | |
| 6. 家族の間で介護について十分に話し合うこと | |
| 7. 介護への参画を妨げるような社会通念が変わること | |
| 8. わからない | |
| 9. その他（具体的に： | ） |

6 仕事や社会参加についておたずねします。

問14 女性が仕事を持つことについて、あなたは次のどの考え方に近いですか
(1つに○)。

1. 仕事を持ち続けるほうがよい
2. 結婚するまでは、仕事を持つほうがよい
3. 子どもができるまでは、仕事を持つほうがよい
4. 子どもができたなら退職し、大きくなったら再び就職するほうがよい
5. 仕事を持たないほうがよい
6. わからない
7. その他(具体的に:)

問15 現在、ワーク・ライフ・バランス(※2)が重要視されていますが、あなたは、生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活のうち何を優先しますか。(1)、(2)についてそれぞれ1つ選んで○印をつけてください。

- (1) 希望として
1. 「仕事」を優先したい
 2. 「家庭生活」を優先したい
 3. 「地域・個人の生活」を優先したい
 4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
 5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
 6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
 7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい
 8. わからない
 9. その他(具体的に:)
- (2) 現実として
1. 「仕事」を優先している
 2. 「家庭生活」を優先している
 3. 「地域・個人の生活」を優先している
 4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
 5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
 6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
 7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている
 8. わからない
 9. その他(具体的に:)

※2 ワーク・ライフ・バランス
働く人が仕事とそれ以外の生活を自身が望む調和のとれた状態にできることをいいます。
(豊川市男女共同参画推進条例より)

問16 今後、性別に関わらず働きやすい社会環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか（3つまで○）。

1. 男女ともに労働時間の短縮を図ること
2. 男女ともに家事・育児・介護への参画を進めること
3. 男女の雇用機会を均等にする
4. 職場での男女の昇進、待遇の格差をなくすこと
5. 通称名（旧姓等）使用の促進を図ること
6. パートタイムなどの労働条件を向上させること
7. 再就職を希望する人のための講座、セミナーを充実させること
8. 出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実させること
9. 保育園、児童クラブなどの育児環境を充実させること
10. 育児・介護休暇制度などの普及を図ること
11. ホームヘルパーや福祉施設を充実させること
12. その他（具体的に： _____）

7 人権（DV、セクハラ、LGBTQ（※3））についておたずねします。

問17 あなたは、これまでに、あなたの恋人や配偶者（事実婚、別居中、パートナー、離婚後を含む）から、どのようなDVを受けたことがありますか、または受けていますか（あてはまるものすべてに○）。

1. 言葉などによる心理的攻撃
2. 殴る、蹴るなどの身体的暴行
3. 性的強要
4. その他の性的暴力（※4）
5. 生活費を渡さないなどの経済的暴力
6. DVを受けたことがない
7. その他（具体的に： _____）

※3 LGBTQ

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスチョニング（クィア）のそれぞれの頭文字をまとめたもので、セクシュアル・マイノリティの総称の一つを表します。（愛知県SOGIガイドブックより）

※4 その他の性的暴力

中絶を強要する、避妊に協力しない、見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せるといったことです。（内閣府ホームページより）

問17でDVを受けたことがある（「1. 言葉などによる心理的攻撃」「2. 殴る、蹴るなどの身体的暴行」「3. 性的強要」「4. その他の性的暴力」「5. 生活費を渡さないなどの経済的暴力」）と答えた方におたずねします。

問18 あなたは、DVを受けたときに、相談しましたか（1つに○）。

1. 相談した 2. 相談したかったが、相談しなかった 3. 相談しようと思わなかった

問18で「1. 相談した」と答えた方におたずねします。

問19 DVを受けたときに、あなたが安心して相談できたのは次のどれですか（あてはまるものすべてに○）。

- | | | |
|----------------------|--------------------------|-----------|
| 1. 自分の家族・親戚 | 2. 相手の家族・親戚 | 3. 友人・知人 |
| 4. 弁護士 | 5. 医師・カウンセラー | 6. 人権擁護委員 |
| 7. 民生委員 | 8. 学校関係者 | 9. 家庭裁判所 |
| 10. 警察 | 11. 市役所の窓口（「女性悩みごと相談」含む） | |
| 12. 愛知県配偶者暴力相談支援センター | 13. 民間の相談機関 | |
| 14. その他（具体的に： | | ） |

問18で「2. 相談したかったが、相談しなかった」または「3. 相談しようと思わなかった」と答えた方におたずねします。

問20 相談しなかった理由は、何ですか（あてはまるものすべてに○）。

1. どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3. 相談してもむだだと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
5. 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから
6. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
7. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
8. 世間体が悪いから
9. 他人を巻き込みたくなかったから
10. 人に知られると、これまで通りのつきあい（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
11. そのことについて思い出したくなかったから
12. 自分にも悪いところがあると思ったから
13. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
14. 相談するほどのことではないと思ったから
15. その他（具体的に： _____）

問21 あなたは、これまでに、セクハラ（※5）を受けたことがありますか（1つに○）。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

※5 セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）

性的な言動により相手方を不快にさせたり、相手方の生活環境を害することや、性的な言動に対する相手方の対応によってその者に不利益を与えることをいいます。
（豊川市男女共同参画推進条例より）

問21で「1. ある」と答えた方におたずねします。

問22 セクハラが行われた場所はどこですか（あてはまるものすべてに○）。

- | | | |
|---------------------|-------|-------|
| 1. 職場 | 2. 学校 | 3. 地域 |
| 4. その他（具体的に： _____） | | |

問23 あなた自身あるいはあなたの身近（家族、親戚、友人、知人、職場関係）に、LGBTQ（※3）の方は、いますか（1つに○）。

- | | | |
|-------|--------|----------|
| 1. いる | 2. いない | 3. わからない |
|-------|--------|----------|

問24 LGBTQ（※3）に関して、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか（あてはまるものすべてに○）。

- | |
|---|
| 1. 職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること
2. 就職・職場で不利な扱いを受けること
3. 差別的な言動をされること
4. アパート等への入居を拒否されること
5. 宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること
6. じろじろ見られたり、避けられたりすること
7. 同性同士で結婚できないこと
8. その他（具体的に： _____）
9. わからない
10. 特にない |
|---|

問25 国では、DVやストーカー、性被害、生活困窮などの問題を抱える女性を支援するため、「女性の福祉」、「人権の尊重や擁護」、「男女平等」といった視点に立ち、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」を令和6年4月に施行しました。

困難な問題を抱える女性への支援が求められていますが、女性が困難な状況から回復するためには、どんなことが必要だと思いますか（3つまで○）。

- | |
|--|
| 1. 困難な状況に気づいてくれる人の存在
2. 安心できる居場所
3. 一時保護などの緊急時に対応できる市の体制が整っていること
4. 専門的に援助することができる女性相談支援員が市に配置されていること
5. 支援制度や相談窓口、専門機関など自分の助けになるような情報を得ること
6. 実際に支援制度や相談窓口に助けを求めること
7. 弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート
8. 経済的な自立に必要なスキルや資格
9. いざという時に自分で自由に使えるお金
10. その他（具体的に： _____）
11. 必要なことはない
12. わからない |
|--|

問26 あなたは、困難な問題を抱える女性が公的機関等に相談する場合、どのような方法が相談しやすいと思いますか
(あてはまるものすべてに○)。

1. 電話	2. メール
3. SNS (LINE、X (旧Twitter)、Instagram 等)	4. 対面で面接相談
5. Zoomなどオンラインで面接相談	6. その他(具体的に：)
7. 相談したり支援を受けたりしたいと思わない	
8. わからない	

8 男女共同参画についておたずねします。

問27 あなたは、①～⑨の法律・条例等を知っていますか(それぞれ1つに○)。

	内容まで知っている	言葉だけ知っている	知らない
①女性差別撤廃条約	1	2	3
②男女共同参画社会基本法	1	2	3
③男女雇用機会均等法	1	2	3
④育児・介護休業法	1	2	3
⑤配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 (DV防止法)	1	2	3
⑥豊川市男女共同参画推進条例	1	2	3
⑦女性活躍推進法	1	2	3
⑧困難な問題を抱える女性への支援に関する法律	1	2	3
⑨性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律 (LGBT理解増進法)	1	2	3

問28 あなたは、この調査を受け取る前から次の言葉を知っていましたか
(知っていたものすべてに○)。

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 男女共同参画社会 | 2. ジェンダー |
| 3. ポジティブ・アクション | 4. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ |
| 5. ワーク・ライフ・バランス | 6. デートDV |
| 7. LGBTQ (※3) | 8. SOGI (※6) |
| 9. アンコンシャス・バイアス (※7) | |

※6 SOGI

恋愛・性愛の対象がどの性になるのかを指す「性的指向 (Sexual Orientation)」と、自分の性別をどう認識しているかを指す「性自認 (Gender Identity) の頭文字をとったもので、すべての人が持ち合わせているものをいいます。(愛知県SOGIガイドブックより)

※7 アンコンシャス・バイアス

自分自身は気づいていない「ものの見方やとらえ方のゆがみや偏り」をいい、自分自身では意識しづらく、ゆがみや偏りがあるとは認識していないため、「無意識の偏見」と呼ばれます。(男女共同参画局ホームページより)

問29 今後、男女共同参画社会の形成をより積極的に推進していくために、行政はどのようなことに力を入れていくことが必要だと思いますか（3つまで○）。

1. 男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う
2. 女性を政策決定の場に積極的に登用する
3. 各種団体の女性リーダーを養成する
4. 職場での男女の均等な取扱いが図られるよう企業等に働きかける
5. 女性の就労の機会を増やしたり、女性の各種職場への進出促進のため職業教育や職業訓練を充実する
6. 保育の施設・サービス、高齢者の入所施設、介護サービス等を充実する
7. 学校教育や社会教育等の生涯学習の場で男女平等と相互理解についての学習の充実を図る
8. 学校教育において子どもたちが男女共同参画に関する正しい知識を習得できるようメディアリテラシー（※8）についての学習の充実を図る
9. 女性に関する情報提供や相談・教育などの機能や交流の場となる施設を充実する
10. 各国の女性との交流や女性の社会進出についての情報提供など、国際交流を推進する
11. 広報誌やパンフレットなどで男女の平等と相互の理解や協力についてPRする
12. 男女共同参画社会を目指すグループ活動の交流やネットワーク作りを支援する
13. インターネットなどで正しい情報を適正に発信するようメディアに働きかける
14. DV、セクハラ等の対策を推進する
15. ワーク・ライフ・バランスに対する啓発、情報提供、支援を行う
16. わからない
17. その他（具体的に： _____）

※8 メディアリテラシー

多様な情報を無批判に受け入れるのではなく、主体的に読み解いて自己発信する能力をいいます。（豊川市男女共同参画推進条例より）

問30 「男女共同参画社会」を形成・実現するために、あなた自身としてどのようなことを実践していきたいと考えますか（3つまで○）。

1. 家族や親戚、身近な人と「男女共同参画」について話し合う
2. 「男女共同参画社会」に関するフォーラムやシンポジウム、セミナーなど外部の催しに参加する
3. 「男女共同参画社会」に関する書籍やパンフレットを読む
4. 「男女共同参画」をまず自分自身の身近なところで実践してみる
5. 地域活動のネットワーク作りを行う
6. 地域の中で話題として取り上げる
7. 地域の中で「男女共同参画」を実践してみる
8. 行政に任せる
9. わからない
10. その他（具体的に： _____）

[illegible]

お忙しいところご協力いただき、ありがとうございました。

豊川市
男女共同参画に関する市民意識調査
調査結果報告書

令和7年3月

発行：豊川市役所 市民部 人権生活安全課
電 話：0533-89-2149
F A X：0533-89-2125